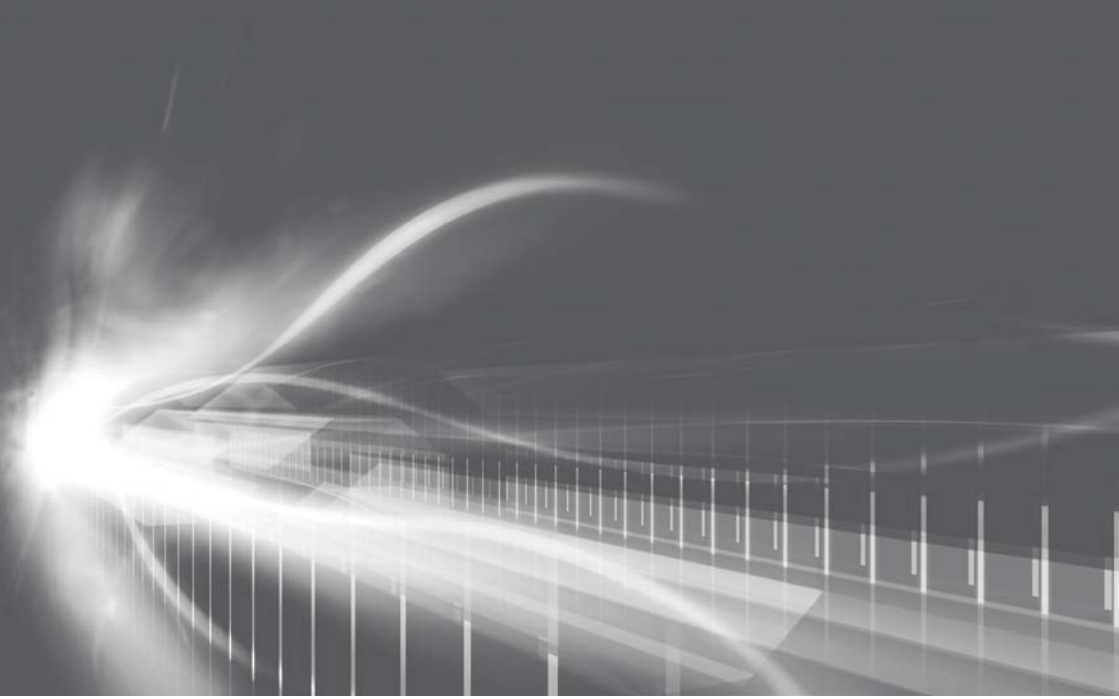


取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

CROWN

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全に
お使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 31
ポップアップフード 39
排気ガスに対する注意 42

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 43
チャイルドシート 44

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの
特徴 65
ハイブリッドシステムの
注意 70

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 77
オートアラーム 78

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 86
計器類 93
マルチインフォメーション
ディスプレイ 97
ヘッドアップ
ディスプレイ 120
エネルギーモニター／
燃費画面 127

3 各部の操作

3-1. キー
キー 136

3-2. ドアの開閉、
ロックのしかた
ドア 142
トランク 150
スマートエントリー＆
スタートシステム 156

3-3. シートの調整
フロントシート 163
リヤパワーシート 165
パワーイージーアクセス
システム／
マイコンプリセット
ドライビングポジション
システム／
メモリーコール機能 167
ヘッドレスト 172

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 177
インナーミラー.....180
デジタルインナーミラー 182
ドアミラー.....194

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....197
ムーンルーフ.....201

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって.....206
荷物を積むときの注意.....218

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ.....219
EV ドライブモード.....225
トランスミッション.....228
方向指示レバー.....237
電動パーキングブレーキ 238
ブレーキホールド.....242

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....245
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....249
AHB（オートマチックハイビーム）.....254
フォグランプスイッチ.....258
ワイパー＆ウォッシャー.....260

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....267

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense..... 271
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 277
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 291
RSA（ロードサインアシスト）..... 303
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 308
先行車発進告知機能 325
ドライバー異常時対応システム 328
ITS Connect 335
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 348
クリアランスソナー 355
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 366
RCD（リヤカメラディテクション）..... 374
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 379
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 387
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 391
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 394
ドライブモードセレクト..... 397
運転を補助する装置 400
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 410

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 415
寒冷時の運転..... 417

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

トヨタマルチ
オペレーションタッチ.....422
フロントエアコン.....424
リヤエアコン.....443
ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーション.....448

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....455
・インテリアランプ.....456
・パーソナルランプ.....457

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....459
・グローブボックス.....460
・コンソールボックス.....461
・カップホルダー／
ボトルホルダー.....462
・小物入れ.....464
トランク内装備.....465

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....467
・サンバイザー.....467
・バニティミラー.....467
・時計.....468
・アクセサリーソケット.....468
・充電用 USB 端子.....469
・オーディオスイッチ／
電話スイッチ／
トークスイッチ.....471
・おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）.....472
・リヤアームレスト.....482
・リヤサンシェード／
リヤドアサンシェード.....483
・アシストグリップ.....485
・コートフック.....485
アクセサリーコンセント
（AC100V・1500W）.....486
非常時給電システム.....493

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....506
内装の手入れ.....511

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....515
ガレージジャッキ.....519
エンジンルームカバー.....520
ウォッシャー液の補充.....521
タイヤについて.....523
タイヤ空気圧について.....534
エアコンフィルターの
交換.....536
駆動用電池冷却用吸入口／
フィルターの清掃.....539
電子キーの電池交換.....543
ヒューズの点検・交換.....546
電球（バルブ）の交換.....550

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....556
非常点滅灯（ハザードランプ）.....557
発炎筒.....558
車両を緊急停止するには.....560
水没・冠水したときは.....561

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....562
警告灯がついたときは.....570
警告メッセージが表示されたときは.....579
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....585
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....603
ハイブリッドシステムが始動できないときは.....614
電子キーが正常に働かないときは.....616
補機バッテリーがあがったときは.....619
オーバーヒートしたときは.....627
スタックしたときは.....633

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....636

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....645

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....654

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....656
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....660
アルファベット順さくいん.....663
五十音順さくいん.....665

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- マルチメディアディスプレイ
- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- パノラミックビューモニター
- ハンズフリー
- T-Connect
- ETC システム／ ETC2.0 システム

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

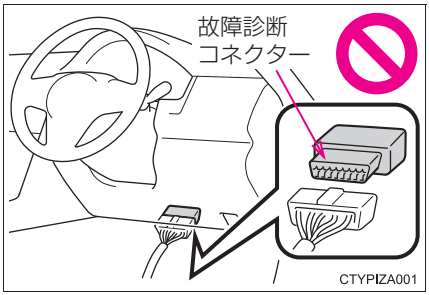
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください（法律で義務付けられています）。

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→ P. 410）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

本書の見方

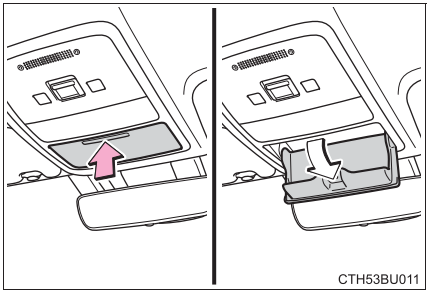
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

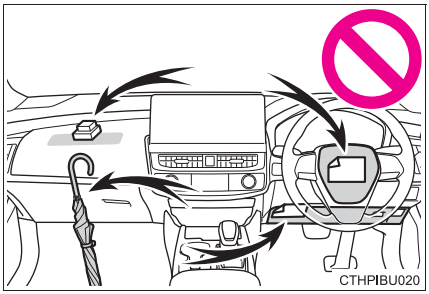
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”　“このようにしないでください”　“このようなことを起こさないでください”　という意味です。

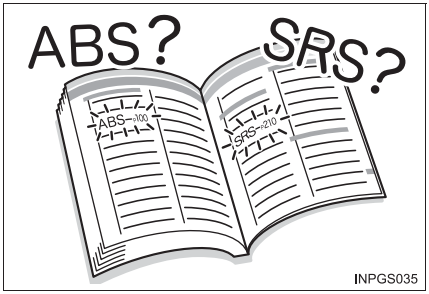


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

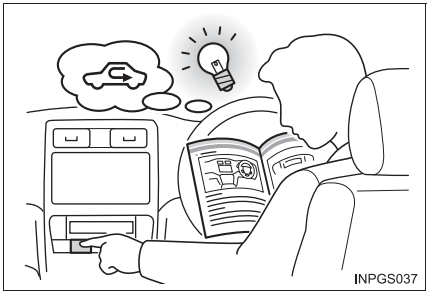
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....665
・アルファベット順
さくいん.....663



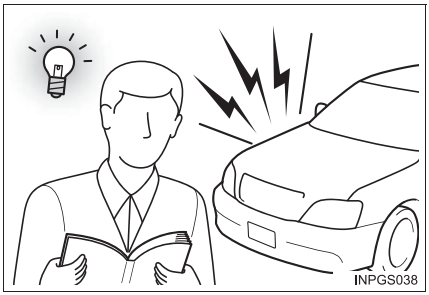
■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12



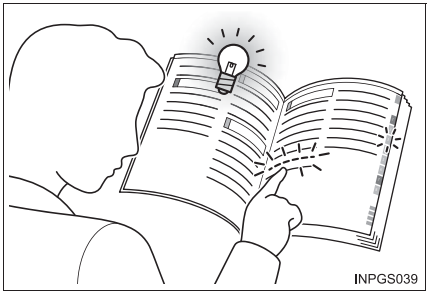
■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....656
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....660



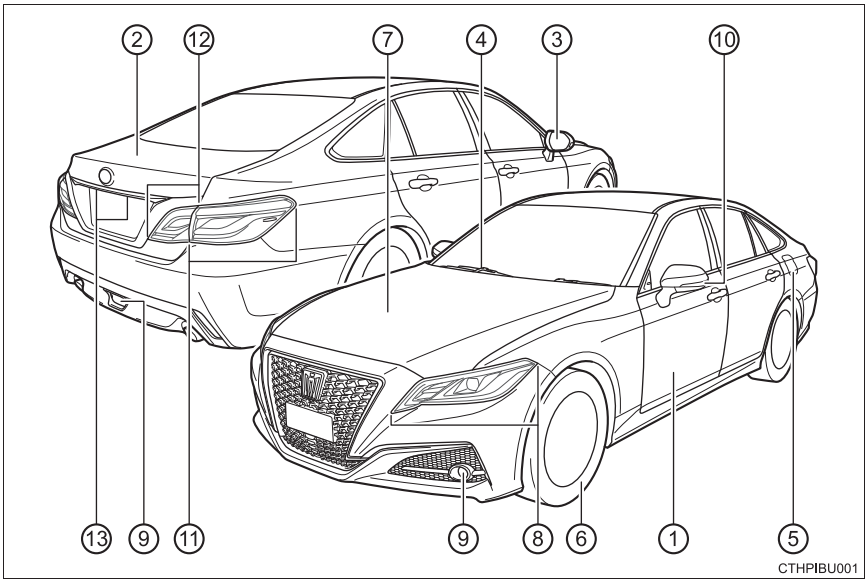
■ タイトルから探す

・目次 2



イラスト目次

■外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

① **ドア . . . . . P. 142**

施錠／解錠 . . . . . P. 142, 144

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 197

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 616

② **トランク . . . . . P. 150**

車内から開ける . . . . . P. 150

車外から開ける . . . . . P. 150

メカニカルキーで開ける . . . . . P. 616

③ **ドアミラー . . . . . P. 194**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 194

ミラーの格納 . . . . . P. 194

調整位置の登録★ . . . . . P. 167

曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . P. 437

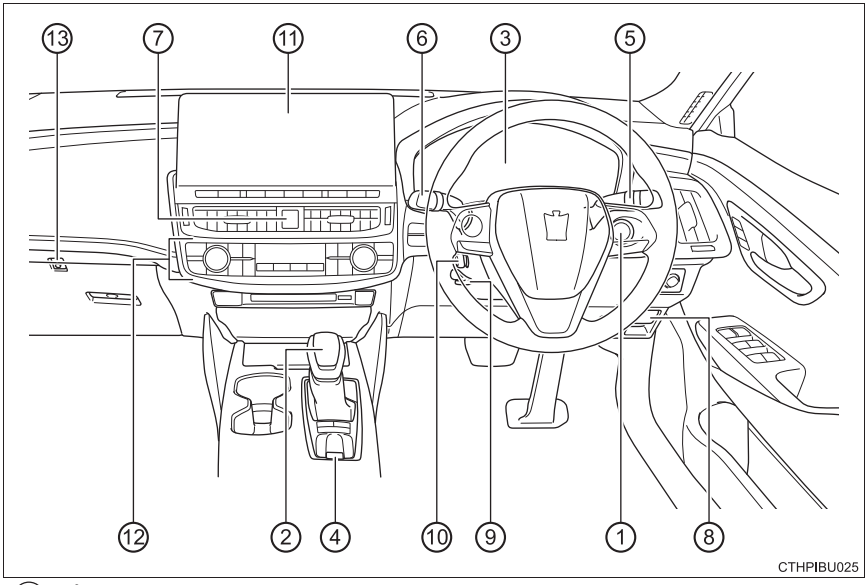
④ **ワイパー** . . . . . **P. 260**
冬季の注意 . . . . . P. 417
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 437
洗車時の注意 . . . . . P. 508
⑤ **給油口** . . . . . **P. 267**
給油方法 . . . . . P. 267
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 636
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 523**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 643
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 417
点検・ローテーション・空気圧警報システム★ . . . . . P. 523
パンク時の対処 . . . . . P. 585, 603
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 515**
開け方 . . . . . P. 515
エンジンルームカバー . . . . . P. 520
エンジンオイル . . . . . P. 637
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 627

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 550, ワット数：P. 644）

⑧ **ヘッドランプ・方向指示灯・車幅灯・LED デイライト★** . . . . . **P. 237, 245**
⑨ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 258**
⑩ **方向指示灯** . . . . . **P. 237**
⑪ **尾灯・制動灯・方向指示灯** . . . . . **P. 237, 245**
⑫ **尾灯** . . . . . **., P. 245**
後退灯
シフトポジションを R にする . . . . . P. 228
⑬ **番号灯** . . . . . **P. 245**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **パワースイッチ . . . . . P. 219**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 219

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 560

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 614

② **シフトレバー . . . . . P. 228**

シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 228

けん引時の注意 . . . . . P. 562

シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 235

③ **メーター . . . . . P. 93**

見方・明るさの調整 . . . . . P. 93, 95

警告灯／表示灯 . . . . . P. 86

警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 570

マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 97

表示内容 . . . . . P. 97

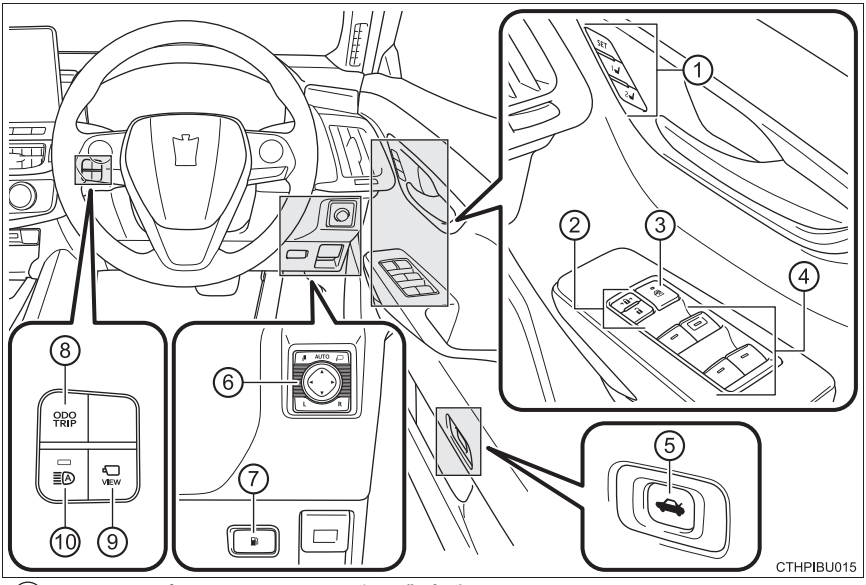
エネルギーモニター . . . . . P. 127

警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 579

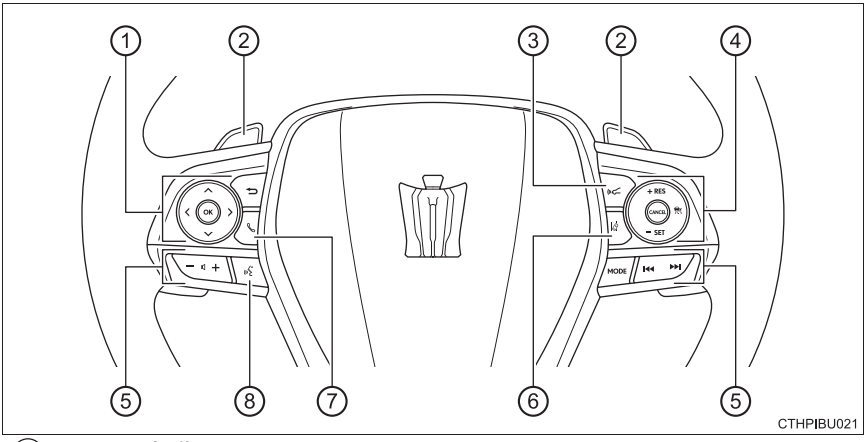
④ **パーキングブレーキスイッチ.....P. 238**
かける・解除する.....P. 238
冬季の注意.....P. 418
警告灯・警告ブザー.....P. 570
⑤ **方向指示レバー.....P. 237**
ランプスイッチ.....P. 245
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・LED デイライト★.....P. 245
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★.....P. 258
⑥ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ.....P. 260**
使い方.....P. 260
ウォッシャー液の補充.....P. 521
⑦ **非常点滅灯スイッチ.....P. 557**
⑧ **ボンネット解除レバー.....P. 515**
⑨ **ハンドル位置調整レバー★.....P. 177**
調整方法.....P. 177
⑩ **ハンドル位置調整スイッチ★.....P. 177**
調整方法.....P. 177
調整位置の登録★.....P. 167
⑪ **トヨタマルチオペレーションタッチ★.....P. 422**
オーディオ★※
⑫ **オートエアコン.....P. 424**
操作方法.....P. 424
リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）...P. 437
ウインドシールドデアイサー★.....P. 437
⑬ **トランクオープナーメインスイッチ.....P. 151**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■スイッチ類

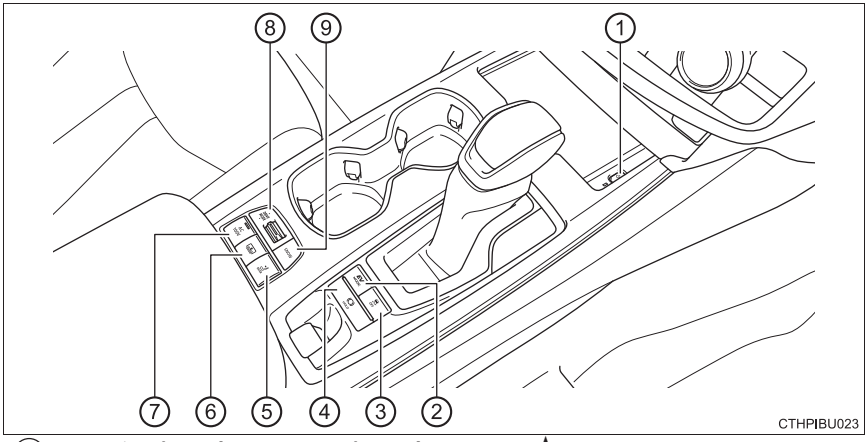


① マイコンプリセットドライビングポジションシステムスイッチ★ . . . . . P. 168
② ドアロックスイッチ . . . . . P. 144
③ ウインドウロックスイッチ . . . . . P. 197
④ パワーウインドウスイッチ . . . . . P. 197
⑤ トランクオープナースイッチ . . . . . P. 150
⑥ ドアミラースイッチ . . . . . P. 194
⑦ 給油扉オープナースイッチ . . . . . P. 269
⑧ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットスイッチ . . . . . P. 99
⑨ パノラミックビューモニターメインスイッチ★ ※1
⑩ アダプティブハイビームシステムスイッチ★ . . . . . P. 249
オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . P. 254



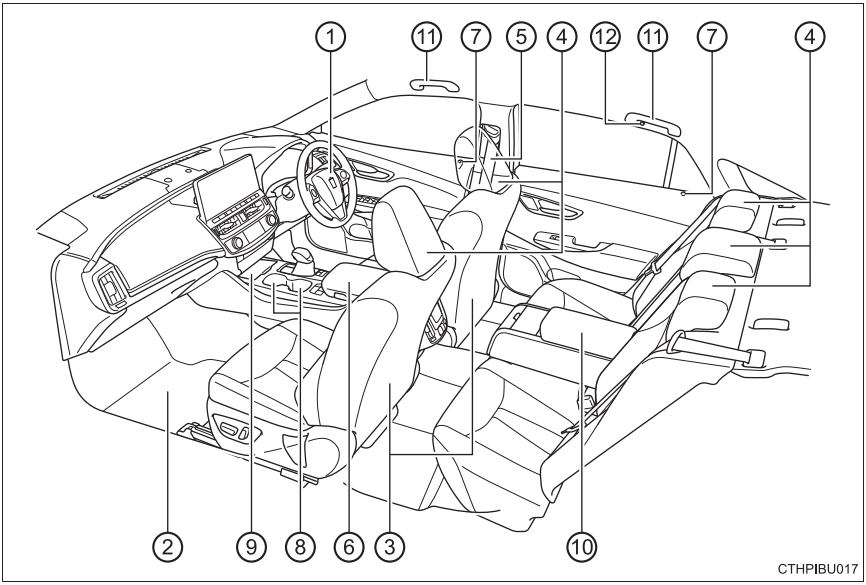
① メーター操作スイッチ . . . . . P. 99
② パドルシフトスイッチ★ . . . . . P. 230, 232, 233
③ 車間距離切りかえスイッチ . . . . . P. 314
④ クルーズコントロールスイッチ . . . . . P. 308
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. . . . . P. 308
⑤ オーディオスイッチ ※2 . . . . . P. 471
⑥ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ . . . . . P. 291
⑦ 電話スイッチ ※2 . . . . . P. 471
⑧ トークスイッチ ※2 . . . . . P. 471

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください（マルチメディアディスプレイ装着車）。



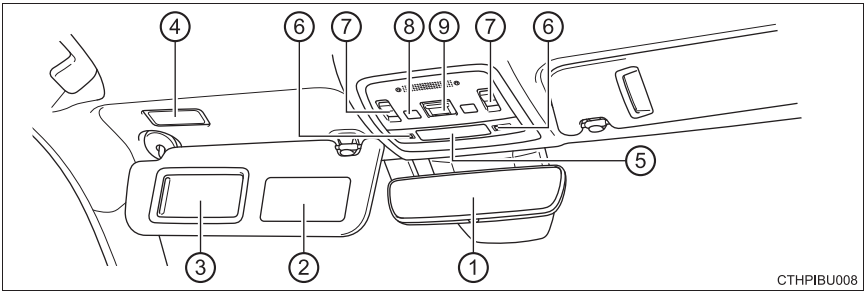
① おくだけ充電（ワイヤレス充電器）スイッチ★ . . . . . .P. 472
② EV ドライブモードスイッチ . . . . . .P. 225
③ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 403
④ ブレーキホールドスイッチ . . . . . .P. 242
⑤ リヤ席シートリクライニング戻しスイッチ★ . . . . . .P. 165
⑥ リヤサンシェード開閉スイッチ★. . . . . .P. 483
⑦ AC100V スイッチ★ . . . . . .P. 486, 493
⑧ ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 397
⑨ SNOW モードスイッチ. . . . . .P. 229

室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 31
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 163
④ ヘッドレスト . . . . . P. 172
⑤ シートベルト . . . . . P. 26
⑥ コンソールボックス . . . . . P. 461
⑦ ドアロックボタン . . . . . P. 144
⑧ カップホルダー . . . . . P. 462
⑨ 小物入れ★ . . . . . P. 464
⑩ リヤアームレスト . . . . . P. 482
⑪ アシストグリップ . . . . . P. 485
⑫ コートフック . . . . . P. 485

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① インナーミラー.....P. 180, 182
② サンバイザー ※1.....P. 467
③ バニティミラー.....P. 467
④ バニティミラーランプ.....P. 467
⑤ インテリアランプ.....P. 456
⑥ パーソナルランプ ※2.....P. 457
⑦ ムーンルーフスイッチ★.....P. 201
⑧ 侵入センサー OFF スイッチ★.....P. 81
⑨ ヘルプネットボタン★ ※3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 47）

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。
※3：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全に
お使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために.....24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....31
ポップアップフード.....39
排気ガスに対する注意.....42
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....43
チャイルドシート.....44
1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの
特徴.....65
ハイブリッドシステムの
注意.....70
1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....77
オートアラーム.....78

運転する前に

点検整備

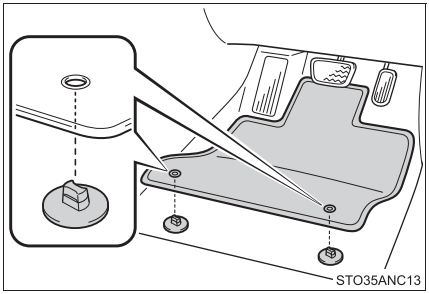
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

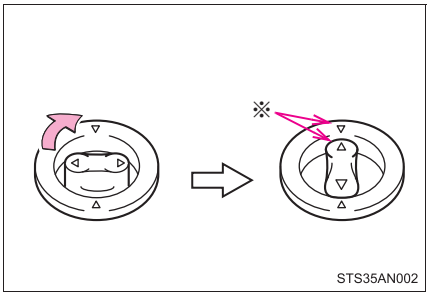
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

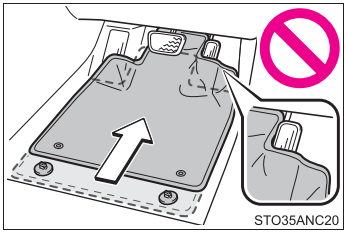
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

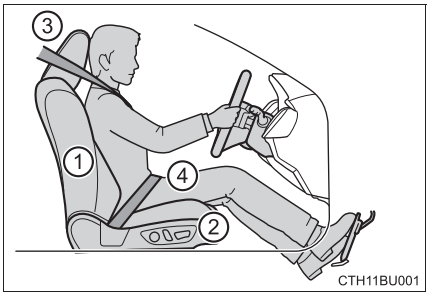
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 163）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 163）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 172）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 180, 182, 194）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

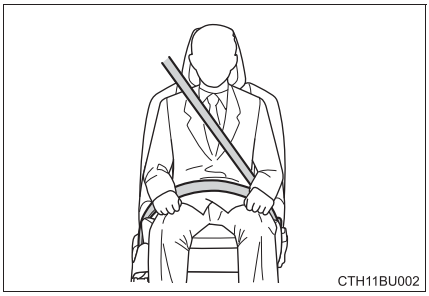
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

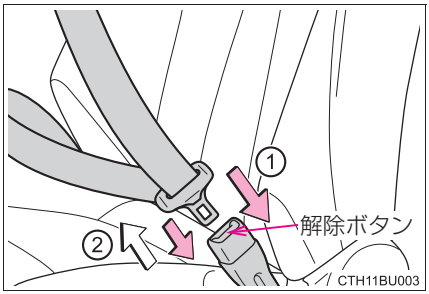
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

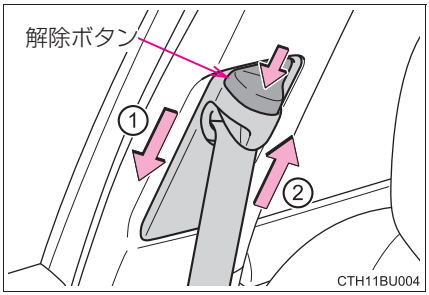


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

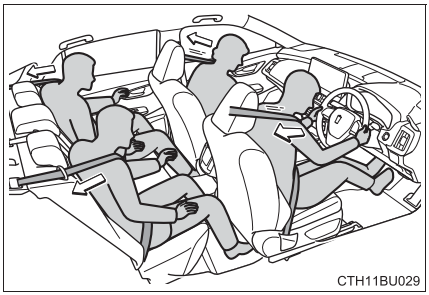
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

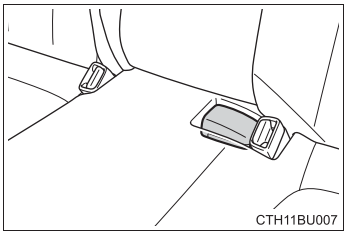
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

レーダーと前方カメラからの情報により、車両との衝突の可能性が高いとプリクラッシュセーフティが判断したとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

■リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

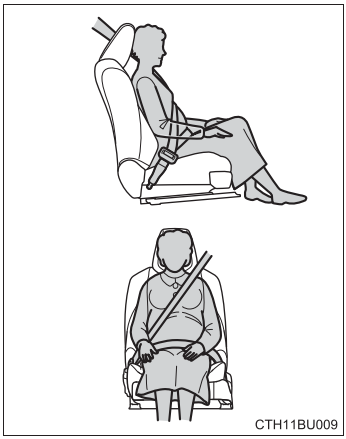
■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

警告

■**お子さまを乗せるとき**

→ P. 60

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

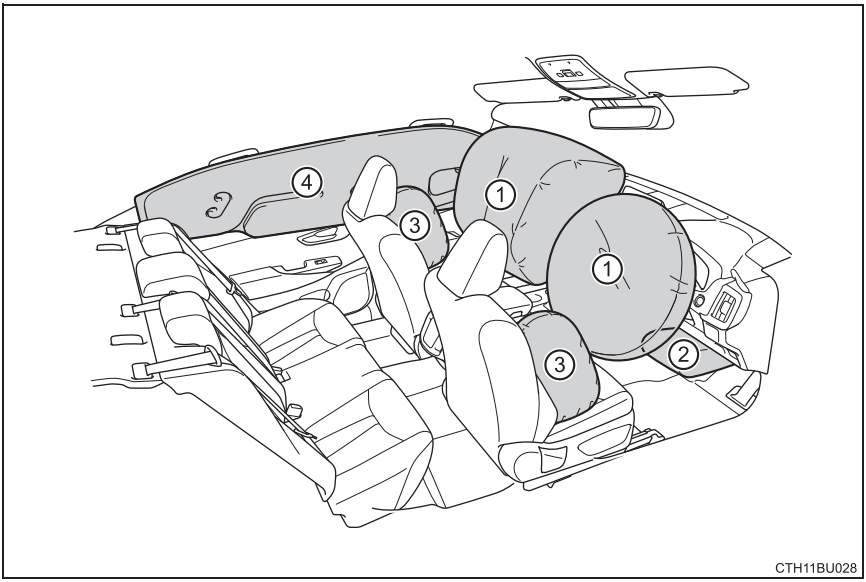
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

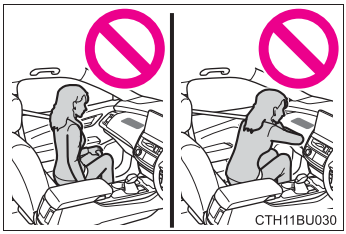
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

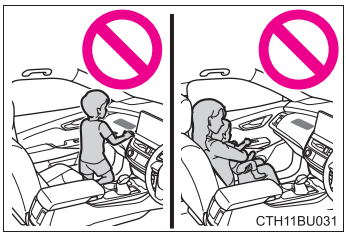
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 44）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



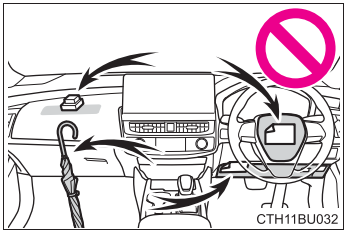
警告

■SRS エアバッグについて

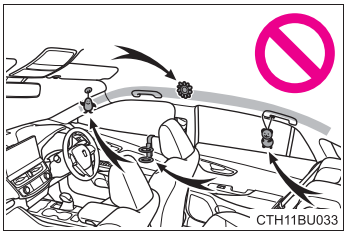
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 595）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●室内灯が自動で点灯します。（→ P. 458）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 557）

●T-Connect をご利用のお客様は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー、SRS ニーエアバッグのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

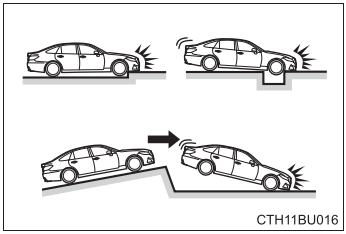
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロントSRSエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

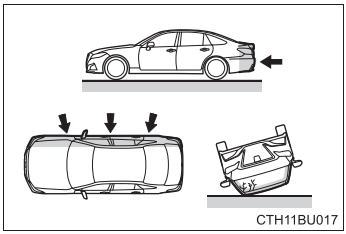
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


CTH11BU016

■SRSエアバッグが作動しないとき（フロントSRSエアバッグ）

フロントSRSエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRSエアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

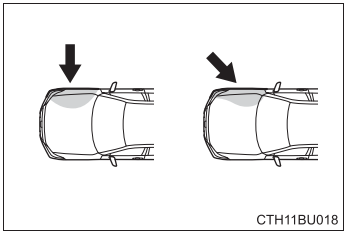

CTH11BU017

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

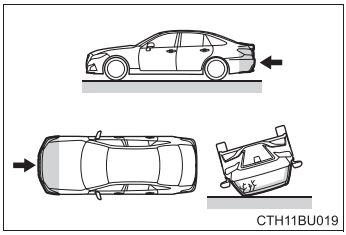


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

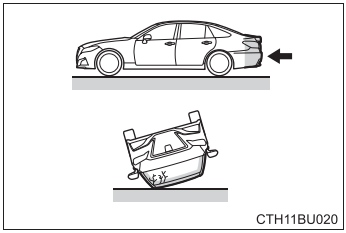
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

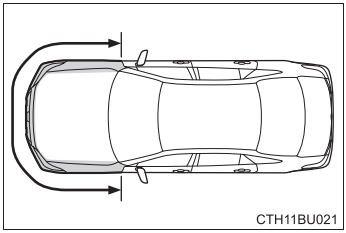


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

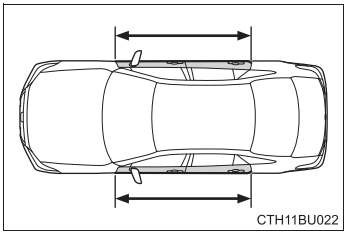
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

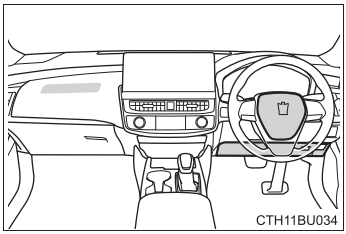
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


CTH11BU021

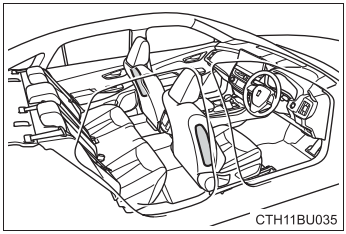
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき


CTH11BU022

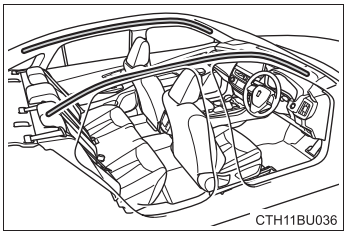
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTH11BU034

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTH11BU035

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTH11BU036

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットの後方を持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

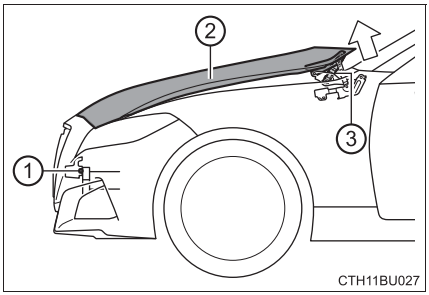
ポップアップフード

作動速度範囲での走行時に歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏にあるセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットが持ち上がります。

① センサー

② ボンネット

③ リフター



ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - ・縁石に衝突したとき
  - ・深い溝や穴に落ち込んだとき
  - ・ジャンプして地面にぶつけたとき
  - ・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

警告

■ポップアップフードが作動したとき

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。ポップアップフードが作動したあとは点検・修理が必要なため、車両を安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

知識

■ポップアップフードについて

●廃車するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

■予防連携機能について

レーダーと前方カメラからの情報により、歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高いとプリクラッシュセーフティが判断したとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動しにくいとき

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。
また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません

●横たわっている歩行者に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

⚠注意

■ポップアップフードについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。
- 4 輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧（→ P. 643）で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどをクラウン純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 145）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 197）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→ P. 44）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 44
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・・P. 49
チャイルドシートの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 57
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する・・・・・・・・・・・・・・・P. 60
・トップテザーアンカレッジを使用する・・・・・・・・・・・・・・・P. 62

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 49）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→ P. 49）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

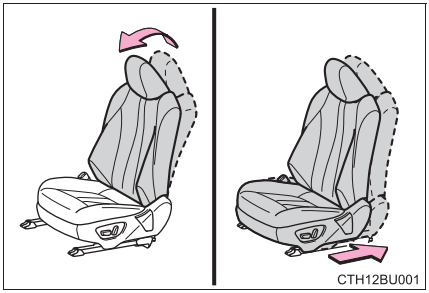
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる



● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

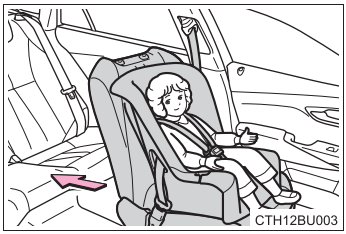
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
  助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



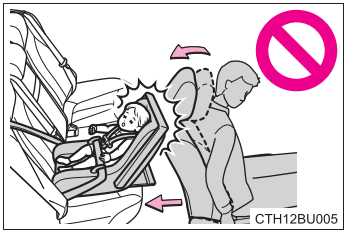
警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。



●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 51）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 55）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

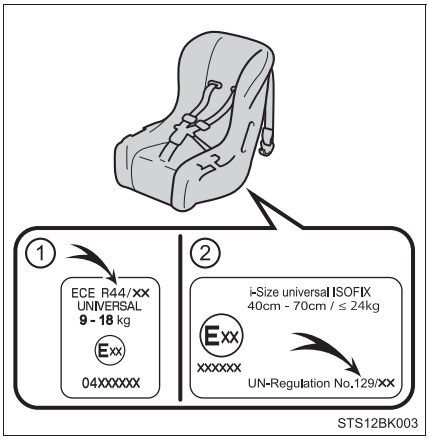
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN(ECE) R129認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

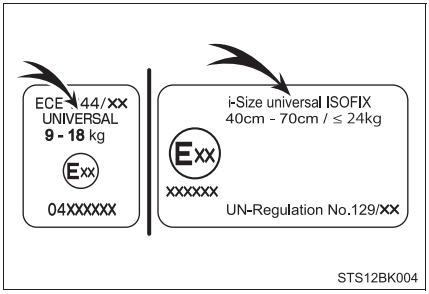
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

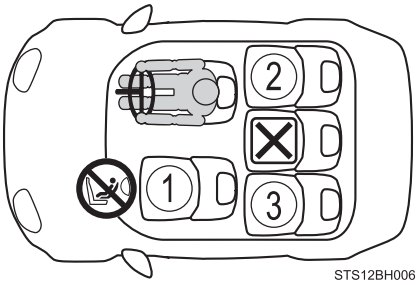
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



※1,2,3 ①	※4 U L
※2,3 ②	U L i
※2,3 ③	U L i

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 55）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

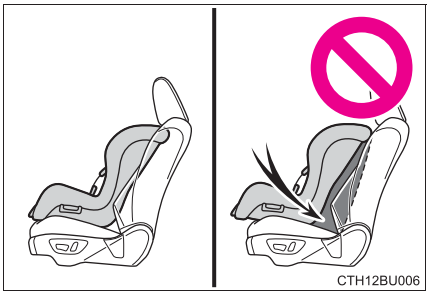
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1、R2X、R2、R3	R1、R2X、R2、R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X、F2、F3	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2、B3	B2、B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

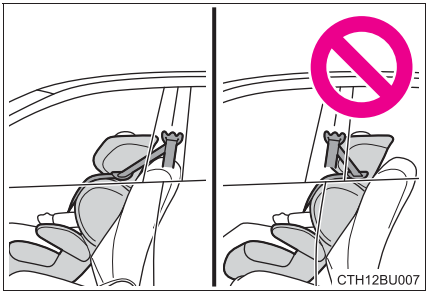
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0, 0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ (9 ～ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ , Ⅲ (15～36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

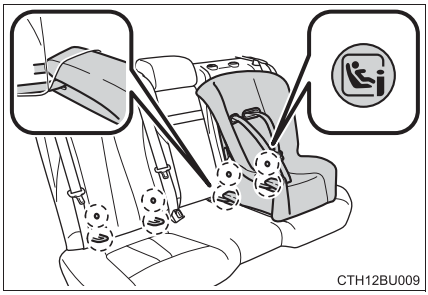
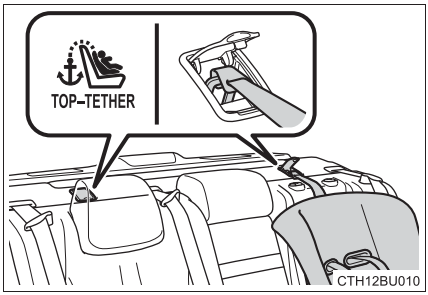
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシート取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	CTH12BU008	P. 58
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 CTH12BU009	P. 60
テザーベルトを固定する	 CTH12BU010	P. 62

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

1 シートの調整

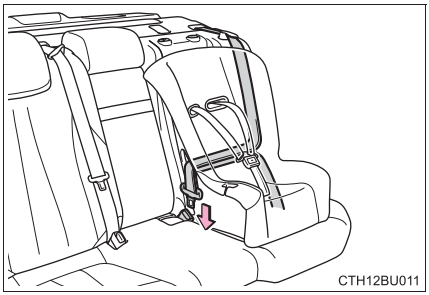
助手席：
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 46）

リヤパワーシート装着車：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 172）

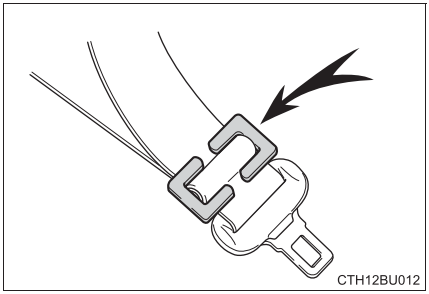
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む
ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください（ロッキングクリップ品番：73119-22010）。



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 60）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

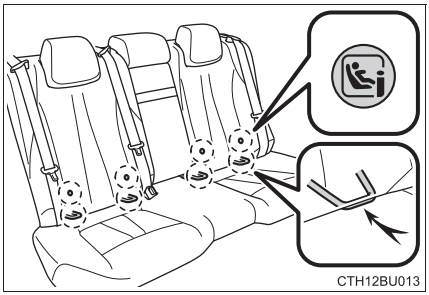
●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にISOFIXロアアンカレッジが装備されています（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）。



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

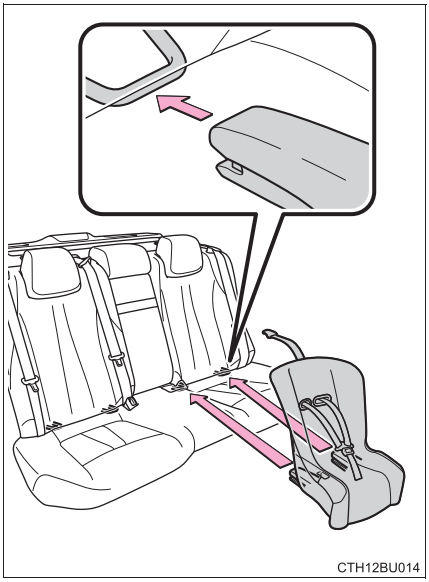
1 シートの調整（リヤパワーシート装着車）

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 172）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 60）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

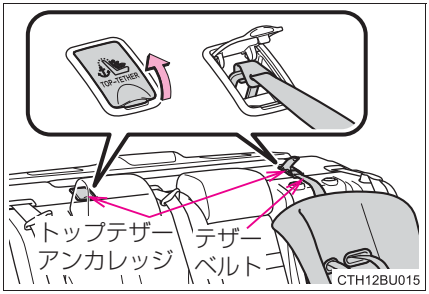
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



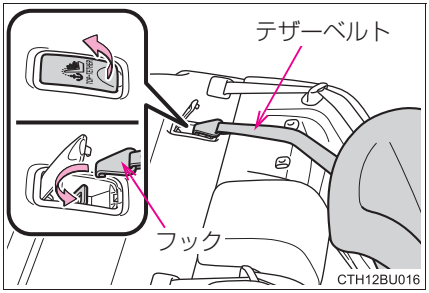
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストをはずす（→ P. 172）

2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 60）



警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

注意

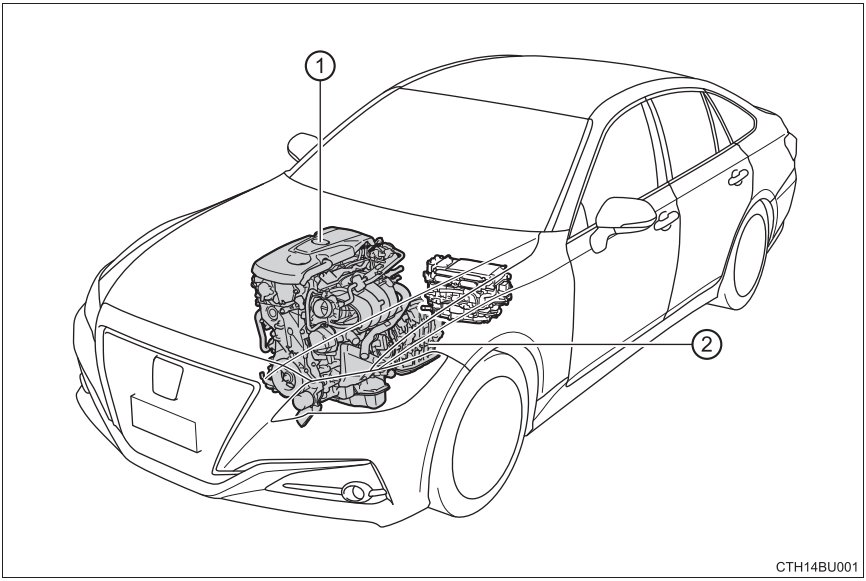
■**トップテザーアンカレッジについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

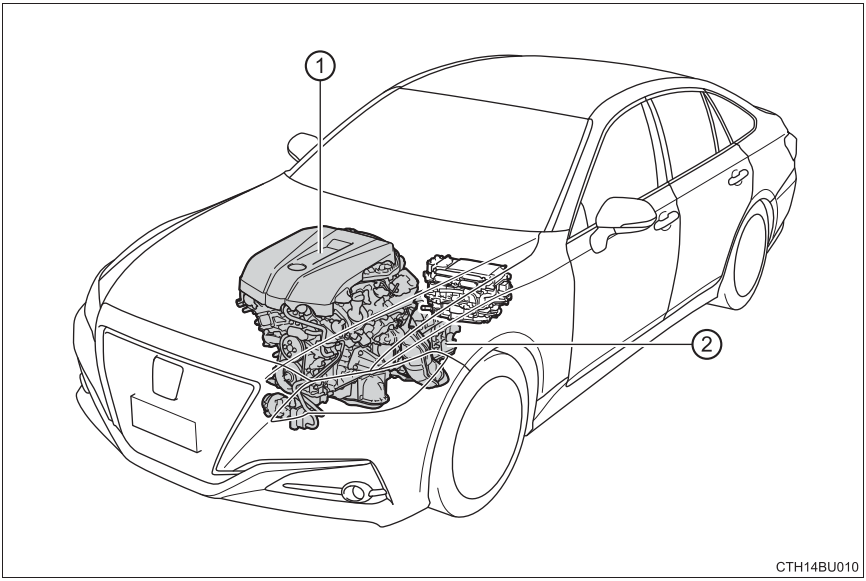
ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。
シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 68）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

●シフトレバーが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

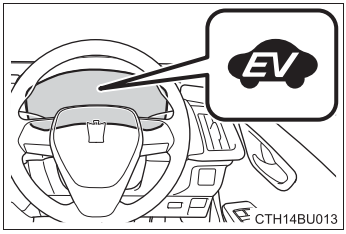
▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

●シフトレバーが D または M で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーが D または M で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

●8GR-FXS エンジン搭載車：シフトレバーが M のとき

状況により上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 622

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●トランクを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート横にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

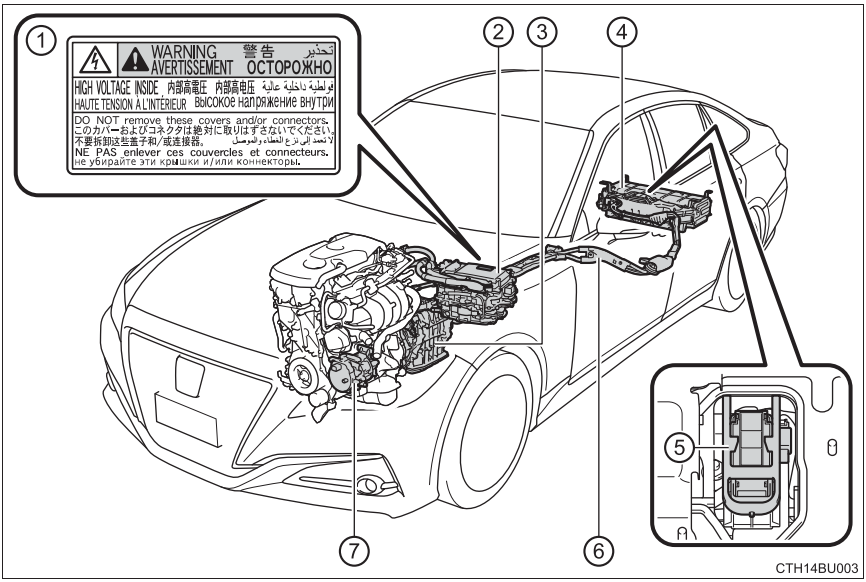
■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 115）

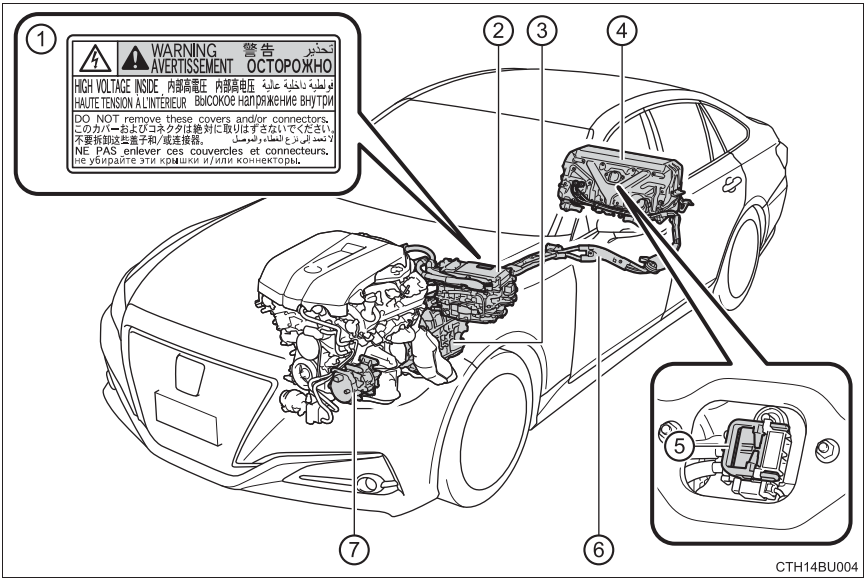
ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

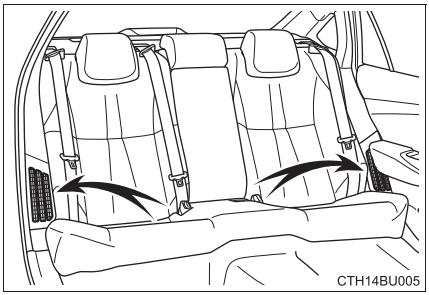


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② パワーコントロールユニット
③ 電気モーター
④ 駆動用電池
⑤ サービスプラグ
⑥ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑦ エアコンコンプレッサー

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート横部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因となります。



緊急停止システム

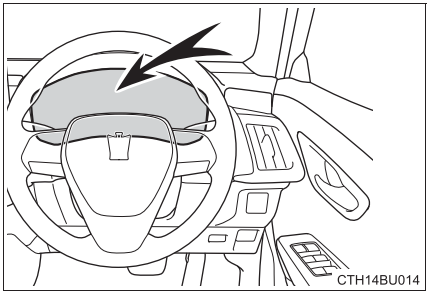
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 571）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります（給油量の目安は車両水平状態で約10L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）。

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について（8GR-FXS エンジン搭載車）

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

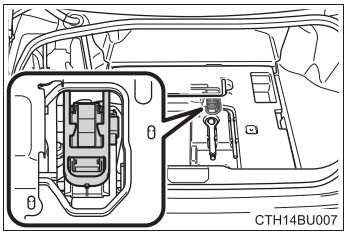
この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

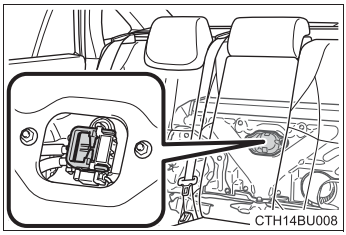
●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。

▶A25A-FXS エンジン搭載車



▶8GR-FXS エンジン搭載車



警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●タイヤが接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 562）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、P. 539 を参照してください。

イモビライザーシステム

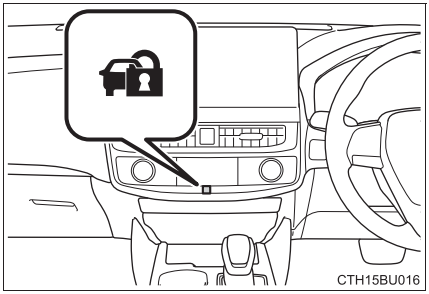
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

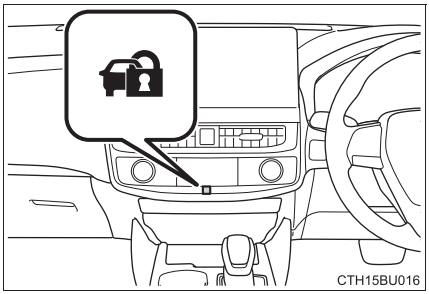
- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム･ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサー★が車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

T-Connectサービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合Eメールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／マイカーサーチ／マイカーサーチ Plus」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

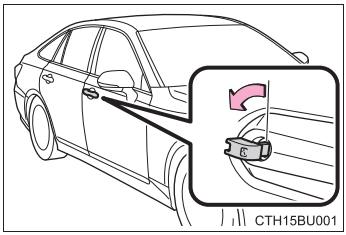
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

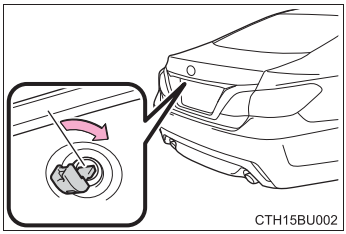
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

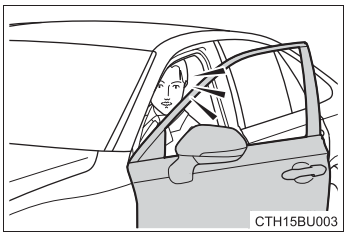
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- メカニカルキーを使ってトランクを開けたとき

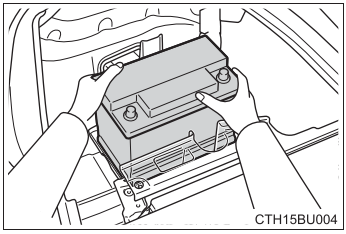


- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ロックボタンで解錠したとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
（→ P. 622）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■T-Connect（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／マイカーサーチ／マイカーサーチ Plus」を参照してください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

侵入センサー★とは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。（→ P. 78）

■ 侵入センサーを停止する

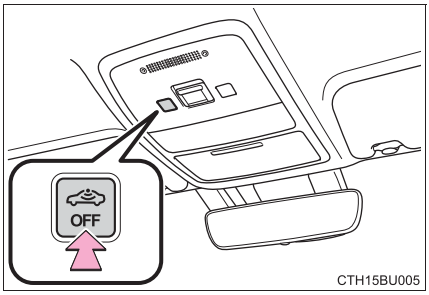
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF/ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■侵入センサーの作動・停止について

●侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

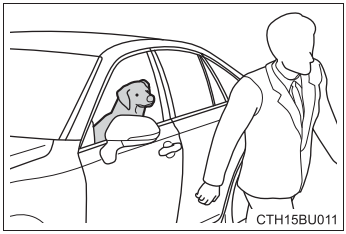
●侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

■侵入センサーについての留意事項

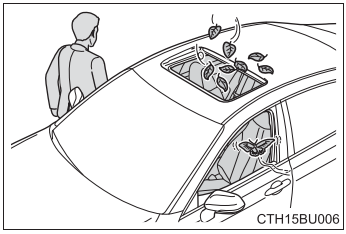
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



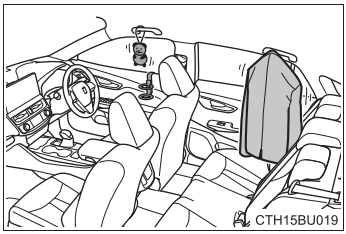
●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。

・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き



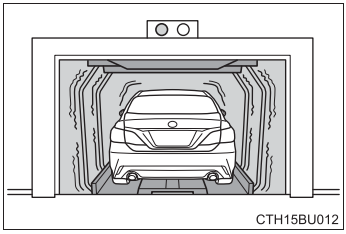
●蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

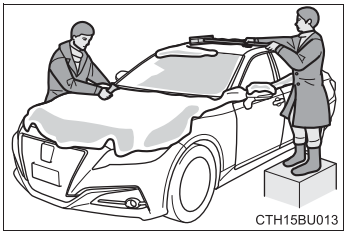


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合


CTH15BU012

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合


CTH15BU013

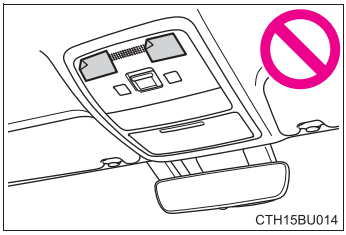
●高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

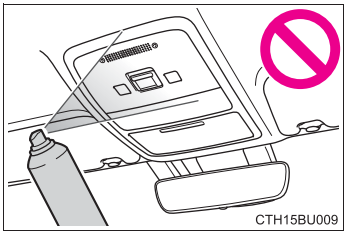
⚠注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。


CTH15BU014

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。


CTH15BU009

●運転席と助手席のシートのあいだに、トヨタ純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

●電子キーがお車の近くにある場合は、センサーの作動を停止する場合があります。

メーターの見方

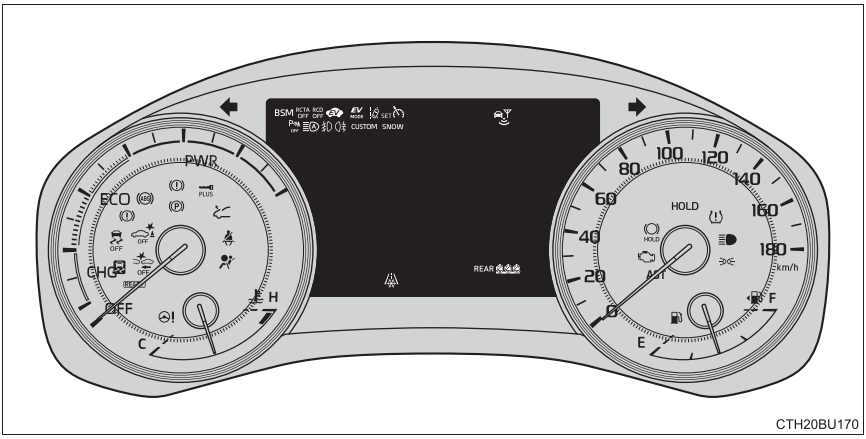
2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯.....86
計器類.....93
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....97
ヘッドアップ
ディスプレイ.....120
エネルギーモニター／
燃費画面.....127

警告灯／表示灯

メーター・エアコン操作パネルの下・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



CTH20BU170

イラストの意匠は装備などにより異なります。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※1

（赤色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 570）

※1

（黄色）
電子制御ブレーキ警告灯
（→ P. 570）

※2

高水温警告灯（→ P. 570）

※2

充電警告灯（→ P. 570）

※2

油圧警告灯（→ P. 570）

※1

エンジン警告灯
（→ P. 570）

※1

SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 571）

ポップアップフード警告灯
（→ P. 571）

※1

ABS＆ブレーキアシスト警告灯
（→ P. 571）

※2

ブレーキオーバーライドシステム警告灯／ドライブスタートコントロール警告灯／ PKSB 警告灯
（→ P. 278, 571）

※1

（赤色／黄色）
パワーステアリング警告灯（→ P. 571）

燃料残量警告灯
（→ P. 571）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→ P. 572）

※2

リヤ席シートベルト非着用警告灯
（→ P. 572）

※1

タイヤ空気圧警告灯★
（→ P. 572）

※2

（橙色）
LTA 表示灯
（→ P. 572）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1, 2
（点灯）
クリアランスソナーOFF表示灯（→ P. 572）

※1
（点滅または点灯）
PCS警告灯（→ P. 573）

※1, 2
（点灯）
RCTA OFF表示灯★（→ P. 573）

※1
スリップ表示灯（→ P. 574）

※1, 2
（点灯）
RCD OFF表示灯★（→ P. 573）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→ P. 574）

※1
（点灯）
PKSB OFF表示灯（→ P. 573）

※1
（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 574）

※1 作動確認のためにパワースイッチをONモードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 237）

尾灯表示灯（→ P. 245）

ハイビーム表示灯
（→ P. 246）

※1

AHS（アダプティブハイビームシステム）表示灯★
（→ P. 250）
AHB（オートマチックハイビーム）表示灯★
（→ P. 254）

※1

フロントフォグランプ表示灯（→ P. 258）

※1

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 258）

※2, 3

PCS 警告灯（→ P. 277）

※1

クルーズコントロール表示灯（→ P. 308）

※1

レーダークルーズコントロール表示灯（→ P. 308）

※1

クルーズコントロールセット表示灯（→ P. 308）

※1, 4

LTA 表示灯（→ P. 297）

※5, 6

（橙色点滅）
BSMドアミラーインジケーター★（→ P. 348, 366）

※1

BSM 表示灯★（→ P. 348）

※1, 2, 3

クリアランスソナーOFF 表示灯（→ P. 357）

※1, 2, 3

RCTA OFF 表示灯★
（→ P. 367）

プラスサポート表示灯★
（→ P. 410）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1, 2, 3
RCD OFF
RCD OFF 表示灯★
（→ P. 374）

※2, 3
OFF
PKSB OFF 表示灯
（→ P. 379）

※3
スリップ表示灯
（→ P. 403）
（点滅）

※2, 3
OFF
VSC OFF 表示灯
（→ P. 404）

※1
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯
（→ P. 219）

READY
READY インジケーター
（→ P. 219）

※1
EV MODE
EV ドライブモード表示灯
（→ P. 226）

パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 238）

※3
HOLD
ブレーキホールドスタンバイ表示灯
（→ P. 242）

※3
HOLD
ブレーキホールド作動表示灯
（→ P. 242）

※1
EV
EV インジケーター
（→ P. 68）

※1, 7
低温表示灯
（→ P. 93）

※8
セキュリティ表示灯
（→ P. 77, 78）

※1
ITS Connect アイコン★
（→ P. 337）

※1
ITS Connect アイコン★
（→ P. 337）

※1
ITS Connect アイコン★
（→ P. 337）

AST
AST 表示灯★
（→ P. 403）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 SNOW スノーモード表示灯 (→ P. 229)

※1 SPORT S+ スポーツS+モード表示灯★ (→ P. 397)

※1 ECO エコドライブモード表示灯 (→ P. 397)

※1 COMFORT コンフォートモード表示灯★ (→ P. 397)

※1 SPORT スポーツモード表示灯★ (→ P. 397)

※1 CUSTOM カスタムモード表示灯★ (→ P. 397)

※1 SPORT S スポーツ S モード表示灯★ (→ P. 397)

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※4 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※5 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
- BSM か RCTA の機能を ON にしている状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき
- パワースイッチが ON モードの状態で、BSM の機能を ON にしたとき
- パワースイッチが ON モードの状態で、RCTA の機能を ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※6 ドアミラーに表示されます。

※7 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※8 エアコン操作パネルの下に表示されます。

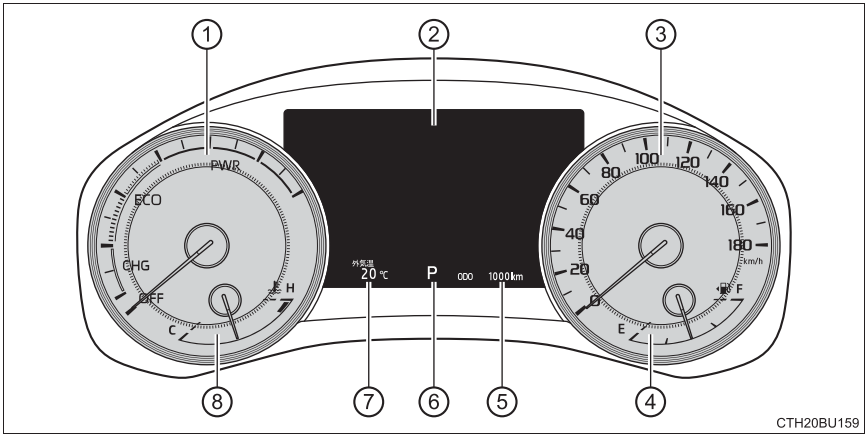
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。（→ P. 95）

② マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 97）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 579）

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

④ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

⑤ オドメーター／トリップメーター（→ P. 117）

⑥ シフトポジション表示（→ P. 228）

⑦ 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯が点灯します。

⑧ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

メーター照明の明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→ P. 105）から、メーター照明の明るさを変更することができます。

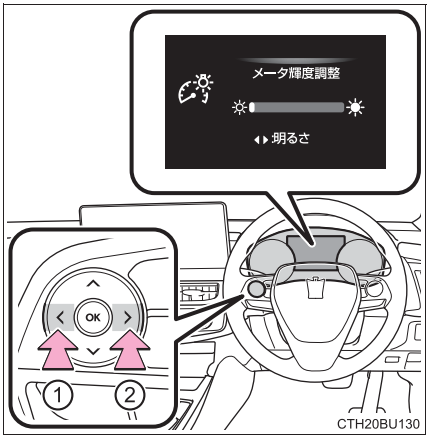
ハンドルのメーター操作スイッチを操作して明るさを調整します。（→ P. 105）

① 暗くする

② 明るくする

昼照度と夜照度 ※、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

※ 昼照度と夜照度：→ P. 95



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

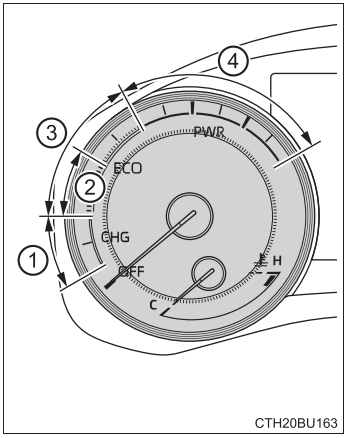
●メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

・昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

●夜照度になるとメーター照明が減光されます。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



① チャージエリア
回生機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転（環境に配慮した走行）の範囲を超えている状態を示します。

●インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転（環境に配慮した走行）が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターの作動が停止します。

●パワースイッチが OFF のとき

●READY インジケーターが点灯していないとき

●シフトレバーが P・R・N にあるとき

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

燃料タンク内の燃料の動きがおさまるまで、しばらくお待ちください。

2 ODO/TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター（ODO）に切りかえる（→ P. 99）

3 パワースイッチを OFF にする

4 ODO/TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする

5 そのまま約 5 秒間 ODO/TRIP スイッチを押し続け、オドメーター（ODO）が点滅を開始したら手をはなす

オドメーター（ODO）が約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

⚠ 注意

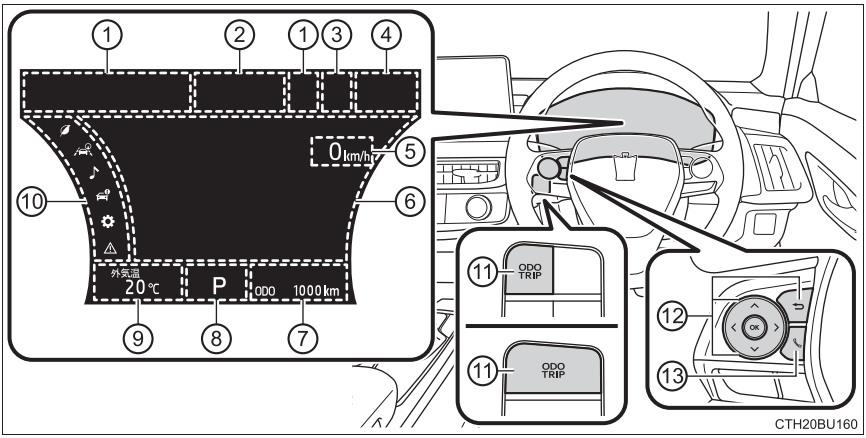
■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 627）

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。



① 表示灯エリア（→ P. 86）

② 運転支援表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 291）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 308）

③ RSA（ロードサインアシスト）表示（→ P. 303）

④ 時計

マルチメディアディスプレイ装着車：表示される時刻は、ナビゲーション画面の時計と連動しています。（→ P. 468）

マルチメディアディスプレイ非装着車：表示される時刻を⚙から調整することができます。（→ P. 105）

⑤ 車速表示

表示・非表示を⚙から変更することができます。（→ P. 105）

⑥ コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切りかえることにより、様々な情報を表示することができます。
また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

・各メニューの表示内容（→ P. 100）
・提案サービス機能（→ P. 117）
・ITS Connect★（→ P. 335）
・警告メッセージ（→ P. 579）

⑦ オドメーター／トリップメーター（→ P. 117）

⑧ シフトポジション表示（→ P. 228）

⑨ 外気温表示（→ P. 93）

⑩ メニューアイコン（→ P. 100）

⑪ ODO/TRIP スイッチ（→ P. 99）

⑫ メーター操作スイッチ（→ P. 99）

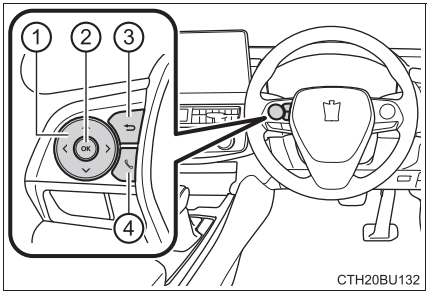
⑬ 電話スイッチ（→ P. 99）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

◆ コンテンツ表示エリアの操作方法

メーター操作スイッチ・電話スイッチを使って次のように操作します。



① ∧ ∨：メニューの切りかえ

〈 〉：コンテンツの切りかえ、ページ送り、カーソル移動

② 短押し：決定

長押し：リセット／次の画面を表示

③ 前の画面にもどる

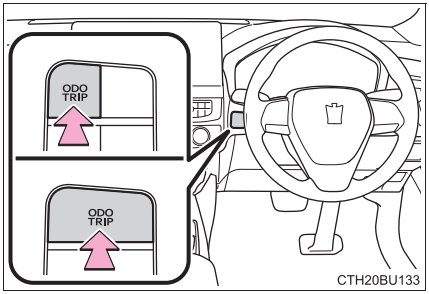
短押しと長押しで戻ることができる階層がかわります。

④ 電話の発着信・履歴表示（マルチメディアディスプレイ装着車）

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

◆ オドメーター／トリップメーターの操作方法

ODO/TRIP スイッチを使って次のように操作します。



短押し：表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。

長押し：リセット

トリップメーターを表示中にスイッチを長押しすると、走行距離を 0 にもどします。

メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。

エコドライブインフォメーション（→ P. 101）

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 291）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 308）
・RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 303）

ナビゲーションシステム★と連携して次の情報を表示します。
・目的地案内
・コンパス（ヘディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示★

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

車両情報

次の情報を表示します。
・エネルギーモニター（→ P. 127）
・タイヤ空気圧★（→ P. 524）

次のシステムの作動状態を確認することができます。
・PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 277）
・クリアランスソナー（→ P. 355）
・BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 348）
・RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→ P. 366）

からシステムの作動・非作動を変更することができます。

設定（→ P. 105）

さまざまな機能の設定やメーターの表示設定などを変更することができます。

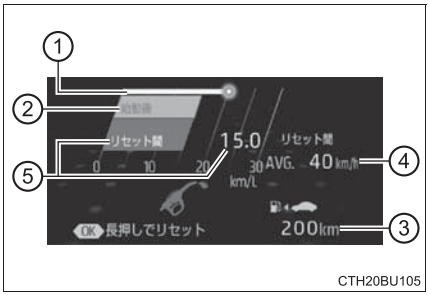
警告メッセージ（→ P. 579）

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エコドライブインフォメーション（ ）

■ 燃費



① 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

② 平均燃費（始動後）

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。※1

③ 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。※2、3

④ ガジェット ※4

からガジェット表示選択とドライブインフォ演算種類選択（燃費表示種類選択）を選択すると、次の項目を表示することができます。（→ P. 105）

項目		表示内容
ガジェット表示	燃費表示種類	
非表示	ブランク	情報を非表示にします。
平均車速	始動後	ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示します。
	リセット間	リセット後の平均車速を表示します。※5
走行距離	始動後	ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。
	リセット間	リセット後の走行距離を表示します。※5
走行時間	始動後	ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。
	リセット間	リセット後の経過時間を表示します。※5

⑤ 平均燃費（リセット間・給油後）

表示する平均燃費の種類は⚙からドライブインフォ演算種類選択（燃費表示種類選択）画面を選択すると変更することができます。（→ P. 105）
表示できる平均燃費の種類は次のとおりです。

● リセット間

リセット後の平均燃費を表示します。※1、5

● 給油後

給油後の平均燃費を表示します。※1、2

※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 96）

※3 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※4 初期設定は非表示です。

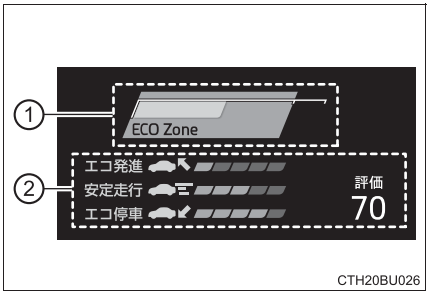
※5 表示中に㊋を長押しするとリセットされます。

■ エコガイド

走行状況に適したアクセル操作の目安の表示や、走行状況を評価して採点結果を表示します。

① エコアクセルガイド

② エコジャッジ



● エコアクセルガイド

① エコエリア

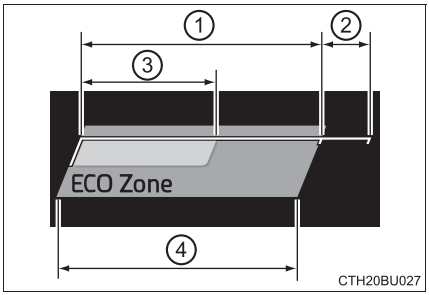
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

② パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

③ 現状のアクセル開度

④ アクセル操作の目安



発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内にゾーン表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→ P. 208）

● エコジャッジ

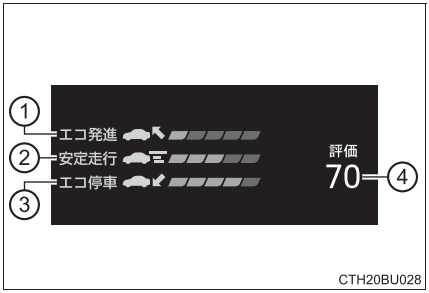
なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。

① エコ発進の状況

② 安定走行の状況

③ エコ停車の状況

④ 採点結果



表示の見方：

未評価	低い	高い

・発進後、車速が約 20km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。
・エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。
・ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果が表示されます。

■ デジタル車速

→ P. 115

設定（⚙）

◆ 設定変更のしかた

ハンドルのメーター操作スイッチを操作して、次のように設定を変更します。

1. ∧または∨スイッチを押して⚙を選択して、設定画面を表示させる
2. 〈または〉スイッチを操作して、変更する項目にカーソルを合わせる
3. OKスイッチを短押しまたは長押しする

OKスイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。
画面に表示されている内容に従って操作してください。

◆ 設定変更できる項目

■ 時刻調整★

OKスイッチを押すごとに分を 00 に合わせます。

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
時計表示	12 時間表示／24 時間表示	時刻を設定することができます。∧/∨スイッチで12時間／24時間表示の変更や時・分の設定ができます。
	時	
	分	

■ メータ輝度調整（→ P. 94）

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
明るさ	明るい	メーター照明の明るさを変更することができます。
	暗い	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 291）

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
センタートレース制御	ON		車線維持支援機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF		
警報感度	高		警報の感度を変更することができます。
	普通		
ふらつき検知	ON		ふらつき警報機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF		
ふらつき検知感度	高		ふらつき警報機能の感度を変更することができます。
	普通		
	低		

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 277）

OKスイッチを押すごとに PCS（プリクラッシュセーフティ）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PCS	ON	PCS（プリクラッシュセーフティ）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
警報感度	早い		警報タイミングを変更することができます。
	中間		
	遅い		

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 308）

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
カーブ速度抑制	強		カーブ速度抑制量を変更することができます。
	弱		
	OFF		

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 348）

OKスイッチを押すごとにBSM（ブラインドスポットモニター）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
BSM	ON	BSM（ブラインドスポットモニター）機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
明るさ（ドアミラーインジケーター）	明るい		ドアミラーインジケーターの明るさを変更することができます。
	暗い		
感度	早い		接近車両の検知を知らせるタイミングを変更することができます。
	中間		
	遅い		
	死角領域のみ		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→ P. 355）

OKスイッチを押すごとにクリアランスソナーの作動･非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
クリアランスソナー	ON	クリアランスソナーの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
音量	大		ブザー音量を変更することができます。
	中		
	小		

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→ P. 366）

OKスイッチを押すごとに RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
RCTA	ON	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
音量	大		ブザー音量を変更することができます。
	中		
	小		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→ P. 374）

OKスイッチを押すごとに RCD（リヤカメラディテクション）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
RCD	ON	RCD（リヤカメラディテクション）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→ P. 379）

OKスイッチを押すごとに PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PKSB	ON	PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ HUD（ヘッドアップディスプレイ）★（→ P. 120）

OKスイッチを押すごとに HUD（ヘッドアップディスプレイ）の表示・非表示を変更することができます。

項目	設定内容	説明
HUD	ON	HUD（ヘッドアップディスプレイ）の表示・非表示を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
HUD 明るさ／位置		HUD（ヘッドアップディスプレイ）の表示の明るさや位置を調整することができます。 ・〈／〉スイッチで表示の明るさを調整できます。 ・∧／∨スイッチで上下位置を調整できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容		説明
HUD 表示カスタマイズ	タコメーター切替		次のいずれかから HUD（ヘッドアップディスプレイ）に表示する項目を選択することができます。 ・ブランク画面（表示なし） ・ハイブリッドシステムインジケーター表示 ・タコメーター表示
	ナビゲーション	ON	HUD（ヘッドアップディスプレイ）に表示する内容の表示・非表示を変更することができます。
		OFF	
	レーン	ON	
		OFF	
	運転支援	ON	
		OFF	
	オーディオ	ON	
		OFF	
HUD 傾き調整			〈／〉スイッチで HUD（ヘッドアップディスプレイ）表示の傾きを調整することができます。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 303）

OKスイッチを押すごとに RSA（ロードサインアシスト）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
RSA	ON	RSA（ロードサインアシスト）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
告知手段	速度超過	告知なし	最高速度標識を認識したときの警報方法を変更することができます。
		表示のみ	
		表示と警報	
	追い越し	告知なし	はみ出し通行禁止標識を認識したときの警報方法を変更することができます。
		表示のみ	
		表示と警報	
	その他	告知なし	車両進入禁止標識を認識したときの警報方法を変更することができます。
		表示のみ	
		表示と警報	
告知車速	10km/h		最高速度標識の認識時、制限速度に対してどの程度、速度超過した場合に警報を実施するかを変更することができます。
	5km/h		
	2km/h		

■ 車両設定

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容			説明
先行車発進告知	先行車発進告知		ON	先行車発進告知機能の作動・非作動を変更することができます。(→ P. 327)
			OFF	
	告知距離	遠い		先行車の発進を告知する距離を変更することができます。
		普通		
		近い		
TPWS★(タイヤ空気圧警報システム)(→ P. 524)	タイヤ空気圧警報システムの初期化			タイヤ空気圧警報システムの初期化を行います。初期化するにはOKスイッチを長押ししてください。 初期化操作は、必ずタイヤの空気圧を指定の数値に調整した後に行ってください。(→ P. 525)
	タイヤ空気圧警報システムのセンサーの ID コード登録			タイヤ空気圧警報システムのセンサーの ID コードの登録を行います。ID コードを登録するにはOKスイッチを長押ししてください。(→ P. 526)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容			説明
ITS Connect★	信号情報		ON	赤信号注意喚起などの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 344）
			OFF	
	道路環境情報		ON	一時停止注意喚起などの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 344）
			OFF	
	緊急車両通知		ON	緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。（→ P. 344）
			OFF	
	通知感度	高い		ITS Connect で各注意喚起を通知するタイミングを変更することができます。
		低い		
クルーズ（ITS）★	ON			通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 344）
	OFF			
後退速度の抑制制御	あり			後退速度の抑制制御の ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。（→ P. 209） ※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。
	なし ※			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示設定

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
言語		表示される言語を変更することができます。
EV（EV インジケーター）	ON	EV インジケーターの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 68）
	OFF	
デジタル車速（車速表示）	ON	車速表示の表示・非表示を変更することができます。
	OFF	
ガジェット表示選択	非表示	表示なし
	平均車速	ガジェット表示を選択することができます。
	走行距離	
	走行時間	
ドライブインフォ演算種類選択（燃費表示種類選択）	始動後 ※1	平均燃費とガジェットに表示する燃費種類を選択することができます。
	リセット間	
	給油後 ※2	
MID（マルチインフォメーションディスプレイ）消灯	—	マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。 マルチインフォメーションディスプレイを再度表示させるには ∧／∨／＜／＞ のいずれかのスイッチを押してください。

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定内容</th><th>説明</th></tr>
<tr><td rowspan="6">割込表示</td><td rowspan="2">交差点案内</td><td>ON</td><td rowspan="6">割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電話</td><td>ON</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">通信車両接近通知</td><td>ON</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">表示設定初期化</td><td colspan="2">はい</td><td rowspan="2">メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">いいえ</td></tr>
</table>

※1 この項目を選択するとガジェット表示のみ変更されます。

※2 この項目を選択するとガジェット表示が非表示になります。

オドメーター／トリップメーター表示

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に ODO/TRIP スイッチを長押しします。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

カスタマイズ機能により、提案サービス機能の作動・非作動を変更することができます。（→ P. 645）

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にした後にランプスイッチが「AUTO」の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチをOFFにしてからメッセージが表示されるまでの間に運転席ドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

ウインドウロックスイッチを ON にしているときは、提案メッセージが表示されません。

知識

■エコガイドが作動しないとき

次の場合エコガイドは作動しません。

●ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しているとき

■表示灯／シフトポジション表示エリアの背景色について

走行モード (→ P. 397) によってメーター色が切りかわります。

●エコドライブモード：青色

●スポーツモード：赤色

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

■タイヤ空気圧表示ついて（タイヤ空気圧警報システム装着車）

●パワースイッチを ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

●電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは “---” と表示されることがあります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 105, 645）

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフト表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの操作を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

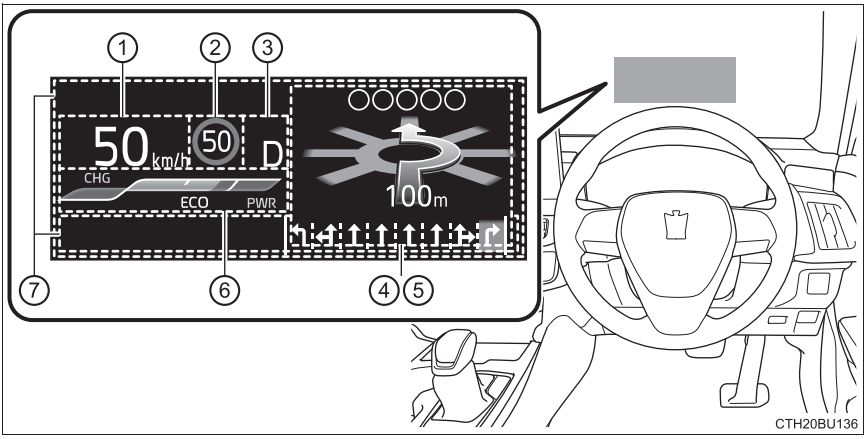
■ディスプレイの操作を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイ★

機能概要

ヘッドアップディスプレイはマルチインフォメーションディスプレイやナビゲーションシステムと連携して、運転者の視界前方に現在の車速などのさまざまな情報を表示することができます。



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

① 車速（スピードメーター）表示エリア

② RSA（ロードサインアシスト）表示（→ P. 303）

③ シフトポジション表示（→ P. 228）

④ 運転支援システム表示エリア（→ P. 122）

⑤ ナビゲーションシステム連携表示エリア（→ P. 122）

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

・ 目的地案内
・ 交差点名表示
・ レーン（車線）案内

⑥ ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター表示エリア（→ P. 123）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑦ メッセージ表示エリア

次の内容が表示されます。
・メッセージ表示
・外気温表示
・ハンズフリー作動表示
・オーディオ表示

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から HUD を選択します。（→ P. 105）

◆ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示／非表示を変更することができます。（→ P. 110）

◆ ヘッドアップディスプレイの設定変更

OK を長押しすると次の設定を変更できます。（→ P. 110）

■ HUD 明るさ／位置

表示の明るさや上下位置を調整することができます。

■ ブランク画面／ HV システムインジケーター／タコメーター

ブランク画面（表示なし）／ハイブリッドシステムインジケーター表示／タコメーター表示のいずれかから選択することができます。

■ HUD 表示カスタマイズ

次の内容の表示／非表示を設定することができます。
・ナビゲーション表示
・レーン表示
・運転支援表示
・オーディオ表示

■ HUD 傾き調整

〈 ／ 〉スイッチで表示の傾きを調整することができます。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 291）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 308）
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→ P. 379）
・ITS Connect★（→ P. 335）
・クリアランスソナー（→ P. 355）
・ドライブスタートコントロールシステム（→ P. 209）
・ブレーキオーバーライドシステム（→ P. 209）
・ドライバー異常時対応システム※（→ P. 328）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

※ 仕様によっては表示されない場合があります。

ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。
（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

■ 目的地案内

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときに表示されます。交差点に接近すると、進行方向を矢印で指示します。

■ 交差点名表示

状況に応じて、通過する交差点の名称が表示されます。

■ レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときは、走行を推奨する車線が青色で表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター表示エリア

■ ハイブリッドシステムインジケーター

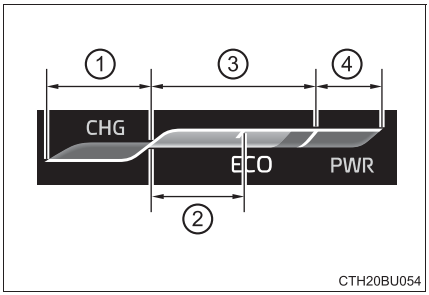
① チャージエリア

② ハイブリッドエコエリア

③ エコエリア

④ パワーエリア

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのハイブリッドシステムインジケーターと同様です。詳しくは、P. 95 を参照してください。



■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

⚠／ⓘアイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコン、メッセージが表示されます。

● ⚠マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→ P. 579）

● ⓘインフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案メッセージ・操作アドバイスメッセージが表示されているときに表示されます。（→ P. 117）

メッセージ表示エリア

状況に応じて、次の内容が表示されます。

■ メッセージ表示

状況に応じて、警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

● 警告メッセージについて

一部の警告メッセージが表示されます。

● 割り込み表示について

運転支援システムの作動に連動して、マルチインフォメーションディスプレイに表示される情報の一部が、ヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

● ETC に関する通知

■ 外気温表示

次の時に外気温が表示されます。

・パワースイッチを ON モードにしたとき（約 10 秒間表示されます）
・低温表示灯が点滅しているとき

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの外気温表示と同様です。詳しくは、マルチインフォメーションディスプレイの外気温表示を参照してください。（→ P. 97）

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの使用中に表示されます。
（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。
（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 167）

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにしても、非表示のままです。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。

■外気温表示について

外気温が約 3 ℃以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し非表示になります。外気温がいったん約 5 ℃以上になり再度外気温が 3 ℃以下になると表示されます。

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 105, 645）

警告

■ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

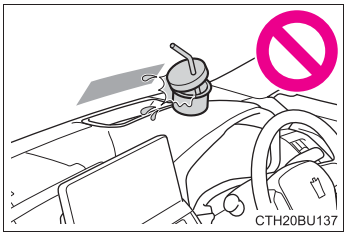
ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やそのほかの液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。



●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイ★に表示します。

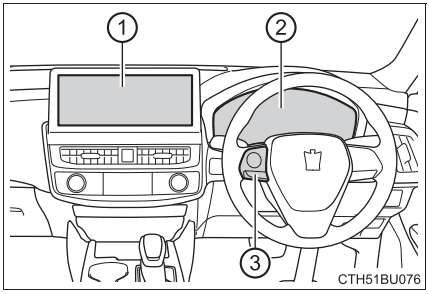
エネルギーモニター、燃費画面は、マルチメディアディスプレイのサイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品

① マルチメディアディスプレイ★

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ メーター操作スイッチ



画面を操作するには

■ サイド画面を移動するには

→ P. 422

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイに表示するには

メーター操作スイッチを操作してエネルギーモニター画面を表示させる（→ P. 100）

▶ ナビゲーション画面★に表示するには

1 MENU スイッチを押す

2 「情報」を選択

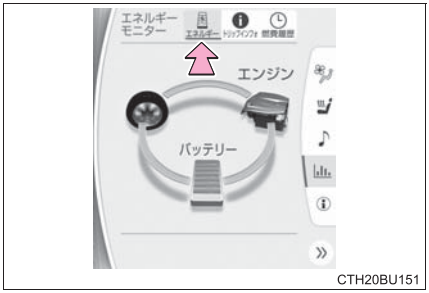
3 「エコ情報」を選択

4 「エネルギー」を選択する

▶ サイド画面★に表示するには

1 トヨタマルチオペレーションタッチで を選択する（→ P. 422）

2 サイド画面から「エネルギー」を選択する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

緑：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

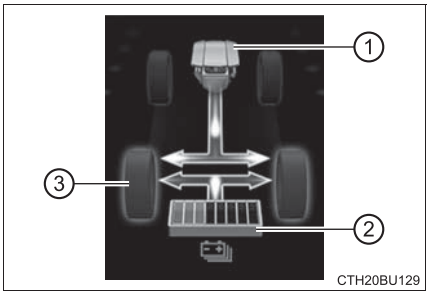
▶ マルチインフォメーションディスプレイ

① エンジン

② 駆動用電池

③ リヤタイヤ

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。



▶ ナビゲーション画面★

① エンジン

② モーター

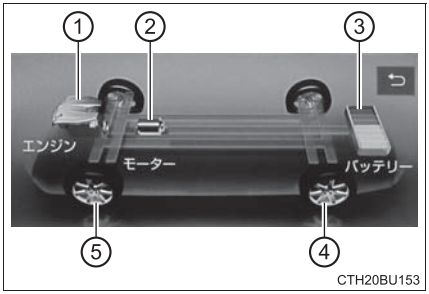
③ 駆動用電池

④ リヤタイヤ

⑤ フロントタイヤ ※

※ FR 車は⑤への矢印は表示されません。

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

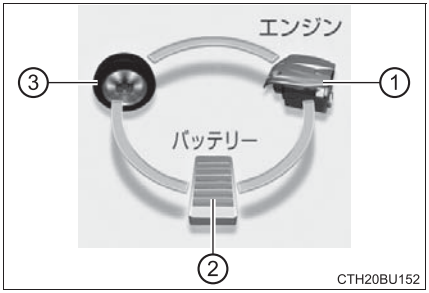
▶ サイド画面★

① エンジン

② 駆動用電池

③ タイヤ

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。



燃費画面の表示のしかた（マルチメディアディスプレイ装着車）

▶ ナビゲーション画面に表示するには

1 MENU スイッチを押す

2 「情報」を選択

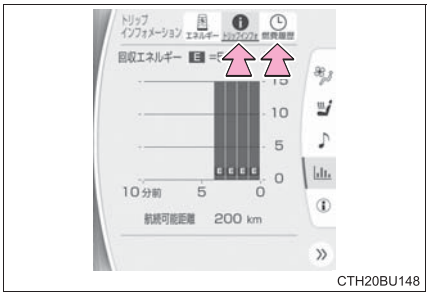
3 「エコ情報」を選択

4 「トリップインフォメーション」、または「燃費履歴」を選択する

▶ サイド画面に表示するには

1 トヨタマルチオペレーションタッチで を選択する（→ P. 422）

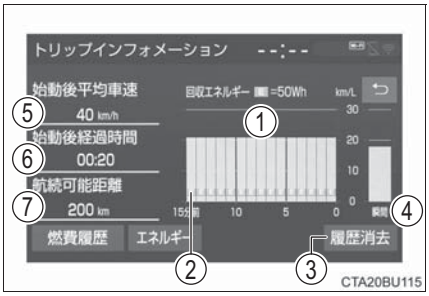
2 サイド画面から「トリップインフォ」、または「燃費履歴」を選択する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーションの見方

▶ ナビゲーション画面



① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

③ 履歴消去

④ 瞬間燃費

⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑥ ハイブリッドシステム始動後経過時間

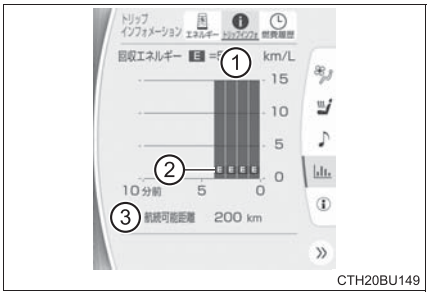
⑦ 航続可能距離（→ P. 96）

平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

▶ サイド画面



① 過去 10 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 過去 10 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

③ 航続可能距離（→ P. 96）

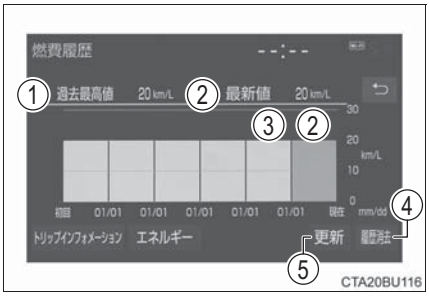
平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費履歴画面の見方（マルチメディアディスプレイ装着車）

▶ ナビゲーション画面



① 過去最高値表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

④ 履歴消去

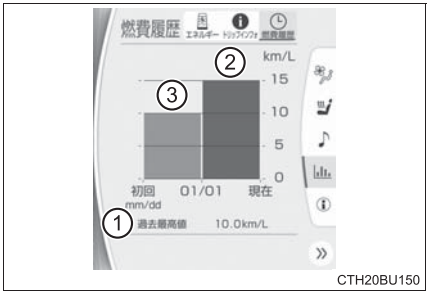
⑤ 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

▶ サイド画面



① 過去最高値表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■駆動用電池の残量警告について

●シフトレバーがNで、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

■過去の平均燃費の記録を更新するには

ナビゲーション画面上の燃費履歴画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

ナビゲーション画面上の「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

→P. 96

各部の操作 3

3-1. キー

キー 136

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 142

トランク 150

スマートエントリー＆スタートシステム 156

3-3. シートの調整

フロントシート 163

リヤパワーシート 165

パワーイージーアクセスシステム／マイコンプリセットドライビングポジションシステム／メモリーコール機能 167

ヘッドレスト 172

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 177

インナーミラー 180

デジタルインナーミラー 182

ドアミラー 194

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ 197

ムーンルーフ 201

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

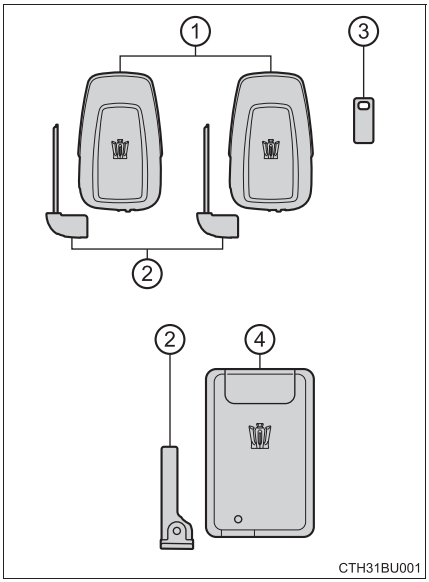
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 156）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー★

スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 156）



ワイヤレスリモコン

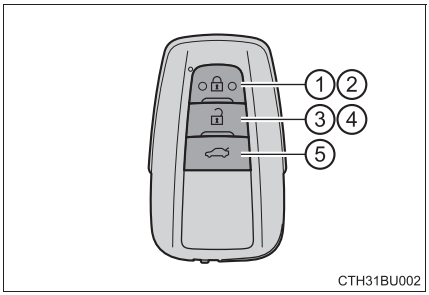
① ドアの施錠（→ P. 142）

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→ P. 142）

③ ドアの解錠（→ P. 142）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→ P. 142）

⑤ トランクを開ける（→ P. 151）

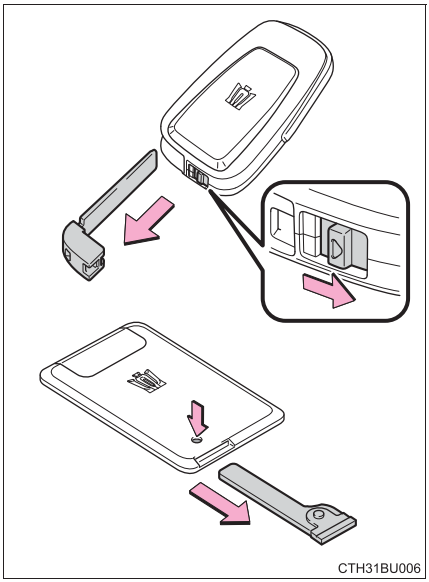


※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 649）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

電子キーからメカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください。カードキー★からメカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 616）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

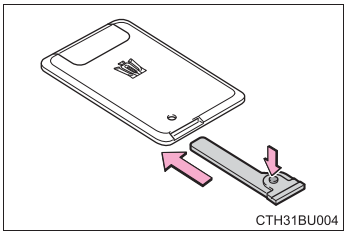
■カードキー★について

●カードキーは非防水です。

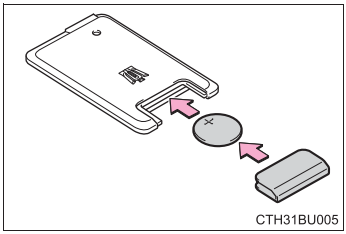
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。


CTH31BU004

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をクラウンエンブレム面側にして取り付けてください。


CTH31BU005

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。（→ P. 151, 460）
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は1～2年です（カードキーの電池は1年半程度で消耗します）。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。（→ P. 158）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーのLEDが点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 543

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■カードキー★の取り扱いについて

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、トヨタ販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
  無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
  - ・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
  - ・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
  - ・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

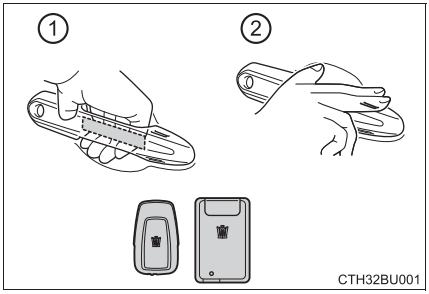
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① ドアハンドルを握って解錠する

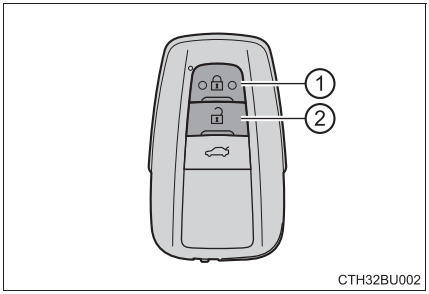
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 649）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます（施錠は 1 回、解錠は 2 回）。

ドアガラスとムーンルーフ★の開閉をブザーで知らせます。

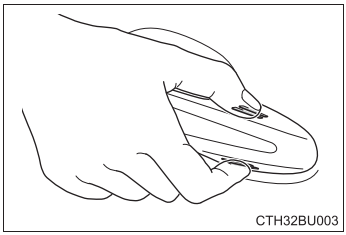
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 78）

■スマートエントリー＆ スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 616）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 543）

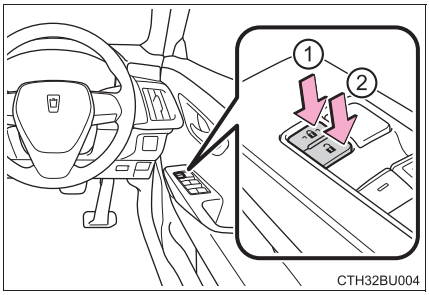
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ（施錠／解錠）

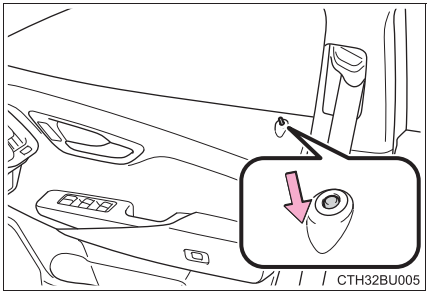
① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



◆ ドアロックボタン（施錠）

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



◆ ドアハンドル（解錠）

▶ 運転席ドア

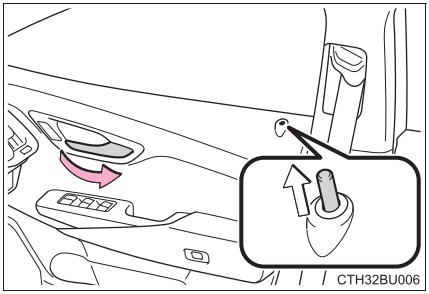
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ドアロックボタンを押し下げる

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

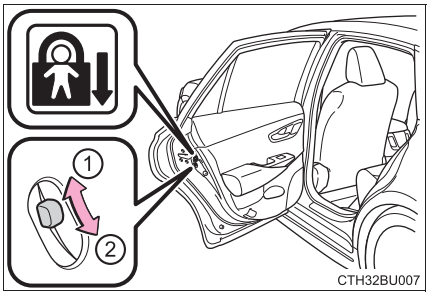
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定一覧については、P. 645 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサー★を停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 81）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）。

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	助手席・リヤ席★のドアハンドルを握ると全席解錠	
	フロント席・リヤ席★のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください（🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 78）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 616）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 159

■イージークローザー（イージークローザー装着車）

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

●パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます（ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）。

●イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

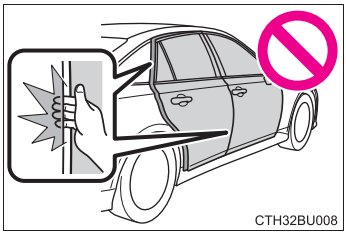
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■イージークローザーについて（イージークローザー装着車）

- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**イージークローザーの故障を防ぐために（イージークローザー装着車）**

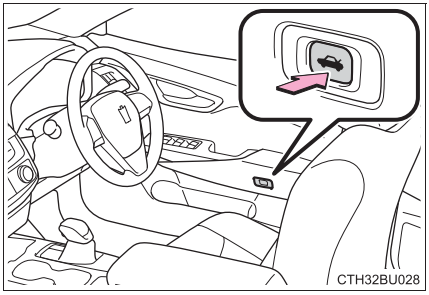
ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけないでください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す



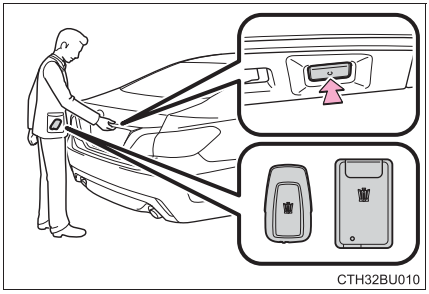
車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

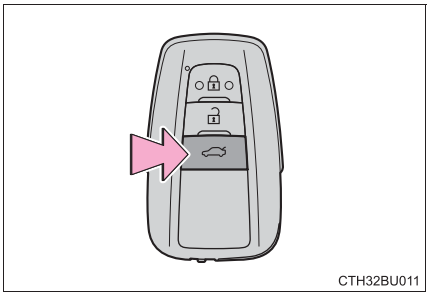
・スマートエントリー＆スタートシステム
・ワイヤレス機能
・ドアロックスイッチ
・メカニカルキー
・オートドアアンロック機能



◆ ワイヤレスリモコン

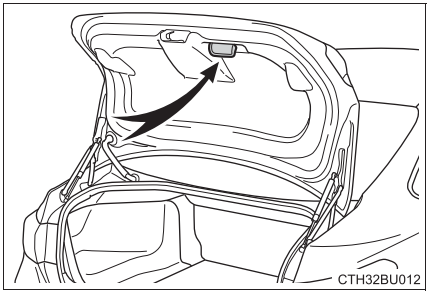
スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



トランクを閉めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



トランクオープナーを一時的に無効にする

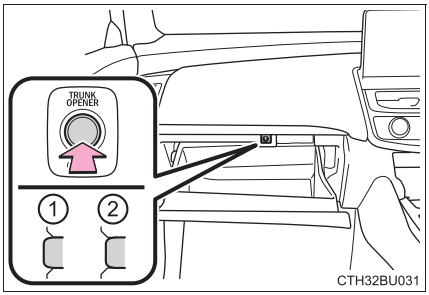
トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

① ON

② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。



知識

■トランクランプ

●トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

●パワースイッチが OFF の場合、トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■イージークローザー（イージークローザー装着車）

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

●パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

●すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。

●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナースイッチでトランクを開けてください。

■トランク開警告ブザー

トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

■メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→ P. 616）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。（→ P. 616）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 543）

■駐車場などでキーを預けるときは

→P. 138

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→P. 645）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

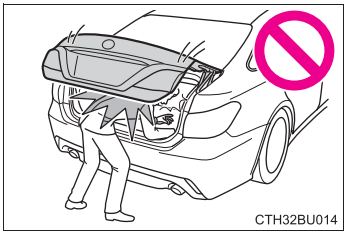
トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

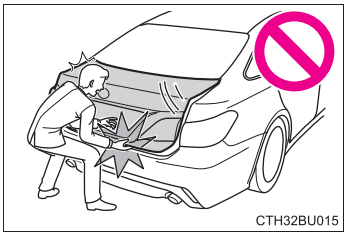
■ **トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。


CTH32BU014

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

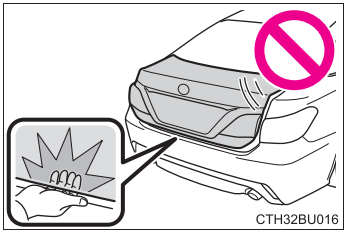

CTH32BU015

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

警告

■**イージークローザーについて（イージークローザー装着車）**

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■**イージークローザーの故障を防ぐために（イージークローザー装着車）**

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

スマートエントリー&スタートシステム

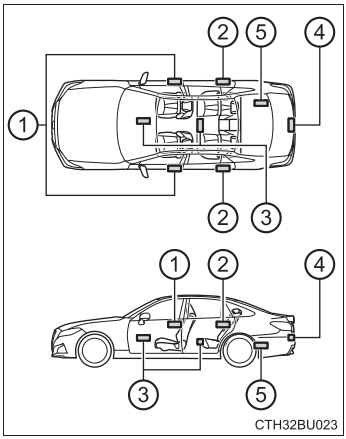
電子キー（カードキーを含む）をポケットに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 142）
- トランクを開ける（→ P. 150）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 219）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ（フロント）
② 車外アンテナ（リヤ）★
③ 車室内アンテナ
④ トランク外アンテナ
⑤ トランク内アンテナ

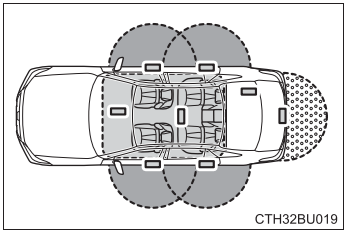


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動範囲

：ドアの施錠・解錠時

フロント席・リヤ席★のドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）。



：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 579）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から “ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉めた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉めてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告音	状況	対処方法
車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（パワースイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

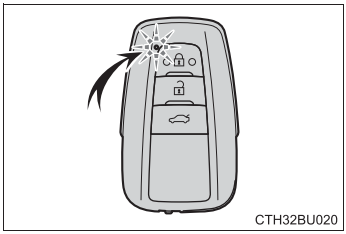
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。


CTH32BU020

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 616）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キー、自車のもう一つの電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングに駐車しているとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上･リヤシート後方のパッケージトレイ上･ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）。

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時に電子キーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）。

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。※

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・電子キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・電子キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 158）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

※ トヨタ販売店での設定変更が可能です。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から約 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 647）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池消耗を抑えることができます。（→ P. 158）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）。

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（応急用タイヤ★付近、トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→ P. 152）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 616

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 617

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。（→ P. 142, 151, 616）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 617

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 220

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 156）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

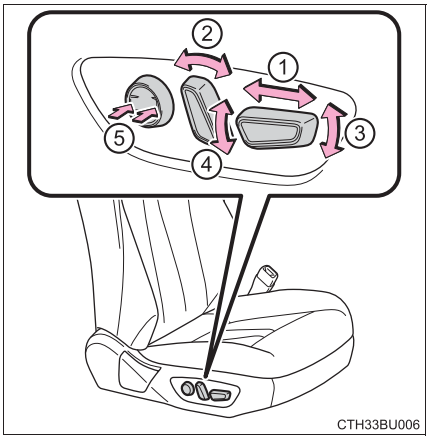
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

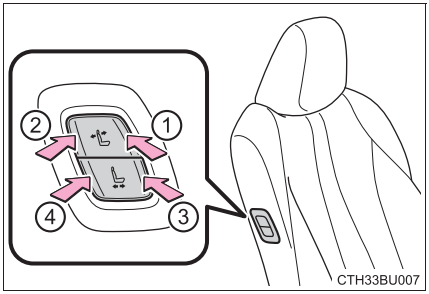
調整のしかた

① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整（運転席のみ）
④ シート全体の上下調整（運転席のみ）
⑤ 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）



助手席側面スイッチ★

① 背もたれを前に傾ける
② 背もたれをうしろに傾ける
③ シートを前方に動かす
④ シートを後方に動かす



知識

■パワーイージーアクセスシステム★

パワースイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→ P. 167）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

注意

■シートを調整するときは

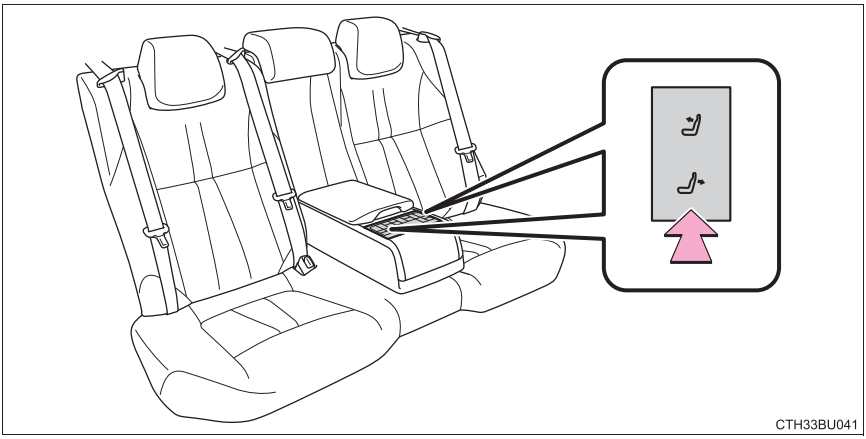
ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

リヤパワーシート★

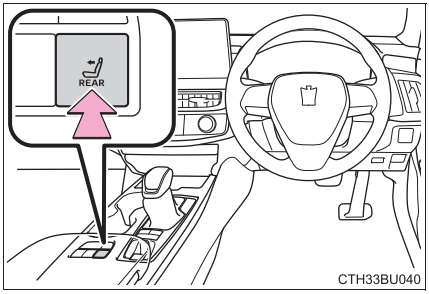
調整のしかた



リクライニング調整

フロント席からリヤシートをもどす

スイッチを押す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■フロント席からリヤシートをもどす操作について

パワースイッチが OFF のときでも、スイッチを押すことにより、リヤシートをもどすことができます。

警告

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロント席からリヤシートをもどすときは

リヤシートの乗員が車を降りてから操作してください。

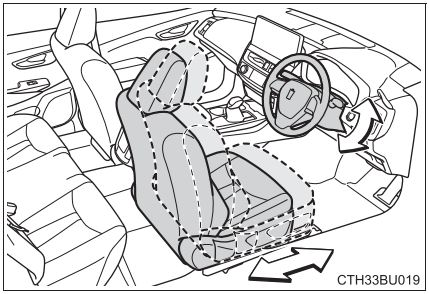
パワーイージーアクセスシステム★／マイコンプリセットドライビングポジションシステム★／メモリーコール機能★

自動で運転席・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。
・シフトレバーを P に入れる
・パワースイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。
・パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにする
・シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあると、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マイコンプリセットドライビングポジションシステム

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度・ヘッドアップディスプレイ表示）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、2 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

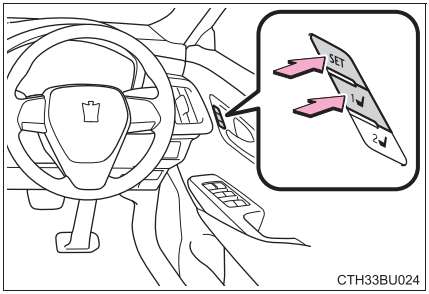
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

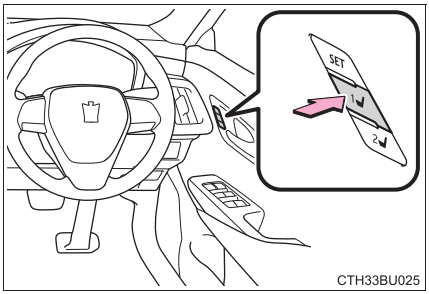


■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 または 2 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 163）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は、パワースイッチを押すと調整されます。

■ドライビングポジションシステムを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キー（カードキーを含む）を登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 または 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

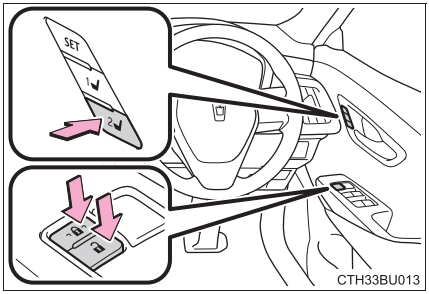
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 または 2）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

シート・ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示が登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては、呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

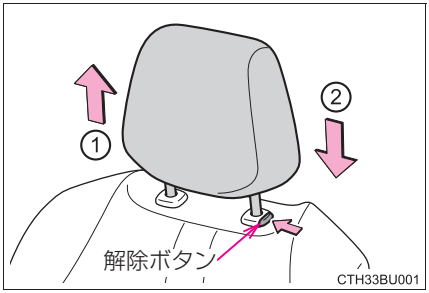
ヘッドレスト

フロント席（可倒式以外のヘッドレスト）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



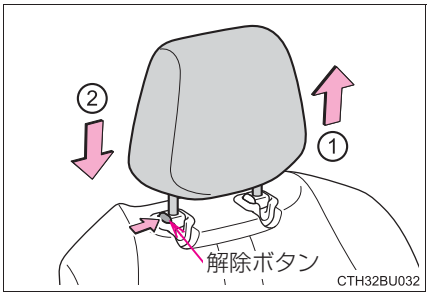
フロント席（可倒式ヘッドレスト★）

可倒式ヘッドレストには、左右に解除ボタンがあります。

① 上げる

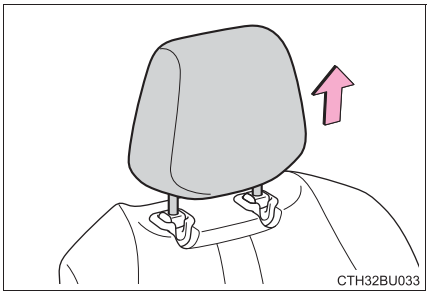
② 下げる

下げるときは、右の解除ボタンを押しながら操作します。

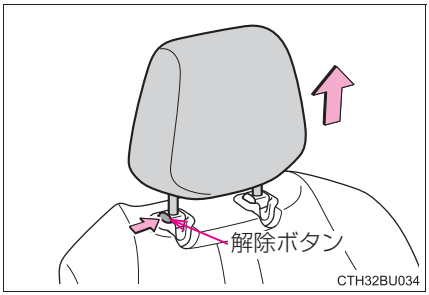


■ ヘッドレストを倒すとき

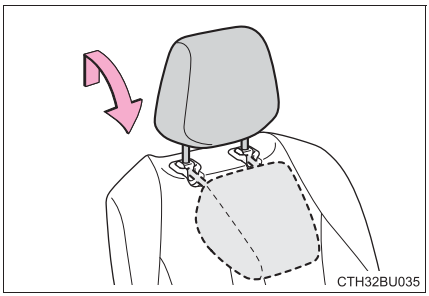
1 ヘッドレストをロック位置まで引き上げる



2 右の解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをロック位置から少し引き上げる



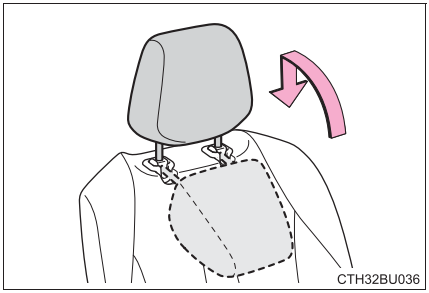
3 右の解除ボタンを離し、ヘッドレストをいちばん上まで引き上げた後、ヘッドレストを持ちながら前へ倒す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドレストを使用するとき

ヘッドレストを起こし、ロック位置まで押し下げる

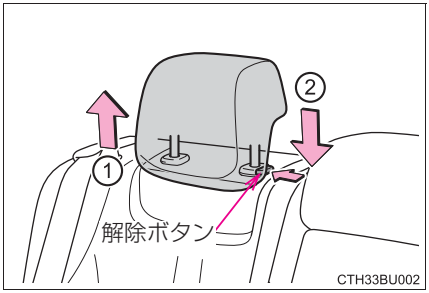


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

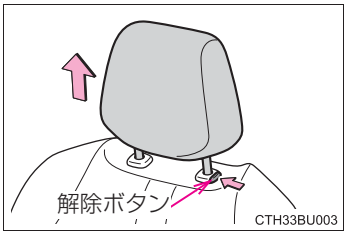


知識

■ ヘッドレストを取りはずすとき

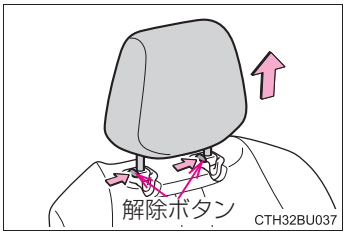
▶ 可倒式以外のヘッドレスト

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



▶ 可倒式ヘッドレスト

左右両方の解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



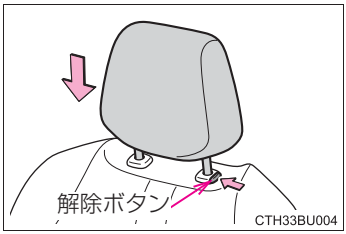
フロントシート：ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→ P. 163）

■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

▶可倒式以外のヘッドレスト

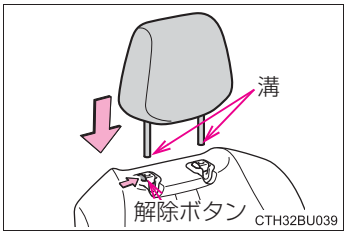
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶可倒式ヘッドレスト

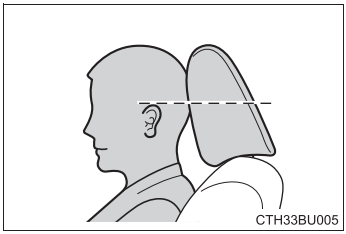
ヘッドレストの両方のステーに溝があることを確認して、ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■可倒式ヘッドレストを倒すとき

シートの位置、角度、高さによっては、ヘッドレストを倒すことができない場合があります。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■可倒式ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストを倒したまま助手席に人を乗せて走行しない

●人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを起こして正しい位置に調整する

●ヘッドレストを倒すときは、助手席に人が乗っていないことを確認する

●ヘッドレストを倒すときや戻すときは、ヘッドレストを持って操作する

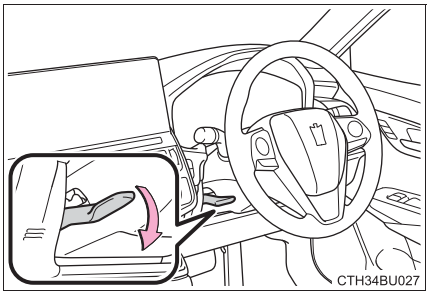
●ヘッドレストを倒すときや戻すときは、動いている部分に手を近付けない

ハンドル

調整のしかた

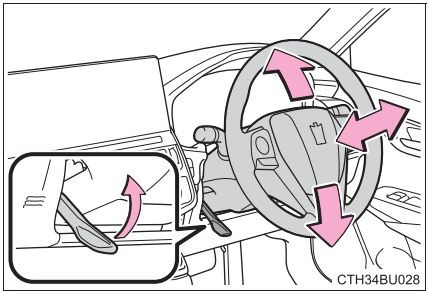
▶ マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置にする

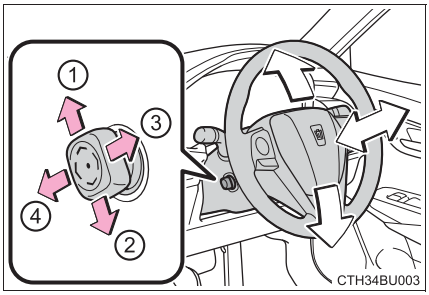
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



▶ 電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ

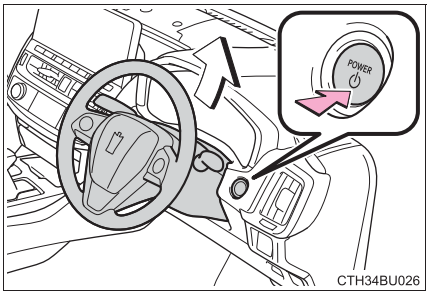


オートチルトアウェイ＆リターン機能（電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車）

▶ パワーイージーアクセスシステム非装着車

パワースイッチをOFFにすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが自動で動きます。

パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするともとの位置にもどります。

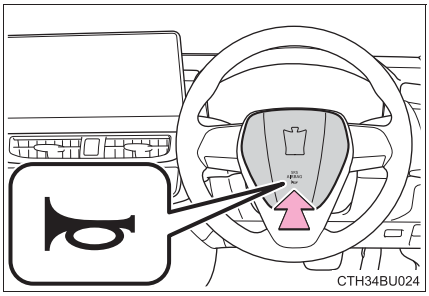


▶ パワーイージーアクセスシステム装着車

→ P. 167

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■オートチルトアウェイ＆リターン機能の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整★

お好みのハンドル位置をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 167）

■パワーイージーアクセスシステム★

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→ P. 167）

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 645）

警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

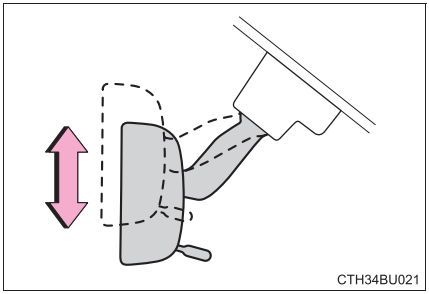
インナーミラー★

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



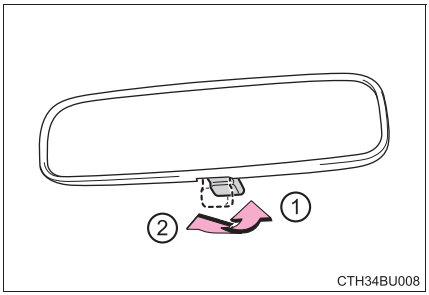
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



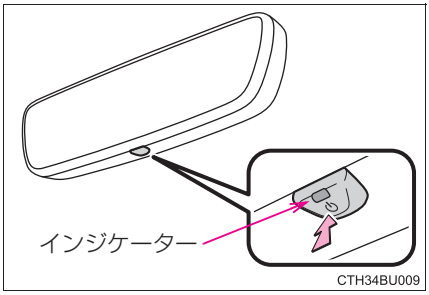
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON/OFF

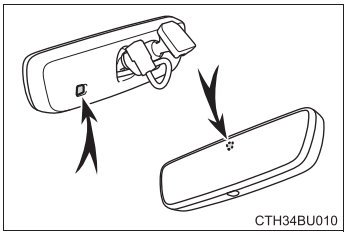
ON のときはインジケーターが点灯します。
パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

デジタルインナーミラー★

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物、リヤサンシェード★などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

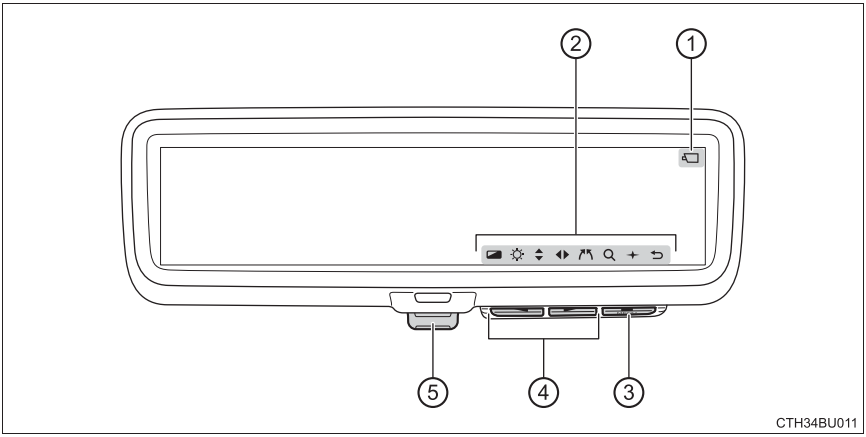
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→ P. 185）

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各部の名称



① カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

② アイコン表示エリア

調整アイコン（→ P. 185）などが表示されます。

③ メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

④ 選択スイッチ

調整アイコンの選択や、ディスプレイ表示の調整を行います。

⑤ 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

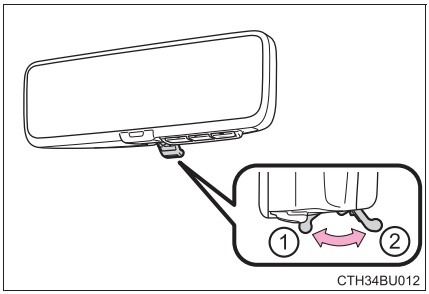
① デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

② 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

パワースイッチを ON モードから OFF またはアクセサリーモードにすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴や雪が付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●トランクが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード（ムーンルーフ装着車）を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

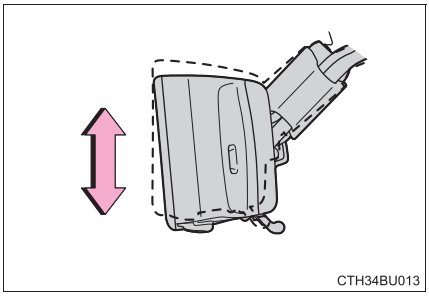
●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

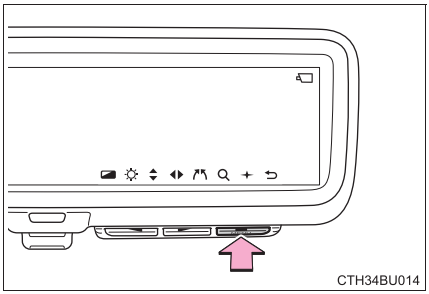


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON/OFF ができます。

1 メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

3 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して設定を変更し、メニュー／決定スイッチを押す

◪ と ✦ の ON/OFF を選択するときは、選択スイッチの ▬ または ▬ を押して ▌（ON）または ○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押します。

4 選択スイッチの または を押して にカーソルを合わせてメニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON/OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースイッチを ON モードにしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大縮小することができます。
	PLS モードの ON/OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑え、ディスプレイが見えにくくなることを防止します（デジタルミラーモードで使用時）。PLS モードが ON の時はディスプレイ左上に が表示されます。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。（→ P. 187）

■ 自動防眩機能の ON/OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

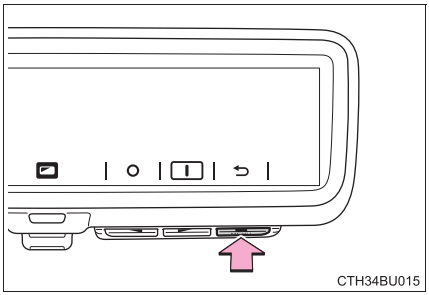
▶ デジタルミラーモード使用時

→ P. 185

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュー／決定スイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して ▌（ON）または ○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

設定画面の表示が消えます。

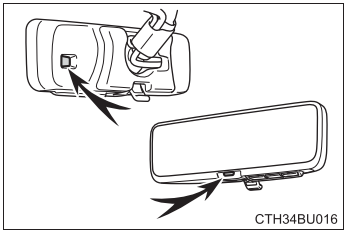
知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 10 秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
  デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

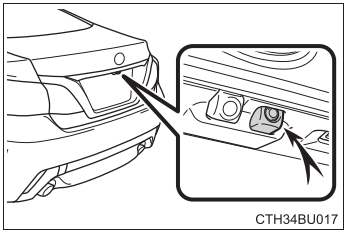
■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになった時は、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （ムーンルーフ★からの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着している	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	トランクが完全に閉まっていない	トランクを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約 10 秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

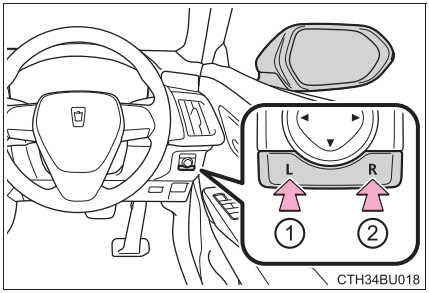
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



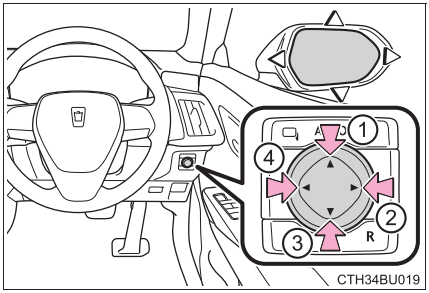
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左



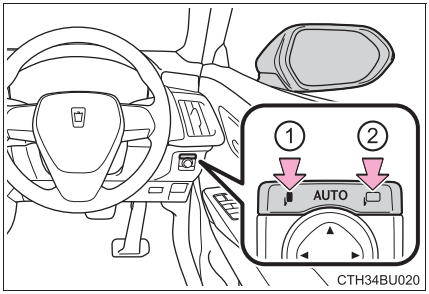
ドアミラーを格納する

スイッチを押す

① 格納する

② もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（AUTO）にすると自動モードに切りかわり、ドアの解錠・施錠と連動します。



リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 437）

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。（→P. 168）

■寒冷時に「AUTO」で使用するとき

寒冷時に「AUTO」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→P. 645）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ドアミラーを格納したまま走行しない

●走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■**ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■**ミラーヒーターが作動しているとき**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

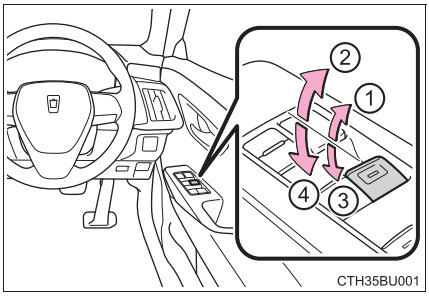
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

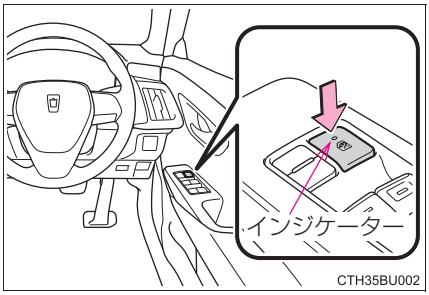
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すとインジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けてください。または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 616）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 142）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 649）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P. 79）

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

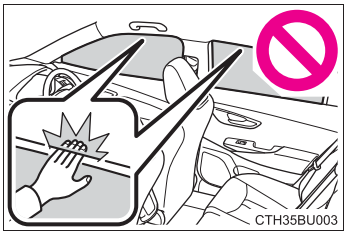
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 197）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**巻き込み防止機能**

●巻き込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まれないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

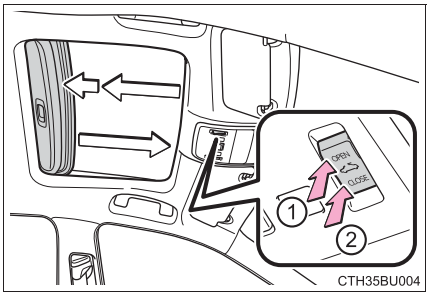
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く ※

全開の手前の位置で止まります（風切り音の低減機能）。
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

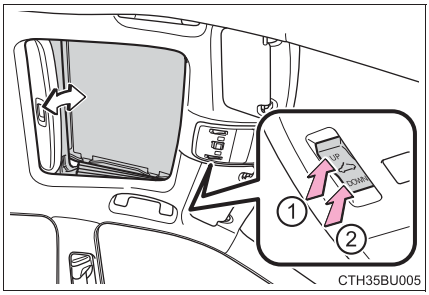


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ ※

② チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 616）

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 142）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 649）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 79）

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “UP” 側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度 “UP” 側を押し続ける ※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの “UP”、または、“CLOSE” 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 645)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

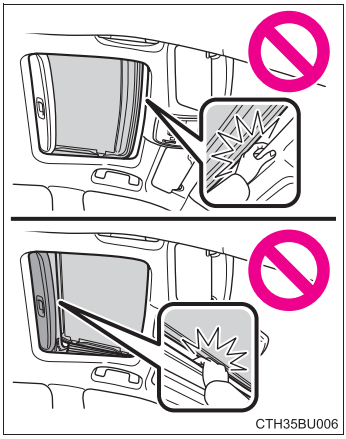
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。


CTH35BU006

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 206
荷物を積むときの注意..... 218

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 219
EV ドライブモード..... 225
トランスミッション..... 228
方向指示レバー 237
電動パーキングブレーキ..... 238
ブレーキホールド 242

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 245
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 249
AHB（オートマチックハイビーム）..... 254
フォグランプスイッチ..... 258
ワイパー＆ウォッシャー..... 260

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 267

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 271
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 277
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 291
RSA（ロードサインアシスト）..... 303
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 308
先行車発進告知機能..... 325
ドライバー異常時対応システム..... 328
ITS Connect..... 335
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 348
クリアランスソナー..... 355
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 366
RCD（リヤカメラディテクション）..... 374
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 379
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 387
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 391
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 394
ドライブモードセレクト 397
運転を補助する装置..... 400
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 410

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 415
寒冷時の運転..... 417

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 219

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 228）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 238）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 238）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 228）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 238）、シフトレバーを P にする（→ P. 228）

3 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 228）

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 238）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

・R に切りかえたとき ※

・PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 401）

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 415）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→ P. 103）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

- 発進時は：
  エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。
- 走行中は：
  目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。
- 停車時は：
  停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■走行中のエンジン回転数について（8GR-FXS エンジン搭載車）

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●ブレーキペダルを踏んだとき

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→ P. 404）すると、急発進の抑制制御も停止※ します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 404）

※ 後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。（→ P. 105）

・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 560を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 228）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 4WD 車：オフロード走行をしないでください。
  本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  シフトレバーの変更後は、メーター内のシフトポジション表示で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 585, 603を参照してください。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・パッケージトレイ
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・マルチメディアディスプレイ★の前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

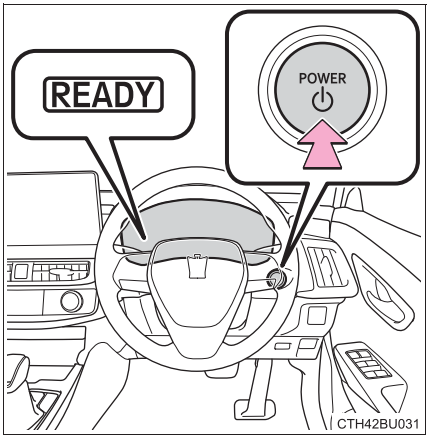
表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。
READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポートをご使用の方は、P. 410 も併せて参照してください。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 238）、シフトレバーを P の位置にする

3 パワースイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」や「イグニッション ON」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）。

① OFF※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

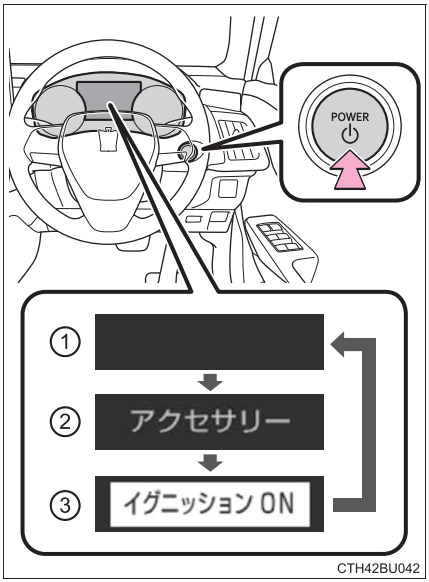
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 69

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 139

■外気温が低いときは

- ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 8GR-FXS エンジン搭載車：極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。
その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 159

■ご留意いただきたいこと

→ P. 160

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 77）トヨタ販売店へご連絡ください。

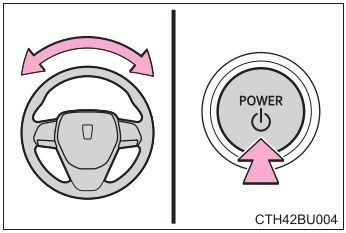
●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 72

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 543

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 617

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 560）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを押してください。停車後にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを P にし、パワースイッチを押してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

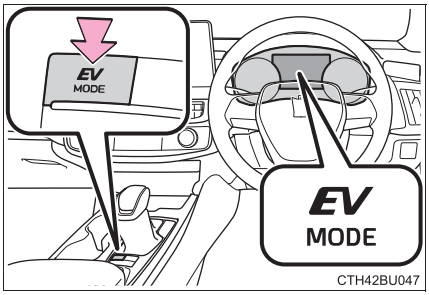
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの ON/OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、マルチインフォメーションディスプレイに「EV MODE」が表示されます。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 128）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

●8GR-FXS エンジン搭載車：シフトレバーが M のとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 128）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）。

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV　モードに現在切りかえできません」と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏みすぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードが解除されました」と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらくしてから使用してください。

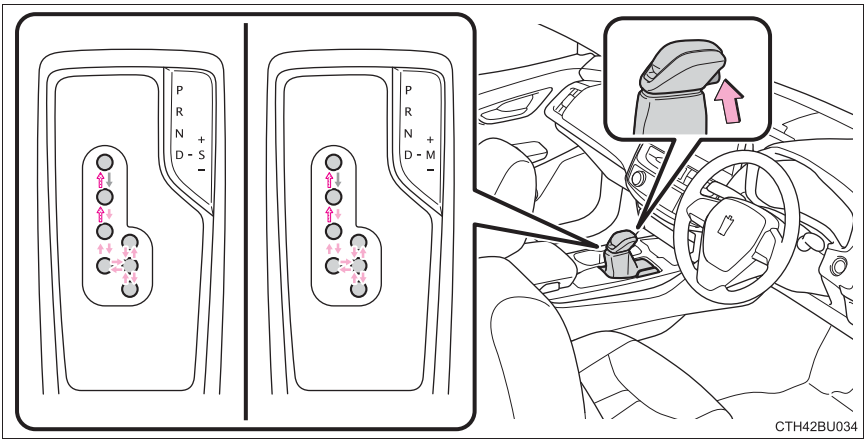
警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

シフトレバーの使用目的

シフトレバー	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S※2	S モード走行 ※3（→ P. 232）
M※4	M モード走行 ※5（→ P. 233）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 A25A-FXS エンジン搭載車

※3 S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

※4 8GR-FXS エンジン搭載車

※5 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

走行モードの選択

■ ドライブモード

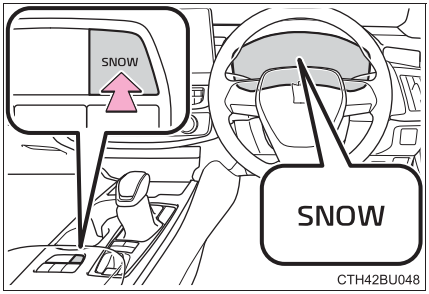
→ P. 397

■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

SNOW モードスイッチを押す

通常走行モードにもどすときはもう一度 SNOW モードスイッチを押します。



D ポジションでのレンジ選択（パドルシフトスイッチ装着車）

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

パドルシフトスイッチの “ － ” 側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの “ － ” 側または “ ＋ ” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。

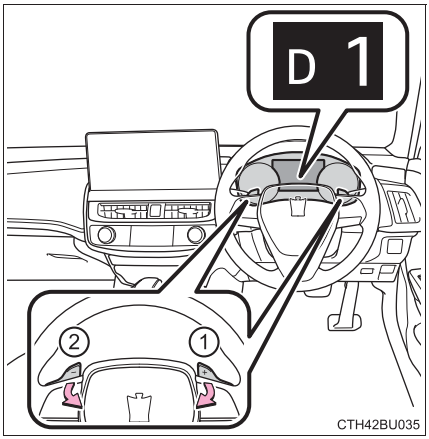
① シフトアップ

② シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、車速に応じて D2・D3･D4 もしくは D5 に設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “ ＋ ” 側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

● エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。

● シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

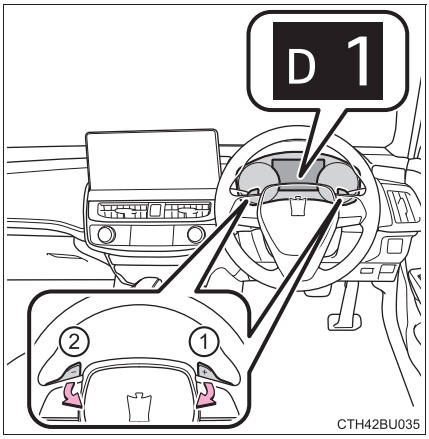
パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のギヤ段より一つ上のレンジにシフトアップします。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

D1 からD10 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2 ～ D10	スピードや走行条件に応じて、D1 レンジから選択したシフトレンジまで自動的にかわります。
D1	シフトレンジが D1 レンジに固定されます。

レンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

S モードでのシフトレンジ選択（A25A-FXS エンジン搭載車）

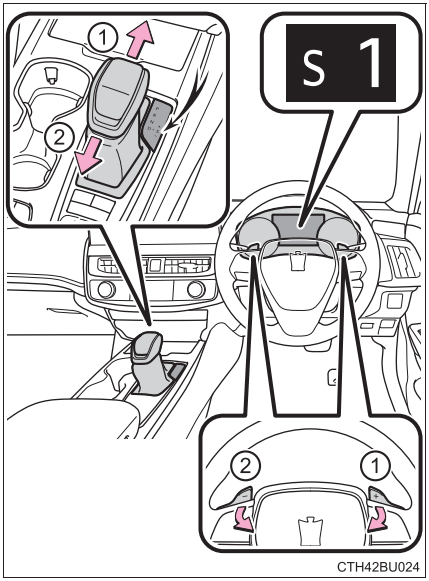
シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

S1からS6レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じて S2・S3・S4 もしくは S5 に設定されます。



■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- 1 から 4 のシフトレンジでの加速時は、車速に応じて、シフトレンジが自動的に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

M モードでのギヤ段選択（8GR-FXS エンジン搭載車）

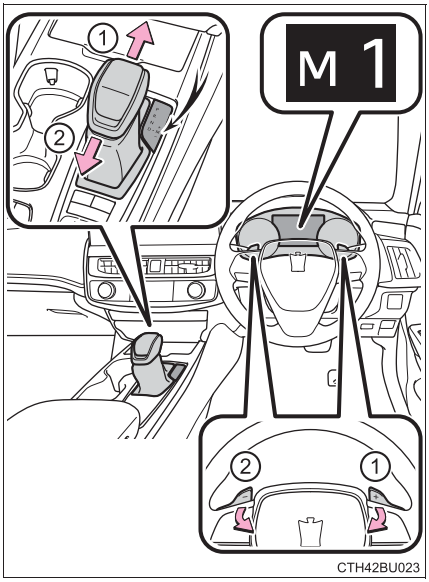
シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M10 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。



M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- 車速が増加した場合（シフトアップのみ）
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
- トランスミッションフルードが高温または低温のときなど、トランスミッションの保護が必要な場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■Dポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき（パドルシフトスイッチ装着車）

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除（パドルシフトスイッチ装着車）

次のとき、自動的にDポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトレバーをD以外にしたとき

●パドルシフトスイッチの“＋”側を長押ししたとき

■Sモードについて（A25A-FXSエンジン搭載車）

●S4レンジ以下のとき、シフトレバーを“＋”側へ保持するとS6レンジに設定されます。

●エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作してもシフトダウンできない場合があります（このときブザーが2回鳴ります）。

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ハイブリッドトランスミッションの保護制御（8GR-FXSエンジン搭載車）

トランスミッションフルード（ATオイル）の温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル高温　取扱書を確認してください」が表示され、自動的に保護モードに入ります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。

●A25A-FXSエンジン搭載車：Dポジションでのレンジ選択走行中（パドルシフトスイッチ装着車）またはSモードで走行中に5または4レンジにシフトダウンしたとき（→P. 308）

●8GR-FXSエンジン搭載車：Dポジションでのレンジ選択走行中（パドルシフトスイッチ装着車）に9･8･7･6･5または4にレンジダウンしたとき（→P. 308）

●Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P. 397）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 209

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチがONモードでブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

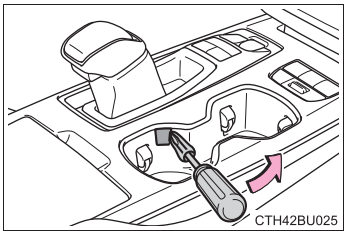
シフトロック解除のしかた：

1 パワースイッチをONモードにし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→ P. 220, 238）

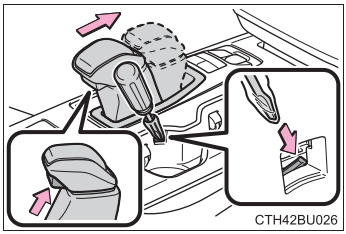
2 パワースイッチをOFFにする

3 ブレーキペダルを踏む

4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのをふせぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


CTH42BU025

5 マイナスドライバーなどを使ってシフトロック解除ボタンを斜め後方かつ下方向に向かって押しながら、シフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


CTH42BU026

■AI-SHIFT について（8GR-FXS エンジン搭載車）

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します。（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

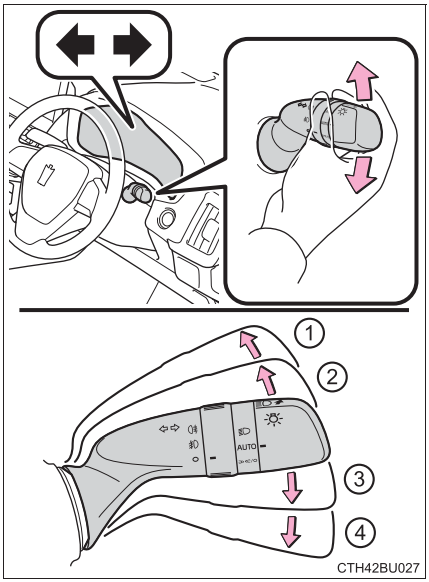
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■**表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

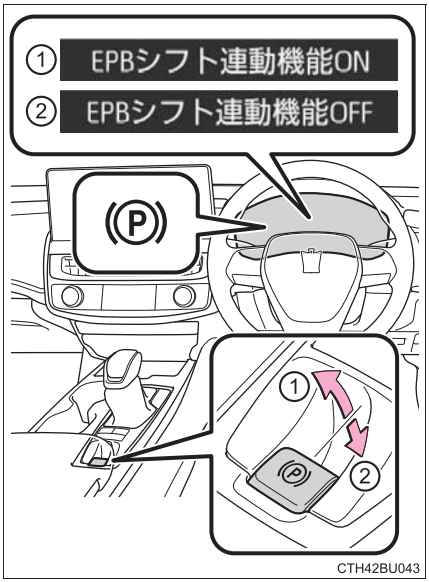
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。（→ P. 239）



① オートモードを ON にする（停車中に「EPB シフト連動機能 ON」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける）

P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。
シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

② オートモードを OFF にする（停車中に「EPB シフト連動機能 OFF」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける）

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

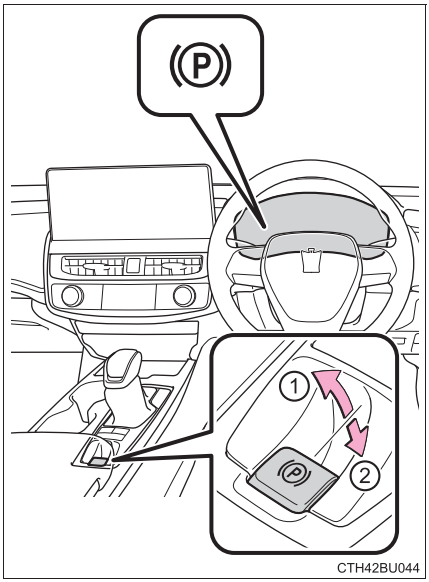
パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→ P. 574）

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチがONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■自動解除機能

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。
次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

●運転席ドアが閉じている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯や電子制御ブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されました　しばらくお待ちください」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■駐車するとき

→ P. 206

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■電子制御ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 570

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 418

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。
ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

シフトレバーが D・S※1・M※2または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S※1・M※2のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

※1 A25A-FXS エンジン搭載車

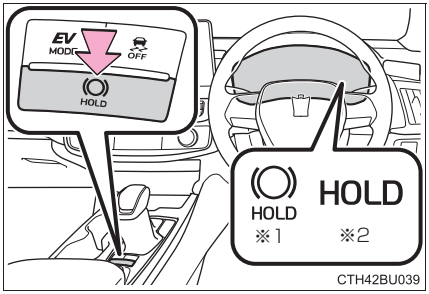
※2 8GR-FXS エンジン搭載車

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。

※1 ブレーキホールドスタンバイ表示灯

※2 ブレーキホールド作動表示灯



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON できません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→ P. 574)

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P. 574

警告

■**急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■**すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■**駐車するとき**

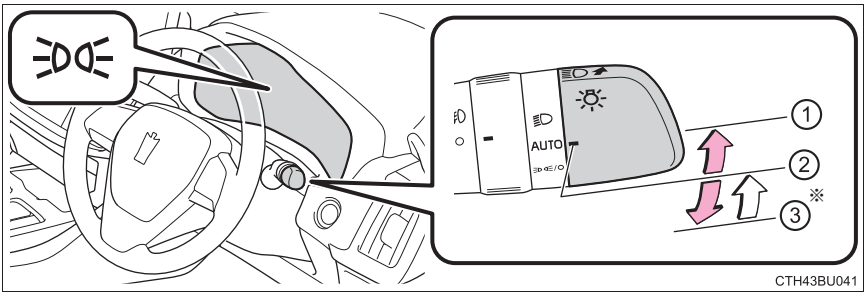
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③ /○ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
①	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② **AUTO** ※1	LED デイライト装着車：LED デイライト（→ P. 247）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
	LED デイライト非装着車：ヘッドランプ・スモールランプが消灯	
③ /○ ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・メーター照明を意味します。

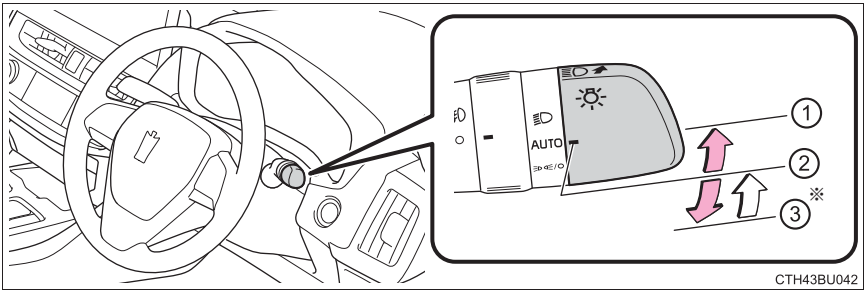
※1 操作するたびに、② **AUTO** による点灯状態と③ /○ による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② **AUTO** による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを③ の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① か③ の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト★（→ P. 247）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

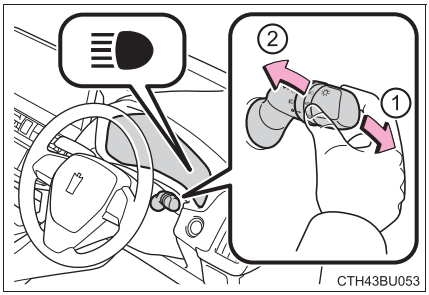
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED デイライト機能★

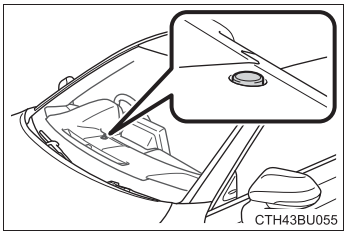
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除し、ランプスイッチを AUTO にするとLED デイライトが自動で点灯します（車幅灯より明るく点灯します）。
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから または の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチがアクセサリーモードまたは OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると、節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

・ランプスイッチを操作したとき
・ドアまたはトランクを開閉したとき

■おもてなし照明★

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 645)

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

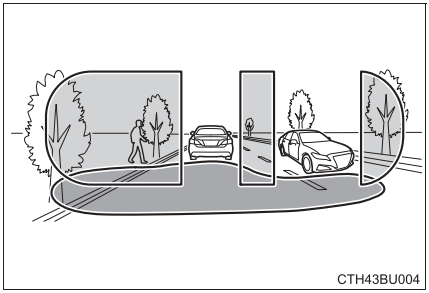
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します（遮光ハイビーム）。

  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。


CTH43BU004

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

警告

■**安全にお使いいただくために**

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

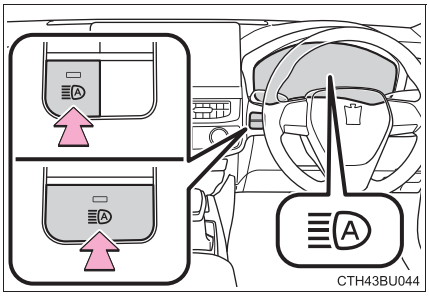
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムの使い方

1 ランプスイッチを AUTO または の位置にする

2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



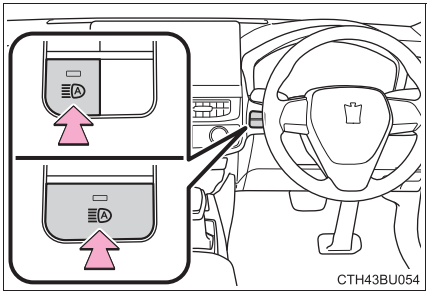
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

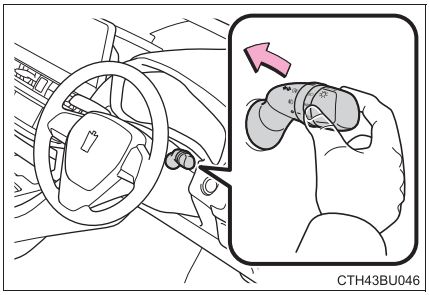
アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度アダプティブハイビームシステムスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。

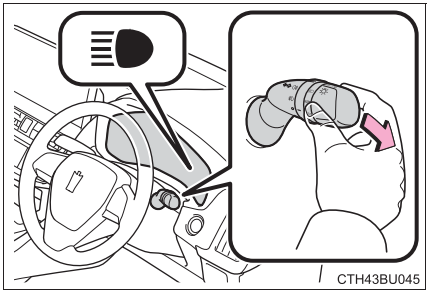


■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



知識

■一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

■ヘッドランプ配光の自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上 ※
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 10km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

AHB（オートマチックハイビーム）★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために**

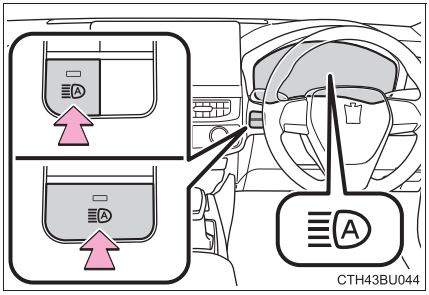
荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを **AUTO** または の位置にする

2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

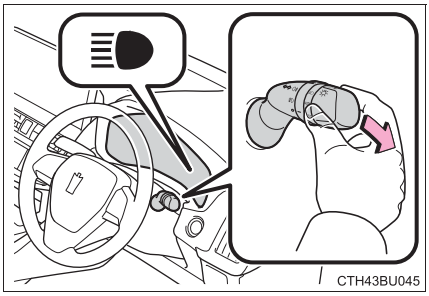
手動切りかえのしかた

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

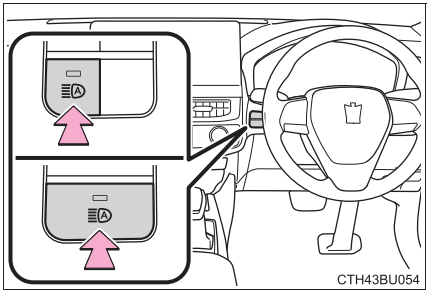

CTH43BU045

■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

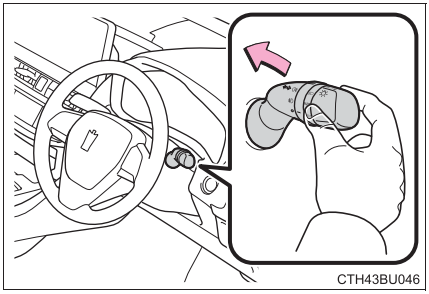
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。


CTH43BU054

■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。


CTH43BU046

知識

■一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

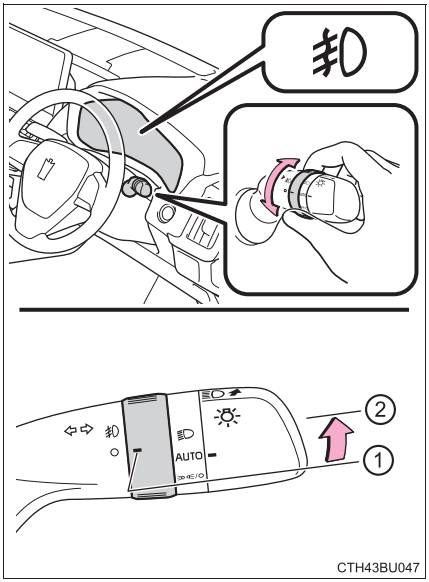
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ装着車

① 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ装着車

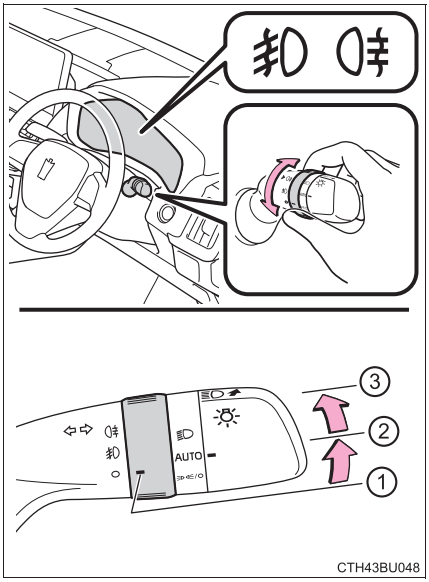
① 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ★：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、マルチインフォメーションディスプレイ内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

① 停止

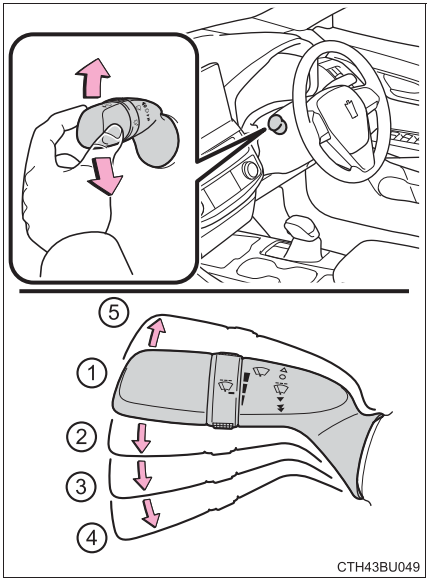
② 間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

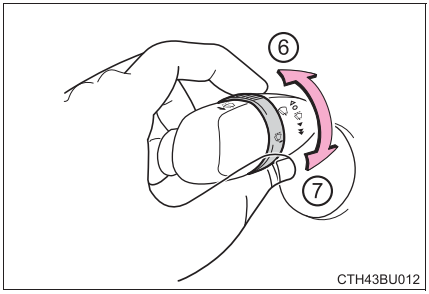
⑤ △ 一時作動



間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

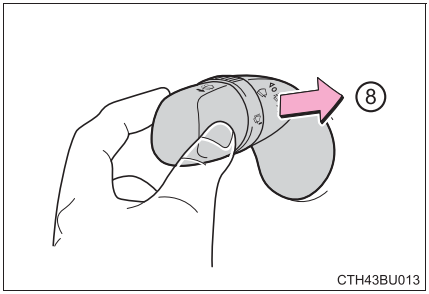
⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します（数回作動したあと、液だれ防止としてさらにもう 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません）。

ヘッドランプクリーナー装着車：
パワースイッチが ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

① 停止

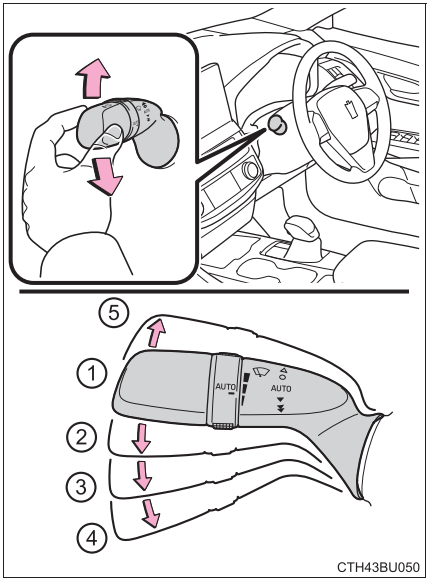
② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

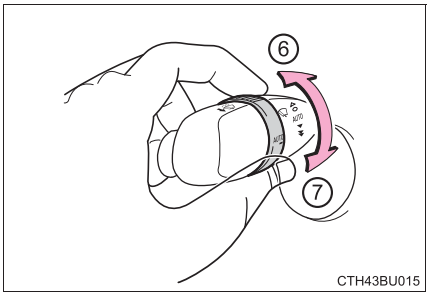
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

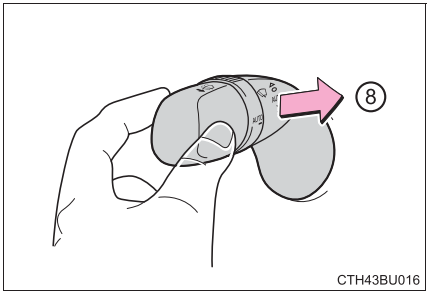
⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します（数回作動したあと、液だれ防止としてさらにもう 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません）。

ヘッドランプクリーナー装着車：
パワースイッチが ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

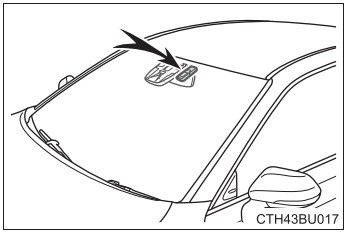
■車速による作動への影響

- 停車中は間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。
- 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー★

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

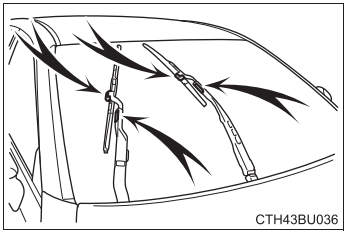


●パワースイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－ 15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。



■ドア開連動ワイパー停止機能

AUTO 選択中、シフトレバーが P の位置にある状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したときは

ハイブリッドシステムを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にパワースイッチを ON モードにすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**ワイパーアームを立てるとき**

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。（→ P. 265）
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

■**雨滴感知センサー**

フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、オート作動が正常に作動しないことがあります。

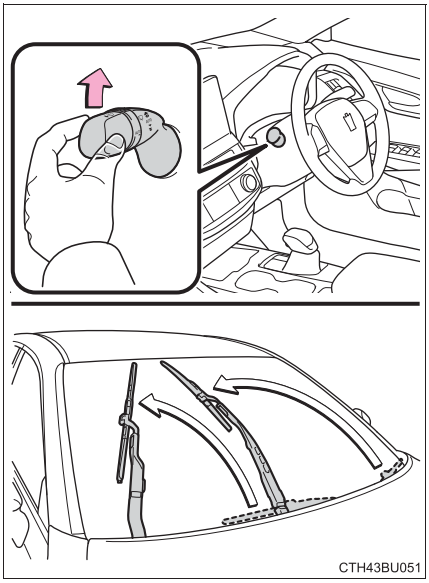
ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

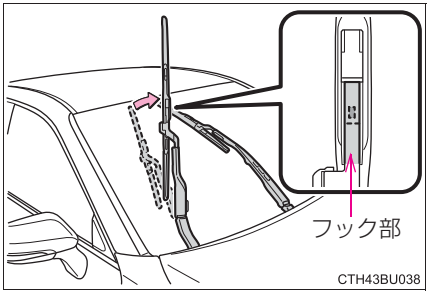
パワースイッチを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



知識

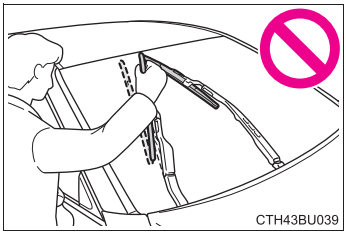
■ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON モードにし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。

注意

■ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるとき、ワイパーを立てないでください。この位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

▶A25A-FXS エンジン搭載車

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

▶8GR-FXS エンジン搭載車

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

●バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

●燃料をこぼさないでください。塗装が損傷するおそれがあります。

●他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。次のような状態になるおそれがあります。

・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
・ガソリンエンジンの出力が低下する
・ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
・排気制御システムが正常に機能しない
・燃料計部品が損傷する

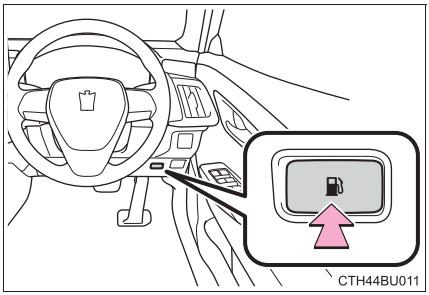
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

●8GR-FXS エンジン搭載車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。ただし、次のような状態になるおそれがあります。

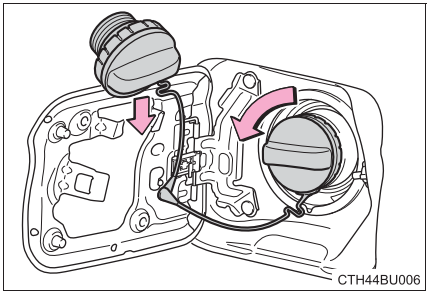
・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
・ガソリンエンジンの出力が低下する

給油口の開け方

1 給油口オープナーを押して、給油口を開ける



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

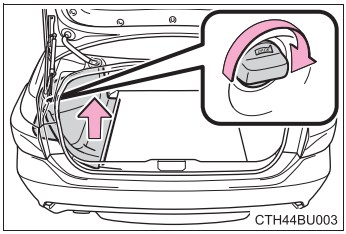


知識

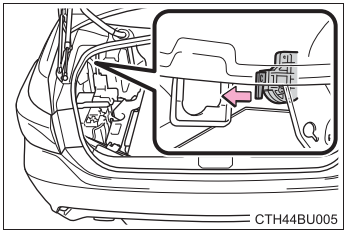
■給油口が開かないとき

給油口オープナースイッチを押しても給油口が開かないときは、以下の手順で給油口を開けることができます。

1 トランク内のカバーを取りはずす



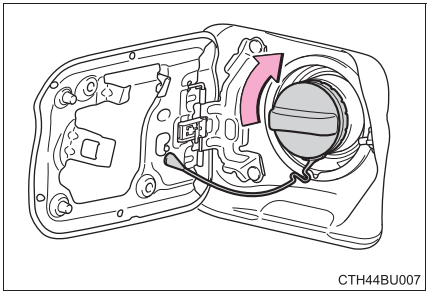
2 レバーを引く



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 277

◆ LTA（レーントレーシングアシスト）

→ P. 291

◆ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→ P. 249

◆ AHB（オートマチックハイビーム）★

→ P. 254

◆ RSA（ロードサインアシスト）

→ P. 303

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→ P. 308

◆ 先行車発進告知機能

→ P. 325

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

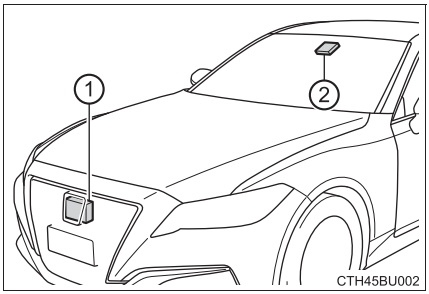
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ



警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

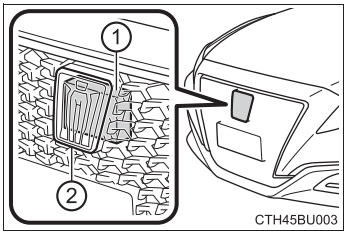
●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

警告

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
・フロントバンパーを交換したとき

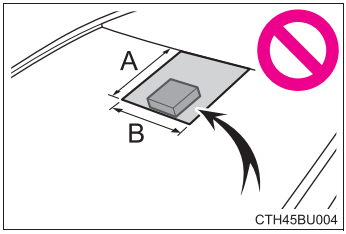
■**前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 436）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには： → P. 436）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
「プリクラッシュセーフティレーダー向き調整中 取扱書確認ください」が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には「プリクラッシュセーフティ現在使用できません 取扱書確認ください」が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 277）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 282）

システムの作動対象

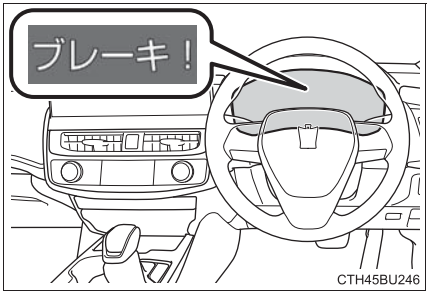
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

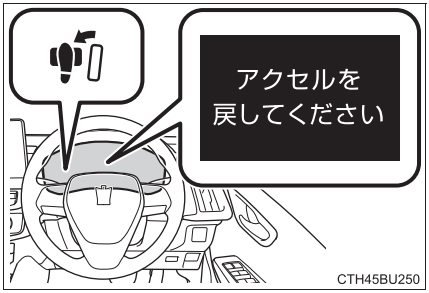
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

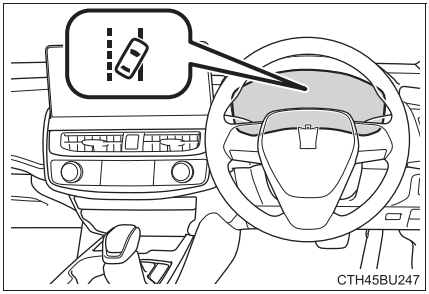
■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

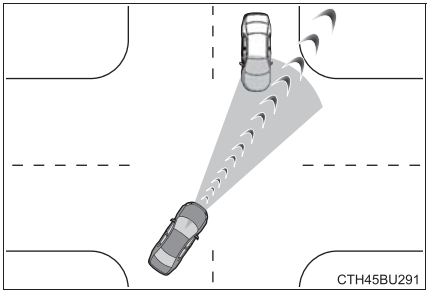


■ 交差点右左折支援

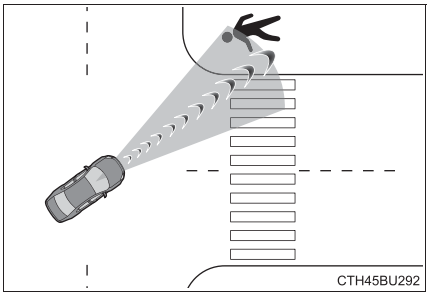
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→ P. 401）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 285
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 287

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

警告

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●けん引されるとき

●けん引するとき

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●タイヤの空気圧が適正でないとき

●著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

●メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

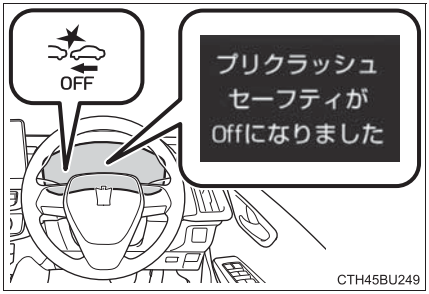
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→ P. 105）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→ P. 105）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

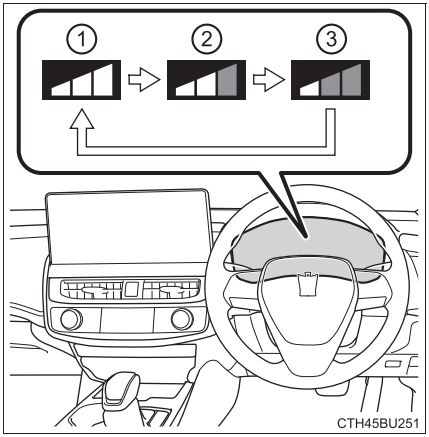
「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

・補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
・シフトレバーが R のとき
・VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む
・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・アクセルペダルを離す
・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む
・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
・ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

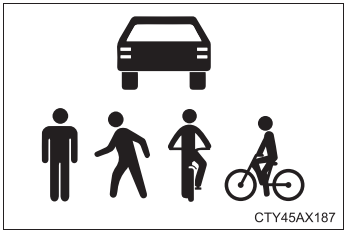
作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 287）

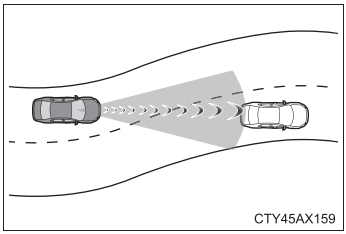
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



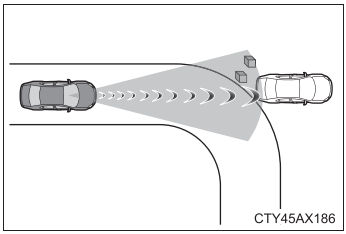
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

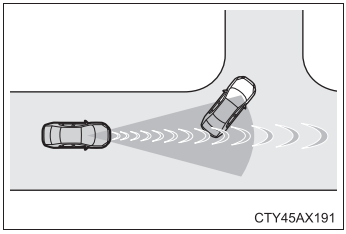


・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

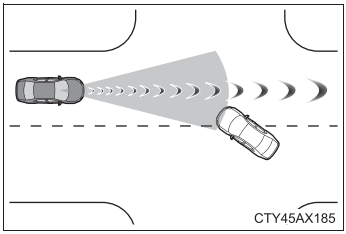


・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

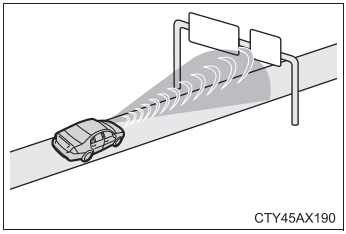
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



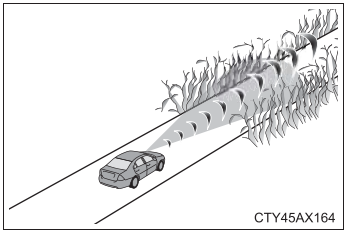
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

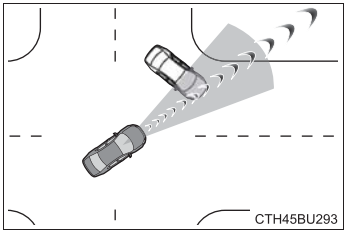


・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

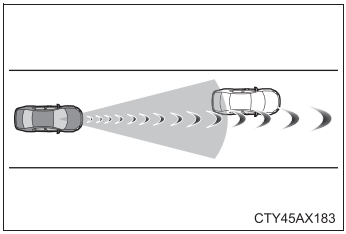


・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

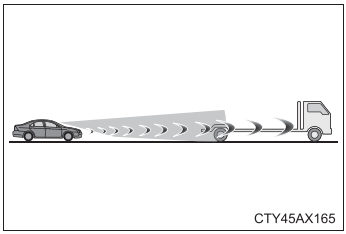
●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき

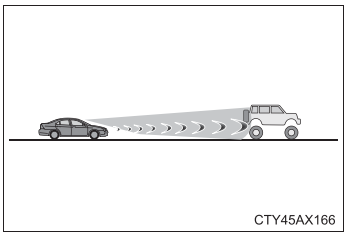


・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



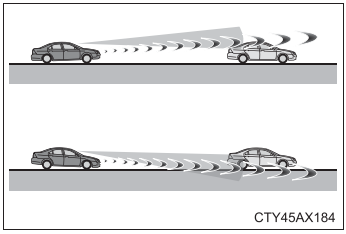
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間

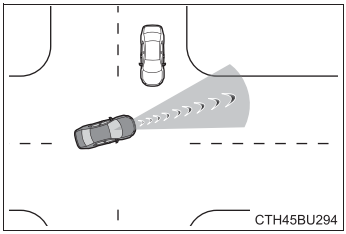
・自車が横すべりしているとき

・車両姿勢が変化しているとき

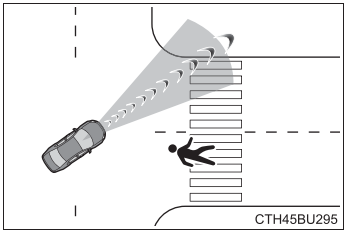


・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき

・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

・車線を区切る白 (黄) 線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど) とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき
・VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき .
・道路面に深いわだちがあるとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 404）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

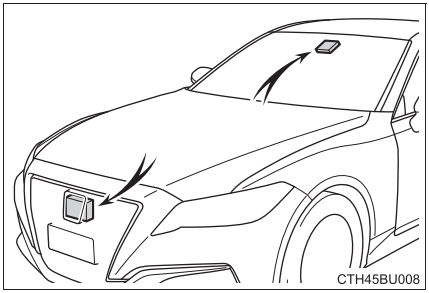
LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P. 308）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



⚠警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

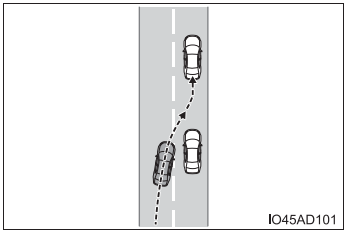
■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

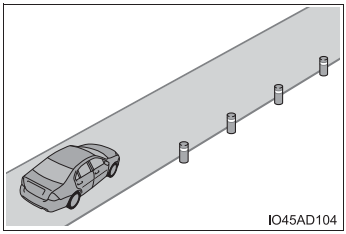
- 先行車追従表示中（→ P. 298）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



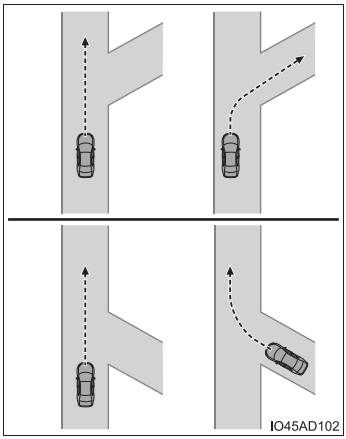
- 先行車追従表示中（→ P. 298）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 298）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 298）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき

警告

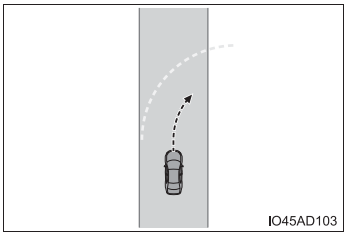
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

警告

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

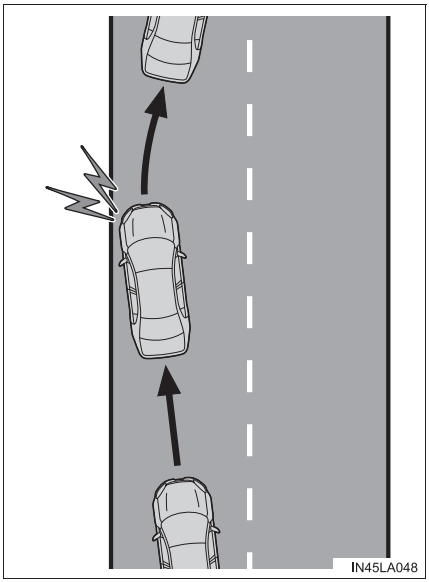
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

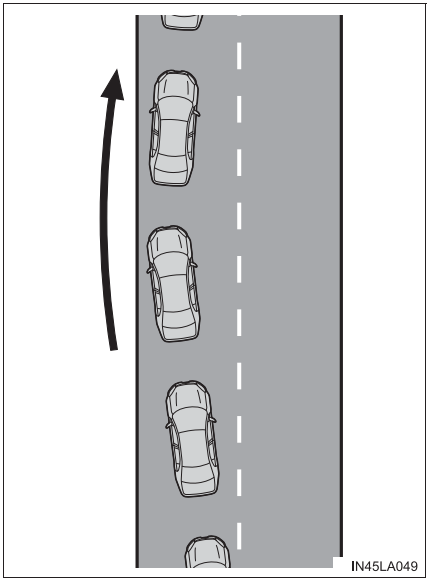


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

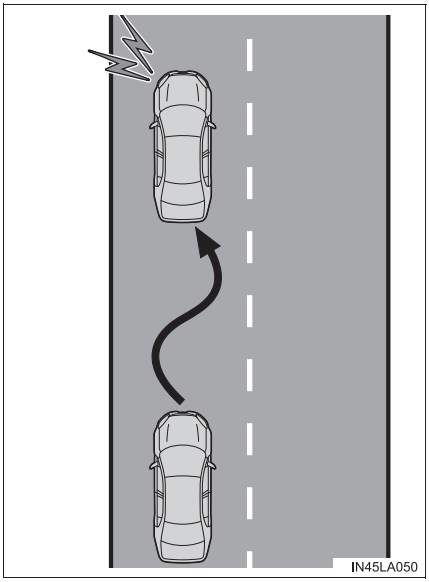
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

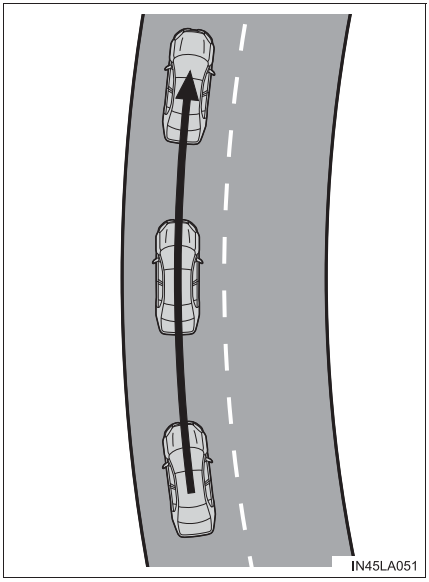


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



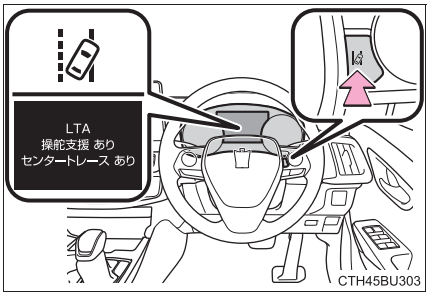
設定のしかた

■ 車線維持支援機能の ON/OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON/OFF が切りかわります。

現在の設定はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON にするには、再度スイッチを押します。

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、パワースイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

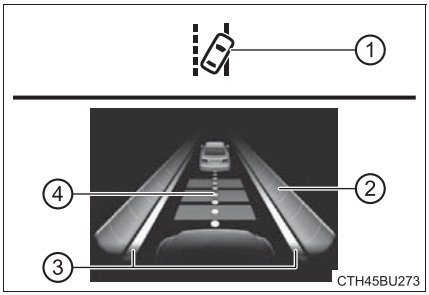
① LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中



② ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

④ 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 302）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で「ふらつき検知」を「ON」に設定しているとき（→ P. 97）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 302）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で「センタートレース制御」を「ON」に設定しているとき（→ P. 97）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 302）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 301）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→ P. 299）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→ P. 300）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

CTH45BU014

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

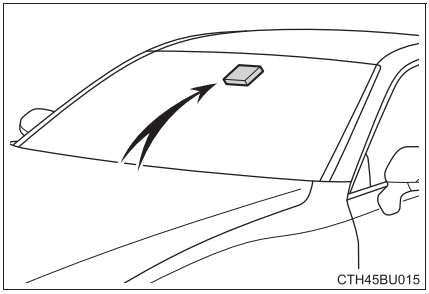
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(→ P. 105)

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

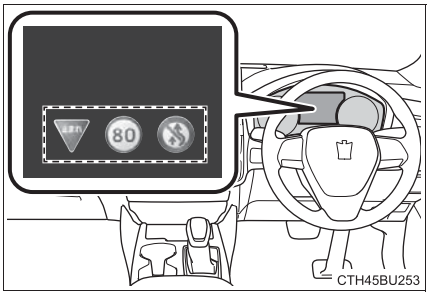
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

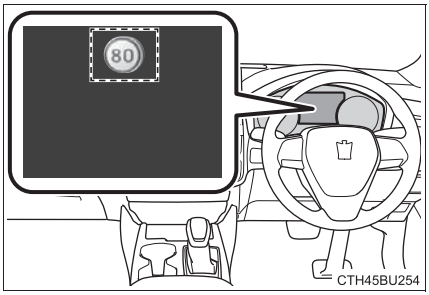
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援システム情報を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。（→P. 97）



● 運転支援システム情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。
・最高速度標識
・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

はみ出し通行禁止

車両進入禁止

※

終わり

一時停止

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→P. 105

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

●マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA　故障販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（→ P. 105）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 311）
- 定速制御モード（→ P. 317）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）（→ P. 318）

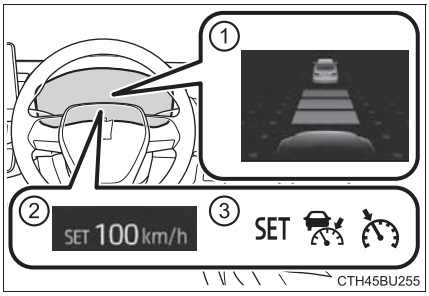
システムの構成部品

■ メーター表示

① マルチインフォメーションディスプレイ

② 設定速度

③ 表示灯



■ 操作スイッチ

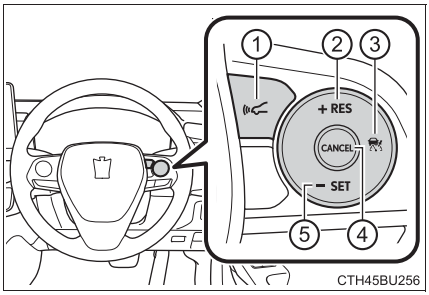
① 車間距離切りかえスイッチ

② “＋ RES” スイッチ

③ クルーズコントロールメインスイッチ

④ キャンセルスイッチ

⑤ “－ SET” スイッチ



警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→ P. 323
・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→ P. 324

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

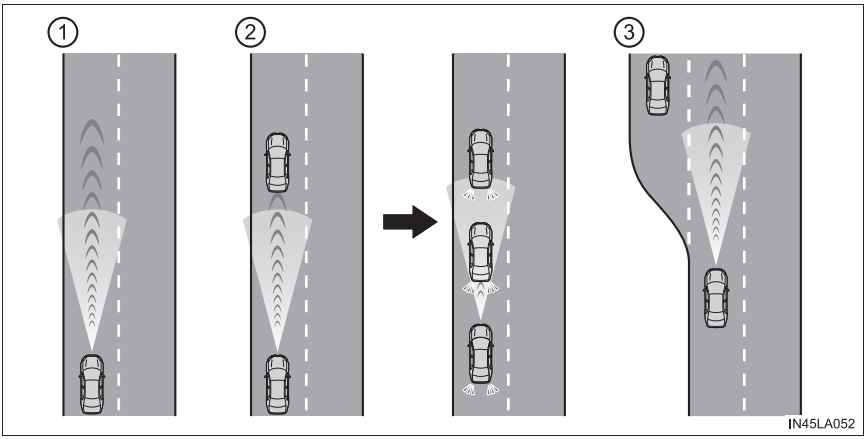
次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行一追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“＋RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

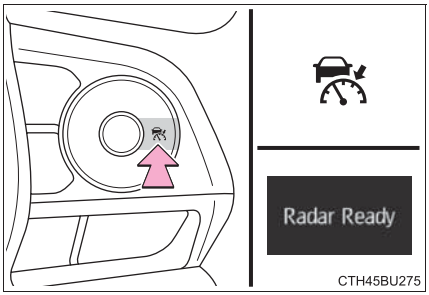
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

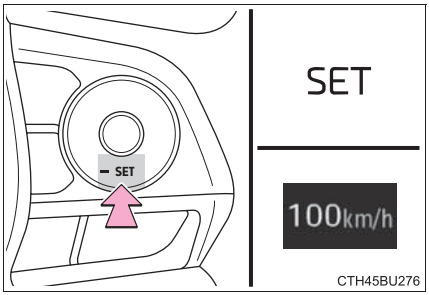
1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムをONにする



レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。
(→ P. 317)

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“－ SET” スイッチを押して速度を設定する



クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

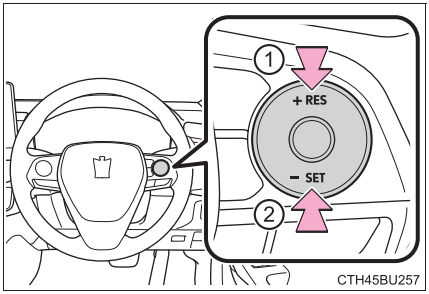
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “＋RES” スイッチまたは “－SET” スイッチを押します。

① 速度を上げる
（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 317）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “－SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

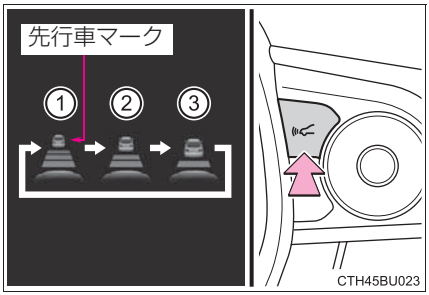
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

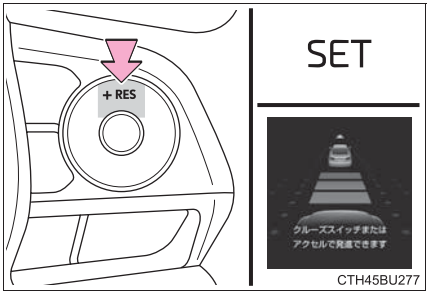
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“＋ RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

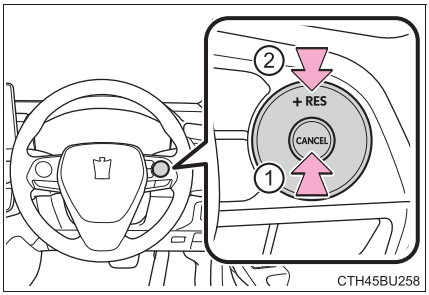


制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

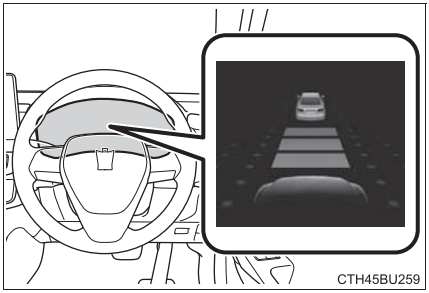
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

② 制御を復帰させるには、“＋ RES” スイッチを押す



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

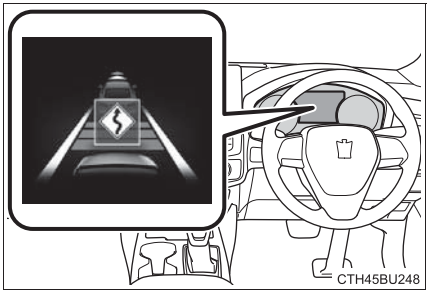
状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

■ システム作動時の表示

車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。



■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

カーブ速度抑制機能の車速抑制の強弱や、ON/OFF を切りかえることができます。

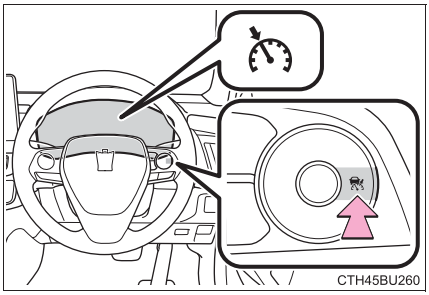
メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択し、< または > を押して “カーブ速度抑制” を選択し、OK を押す

OK を押すごとに設定が切りかわります。

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

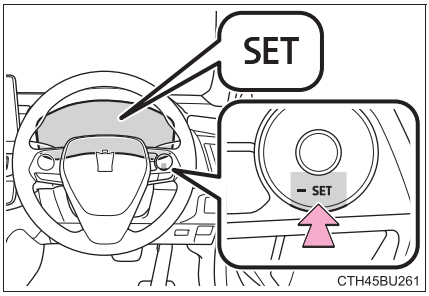
1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける



クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“－ SET” スイッチを押して速度を設定する



クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
（→ P. 313）

制御を解除する・復帰させる
（→ P. 315）

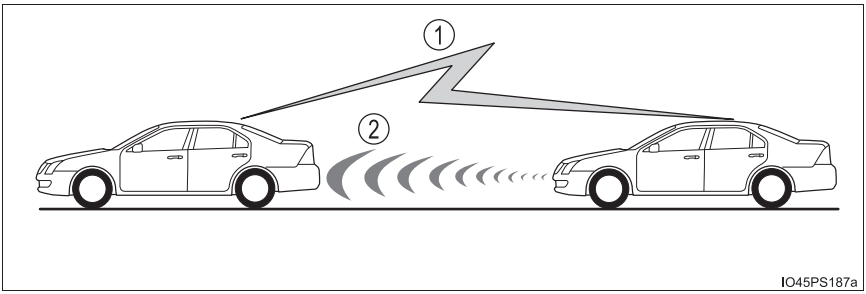
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P. 335 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



① 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

② レーダー

車間距離情報などを取得します。

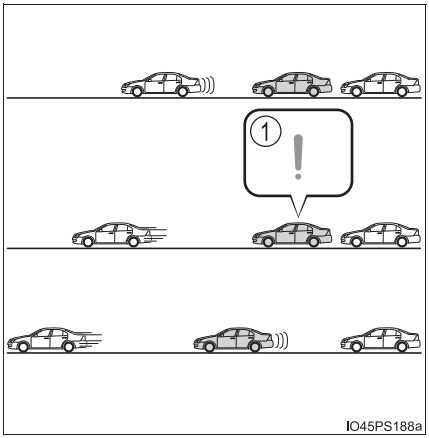
■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード

① 先行車の発進に遅れて気づく

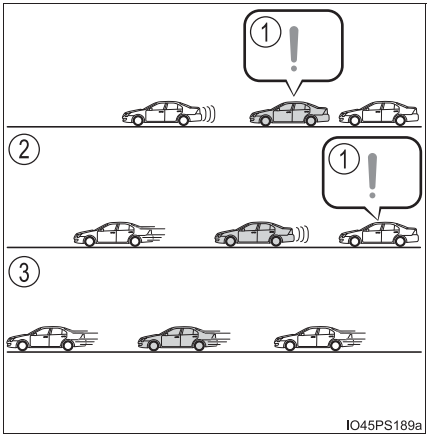


● 通信利用型レーダークルーズコントロール

① 先行車の発進に素早く気づく

② スムーズな加速で追従

③ 短時間で渋滞解消



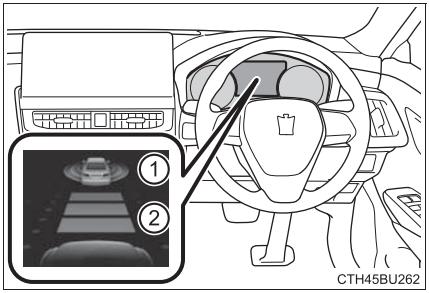
■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面（→ P. 105）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

① 先行車通信マーク

② 車間距離表示



■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。（→ P. 314）

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “＋RES” スイッチを押した場合、約３秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

●プラスサポート（販売店装着オプション）の急アクセル時加速抑制（→ P. 410）が作動したとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●プラスサポート（販売店装着オプション）の急アクセル時加速抑制（→ P. 410）が作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 275, 579）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

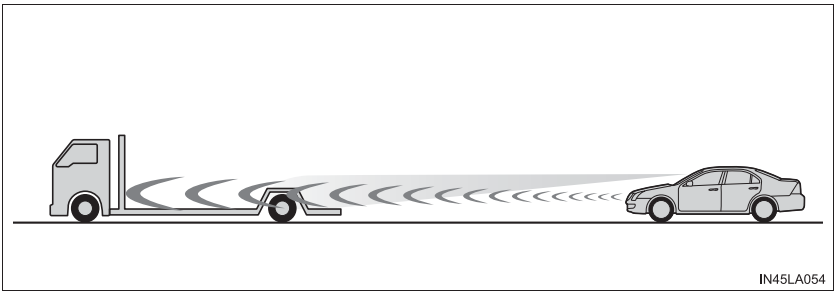
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 315）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

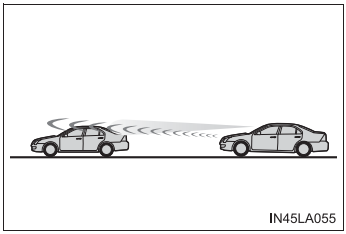
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



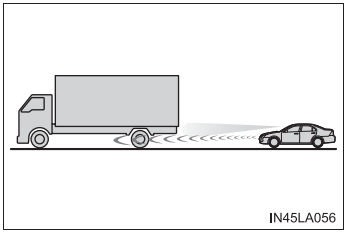
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



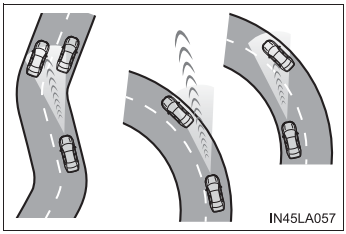
●先行車の車高が極端に高いとき



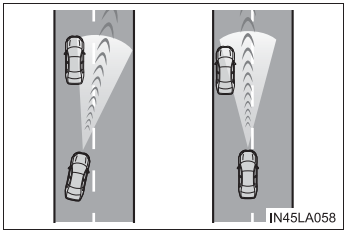
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

■カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

●上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

●カーブへの進入速度が過度に高いとき

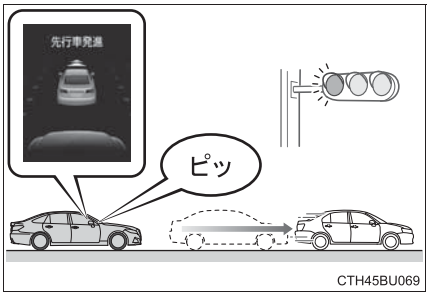
●急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- ●シフトレバーがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ●ブレーキホールドが作動中のとき
- ●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- ●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車がオートバイ・自転車などのとき
- ●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- ●悪天候（雨･霧･雪･砂嵐など）･煙･水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- ●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- ●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- ●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON/OFF

システムの ON/OFF を切りかえることができます。（→ P. 105）

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 105）

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

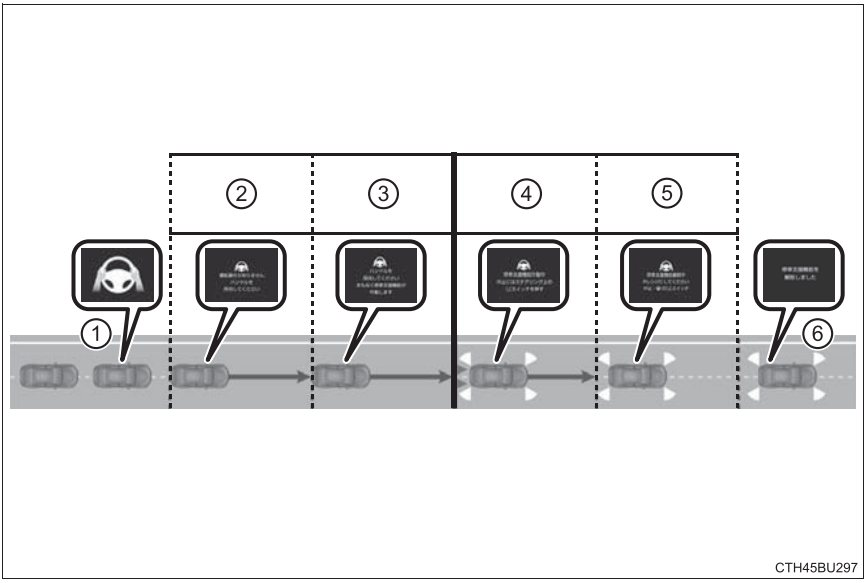
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット ※ 自動接続による運転者の救命要請も行います。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。②「警告 1 状態」、③「警告 2 状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常 / 異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には④「減速停止制御」、⑤「停止保持」で自車を減速、停車させ、⑤「停止保持」を継続します。



① 手放し運転警告 （→ P. 301）

②「警告 1 状態」

③「警告 2 状態」

④「減速停止制御」

⑤「停止保持」

⑥ 制御解除

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA スイッチを ON し、LTA 制御中

●レーダークルーズコントロールメインスイッチをONし、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中

●自車速が約 50km/h 以上

■システムの作動解除条件

●②「警告 1 状態」、③「警告 2 状態」、④「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
・手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
・運転者がブレーキ操作をしたとき
・運転者がアクセル操作をしたとき
・ブレーキ異常検出時
・方向指示レバーを操作したとき

●⑤「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
・パワースイッチを ON モードから OFF にしたとき
・ブレーキ異常検出時

CTH45BU304

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。

LTAを再度使用する場合は、LTAスイッチを押しLTA制御をONにしてください。

●②「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき

●③「警告 2 状態」、④「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）

●手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（③「警告 2 状態」および④「減速停止制御」のみ）

●運転者がブレーキ操作をしたとき

●運転者がアクセル操作をしたとき

●方向指示レバーを操作したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。（→ P. 302）

■ドライバー異常時対応システムの留意事項

●ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。

●LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

②「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴（「ピッ、ピッ、・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、③「警告 2 状態」に移行します。

CTH45BU299

③「警告 2 状態」

ブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート（消音）※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内（約 40km/h ～ 50km/h の間）まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、④「減速停止制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。

CTH45BU300

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

③「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

④「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピーーー」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車すると⑤「停止保持」に移行します。

CTH45BU301

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

④「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを２回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

⑤「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。

CTH45BU302

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

⑤「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

ヘルプネット通話中は音声が聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）

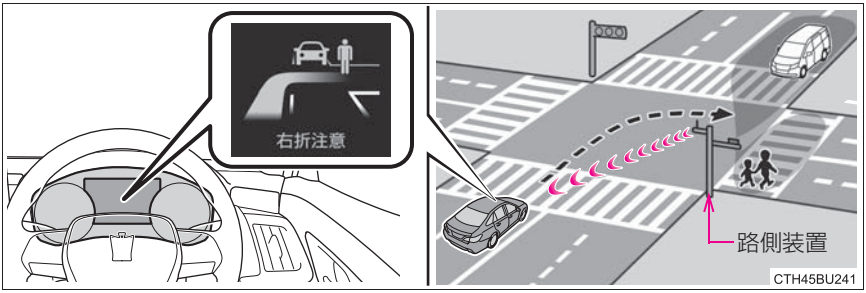
システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯します。

ITS Connect★

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

◆ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起



ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

◆ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P. 318 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→ P. 345）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

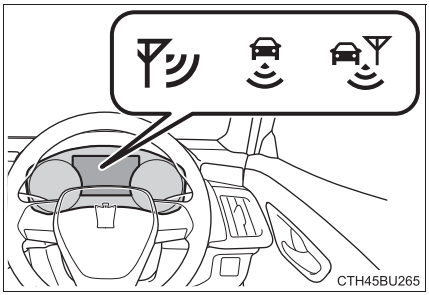
DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→ P. 338）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、一時停止注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

CTH45BU167

▶ 対向車のみを感知する交差点

CTH45BU168

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

CTH45BU168

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

CTH45BU175

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

CTH45BU169

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

CTH45BU170

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

CTH45BU171

■ 一時停止注意喚起※（ETC2.0 ユニット装着車）

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

CTH45BU172

■ 前方停止車両存在案内※（ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

CTH45BU173

■ わき道車両存在案内※（ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

CTH45BU174

※ 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ナビゲーション／地図の基本操作／ DSSS（Driving Safety Support Systems）運転支援機能について」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

CTH45BU176

■ 通信車両接近通知の使い方

- 割込表示の通信車両接近通知を ON にしているときに、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示でお知らせします。
- 通信車両接近通知の表示設定方法については、マルチインフォメーションディスプレイの 表示設定（→ P. 115）をご覧ください。

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から「ITS Connect」または「クルーズ（ITS）」を選択することで、次の機能の設定を変更することができます。（→ P. 105）

設定項目		設定内容
ITS Connect	信号情報	次の機能の ON/OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 赤信号注意喚起 ・ 信号待ち発進準備案内
	道路環境情報	次の機能の ON/OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 一時停止注意喚起 ※2 ・ 右折時注意喚起 ・ 出会い頭注意喚起 ・ 前方停止車両存在案内 ※2 ・ わき道車両存在案内 ※2
	緊急車両通知	緊急車両存在通知の ON/OFF の切りかえ （初期設定：ON）
	通知感度	次の機能の通知感度（高い／低い）の切りかえ ※3, 4 （初期設定：高い） ・ 赤信号注意喚起 ・ 一時停止注意喚起 ※2 ・ 右折時注意喚起 ・ 出会い頭注意喚起
クルーズ（ITS）		通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF の切りかえ （初期設定：ON）

※1「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON/OFF することはできません。

※2 ETC2.0 ユニット装着車

※3「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

※4 各機能の通知タイミングを個別に変更することはできません。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

■ITS Connect 機器に関する情報

●本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1010
型式認定番号：10005

●本システムは周波数760MHzの電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や道路上の通信設備の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

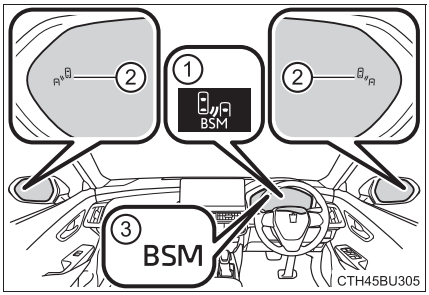
■ITS Connect 機器取り扱いの注意

●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にあるレーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。



① マルチインフォメーションディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

② ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

③ BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえるには

1 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して BSM を選択する

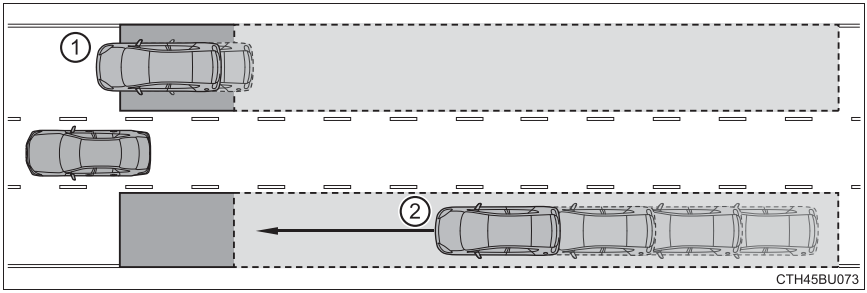
3 メーター操作スイッチの OK を押す

OK を押すたびに ON/OFF が切りかわります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターはレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

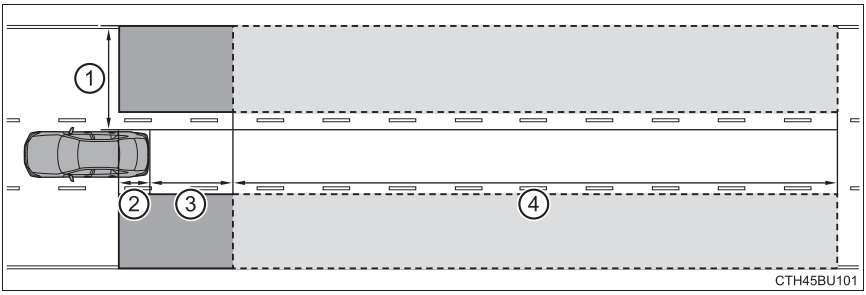


① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

② リヤバンパーから約 1m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●ブラインドスポットモニターが ON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知することがあります。

■ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたとき

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます(→ P. 354)。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 105)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

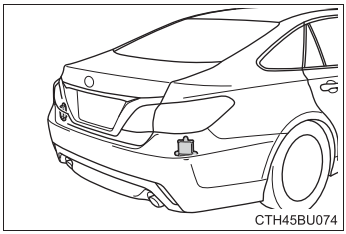
ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。(→ P. 353) その場合、汚れや雪を落とした後、ブラインドスポットモニターの作動条件でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください。

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSC077

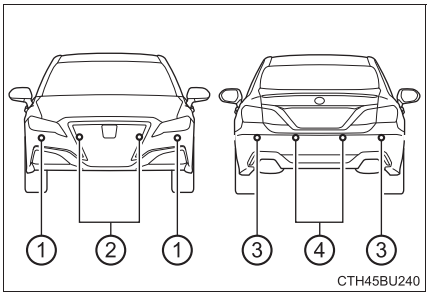
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★およびナビゲーション画面★の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ リヤセンターセンサー



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★、またはナビゲーション画面★に表示されます。

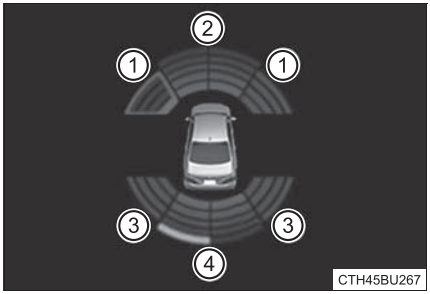
● マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★の表示

① フロントコーナーセンサー作動表示

② フロントセンターセンサー作動表示

③ リヤコーナーセンサー作動表示

④ リヤセンターセンサー作動表示

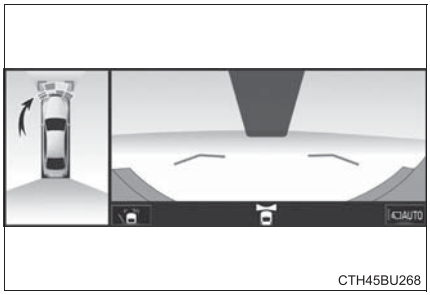


CTH45BU267

● ナビゲーション画面★の表示

作動対象を検知するとナビゲーション画面上に自動表示されます。

例：パノラミックビューモニター装着車



CTH45BU268

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。(→ P. 105)

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押して P/⚠を選択し、OKを押す

クリアランスソナーが OFF の時は、マルチインフォメーションディスプレイ上にクリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 89）が表示されます。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙から P/⚠を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにしても、復帰しません）。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりぜずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

警告

■洗車時の注意

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

●パワースイッチが ON モードのとき

●クリアランスソナーが ON のとき

●車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●シフトレバーが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

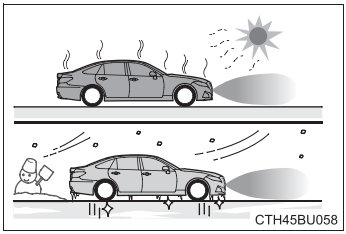
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき (ノーズアップ･ノーズダウンなど)

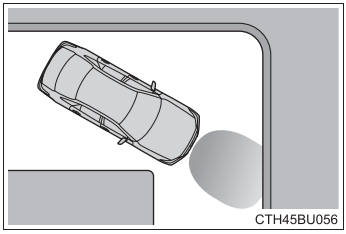
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

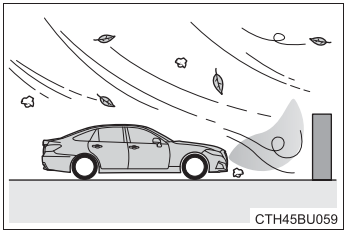
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

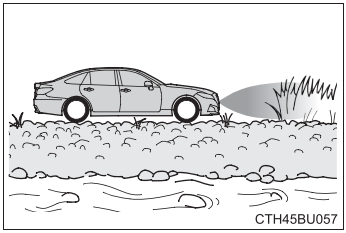
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱 (H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

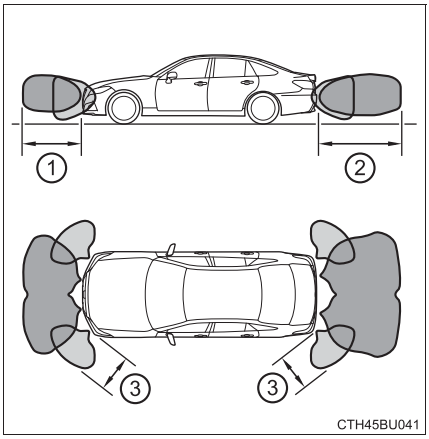
① 約 100cm

② 約 150cm

③ 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面★、またはヘッドアップディスプレイ★の作動表示が点灯（一部、バーや枠が点滅）します。イラストは例であり、表示により異なります。ナビゲーション画面はパノラミックビューモニター装着車を例としています。

● 静止物までのおおよその距離：約 150cm～65cm※（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面★	ヘッドアップディスプレイ★

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 365）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 静止物までのおおよその距離：約 100cm ～ 65cm※（フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面★	ヘッドアップディスプレイ★

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 365）

● 静止物までのおおよその距離：約 65cm ～ 45cm※

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面★	ヘッドアップディスプレイ★

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 365）

● 静止物までのおおよその距離：約 45cm ～ 30cm※

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面★	ヘッドアップディスプレイ★

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 365）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 静止物までのおおよその距離：約 30cm ～ 15cm※1

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	ナビゲーション画面★ ※3	ヘッドアップディスプレイ★

※1 自動ミュート機能あり（→ P. 365）

※2 点灯および枠が遅い点滅

※3 点灯およびバーとその周辺が遅い点滅

● 静止物までのおおよその距離：約 15cm 以下 ※1

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	ナビゲーション画面★ ※3	ヘッドアップディスプレイ★

※1 自動ミュート機能あり（→ P. 365）

※2 点灯および枠が早い点滅

※3 点灯およびバーとその周辺が早い点滅

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます（自動ミュート機能）。

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。
（RCD のブザー音も同様に切りかわります）

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 99）

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押して P/⚠ を選択し、OK を押し続ける

3 ∧または∨を押して音量を選択し、OK を押す

押すごとに大・中・小の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

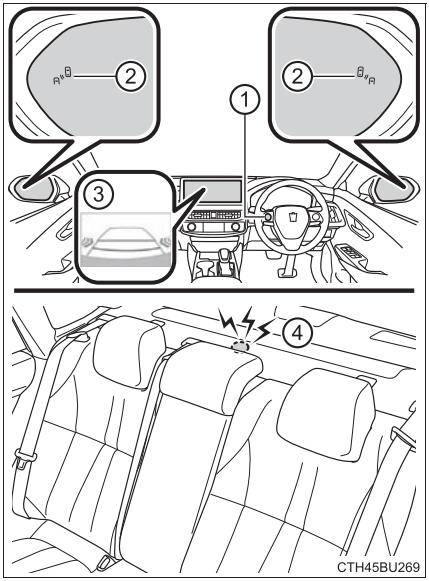
作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。
一時ミュート（消音）が解除されるとき：
・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・パワースイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターのレーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

システムの構成部品



① メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA の ON/OFF を切りかえます。

② ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ ナビゲーション画面★

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 367）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

④ RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。(→ P. 105)

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

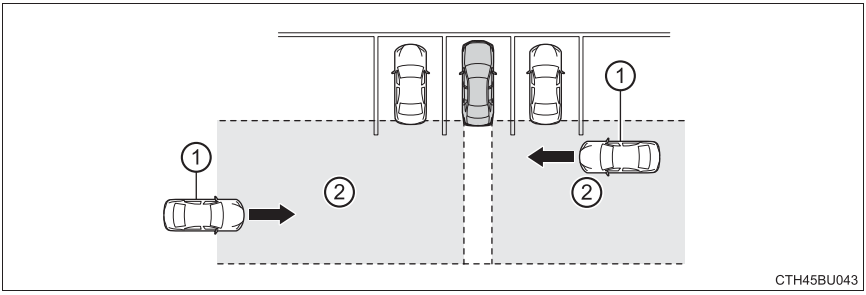
2 〈または〉を押してRCTAを選択し、OKを押す

RCTA が OFF のときは、RCTA OFF 表示灯（→ P. 89）が点灯します。パワースイッチが ON モードになるたび、RCTA は ON になります。

RCTA について

■ RCTA の作動

RCTA はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



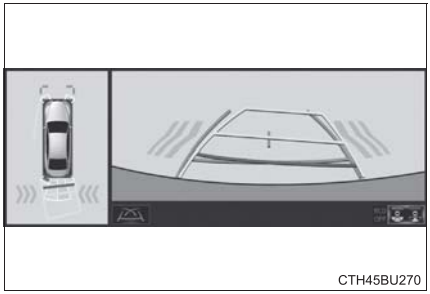
① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

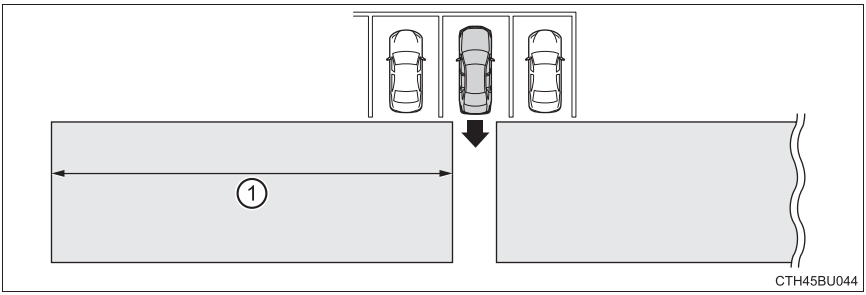
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき（パノラミックビューモニター装着車）



■ RCTA で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
早い	28km/h	20m
遅い	8km/h	5.5m

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「RCTA 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ レーダーセンサーについて

→ P. 354

■RCTA の作動条件

RCTA は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON モードのとき

●RCTA が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 8km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

■ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

RCTA、クリアランスソナーのブザー音を一括で調整します。
（RCD のブザー音も同様に切りかわります）

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 99）

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押してRCTAを選択し、OKを押し続ける

3 ∧または∨を押して音量を選択し、OKを押す

押すごとに大・中・小の間で音量が切りかわります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OKを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・パワースイッチを OFF にしたとき

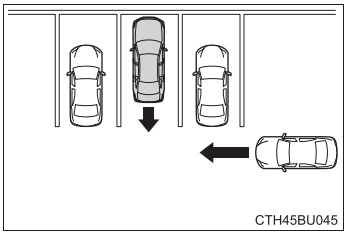
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

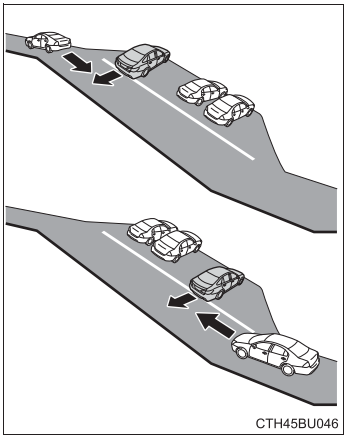
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

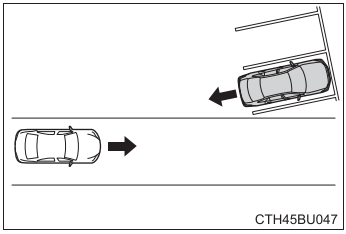
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき


CTH45BU046

●斜めの駐車場から出庫するとき


CTH45BU047

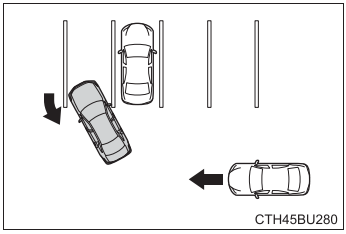
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

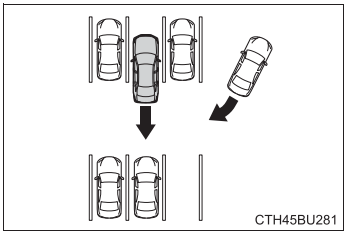
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき


CTH45BU280

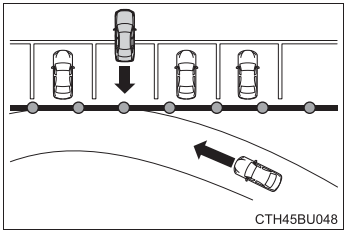
●旋回しながら車両が近づいてきたとき


CTH45BU281

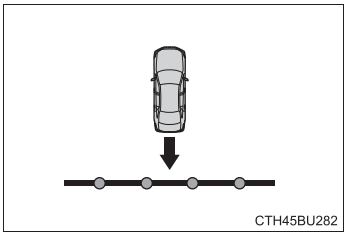
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

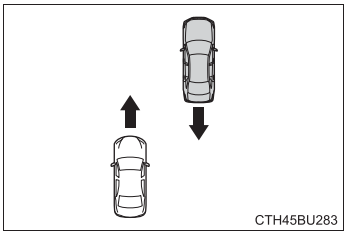

CTH45BU048

●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

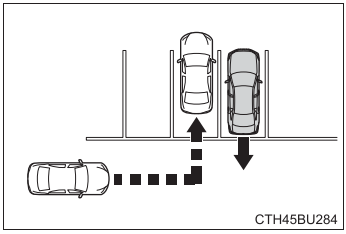

CTH45BU282

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき


CTH45BU283

●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→ P. 353）

■システムを正しく作動させるために

→ P. 354

RCD（リヤカメラディテクション）★

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとナビゲーション画面上の表示により注意喚起を行います。

ナビゲーション画面

① 歩行者検知表示

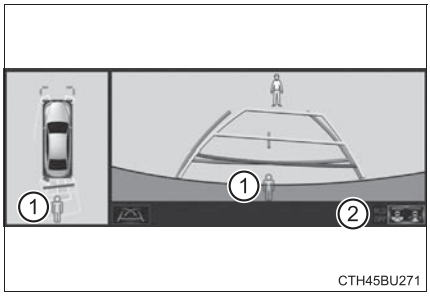
車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

② RCD OFF 表示灯

RCD が OFF の時は、RCD OFF 表示灯が表示されます。

パワースイッチが ON モードになるたび、RCD は ON になります。

例：パノラミックビューモニター装着車



システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→ P. 105）

1 ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 〈 または 〉 を押して RCD を選択し、OK を押す

RCD が OFF のときは、メーター上に RCD OFF 表示灯（→ P. 89）が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとナビゲーション画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。

① 歩行者が①エリアにいる場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

② 歩行者が②エリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

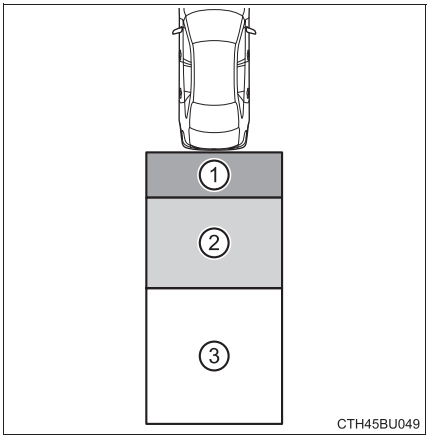
ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

③ ③エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能性があるとシステムが判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯



知識

■作動条件

●パワースイッチが ON モードのとき

●RCD が ON のとき

●シフトポジションが R にあるとき

■ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からブザー音量を変更することができます。（→ P. 369）
RCD のブザー音は RCTA のブザー音と連動します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「リヤカメラ検知現在使用できません レンズの汚れを除去してください」が表示されたときは

リヤカメラのレンズに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。リヤカメラのレンズの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。場合によっては、汚れを取り除いた後も、復帰までに一定距離の走行を必要とすることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「リヤカメラ検知　現在使用できません」が表示されたときは

●補機バッテリー脱着後などに表示された時は、ハンドルを左右いっぱいに回してください。

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラのレンズに汚れが付着している可能性があります。汚れを取り除いてください。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような人はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・グレーチングや側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●検知を妨げる状況

・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

警告

■**安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■**システムを正しく作動させるために**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- トランクやバックドアを完全に閉めてください。

■**RCD の機能を OFF にするとき**

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）があります。

◆ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→ P. 387

◆ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→ P. 391

◆ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

→ P. 394

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を一括でON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→ P. 105）

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押して🚗を選択し、OKを押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→ P. 89）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙から🚗を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません（パワースイッチの操作では復帰しません）。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、ナビゲーション画面★、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

ナビゲーション画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「加速抑制中です」

ヘッドアップディスプレイ表示：表示なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴あり

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

ナビゲーション画面表示：「ブレーキ！」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

ヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

ナビゲーション画面表示：「ブレーキ！」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

ヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

ナビゲーション画面表示：「ブレーキを踏んでください」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください」
アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。

ヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキを踏み直してください」
アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏み続けてください」が表示されます。

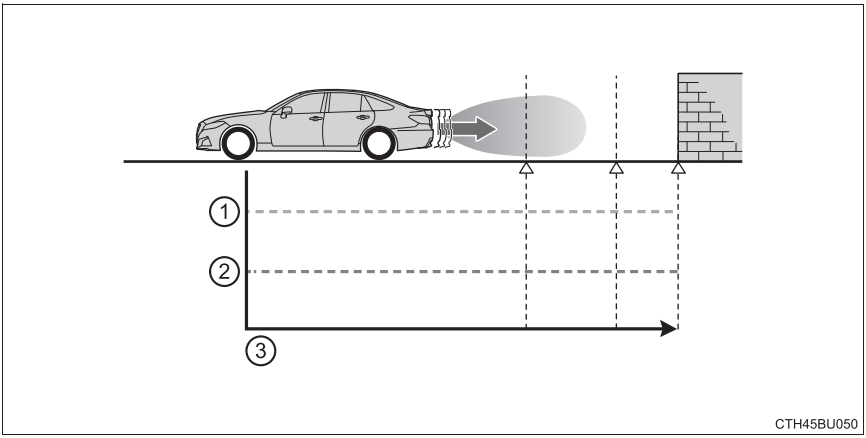
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）。また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます（ブレーキ制御：図 3）。

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

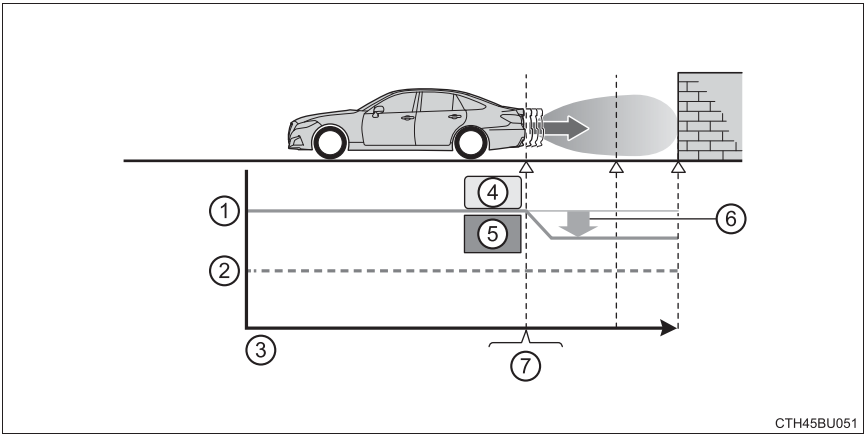


① ハイブリッドシステム出力

② 制動力

③ 時間

● 図２（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



①ハイブリッドシステム出力

②制動力

③時間

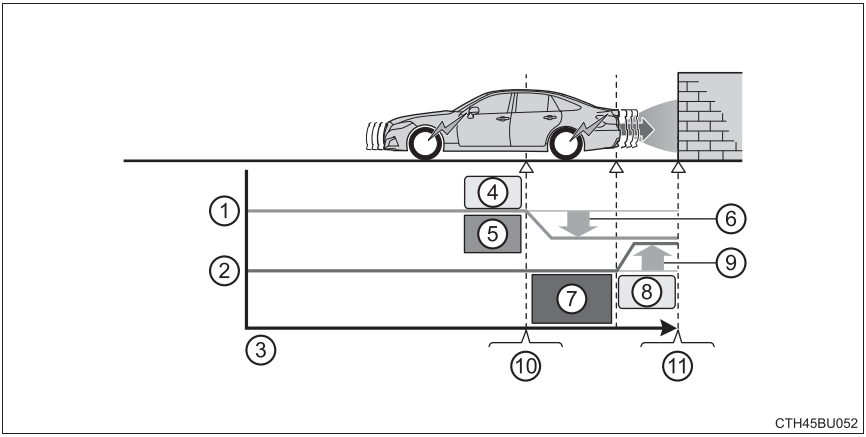
④ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

⑤作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥ハイブリッドシステム出力を抑える

⑦例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

● 図３（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



① ハイブリッドシステム出力

② 制動力

③ 時間

④ ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥ ハイブリッドシステム出力を抑える

⑦ 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

⑧ ブレーキ制御開始

⑨ ブレーキ制御を上げる

⑩ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

⑪ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください」

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。このとき、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→ P. 89）

- PKSB システムを ON（作動）にする（→ P. 379）
- パワースイッチを OFF にしてから、ON モードにする
- シフトレバーを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

- シフトレバーがRにあるときのみ表示される場合は、リヤカメラの汚れを取り除いてください。シフトレバーが R にあるとき以外にも表示される場合は、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。
- 補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」と「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯しているときは

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。 この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。また、車両停止状態でハンドルを左右いっぱいに回してください。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。
センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

●故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

警告

■**パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意

■**マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは**

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、カメラレンズの汚れを取り除いてください。

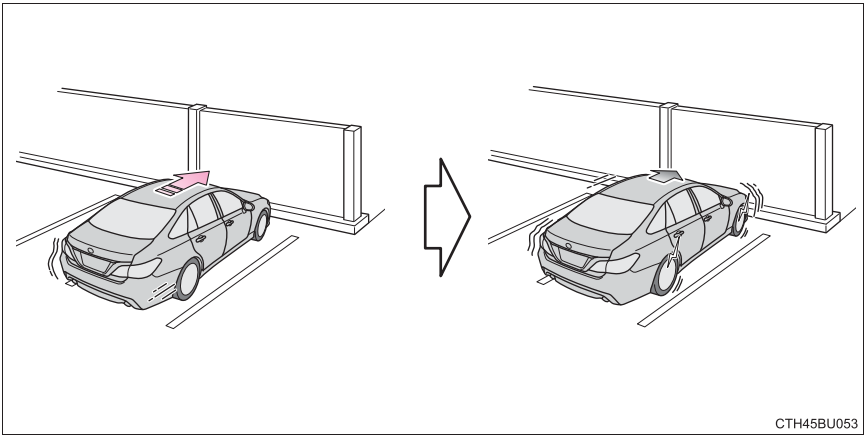
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

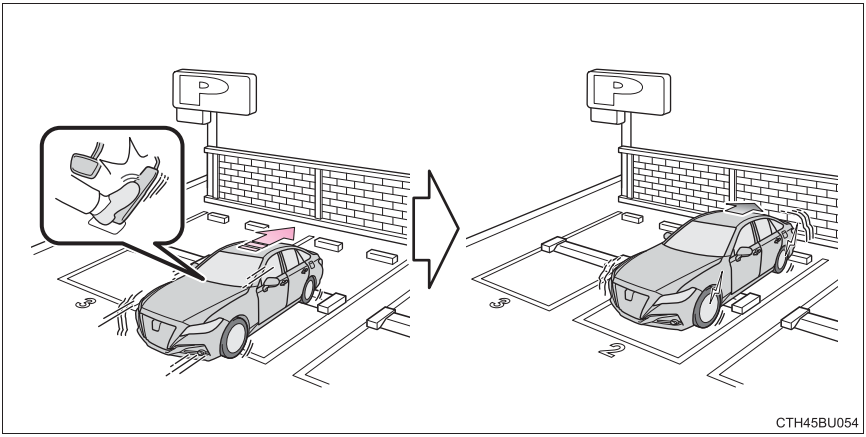
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

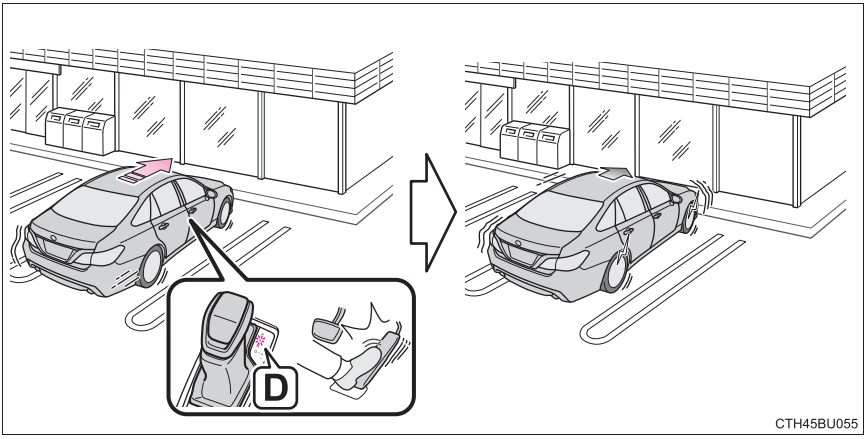
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 355

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 87,89）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の復帰について

→ P. 384

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 362）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

→ P. 359

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→ P. 357）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→ P. 379）、前側センサーまたは後側センサーが作動対象を検知してブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 359

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 360

警告

■システムを正しく作動させるために

→ P. 357

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→ P. 384

■洗車時の注意

→ P. 358

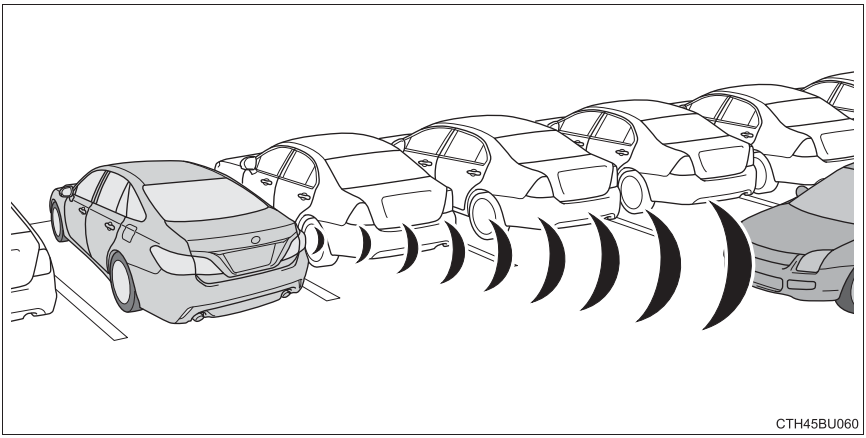
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→ P. 354

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 87, 89）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が 8km/h 以上
・シフトポジションが R のとき
・接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の復帰について

→ P. 384

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→ P. 368）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが検知しない車両について

→ P. 370

■RCTA のブザーについて

RCTA の ON/OFF に関係なく（→ P. 367）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→ P. 379）、ブレーキ制御が作動すると、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 371

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 372

警告

■システムを正しく作動させるために

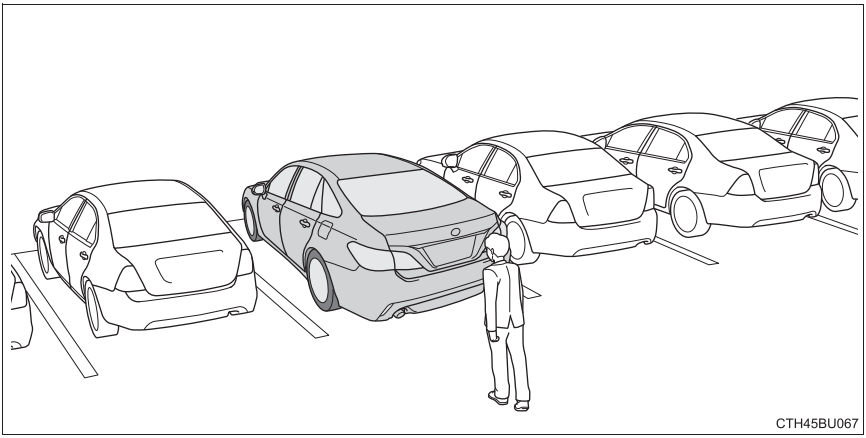
→ P. 354

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



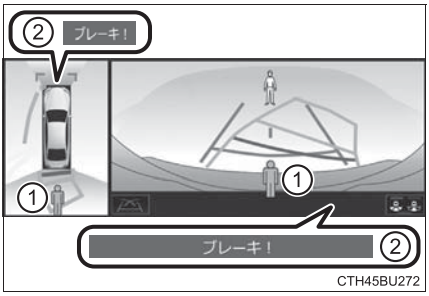
ナビゲーション画面

車両後方の歩行者を検知すると自動的に表示され、回避操作を促します。マルチインフォメーションディスプレイにも同様に表示されます。

① 歩行者検知表示

② ブレーキ表示

例：パノラミックビューモニター装着車



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 87, 89）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・システムが自車後方の歩行者を検知し、衝突する可能性があるとシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→ P. 384

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→ P. 375）とは異なります。そのため、RCD が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→ P. 376

■システムが作動するおそれがあるとき

→ P. 377

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください（ブレーキを踏むとシステムは解除されます）。

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→ P. 378

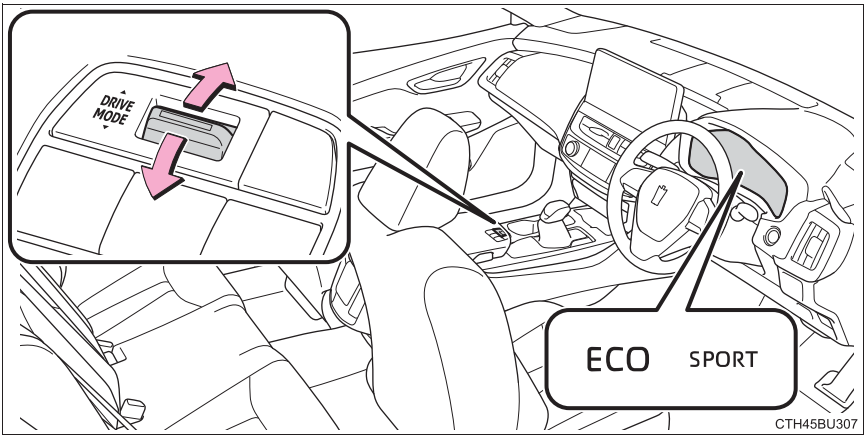
ドライブモードセレクト

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードの選択

ドライブモードセレクトスイッチを前後に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からドライブモードを選択します。

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



● ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

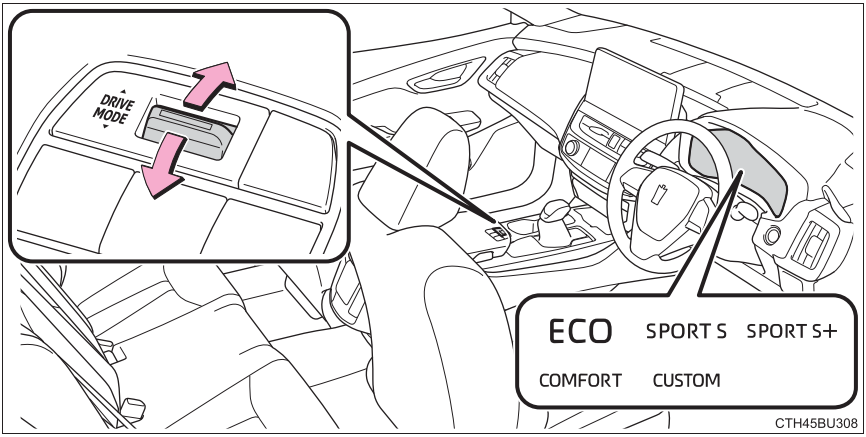
● エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

● スポーツモード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



● ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

● エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

● スポーツモード

・スポーツ S モード
ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。

・スポーツ S+ モード
ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

● コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

● カスタムモード

以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードはナビゲーションシステムの操作で設定します。（→ P. 645）

機能	設定
パワートレーン制御	Power
	Normal
	Eco
シャシー制御	Sport
	Normal
	Comfort
エアコン作動	Normal
	Eco

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整、エコ空調モードまたはエコドライブモードの解除をしてください。（→ P. 424）

■スポーツモード／スポーツ S モード／スポーツ S ＋モード／カスタムモードの自動解除

スポーツモード／スポーツ S モード／スポーツ S ＋モード／カスタムモードは、パワースイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★

車速やハンドルの動きに合わせて、フロントホイールが切れる角度を調整します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。
また、ドライブモードセレクトでスポーツ S ＋モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。
（→ P. 397）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS★を総合的に制御します。
VGRS 非装着車：
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力・ハンドル操作力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。
VGRS 装着車：
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ 後方車両への接近警報★

同じ車線を走行する後方車両をレーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。

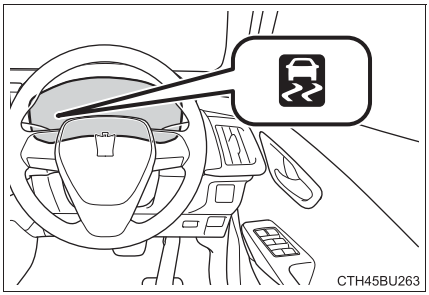
◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

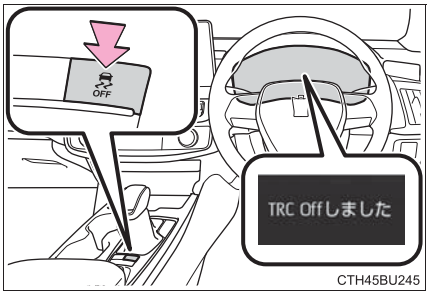
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに [OFF] を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するには [OFF] を押す

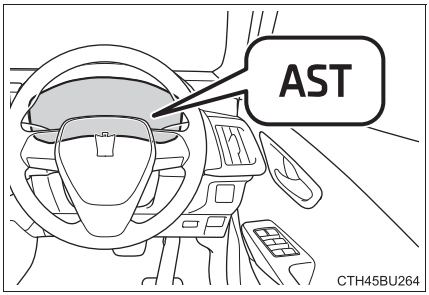
マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。



VDIM かつ VGRS ★が作動しているとき（AST 表示灯装着車）

VDIM が VGRS を制御しているときは、AST 表示灯が点滅します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [VSC OFF] を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 [VSC OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 290）

■ [VSC OFF] を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- ●車両停止状態
- ●アクセルペダルを踏んでいない
- ●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●シフトレバーを P または N の位置にした
- ●アクセルペダルを踏んだ
- ●パーキングブレーキをかけた
- ●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■VGRS ★の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

- ●停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ●ハンドルをいっぱいに切った状態で、長く力をかけ続けたとき
  これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで自動的に修正されます。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS★の作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■EPS・VGRS★モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

車速が約 10km/h 以上で、SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき（車速が約 10km/h 未満では作動しません）

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にセカンダリーコリジョンブレーキが解除されます。

●車速が約 10km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■NAVI・AI-AVS★の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「FHL 現在使用できません」が表示されたときは

後方車両への接近警報が一時的に使用不可と判断されています。
この場合、センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→ P. 354）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 643）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

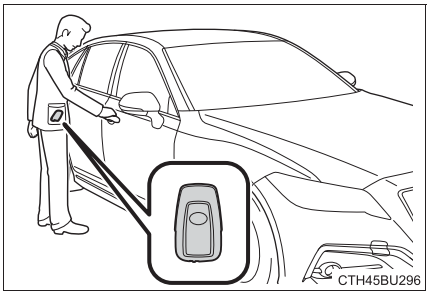
プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート電子キー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

ナビゲーション画面

■ プラスサポートを始動するには

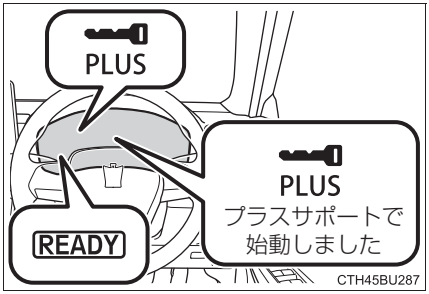
1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→ P. 142）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→ P. 219）

3 READY インジケーターが点灯し、「プラスサポートで始動しました」というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する



4 メーター操作スイッチの ⮌ を押してメッセージを非表示にする

⮌ を押すまで、「プラスサポートで始動しました」のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

警告

■プラスサポートを正しく使用するために

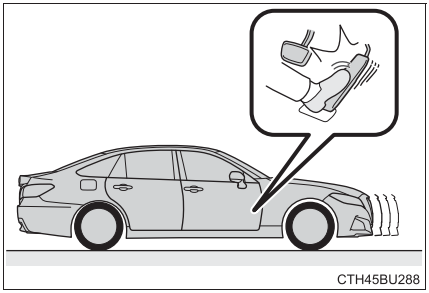
●必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。

●サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

●ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→ P. 89）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。


CTH45BU288

警告

■**安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**急アクセル時加速抑制が作動したとき**

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

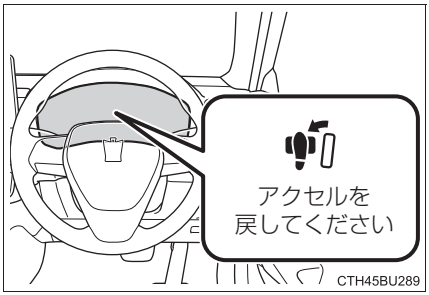
■**右左折・車線変更するとき**

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間
- 急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響

・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 397）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 95）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときはシフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON/OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 523）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、必ず輪止め[※1]をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをＰに入れた状態でシフトレバーが動かないこと[※2]を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでＰからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- うしろ２輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するときは（タイヤ空気圧警報システム装着車）

トヨタ販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します（タイヤについての詳しい説明は P. 523 を参照してください）。

■タイヤチェーンの装着（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ワイパーアームを立てるとき

ワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→P. 265）
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方

トヨタマルチ
オペレーションタッチ 422

フロントエアコン 424

リヤエアコン 443

ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーション 448

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 455

・インテリアランプ 456

・パーソナルランプ 457

5-3. 収納装備

収納装備一覧 459

・グローブボックス 460

・コンソールボックス 461

・カップホルダー／
ボトルホルダー 462

・小物入れ 464

トランク内装備 465

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 467

・サンバイザー 467

・バニティミラー 467

・時計 468

・アクセサリーソケット 468

・充電用 USB 端子 469

・オーディオスイッチ／
電話スイッチ／
トークスイッチ 471

・おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）..... 472

・リヤアームレスト 482

・リヤサンシェード／
リヤドアサンシェード 483

・アシストグリップ 485

・コートフック 485

アクセサリーコンセント
（AC100V・1500W）..... 486

非常時給電システム 493

トヨタマルチオペレーションタッチ★

マルチメディアディスプレイの画面上に、ナビゲーション画面とエアコン操作画面などを同時に表示し、操作することができます。

トヨタマルチオペレーションタッチの操作については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せて参照してください。

各機能を操作・設定するには

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

画面を切りかえるには、それぞれのスイッチを選択してください。

サイド画面上で上下にフリック操作することで、各画面に切りかえることもできます。

イラストの意匠は装備などにより異なります。

① エアコン操作画面（→ P. 425）

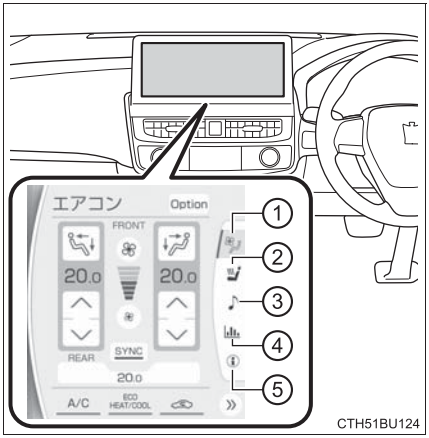
② ステアリングヒーター・シートヒーター・シートベンチレーター操作画面（→ P. 449）

③ オーディオ操作画面 ※

④ エネルギーモニター・燃費画面（→ P. 127）

⑤ 設定画面（→ P. 423）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



サイド画面を移動するには

《 または 》 を選択すると、サイド画面の表示を右または左に移動させることができます。

サイド画面上で左右にフリック操作することで、移動させることもできます。

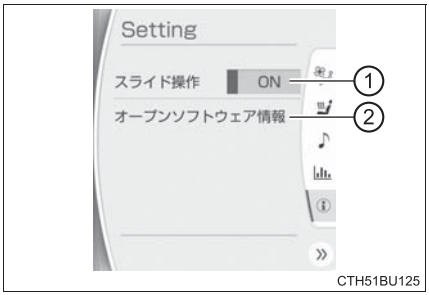
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サイド画面の設定を変更するには

サイド画面の設定を変更することができます。

① スライド操作の ON/OFF を切りかえる

② ソフトウェアの情報を表示する



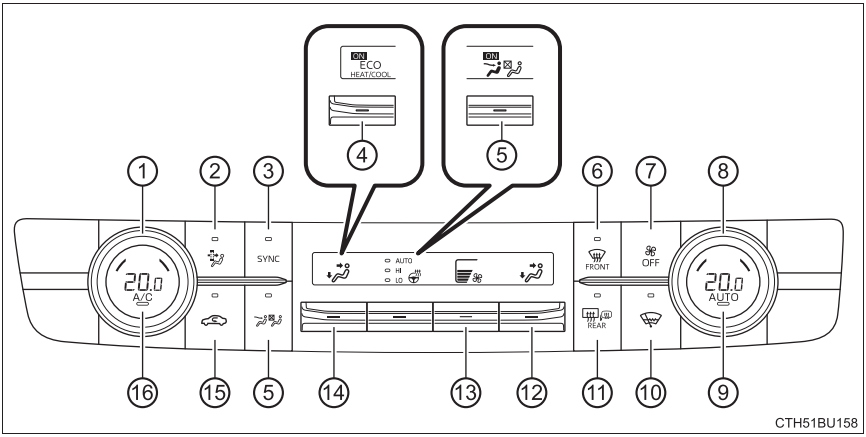
知識

■Copyright

©1982-2013, QNX Software Systems Limited. All rights reserved.

フロントエアコン

■ エアコン操作パネル



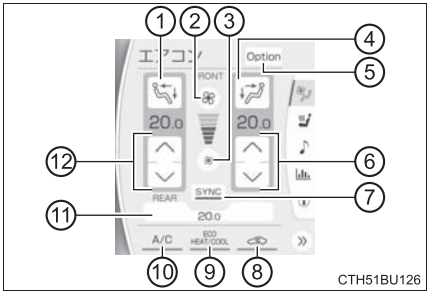
① 助手席温度調整ダイヤル
② 花粉除去モードスイッチ
③ SYNC スイッチ
④ エコ空調スイッチ★
⑤ S-FLOW スイッチ
⑥ フロントデフロスタースイッチ
⑦ OFF スイッチ
⑧ 運転席温度調整ダイヤル
⑨ AUTO スイッチ
⑩ ウインドシールドデアイサースイッチ★
⑪ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ
⑫ 運転席吹き出し口切りかえスイッチ
⑬ 風量調整スイッチ
⑭ 助手席吹き出し口切りかえスイッチ★
⑮ 内外気切りかえスイッチ
⑯ 冷房・除湿スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン操作画面

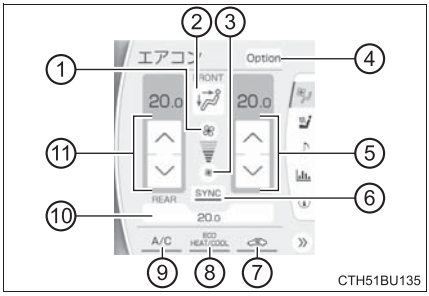
マルチメディアディスプレイのサイド画面にエアコン操作画面を表示する（→ P. 422）

▶ 3 席独立コントロールエアコン装着車



① 助手席側吹き出し口切りかえスイッチ
② 風量増スイッチ
③ 風量減スイッチ
④ 運転席側吹き出し口切りかえスイッチ
⑤ オプション画面表示スイッチ
⑥ 運転席側温度調整スイッチ
⑦ SYNC スイッチ
⑧ 内外気切りかえスイッチ
⑨ エコ空調スイッチ
⑩ 冷房・除湿スイッチ
⑪ リヤエアコン画面表示スイッチ★
⑫ 助手席側温度調整スイッチ

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車



① 風量増スイッチ
② 吹き出し口切りかえスイッチ
③ 風量減スイッチ
④ オプション画面表示スイッチ
⑤ 運転席側温度調整スイッチ
⑥ SYNC スイッチ
⑦ 内外気切りかえスイッチ
⑧ エコ空調スイッチ
⑨ 冷房・除湿スイッチ
⑩ リヤエアコン画面表示スイッチ★
⑪ 助手席側温度調整スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

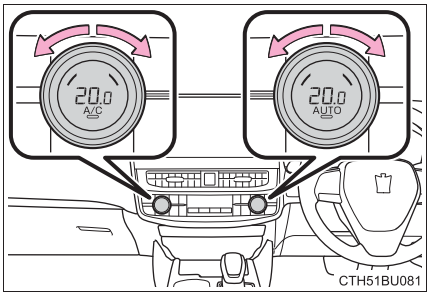
■ 温度を調整する

▶ エアコン操作パネルで調整するには

設定温度を上げるときは、温度調整ダイヤルを右へまわす

設定温度を下げるときは、温度調整ダイヤルを左へまわす

冷房・除湿スイッチの作動表示灯が点灯していない場合は、送風または暖房で使用できます。



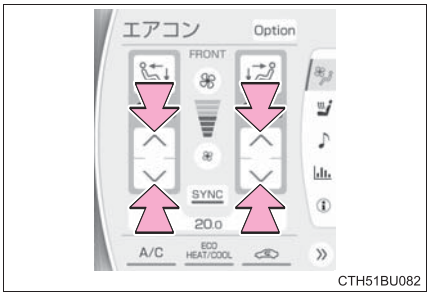
▶ エアコン操作画面で調整するには

設定温度を上げるときは、温度調整スイッチの ∧ を選択する

設定温度を下げるときは、温度調整スイッチの ∨ を選択する

スイッチを選択し続けると、温度が連続して変化します。

冷房・除湿スイッチの作動表示灯が点灯していない場合は、送風または暖房で使用できます。



イラストの意匠は装備などにより異なります。

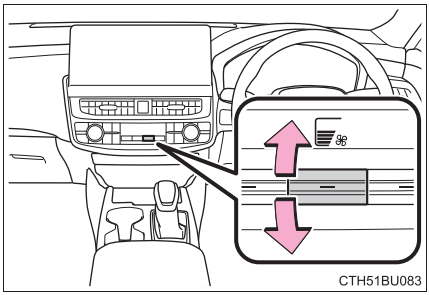
■ 風量を調整する

▶ エアコン操作パネルで調整するには

風量を増やすときは風量調整スイッチを上方向へ操作する

風量を減らすときは風量調整スイッチを下方向へ操作する

エアコン操作パネルの OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。


CTH51BU083

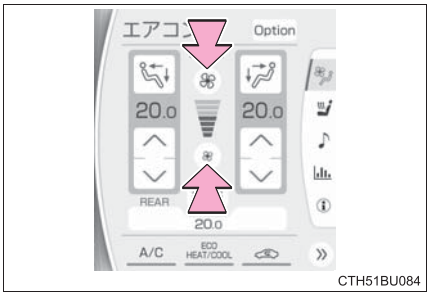
▶ エアコン操作画面で調整するには

風量を増やすときは風量増スイッチを選択する

風量を減らすときは風量減スイッチを選択する

エアコン操作パネルの OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

イラストの意匠は装備などにより異なります。

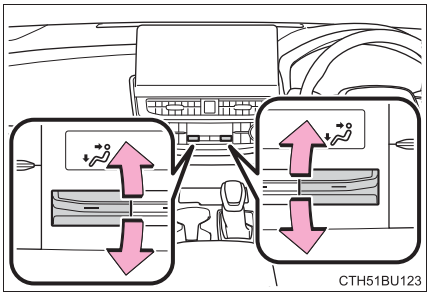


CTH51BU084

■ 吹き出し口を切りかえる

▶ エアコン操作パネルで操作するには

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する



スイッチを上下に操作するたびに吹き出し口が切りかわります。

：上半身に送風

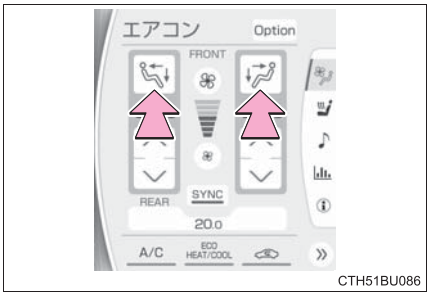
：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

▶ エアコン操作画面で操作するには

吹き出し口切りかえスイッチを選択する



スイッチを選択するたびに吹き出し口が切りかわります。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

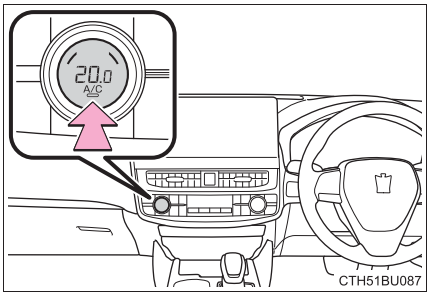
イラストの意匠は装備などにより異なります。

■ 冷房・除湿機能を使用する

▶ エアコン操作パネルで操作するには

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

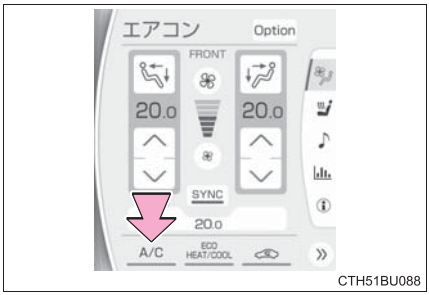


▶ エアコン操作画面で操作するには

冷房・除湿スイッチを選択する

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

イラストの意匠は装備などにより異なります。



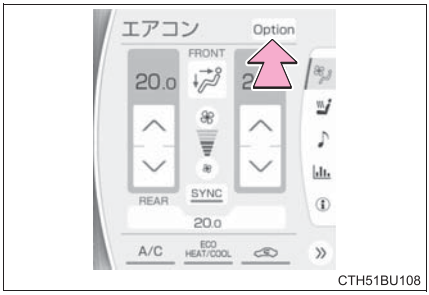
■ オプション画面を表示するには

エアコン操作画面のオプション画面表示スイッチを選択する

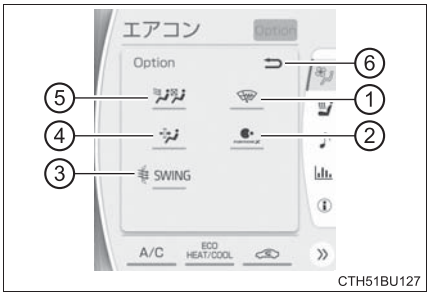
次の機能の ON/OFF を切りかえることができます。

機能が ON のときは、表示灯が点灯します。

イラストの意匠は装備などにより異なります。



CTH51BU108



CTH51BU127

① ウインドシールドデアイサー★（→ P. 437）

② 「ナノイー X」★（→ P. 440）

③ 中央吹き出し口を自動で首ふりする★

④ 花粉除去モード（→ P. 436）

⑤ フロント席集中送風モード（S-FLOW）★（→ P. 433）

⑥ 前の画面にもどる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 エアコン操作パネルの AUTO スイッチを押す

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、エアコン操作パネルの OFF スイッチを押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえるとAUTOスイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

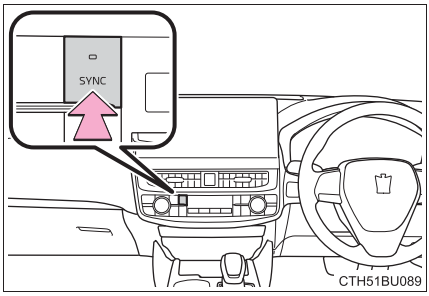
■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード★）

助手席側の設定温度を変更すると、左右独立モードが ON になります。

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが OFF になり、SYNC スイッチの作動表示灯が点灯します。

▶ エアコン操作パネルで操作するには

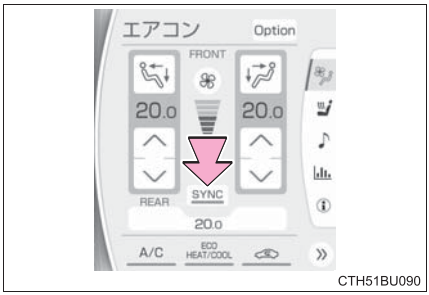
SYNC スイッチを押す



▶ エアコン操作画面で操作するには

SYNC スイッチを選択する

イラストの意匠は装備などにより異なります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

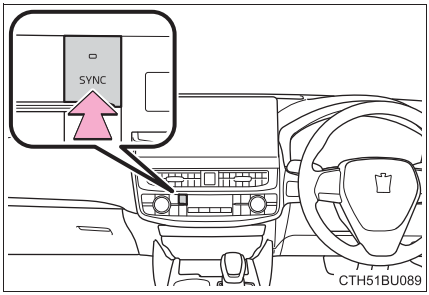
■ **運転席と助手席の設定温度、後席の吹き出し口と設定温度を別々に設定する（3 席独立モード★）**

助手席側や後席側の設定温度を変更すると、3 席独立モードが ON になります。

次のいずれかの操作をすると、3 席独立モードが OFF になり、SYNC スイッチの作動表示灯が点灯します。

▶ エアコン操作パネルで操作するには

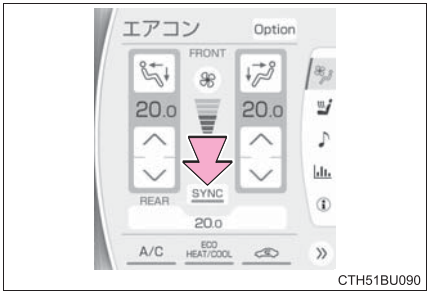
SYNC スイッチを押す



▶ エアコン操作画面で操作するには

SYNC スイッチを選択する

イラストの意匠は装備などにより異なります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない
- 花粉除去モードが作動していない

作動中は、S-FLOW スイッチの表示灯が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

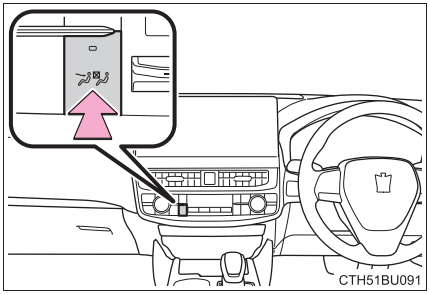
フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

▶ エアコン操作パネルで操作するには

タイプ A：S-FLOW スイッチを押し、送風を切りかえます。

表示灯が点灯：フロント席のみへの送風

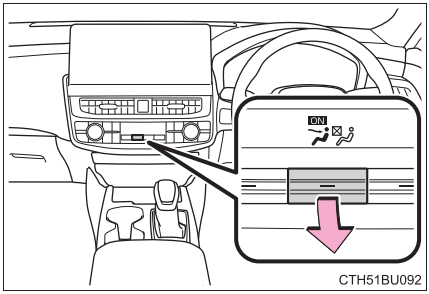
表示灯が消灯：全席への送風



タイプ B：S-FLOW スイッチを下に操作し、送風を切りかえます。

表示灯が点灯：フロント席のみへの送風

表示灯が消灯：全席への送風



▶ エアコン操作画面で操作するには

オプション画面から、送風を切りかえます。（→ P. 430）

表示灯が点灯：フロント席のみへの送風

表示灯が消灯：全席への送風

知識

■送風の自動制御について

●車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

●ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする

2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON モードにする

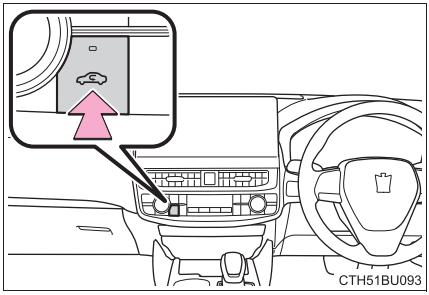
その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

▶ エアコン操作パネルで操作するには

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに外気導入・内気循環に切りかわります。
内気循環を選択しているとき、スイッチの表示灯が点灯します。
外気導入時でも、室内の温度が高いときは、内気循環になります。

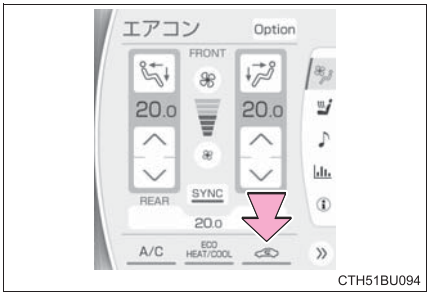

CTH51BU093

▶ エアコン操作画面で操作するには

内外気切りかえスイッチを選択する

スイッチを選択するたびに外気導入・内気循環に切りかわります。
内気循環を選択しているとき、スイッチの表示灯が点灯します。
外気導入時でも、室内の温度が高いときは、内気循環になります。

イラストの意匠は装備などにより異なります。



CTH51BU094

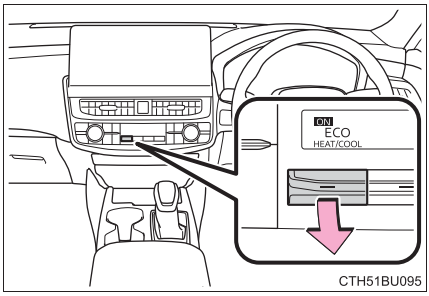
■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

▶ エアコン操作パネルで操作するには

エコ空調スイッチを下に操作する

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。



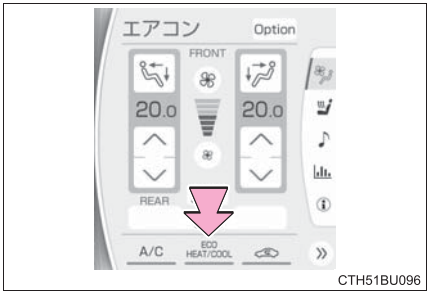
CTH51BU095

▶ エアコン操作画面で操作するには

エコ空調スイッチを選択する

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

イラストの意匠は装備などにより異なります。



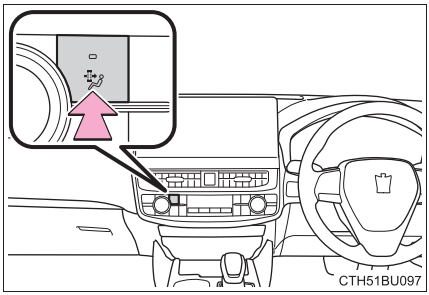
CTH51BU096

■ 花粉除去モードを使用するには

▶ エアコン操作パネルで操作するには

花粉除去モードスイッチを押す

花粉除去モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。



▶ エアコン操作画面で操作するには

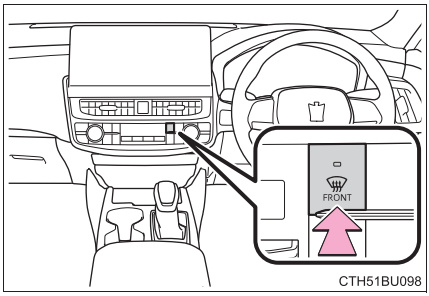
オプション画面から ON/OFF を切りかえる（→ P. 430）

花粉除去モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

エアコン操作パネルのフロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください（自動的に外気導入に切りかわる場合もあります）。風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

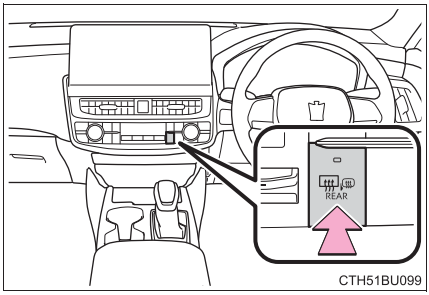


フロントデフロスターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときにご使用ください。



エアコン操作パネルのリヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

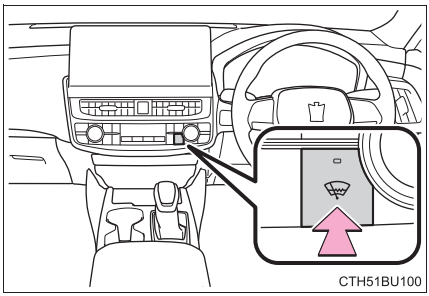
リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターはしばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。

▶ エアコン操作パネルで操作するには

エアコン操作パネルのウインドシールドデアイサースイッチを押す



ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーはしばらくすると自動的に OFF になります。

▶ エアコン操作画面で操作するには

● オプション画面から ON/OFF を切りかえる（→ P. 430）

● ステアリングヒーター・シートヒーター・シートベンチレーター★操作画面から ON/OFF を切りかえる（→ P. 449）

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

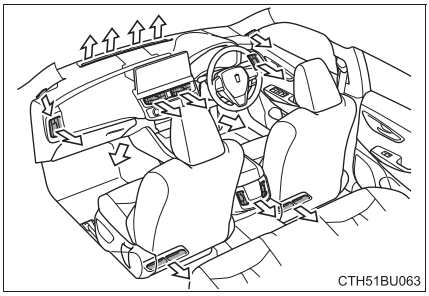
ウインドシールドデアイサーはしばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

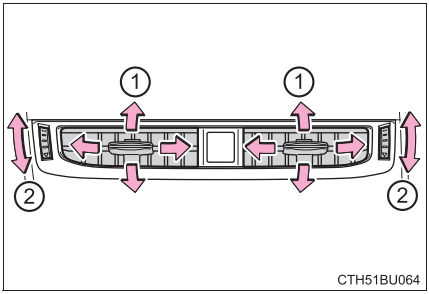
■ 吹き出し口の位置

吹き出し切りかえスイッチの選択により、風が出る位置や風量が変化します。

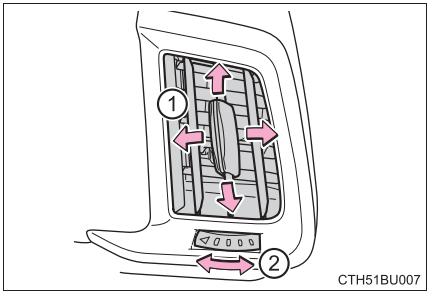


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

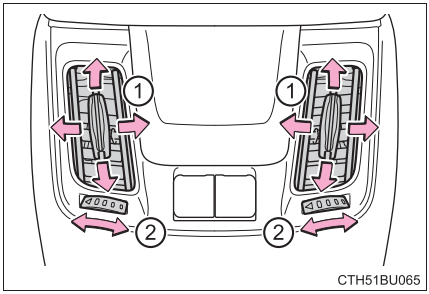
▶ 中央吹き出し口



▶ 左右吹き出し口



▶ リヤ吹き出し口



① 風向きの調整　② 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、エアコン操作パネルの AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■温度調整について

●独立モードのとき、リヤ吹き出し口の温度は、運転席側に連動しています。（天井部のリヤエアコン吹き出し口を除く）

●独立モードを解除すると、運転席側と同じ吹き出し口と設定温度になります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を ON にしても除湿機能が働かない場合があります。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような作動をする場合があります。

・内気循環に切りかわらない
・除湿機能が作動する
・約 1 分後に作動が停止する

●雨天時はガラスが曇るため、冷房・除湿機能を使用してください。

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー X」※1 について ※2

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします ※3。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※1「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

※2「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※3 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターついて

→ P. 536

■エコドライブモード時のエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する
・エコ空調モードを解除する

■カスタマイズ機能

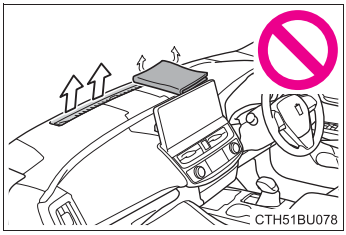
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー X」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

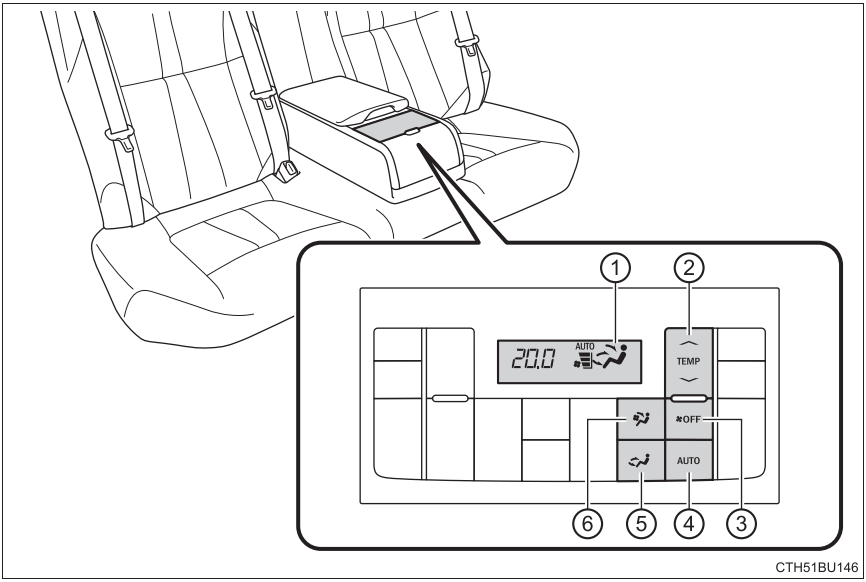
■「ナノイー X」★の損傷を防ぐために

運転席の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコン★

■ リヤ操作部

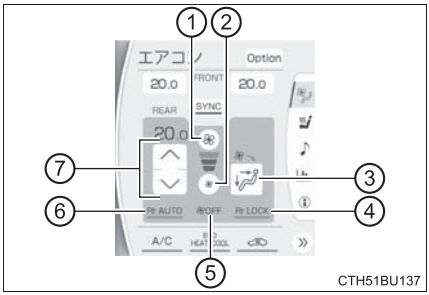


① ディスプレイ
② 温度調整スイッチ
③ OFF スイッチ
④ AUTO スイッチ
⑤ 吹き出し口切りかえスイッチ★
⑥ 風量調整スイッチ

■ エアコン操作画面

エアコン操作画面のリヤエアコン画面表示スイッチを選択する
(→ P. 425)

① 風量増スイッチ
② 風量減スイッチ
③ 吹き出し口切りかえスイッチ
④ Rr LOCK スイッチ ※
⑤ OFF スイッチ
⑥ Rr AUTO スイッチ
⑦ 温度調整スイッチ★



※ リヤ操作部での操作を禁止します。
Rr LOCK が ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

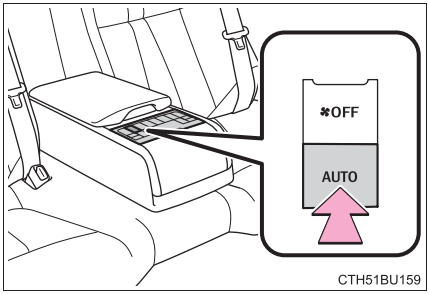
オート設定を使うとき

- 運転席の設定温度をもとに風量が自動的に調整されます。（左右独立コントロールエアコン装着車）
- 設定温度をもとに風量と吹き出し口が自動的に調整されます。（3 席独立コントロールエアコン装着車）

▶ リヤ操作部で操作するには

AUTO を押す

作動を停止するときは、✻OFF を押します。



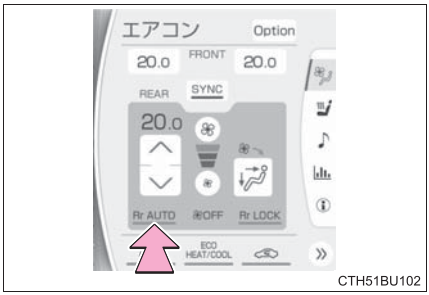
CTH51BU159

▶ エアコン操作画面で操作するには

Rr AUTO スイッチを選択する

作動を停止するときは、OFF スイッチを選択します。

イラストの意匠は装備などにより異なります。



CTH51BU102

■ リヤエアコンの自動作動について

冷房・除湿機能が ON のとき設定温度により作動します。

お好みの設定で使うとき

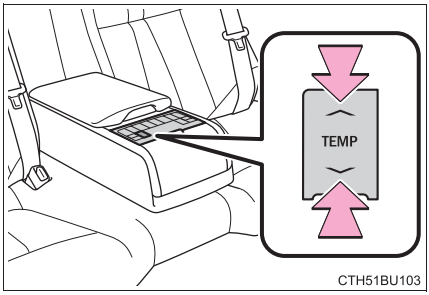
■ 温度調整

▶ リヤ操作部で操作するには

を押す

設定温度を上げるときは ︿ 、下げるときは ︾ を押します。

連動モード時に操作すると、独立モードに切りかわります。

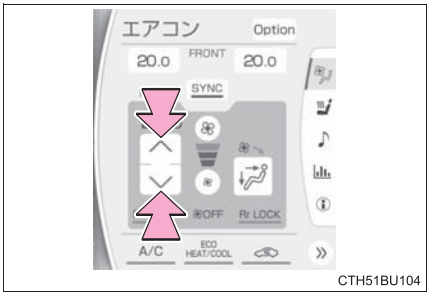


▶ エアコン操作画面で操作するには★

温度調整スイッチを選択する

設定温度を上げるときは ∧ 、下げるときは ∨ を選択します。

連動モード時に選択すると、独立モードに切りかわります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

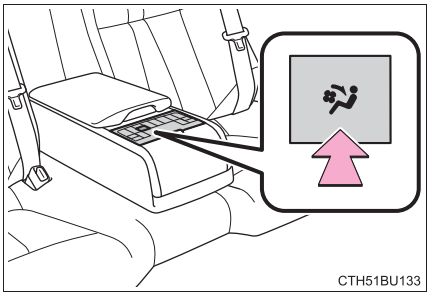
■ 風量を切りかえる

▶ リヤ操作部で操作するには

冷房・除湿機能が ON のとき、 を押す

スイッチを押すごとに作動状態が切りかわります

リヤエアコン作動時は、天井吹き出し口から冷風が送風されます。


CTH51BU133

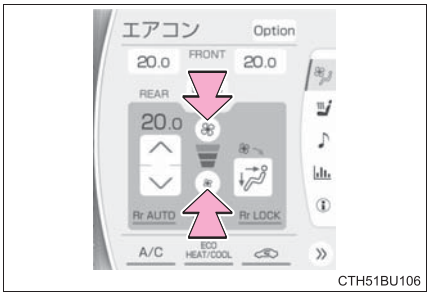
▶ エアコン操作画面で操作するには

風量増スイッチ・風量減スイッチを選択する

スイッチを選択するごとに作動状態が切りかわります。

リヤエアコン作動時は、天井吹き出し口から冷風が送風されます。

イラストの意匠は装備などにより異なります。



CTH51BU106

■ 吹き出し口の切りかえ★

▶ リヤ操作部で操作するには

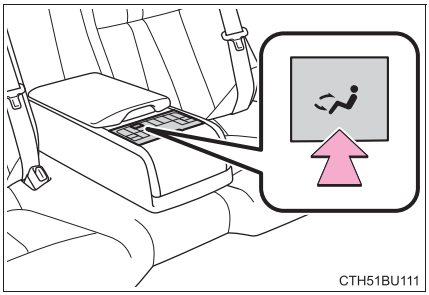
を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風


CTH51BU111

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ エアコン操作画面で操作するには

吹き出し口切りかえスイッチを選択する

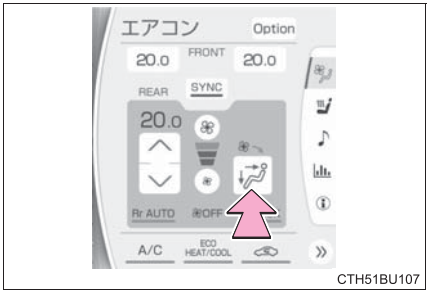
選択するたびに吹き出し口が切りかわります

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

イラストの意匠は装備などにより異なります。

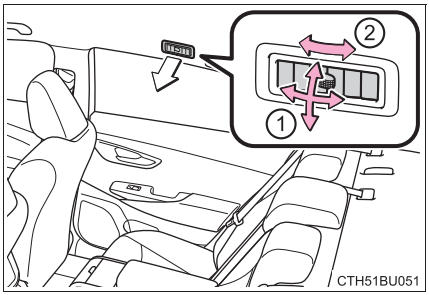


CTH51BU107

風向きの調整

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



CTH51BU051

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、必要以上にリヤエアコンを使用しないでください。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーション★

ハンドル左右のグリップ部やシートを温めたり、シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくできます。

警告

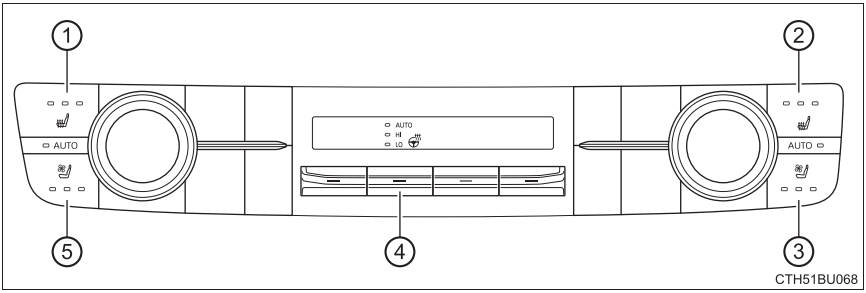
- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しない
  - ・毛布・クッションなどを使用しない

注意

- シートヒーター／シートベンチレーションの故障を防ぐために凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐためにハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコン操作パネル



① 助手席シートヒータースイッチ★

② 運転席シートヒータースイッチ★

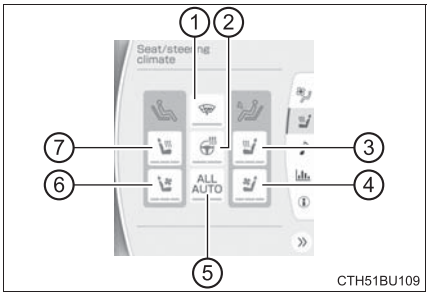
③ 運転席シートベンチレータースイッチ★

④ ステアリングヒータースイッチ★

⑤ 助手席シートベンチレータースイッチ★

ステアリングヒーター・シートヒーター・シートベンチレーター操作画面

マルチメディアディスプレイのサイド画面にステアリングヒーター・シートヒーター・シートベンチレーター操作画面を表示する(→ P. 422)



① ウインドシールドデアイサースイッチ ※1 ★

② ステアリングヒータースイッチ★

③ 運転席シートヒータースイッチ★

④ 運転席シートベンチレータースイッチ★

⑤ ALL AUTO スイッチ ※2

⑥ 助手席シートベンチレータースイッチ★

⑦ 助手席シートヒータースイッチ★

※1 ウインドシールドデアイサーの ON/OFF を切りかえます。(→ P. 437)

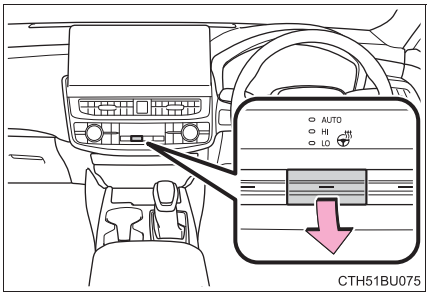
※2 エアコンの設定温度、外気温、車室内の温度などに応じて、各席のシートヒーターやシートベンチレーション、ステアリングヒーターが自動で制御されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

▶ エアコン操作パネルで操作するには

ステアリングヒータースイッチを下に操作する



CTH51BU075

操作するごとに、作動状態と表示灯が切りかわります。
・ AUTO（AUTO が点灯）
・ 強（HI が点灯）
・ 弱（LO が点灯）
・ OFF（消灯）

オート作動：パワースイッチをONモードにしたときの外気温・車室内温度に応じて、自動で作動します。

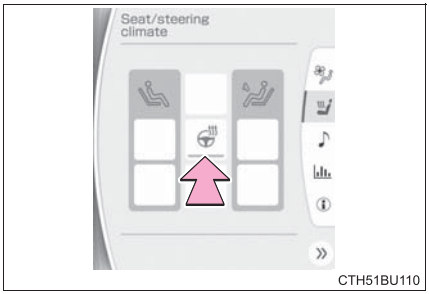
▶ 操作画面で操作するには

1 を選択して操作画面を表示する（→ P. 449）

2 を選択してステアリングヒーターを作動させる

作動中は、表示灯が点灯します。

スイッチを選択するたびに、作動状態が切りかわります。
・ 強（2 個点灯）
・ 弱（1 個点灯）
・ OFF（消灯）



CTH51BU110

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■スイッチ表示が点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを選択してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

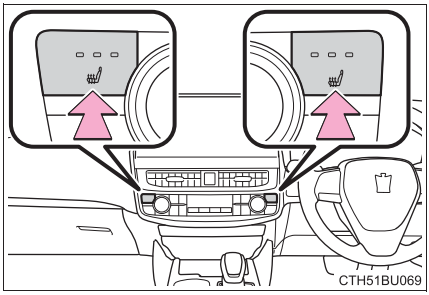
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 645)

シートヒーター

■ フロントシート

▶ エアコン操作パネルで操作するには

シートヒータースイッチを押してシートヒーターを作動させる



作動中は、表示灯が点灯します。

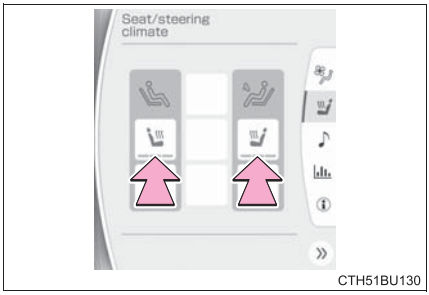
スイッチを押すたびに、作動状態が切りかわります。

・強（3 個点灯）
・中（2 個点灯）
・弱（1 個点灯）
・OFF（消灯）

▶ 操作画面で操作するには

1 を選択して操作画面を表示する（→ P. 449）

2 を選択してシートヒーターを作動させる



作動中は、表示灯が点灯します。

スイッチを選択するたびに、作動状態が切りかわります。

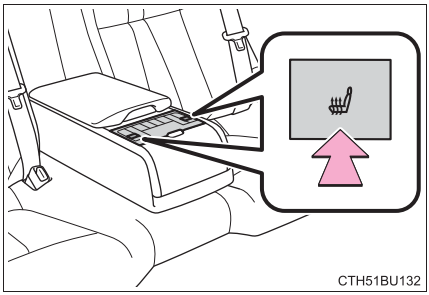
・強（3 個点灯）
・中（2 個点灯）
・弱（1 個点灯）
・OFF（消灯）

■ リヤシート（リヤシートヒーター装着車）

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

押すごとに ON/OFF が切りかわります。

作動中は、表示灯が点灯します。
シートが暖まると自動的に「弱」になります。



▶ 3 席独立コントロールエアコン装着車

スイッチを 1 回押すと、AUTO モードが作動し、“AUTO” インジケーターが点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態および表示灯が次のように切りかわります。
強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■シートヒーターの AUTO について

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、シートヒーター、OFF、シートベンチレーション（装着車のみ）が自動的に切りかわります。

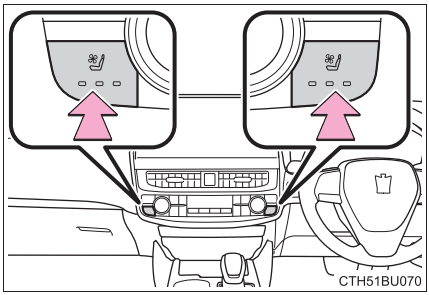
■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

シートベンチレーション（フロントシート）

▶ エアコン操作パネルで操作するには

シートベンチレータースイッチを押してシートベンチレーターの作動を切りかえる



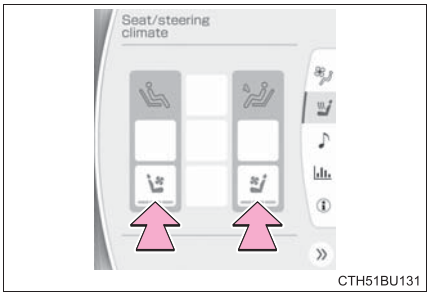
作動中は、表示灯が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が切りかわります。
・強（3 個点灯）
・中（2 個点灯）
・弱（1 個点灯）
・OFF（消灯）

▶ 操作画面で操作するには

1 を選択して操作画面を表示する（→ P. 449）

2 を選択してシートベンチレーターを作動させる



作動中は、表示灯が点灯します。

スイッチを選択するたびに、作動状態が切りかわります。
・強（3 個点灯）
・中（2 個点灯）
・弱（1 個点灯）
・OFF（消灯）

知識

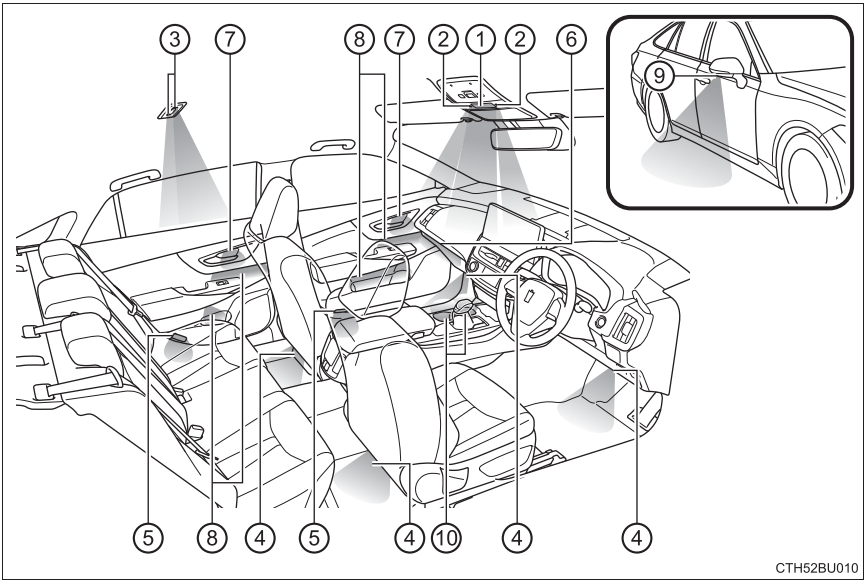
■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 645）

室内灯一覧



① インテリアランプ
（→ P. 456）

② フロントパーソナルランプ
（→ P. 457）

③ リヤパーソナルランプ
（→ P. 457）

④ 足元照明

⑤ ドアカーテシランプ

⑥ インストルメントパネルオーナメント照明★

⑦ ドアハンドル照明★

⑧ ドアトリム照明★

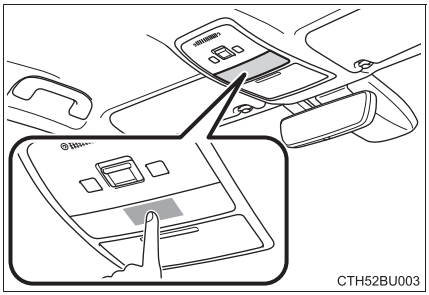
⑨ ドアミラー照明★

⑩ カップホルダー照明

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

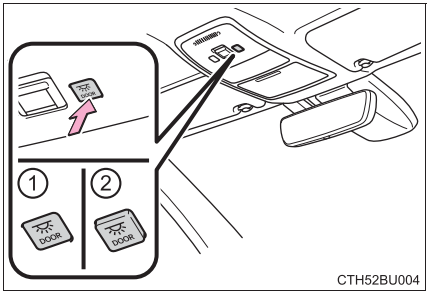


ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

① ON

② OFF

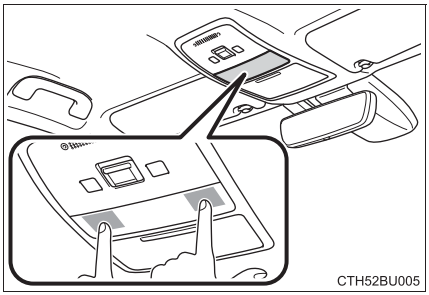
ON のときはリヤドアの開閉に連動して、リヤパーソナルランプも点灯・消灯します。



パーソナルランプ

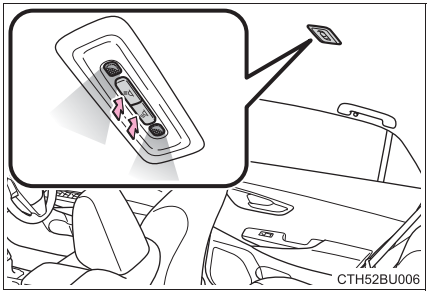
▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■足元照明・インストルメントパネルオーナメント照明★・ドアハンドル照明★・ドアトリム照明★・カップホルダー照明について

シフトレバーをPからP以外にすると減光されます。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチをOFFにしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約20分後に自動消灯します。

■インテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

●レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

●濡れた手で操作したとき

●手袋などを装着しているとき

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約20分間自動で点灯します。
手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります）

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→P. 645）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

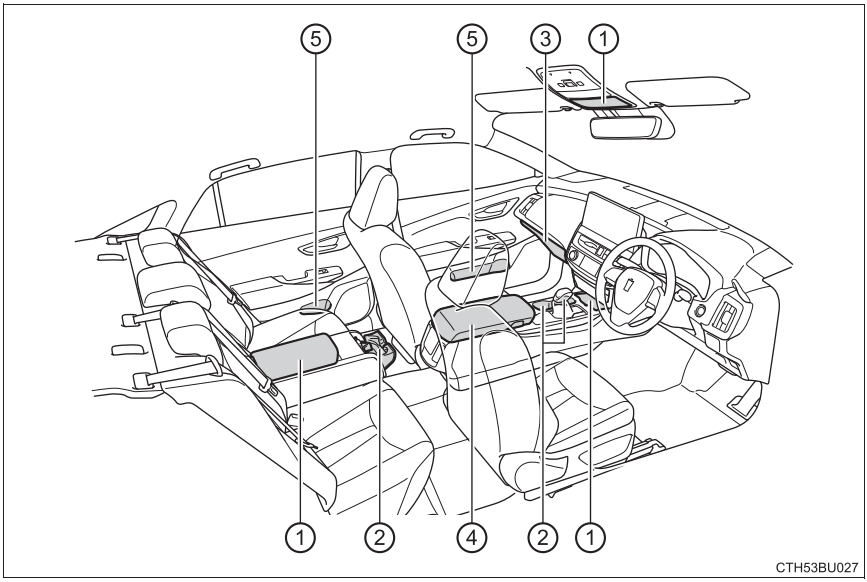
ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ランプのレンズの取りはずしについて

インテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



① 小物入れ★ (→ P. 464)

② カップホルダー (→ P. 462)

③ グローブボックス (→ P. 460)

④ コンソールボックス (→ P. 461)

⑤ ボトルホルダー／ドアポケット (→ P. 462)

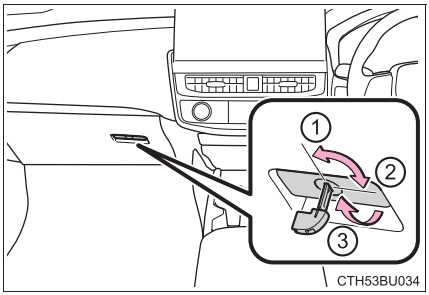
警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

グローブボックス

① メカニカルキーで解錠
② メカニカルキーで施錠
③ 開ける（レバーを引く）



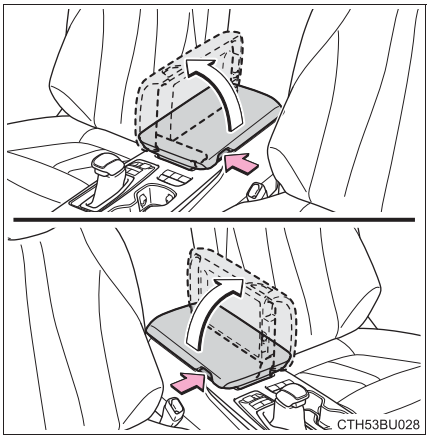
知識

- 車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。
- グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→ P. 151）

コンソールボックス

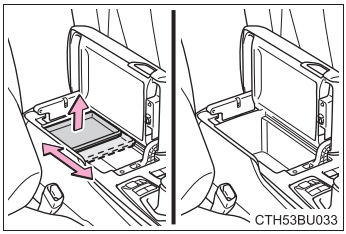
ボタンを押してフタを開ける

左右どちらからでも開けることができます。



知識

トレイはスライドさせたり、取りはずすことができます。



警告

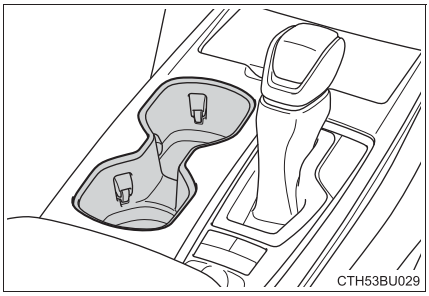
コンソールボックスのフタを開閉するときは、指などを挟まないように注意してください。

注意

破損を防ぐために、コンソールボックスのフタの上に乗ったり、無理な力をかけたりしないでください。

カップホルダー／ボトルホルダー

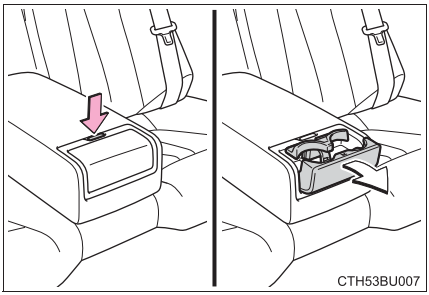
■ フロントカップホルダー



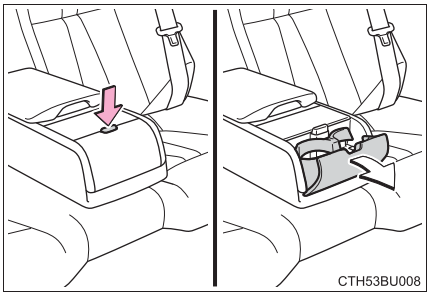
■ リヤカップホルダー

アームレストを手前に倒してボタンを押す

▶ リヤパワーシート非装着車

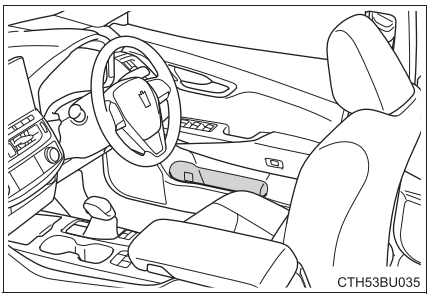


▶ リヤパワーシート装着車

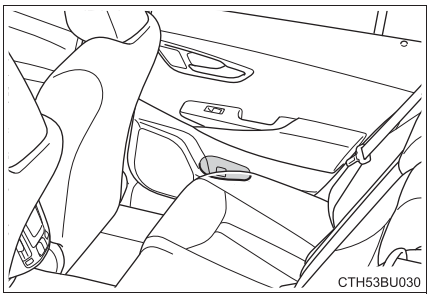


■ ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ボトルホルダーとして使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

フロントカップホルダー：カップや缶、ペットボトル以外のものを置かないでください。
リヤカップホルダー：カップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために、温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

注意

■フロントカップホルダーの破損を防ぐために

●カップホルダー以外の目的で使用しないでください。

●上下方向に過度の負荷をかけないでください。

■リヤカップホルダーの破損を防ぐために

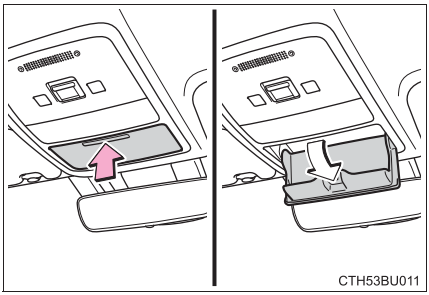
リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

■ボトルホルダーについて

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

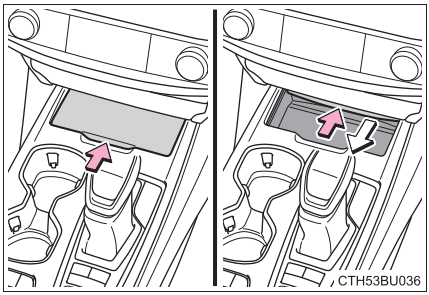
小物入れ

▶ 天井（ムーンルーフ非装着車）



押して開ける

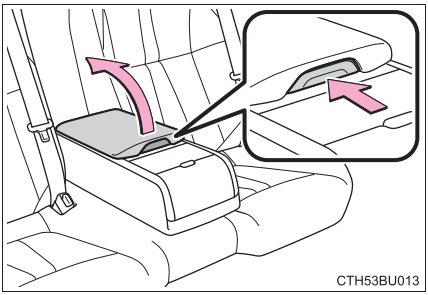
▶ フロントセンター（おくだけ充電［ワイヤレス充電器］非装着車）



開ける：
ロックされるまで前へ押す

閉める：
前側へ押す（ロックが解除され、自動で閉まります）

▶ リヤ席（リヤパワーシート装着車）

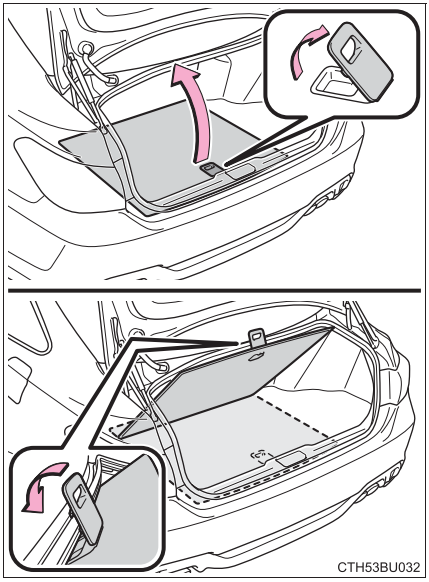


アームレストを手前に倒しノブを押して開ける

トランク内装備

ラゲージマット

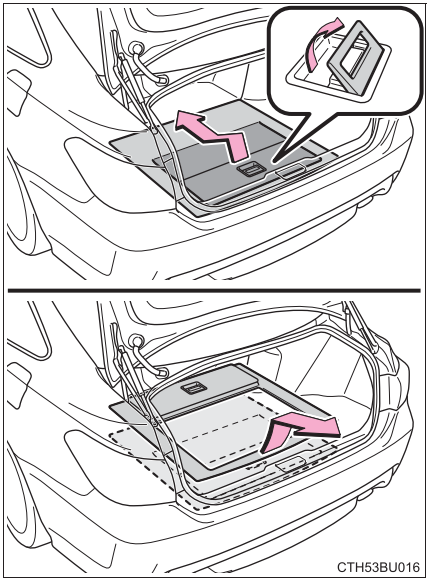
▶ タイプ A



フックを持ってラゲージマットを持ち上げる

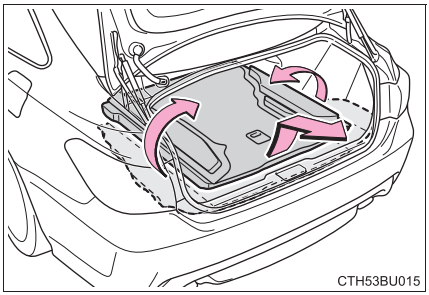
フックを使ってラゲージマットを固定することができます。

▶ タイプ B



レバーを持ち上げてラゲージマットを折りたたみ取りはずす

▶ タイプ C



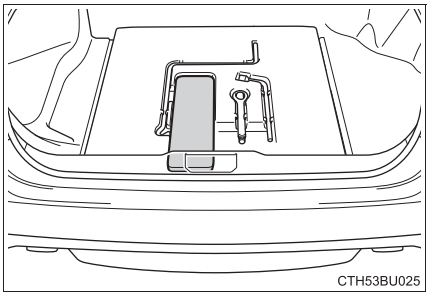
ラゲージマットの左右を上方向に折り曲げて取りはずす

三角表示板収納スペース

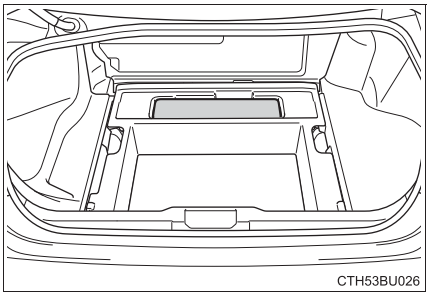
三角表示板を収納することができます。

大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ タイプ A



▶ タイプ B



⚠ 注意

■ **トランクを閉めるときは（ラゲージマット：タイプ A）**

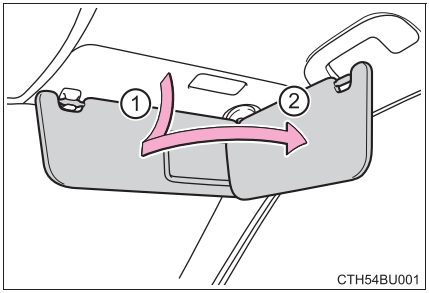
ラゲージマットのレバーをトランクの端にかけたままにしないでください。
ラゲージマットが破損するおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

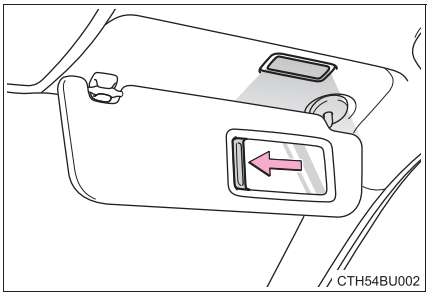
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

マルチインフォメーションディスプレイとマルチメディアディスプレイ★に表示されます。

■ 時刻を調整するには

▶ マルチインフォメーションディスプレイから調整する（マルチメディアディスプレイ非装着車）

→ P. 105

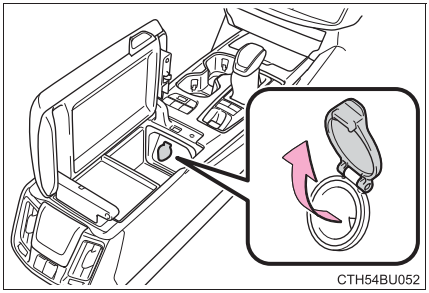
▶ ナビゲーション画面から調整する（マルチメディアディスプレイ装着車）

別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

- ショートや故障をふせぐために、ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

充電用 USB 端子

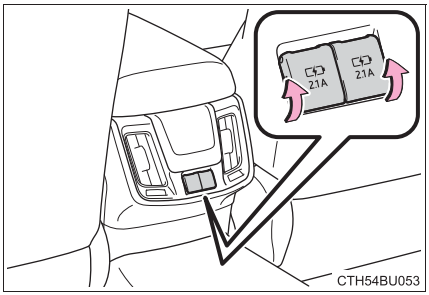
DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

フタを開けて使用する



知識

■充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

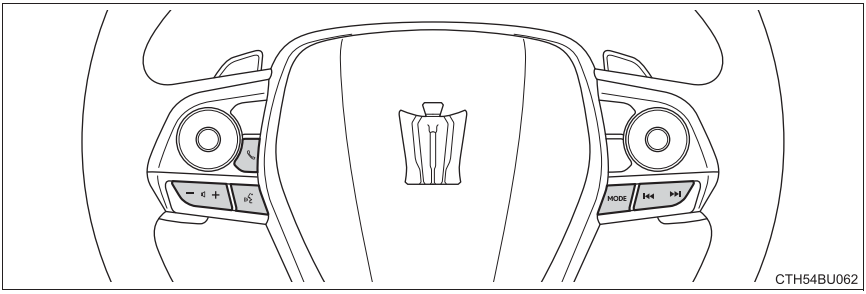
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

オーディオスイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

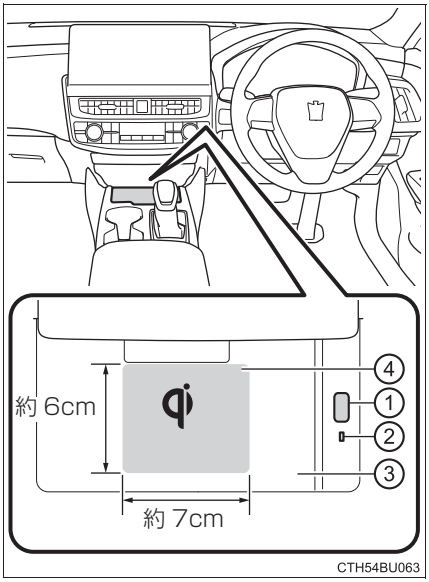
■ 各部の名称

① 電源スイッチ

② 作動表示灯

③ 充電トレイ

④ 充電エリア※



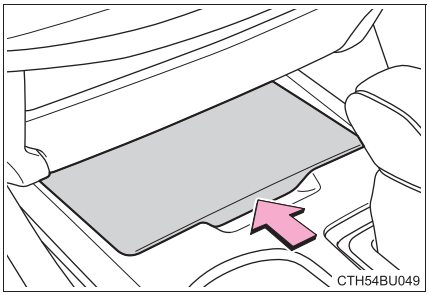
※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアから外れた場合、充電は自動的に停止します。
また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

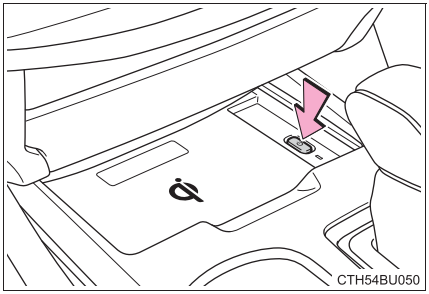
1 フタを開ける

フタがロックされるまで前へ押します。

フタをもう一度前側へ押すとロックが解除され、自動で閉まります。



2 電源スイッチを押す



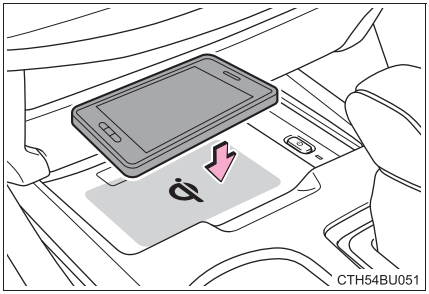
押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON/OFF）はハイブリッドシステムのパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

充電中は、電源スイッチを操作して急速充電機能への切りかえを行います。確実に OFF にしたい場合は、携帯機器を充電していないときに電源スイッチを押してください。

3 充電トレイに携帯機器を置く



携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

■ 再充電機能

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルが外れて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

■ 急速充電機能

● 以下の携帯機器に対しては急速充電が行えます。
・WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
・7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

● 急速充電機能への切りかえは、充電中に電源スイッチを 3 回押します。急速充電が可能になると、作動表示灯が橙色の点灯から、緑色と橙色の交互の点灯に代わります。

● 充電が完了すると、急速充電機能は終了します。次に急速充電を行うときは、再度急速充電機能へ切りかえてください。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）※1
	充電完了時 ※2
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中
緑と橙が交互に点灯	以下の携帯機器が急速充電中 ・WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器 ・7.5W充電に対応したiOSを搭載しているiPhone（iPhone 8 以降の機種）

※1 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、過熱されることはありません。

※2 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1秒間に1回の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器とスマートキーの通信異常**	ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードがアクセサリーモードのときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→ P. 219）
3回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 充電エリア内に金属製の異物があり、充電用コイルの異常加熱防止機能が働いた	充電エリア内にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 携帯機器の充電用コイルが充電エリアから外れたことで、充電用コイルの異常加熱防止機能が働いた	携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。
4回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度が一定値を超えたことによる安全停止**	いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

●ただし、以下の携帯機器に対しては、5W を超える充電に対応しています。

・7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
・WPC 規格の Ver1.2.4 に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー&スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

●ワイヤレス充電器の電源をOFFにして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

●iPhone の急速充電は、特定の周波数で行っています。周波数の切りかえ中は、iOS のバージョンによっては、急速充電動作を行わない場合があります。

■充電についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。
また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、ワイヤレス充電器の電源 ON 中にパワースイッチを押してアクセサリーモードや ON モードに変更したとき、および携帯機器を検出中は “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→ P. 513

警告

■**運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■**走行中の注意**

コードレスヘッドフォンなど小型、軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■**電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■**故障ややけどを防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておく
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電のとき

●有線接続で携帯機器を充電中のとき

●充電エリアと携帯機器の間に異物があるとき

●充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき

●炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき

●携帯機器の充電面を上にして置いたとき

●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき

●携帯機器が充電トレイよりも大きいとき

●折りたたみ式の携帯機器を充電エリアの外に置いたとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のような 2mm 以上の厚みがあるものが挟まれているとき

・厚みがあるケースやカバー
・厚みがあるデコレーション
・指リングやストラップなどのアクセサリー

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア
・金属製のデコレーション
・金属製のケースやカバー

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

⚠ 注意

■故障やデータ破損を防止するために

●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。
特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。

●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーの HP 情報等でご確認ください。

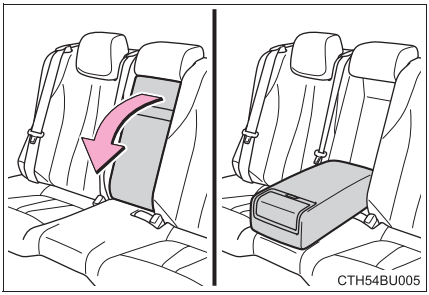
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

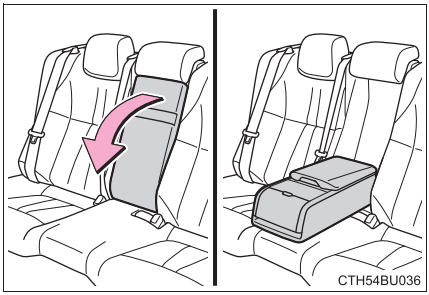
リヤアームレスト

手前に倒して使用します。

▶ リヤパワーシート非装着車



▶ リヤパワーシート装着車



注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

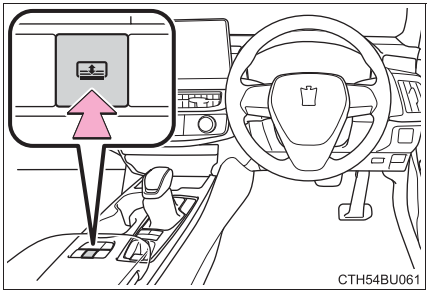
リヤサンシェード★／リヤドアサンシェード★

■ リヤサンシェード

スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

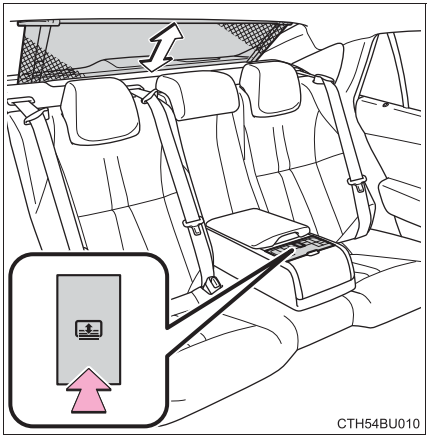
● フロント席からの操作

スイッチを押す



● リヤ席からの操作

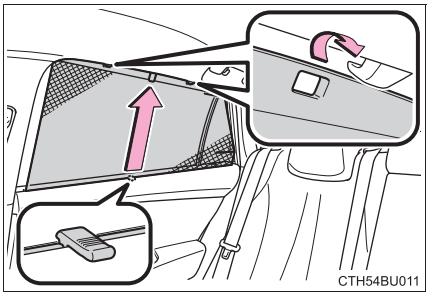
スイッチを押す



■ リヤドアサンシェード

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■リヤサンシェードの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■パワースイッチ OFF 後の作動

パワースイッチを OFF にしたあと、約 1 分間リヤサンシェードをリヤ席から操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

●スイッチをもう一度押す ※

●シフトレバーを P に入れる

●シフトレバーを R 以外にし、15km/h 以上で走行する

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

警告

リヤサンシェードが作動しているときは、留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

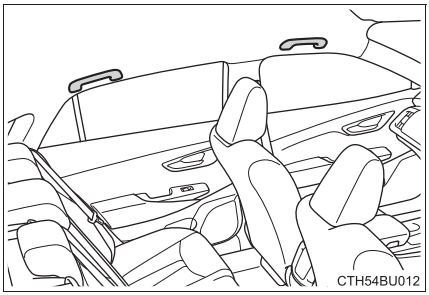
●補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。

●正常に機能させるために、次のことをお守りください。

・リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
・開閉のさまたげになる部分にものを置かない
・リヤサンシェード・リヤドアサンシェードにものを貼らない
・溝をきれいに保つ
・長時間リヤサンシェードの操作を続けない

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

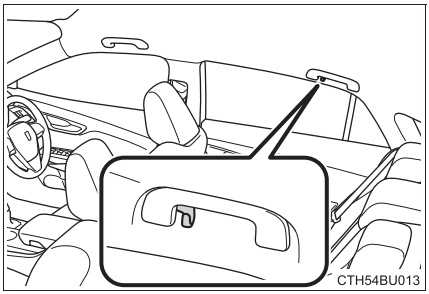
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。
アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

注意

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフック

コートフックは、リヤ右側のアシストグリップに付いています。



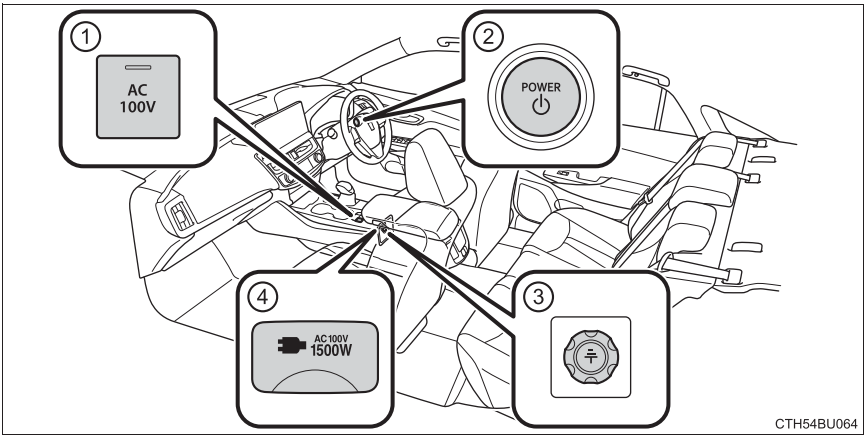
警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）★

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

◆ 各部の名称



① AC100V スイッチ
② パワースイッチ（→ P. 219）
③ アース端子
④ コンセント

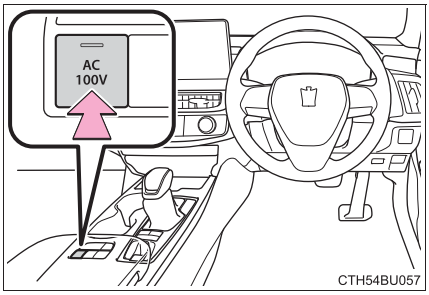
コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→ P. 219）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。

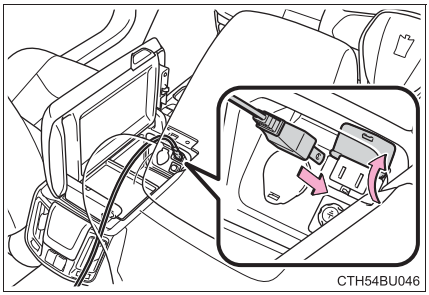


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。



コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例にふれるおそれがありますのでご注意ください。駐車または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計がAC100V で最大 1500W 以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなりますが、故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●各電気製品の取り扱い説明書に記載されている注意事項に従ってください。

●一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。

・走行中の振動による電気製品の故障
・車室内の温度変化※ による電気製品の故障または作動不良
・車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※ 天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■アクセサリーコンセントについて

●コンセントは車室内で電気製品を使用するための装備です。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

●電気製品の電源プラグを抜き、コンセントの使用電力が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。

●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 128）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行するなどして駆動用電池を温めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 60Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをPから切りかえないでください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
  状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
  過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 42）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→ P. 493）

■接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。

■特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

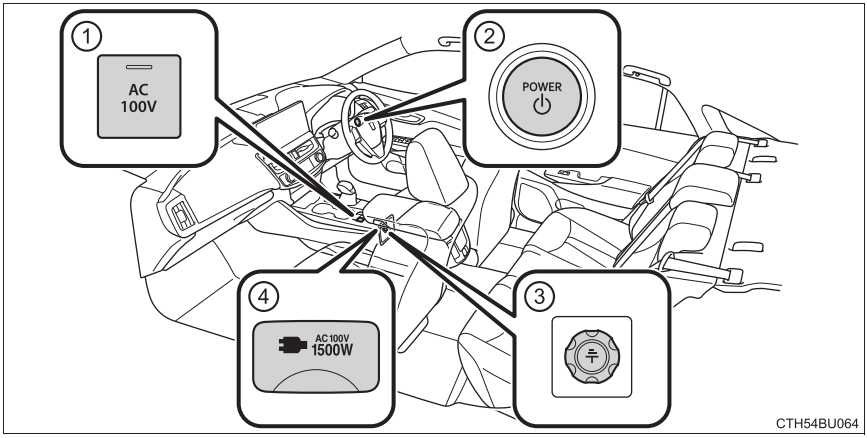
■特に外気温が低いとき

駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行するなどして駆動用電池をあたためてから使用してください。

非常時給電システム★

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

◆ 各部の名称



① AC100V スイッチ

② パワースイッチ（→ P. 219）

③ アース端子

④ コンセント

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

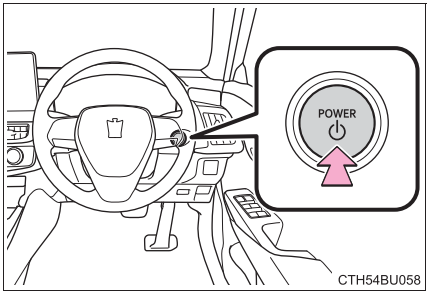
- パーキングブレーキがかかっていること
- ヘッドランプなどが OFF になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

  輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やトランク内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること

非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON モードにする

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押すと、非常時給電システムは使用できません。



2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

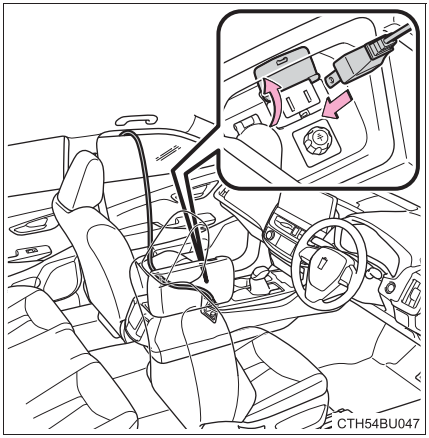
電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

電気製品が接続されていることがわかるように窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。

窓ガラスを上昇させるときはパワーウィンドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないように隙間を確保してください。（→ P. 197）



非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1. 使用している電気製品の電源を OFF にする
2. AC100V スイッチを押して OFF にする
3. コンセントから電源プラグを取りはずす
4. コンセントのフタを閉める
5. パワースイッチを OFF にする

知識

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例にふれるおそれがありますのでご注意ください。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■非常時給電システムについて

●AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止します。

●使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
この場合、保護機能が働き、給電機能が停止します。

●定格消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

●長時間給電直後には、動力性能や燃費などが一時的に悪化することがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

●給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

・電気製品の電源プラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかを確認して、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・駆動用電池の残量を確認してください。（→ P. 128）残量が少ない場合は、駆動用電池の残量を回復させ、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・車内が高温になると、給電システムを保護するため給電機能が停止することがあります。その場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。
・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてからパワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行するなどして駆動用電池をあたためてから使用してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされていない場合、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに下記のメッセージが表示されたとき

・「燃料の残量低下により給電停止しました」
燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を給油後、再度非常時給電モードを起動することが可能になります。ガソリンスタンドで給油することをおすすめします。

・「シフトポジション切りかえにより給電停止しました」
シフトレバーがPから切りかわったため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 60Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキー（→ P. 136）のみでドアの施錠・解錠ができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません　キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に該当する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをＰから切りかえないでください。

●非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、給油や洗車は行わないでください。

●非常時給電システムの使用中は、お子様や介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。
エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

警告

- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
  状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
  過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 42）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。

■接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
  コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線はしないでください。
- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたら、ただちに使用を中止してください。

■非常時給電システムの使用中

長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

■特に外気温が高いとき

- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてからパワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
- 給電システムを保護するため給電機能が停止することがあります。その場合は車両を日陰等へ移動したり、外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。

⚠注意

■特に外気温が低いとき

●駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行するなどして駆動用電池をあたためてから使用してください。

●排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....506
内装の手入れ.....511
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 515
ガレージジャッキ.....519
エンジンルームカバー 520
ウォッシャー液の補充.....521
タイヤについて.....523
タイヤ空気圧について 534
エアコンフィルターの
交換 536
駆動用電池冷却用吸入口／
フィルターの清掃 539
電子キーの電池交換.....543
ヒューズの点検・交換.....546
電球（バルブ）の交換.....550

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコート

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 158）

■ホイール・ホイールキャップについて

●メッキ用クリーナーを使用しないでください。ホイールが変色するおそれがあります。

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

■ワイパーを立てるときは

→ P. 265

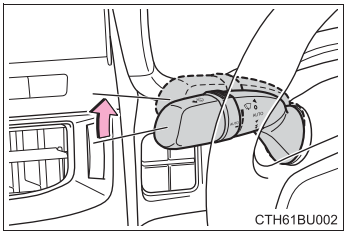
警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。傷がついた場合はブラインドスポットモニターを使用せず、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

・ホイールの補修を行った場合、補修箇所が目立つおそれがあります。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→ P. 260）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

⚠注意

■高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - ・駆動系部品
  - ・ステアリング部品
  - ・サスペンション部品
  - ・ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れ

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■デジタルインナーミラー★のお手入れについて

→ P. 189

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**車両への水の浸入**

●床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 72）
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 31）
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→ P. 472）をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート・デジタルインナーミラー★・ハンドル以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート・デジタルインナーミラー★：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 272）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

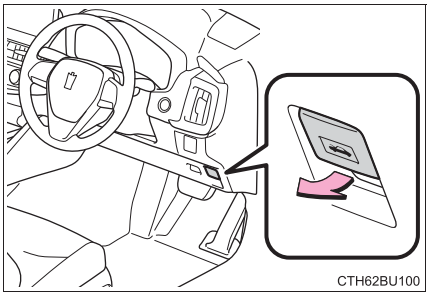
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

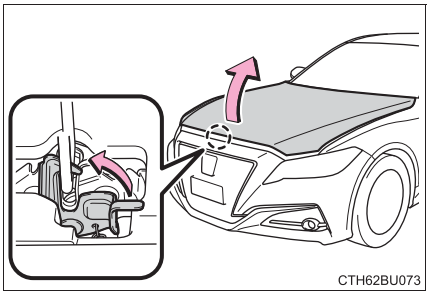
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



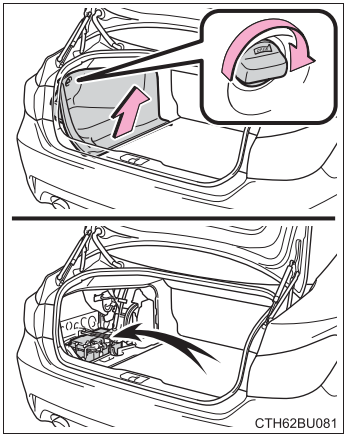
知識

■ボンネット開警告ブザー

ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

■補機バッテリーについて

●この車両の補機バッテリーはトランク（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。



●補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 619）

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**修理・車検・整備点検をする場合は**

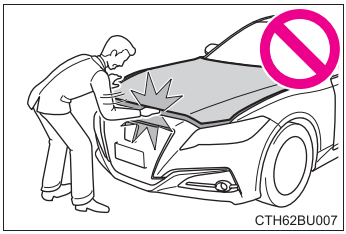
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**エンジンルーム点検後の確認**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。


CTH62BU007

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

→ P. 623

⚠注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

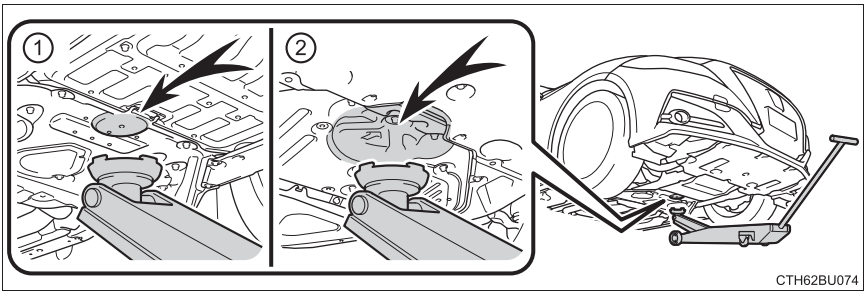
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

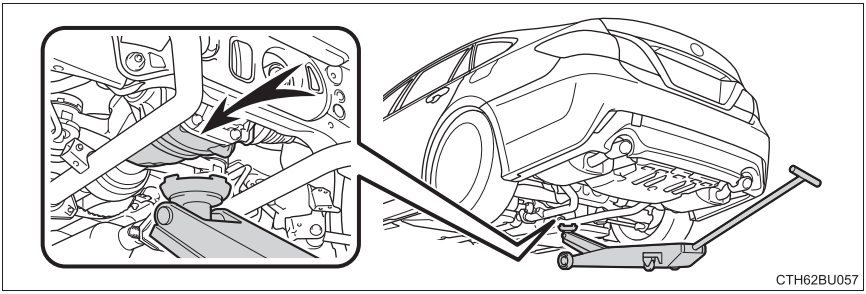
◆ フロント側



① FR 車（後輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

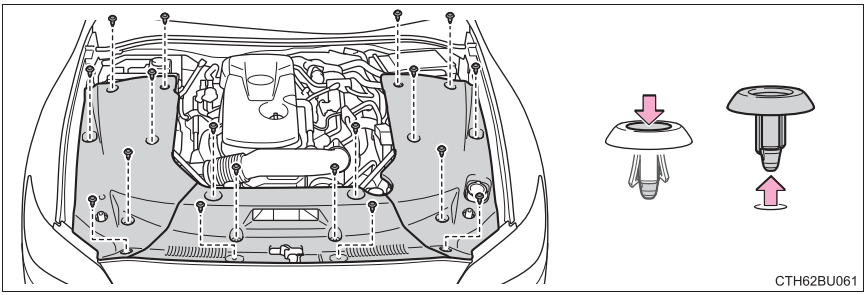
◆ リヤ側



エンジンルームカバー

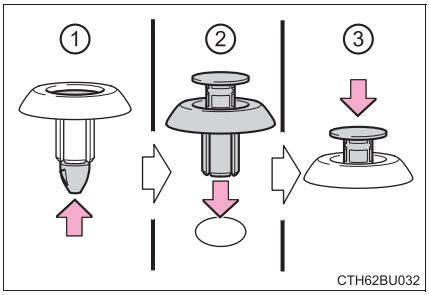
ヒューズの交換・点検などを行うとき作業がしづらい場合に取りはずします。

エンジンルームカバーの取りはずし方



クリップの取り付け方

① 中央部分を押し上げる
② 挿し込む
③ クリップ中央部分を押す



警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■エンジンルームカバー取り付け後の確認

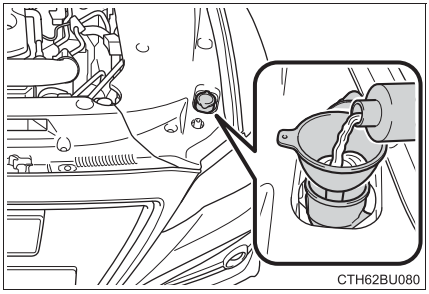
もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

次の場合、ウォッシャー液を補充してください。

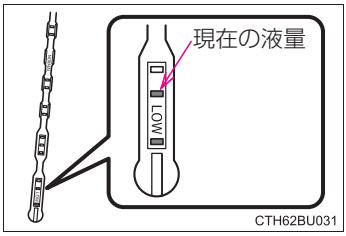
- ウォッシャー液が出ない
- 液面がゲージのLOWの位置に近づいたとき


CTH62BU080

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



CTH62BU031

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、4WD 車は 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

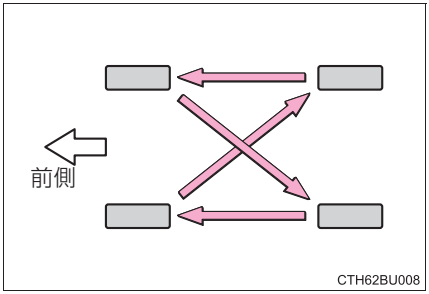
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システム★の初期化を確実に行ってください。

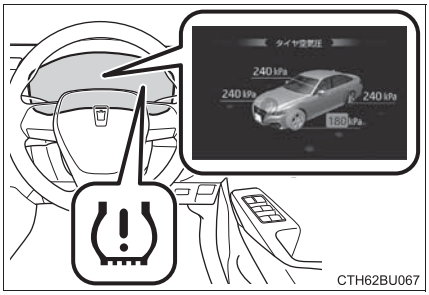


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤ空気圧警報システム★

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→ P. 572）



CTH62BU067

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→ P. 97）

CTH62BU066

イラストの意匠は装備などにより異なります。

◆ 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→ P. 526）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき（→ P. 526）

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上ハイブリッドシステムを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 527, 643）

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 219）

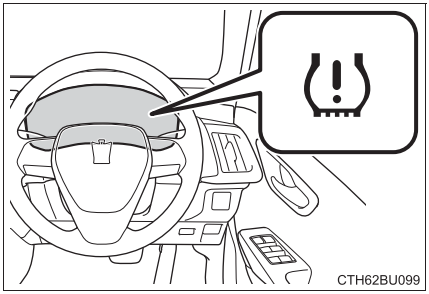
4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

5 メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して 🚗 を選択し、OK を長押しする

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して「TPWS」を選択し、OK を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して「初期化」を選択し、タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまで OK を押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が “---” になり、タイヤの位置判定を開始します。



8 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。
約40km/h以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

◆ ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

- 新しいバルブ／送信機を装着したとき
- すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

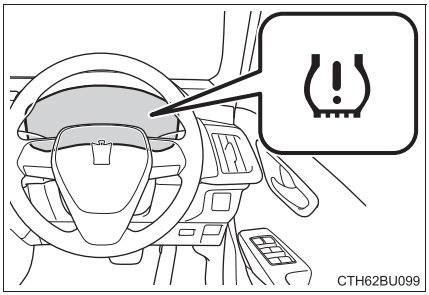
2 ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 219）

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する（→ P. 105）

4 メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して 🚗 を選択し、OK を長押しする

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して「TPWS」を選択し、OK を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して「センサ登録」を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅するまで OK を押し続ける



センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧表示が “---” になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。

7 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→ P. 525）

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

8 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

約40km/h以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

9 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→ P. 525）

知識

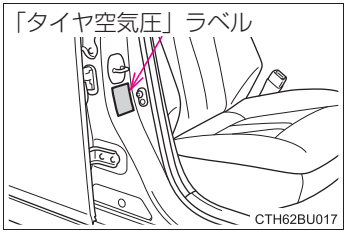
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
215/55R17 94V	240（2.4）	
225/45R18 91W	240（2.4）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.3kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

●パワースイッチをONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで約3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■低扁平タイヤについて（18 インチタイヤ装着車）

●低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

●雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作するときは

●通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。

●車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

●初期化中にパワースイッチをOFFにしてしまった場合は、次回ONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤って初期化操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

■初期化がうまくいかないとき

●次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。

・約 40km/h 以上を維持して走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

●初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ID コードの登録をするときは

●通常は約30分以内の走行で登録が完了します。すでにIDコードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。

●ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

●ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。

●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回パワースイッチを ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。

・走行前に約 15 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上を維持して走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

⚠注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
  トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■低扁平タイヤについて（18 インチタイヤ装着車）

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 643）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正がどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

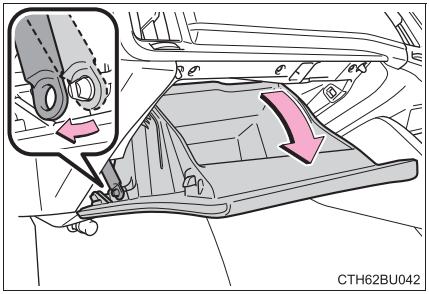
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

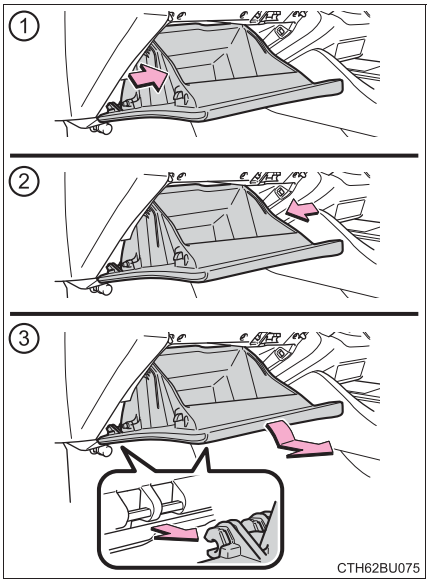


3 グローブボックスを取りはずす

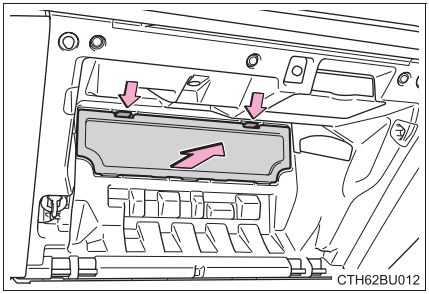
① 左側面を内側に引いて上部のツメをはずす

② 右側も同様にツメをはずす

③ 下部のツメを下方向に引きながらはずして取りはずす



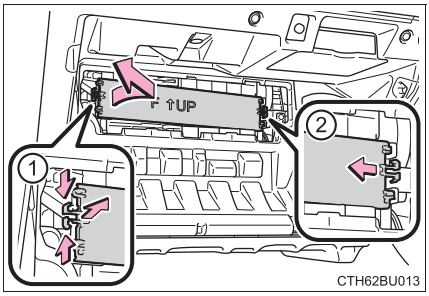
4 ツメを押してロックをはずし、パネルを取りはずす



5 フィルターカバーを取りはずす

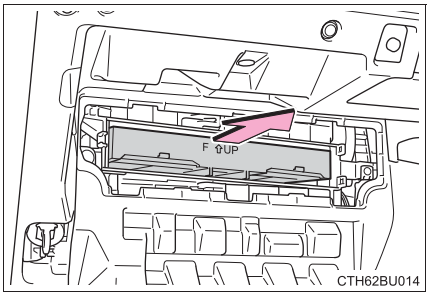
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



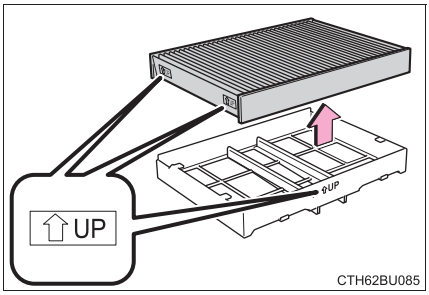
6 フィルターケースを取りはずす

フィルターの上に異物が付着している場合があります。



7 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km［7,500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

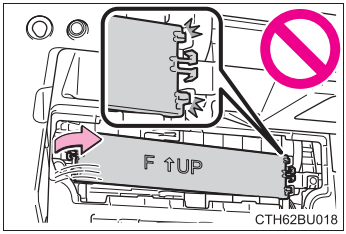
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。
(→ P. 542)

ほこりを取り除ききれないときは

次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

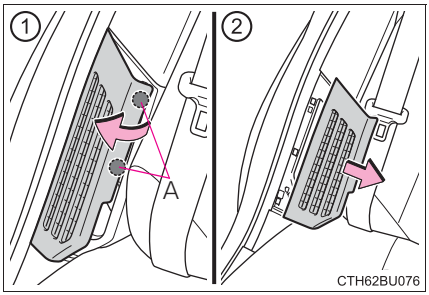
1 リヤシートの背もたれを一番うしろまで倒す（リヤパワーシート装着車）（→ P. 165）

2 パワースイッチを OFF にする

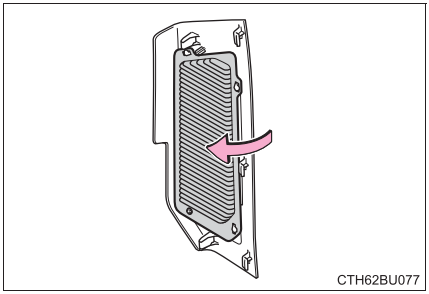
3 吸入口カバーを取りはずす

① 吸入口カバーとシートとの間に指を入れ、吸入口カバーを手前に引いて、図で示す 2ヶ所のツメ（A）をはずす

② 吸入口カバーを取りはずす

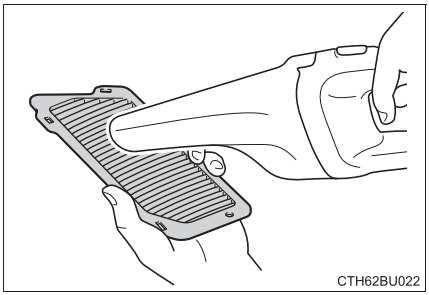


4 フィルターを取りはずす



5 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

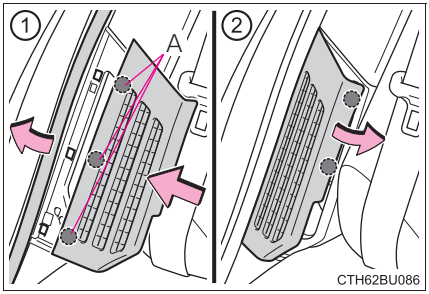
フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。



6 フィルターをもと通りに取り付け、以下の手順でカバーを取り付ける

① ラバーを持ちながら、図で示す3ヶ所のツメ（A）に合わせてカバーを差し込む

② カバーをはめる



知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

●吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。

●誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

●吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。（→ P. 540）

●清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。
始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

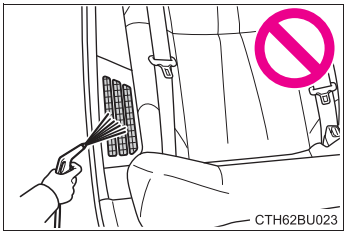
■吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

注意

■吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。
エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

- 吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
  フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

電子キーの電池交換

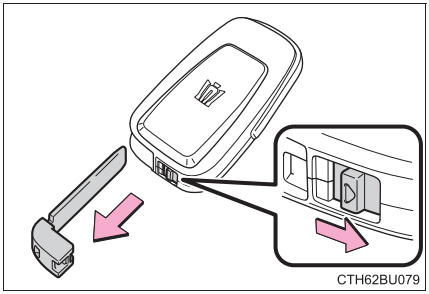
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。
電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

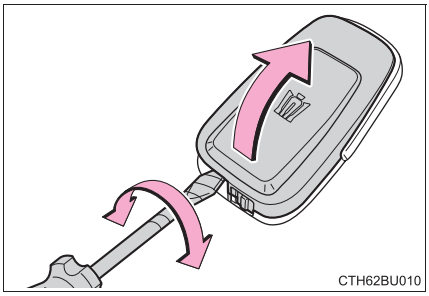
電池交換のしかた

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

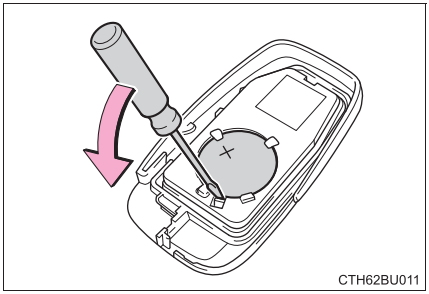
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 カバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む

5 ボタン（🔒または🔓）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

知識

■電池を交換するときは

電池などの小さな部品を紛失しないようにしてください。

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキー★の電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、トヨタ販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。
無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

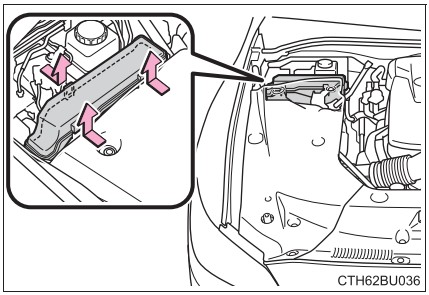
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

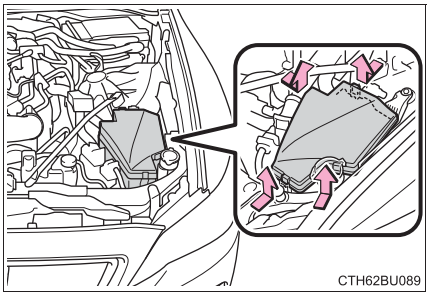
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）



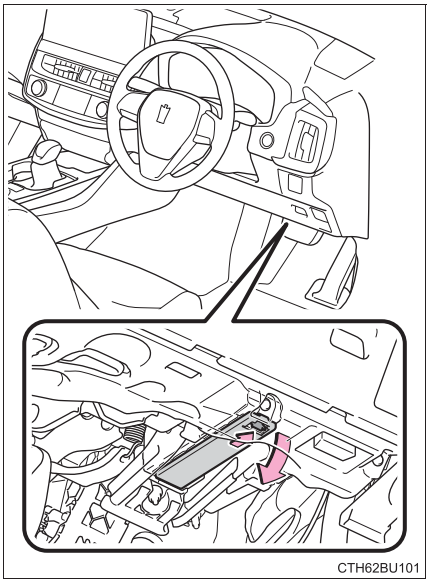
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム（助手席側）



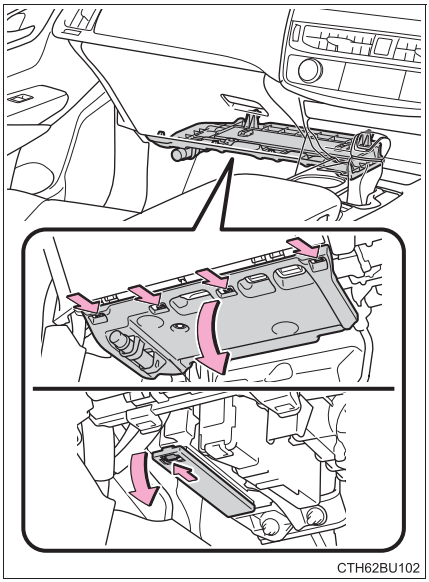
エンジンルームカバーを取りはずし（→ P. 520）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元



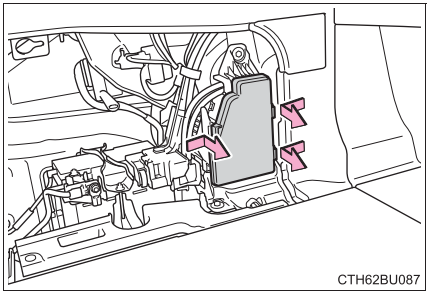
ツメを押しながら、カバーを取りはずす
取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ 助手席足元



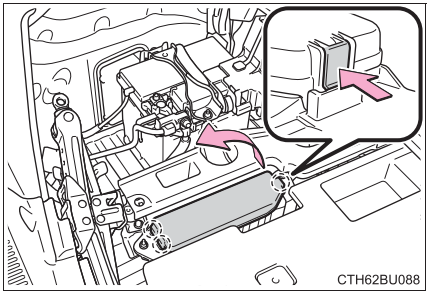
足元のカバーを取りはずしツメを押しながら、カバーを取りはずす
取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ トランク内（1）



左側のカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

▶ トランク内（2）★

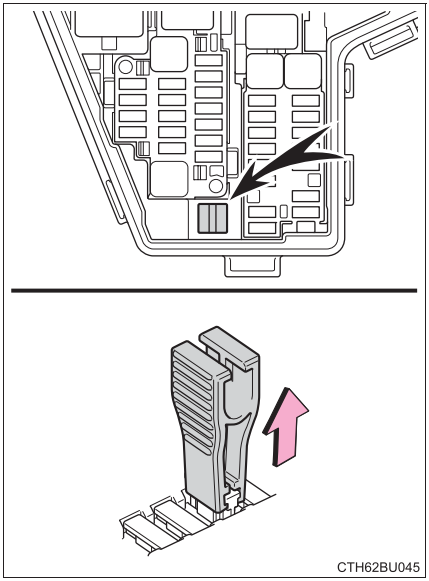


ラゲージマットと左側のカバーを取りはずし（→ P. 516）、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 ヒューズを引き抜く

エンジンルーム内のヒューズボックス（助手席側）にあるヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

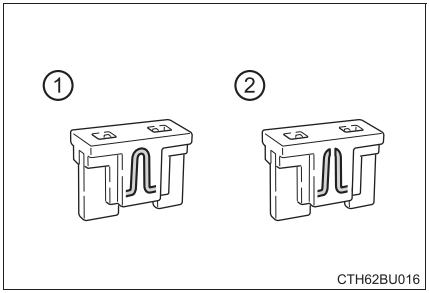


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 550）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■**車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■**ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

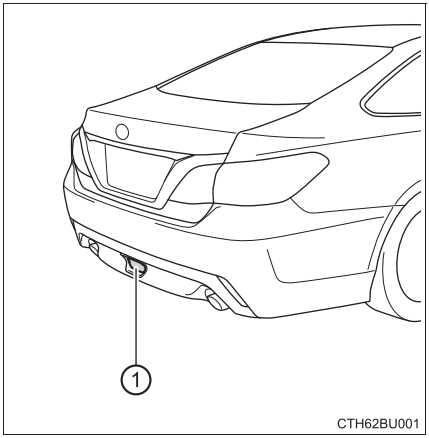
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 644）

バルブ位置

① リヤフォグランプ★

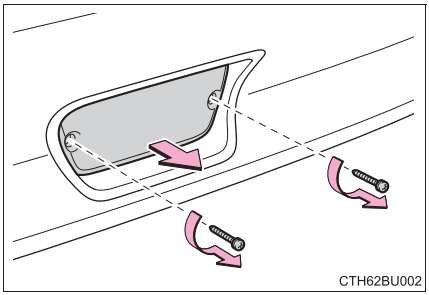


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

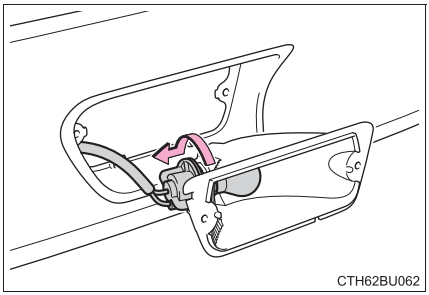
電球交換のしかた

■ リヤフォグランプ★

1 ネジ（2 本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす

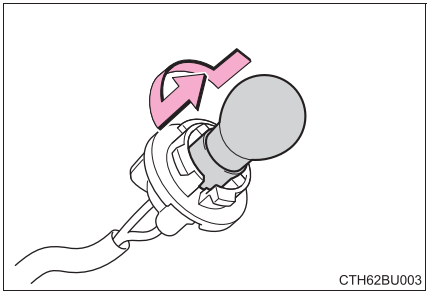

CTH62BU002

2 ランプ本体を取り出し、ソケットを左にまわして取りはずす


CTH62BU062

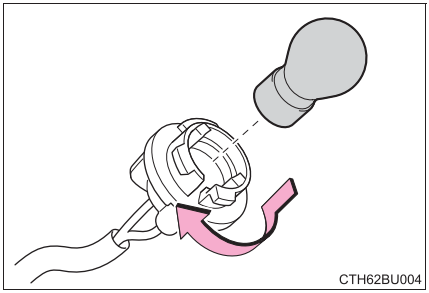
3 電球を取りはずす

電球を押し込みながら左にまわして取りはずします。


CTH62BU003

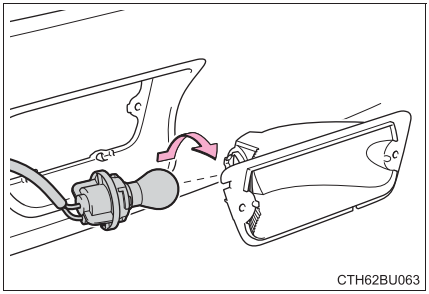
4 新しい電球を取り付ける

電球を押し込みながら右にまわして取り付けます。

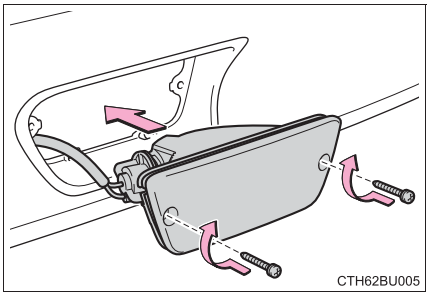

CTH62BU004

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5 ソケットを右にまわして取り付ける


CTH62BU063

6 ランプ本体とレンズ部分をもとの位置にもどし、ネジ(2 本)を取り付ける


CTH62BU005

■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／ LED デイライト★
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

リヤフォグランプ★以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

警告

■電球を交換するとき

- 必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....556
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....557
発炎筒.....558
車両を緊急停止するには.....560
水没・冠水したときは.....561

7-2. 緊急時の対処法

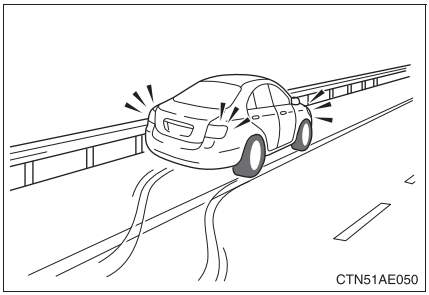
けん引について.....562
警告灯がついたときは.....570
警告メッセージが
表示されたときは.....579
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）.....585
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....603
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....614
電子キーが正常に
働かないときは.....616
補機バッテリーが
あがったときは.....619
オーバーヒートした
ときは.....627
スタックしたときは.....633

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

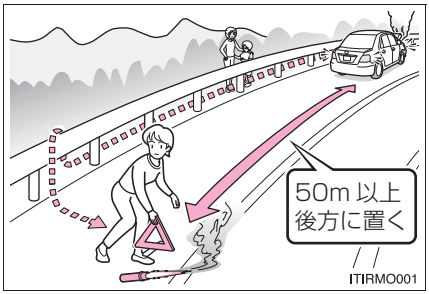
非常点滅灯（→ P. 557）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 558）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

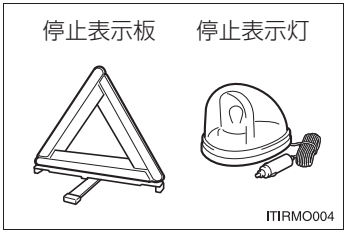


知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

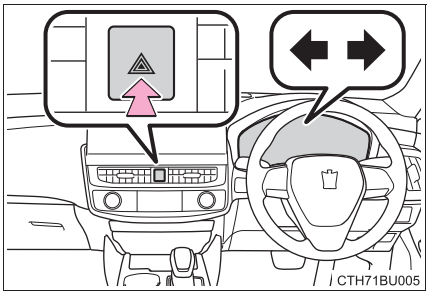


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

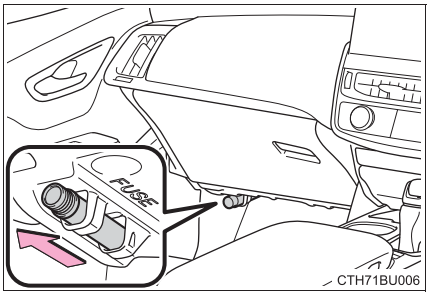
●ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

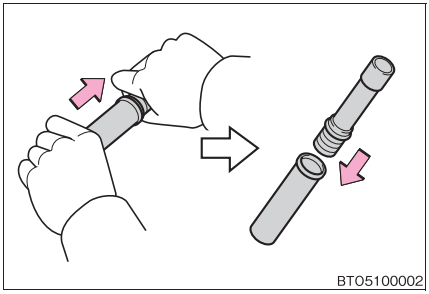
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

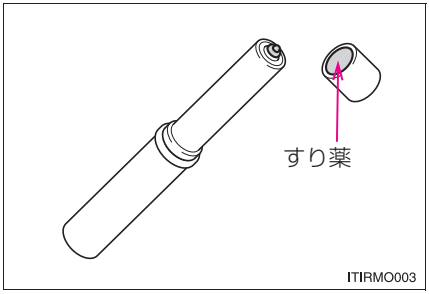


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

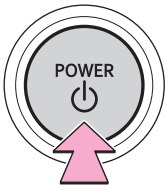
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CTH71BU004

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡にいたるおそれがあります。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。車内外の水圧差がなくなるまで車内に浸水すると、車内からドアを開けられるようになります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、再始動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマーの使用について

ドアガラスが合わせガラスの場合、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくは販売店にお問合せください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

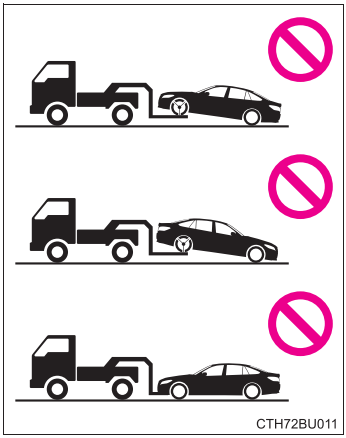
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**レッカー車でけん引するとき**

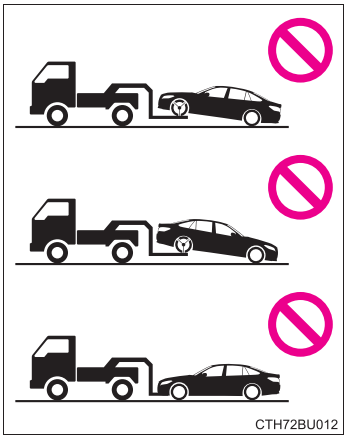
▶FR 車（後輪駆動）

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。


CTH72BU011

▶4WD 車（4 輪駆動）

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。


CTH72BU012

警告

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パワースイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

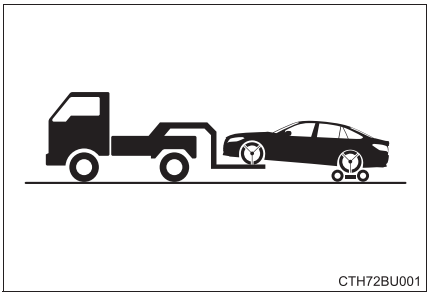
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- エンジン警告灯が点灯し、車が動かない
- 異常な音がする

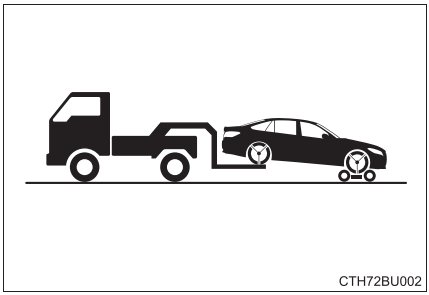
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

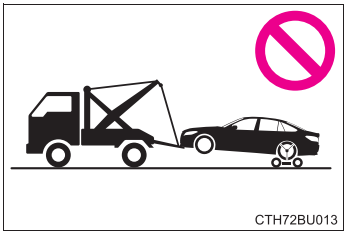


台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

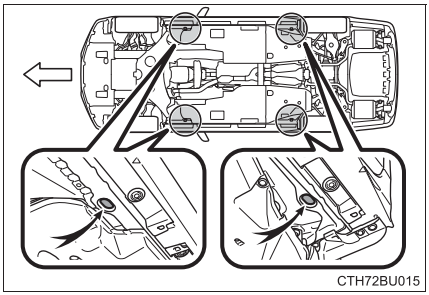
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

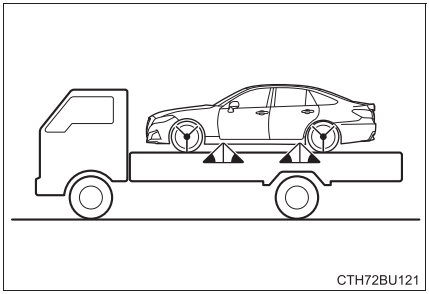


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する


CTH72BU015

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°　になるように固縛する


CTH72BU121

⚠ 注意

■車両運搬車に車を固定するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

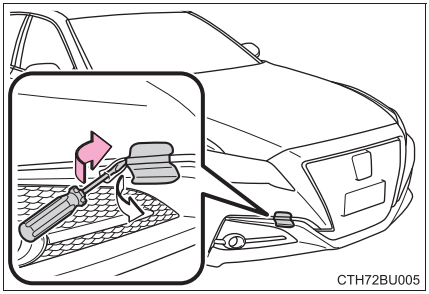
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

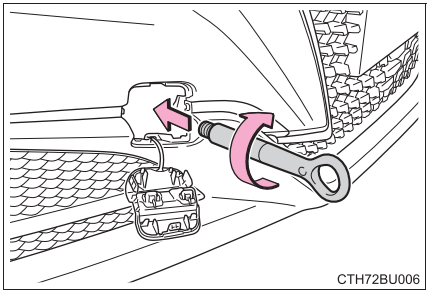
1 トランク内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す
（→ P. 587, 604）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

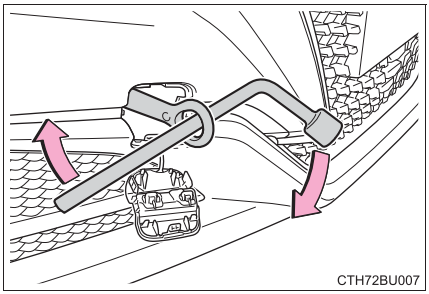
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

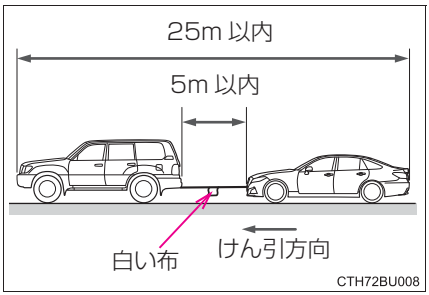


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。（→ P. 379）

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→ P. 238）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 235

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

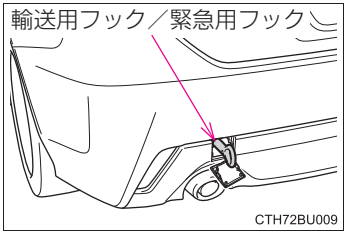
■ホイールナットレンチについて

応急用タイヤ装着車：トランクに搭載されています。（→ P. 603）

タイヤパンク応急修理キット装着車：トヨタ販売店で購入することができます。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



■リヤ側けん引フックを取り付けるには

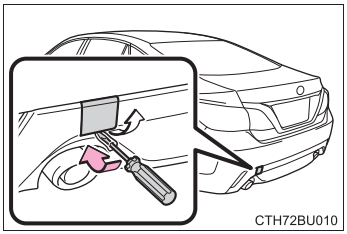
輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す
（→ P. 587, 604）

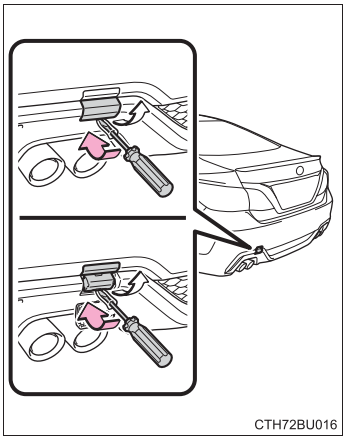
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶タイプ A



▶タイプ B



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める（→ P. 567）

4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける
（→ P. 567）

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	高水温警告灯 ※1（警告ブザー） エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→ P. 627）に従ってください。**
	充電警告灯 ※1（警告ブザー） 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	油圧警告灯 ※1（警告ブザー） エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯（警告ブザー） ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

警告灯	警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー） ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ポップアップフード警告灯（警告ブザー） ポップアップフードが作動した **→ ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。** ポップアップフードの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常（警告ブザー） ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯／ドライブスタートコントロール警告灯／ PKSB 警告灯 ※1（警告ブザー） ブザーが鳴った場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ・速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制★が作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブザーが鳴らなかった場合： ・アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**
（赤色／黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※2） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**
REAR	**リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1（警告ブザー ※3）** リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	タイヤ空気圧警告灯★ 警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・自然要因 ・タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→ P. 576）に従ってください。**
（橙色）	**LTA 表示灯 ※1（警告ブザー）** LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 302）**
OFF （点灯）	**クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 358）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告内容・対処方法
RCTA OFF （点灯）	**RCTA OFF 表示灯 ※1★（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→ P. 354）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 368）**
RCD OFF （点灯）	**RCD OFF 表示灯 ※1★（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： RCD（リヤカメラディテクション）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： カメラの汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 375, 579）**
OFF （点灯）	**PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 384, 579）**
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 275, 579）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 290**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告内容・対処方法
	スリップ表示灯 警告灯が点灯した場合： ・VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ・TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ・ABS（アンチロックブレーキシステム）の異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ・VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）システム★の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合： ABS・VSC・TRC が作動していることを表します。
（点滅）	**パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー ※4）** パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
HOLD （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）** ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※3 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※4 パーキングブレーキをかけたまま車速が 5km/h をこえると、警告ブザーが鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→ P. 585, 603

パンクしていないときは：
パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。（→ P. 525）

初期化を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■応急用タイヤ★に交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況（タイヤ空気圧警報システム装着車）

→ P. 528

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（タイヤ空気圧警報システム装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はスペアタイヤに交換するかタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤを修理してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合（タイヤ空気圧警報システム装着車）

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■**タイヤ空気圧警報システムについての注意（タイヤ空気圧警報システム装着車）**

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→ P. 525）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→ P. 570）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、個別の専用警告灯表示を行います。

- ●ABS の異常
  ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 571）
- ●ブレーキ系統の異常
  電子制御ブレーキ警告灯が点灯します。（→ P. 570）
- ●タイヤ空気圧警報システムの異常（タイヤ空気圧警報システム装着車）
  タイヤ空気圧警告灯が点灯します。（→ P. 572）
- ●燃料の残量が少なくなった
  燃料残量警告灯が点灯します。（→ P. 571）

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認を指示する警告メッセージが表示されたとき

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。
ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・「故障のためブレーキ力が低下　安全な場所に停車して取扱書を確認」
・「エンジン油圧不足　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
・「充電システム故障　安全な場所に停車し取扱書を確認」
・「安全な場所に停車して取扱書を確認」
・「P レンジに入れて取扱書を確認」
・「シフトシステム故障　シフト切りかえ不可　安全な場所まで走行し停車」
・「シフトシステム故障　走行を継続できません」

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリー系故障」
・「アクセル系故障」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」

●「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法（→ P. 627）に従ってください。

●「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたときは、対処方法（→ P. 581）に従ってください。

●「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書を確認ください」が表示されたときは、対処方法（→ P. 581）に従ってください。

●8GR-FXS エンジン搭載車：「AT オイル高温　取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法（→ P. 234）に従ってください。

■「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法→ P. 629

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたとき

フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。

●駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は、P. 539の要領で清掃してください。

●駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書を確認ください」が表示されたとき

●数秒後※に表示が消えたときは
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは
「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 619）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「アクセルを戻してください」が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●ドライブスタートコントロール（→ P. 207）

●プラスサポート（販売店装着オプション）（→ P. 410）

■「安全に停車して P レンジに入れてください」が表示されたとき（8GR-FXS エンジン搭載車）

ハイブリッドシステムの異常、またはシフトレバーが長時間 N になっていることが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、表示が消えるまでシフトレバーを P にしてください。表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「駆動用電池保護が必要　N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。
シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要　P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

一定時間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。
車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。
駐車時は P にしてください。

■「N レンジです　アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください」が表示されたとき

シフトレバーがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。
アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。
そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。
アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を Off しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。
次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「新しいキーが登録されました　詳しくは販売店に問い合わせください」が表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から開錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 1 週間程続きます。
電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

■「ヘッドランプシステム故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●ヘッドランプオートレベリングシステム

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 275, 570）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 275, 570）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) を再度設定してください。

■「エンジンオイル量不足　補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。
また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■警告ブザーについて

→ P. 576

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」がひんぱんに表示されるとき**

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■**「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認ください」がひんぱんに表示されるとき**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■**「駆動用電池の点検を販売店で受けてください」が表示されたとき**

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。
- 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 586）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■タイヤがパンクしたときは

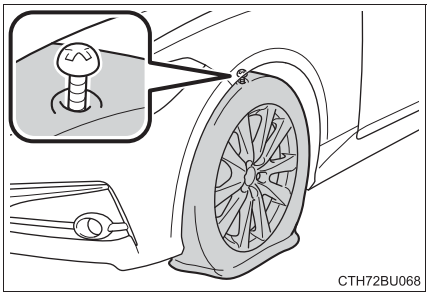
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをＰにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。



・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

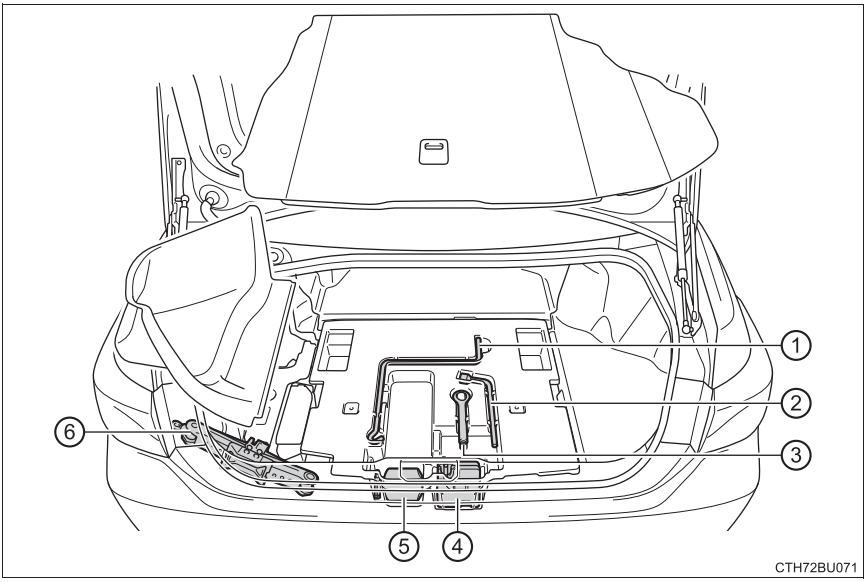
■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



イラストの意匠は装備などにより異なります。

① ジャッキハンドル ※1

② ホイールナットレンチ ※1

③ けん引フック

④ タイヤパンク応急修理キット（コンプレッサー）

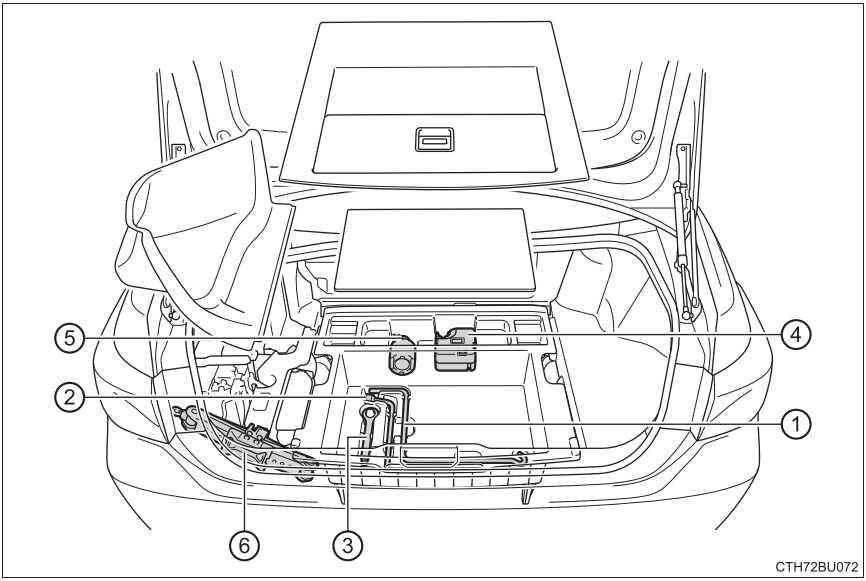
⑤ タイヤパンク応急修理キット（ボトル）

⑥ ジャッキ ※1, 2

※1 トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

※2 ジャッキの使い方（→ P. 603）

▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



イラストの意匠は装備などにより異なります。

① ジャッキハンドル ※1

② ホイールナットレンチ ※1

③ けん引フック

④ タイヤパンク応急修理キット（コンプレッサー）

⑤ タイヤパンク応急修理キット（ボトル）

⑥ ジャッキ ※1, 2

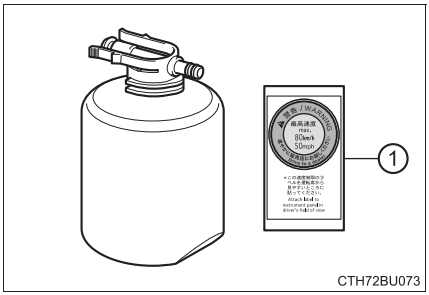
※1 トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

※2 ジャッキの使い方（→ P. 603）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

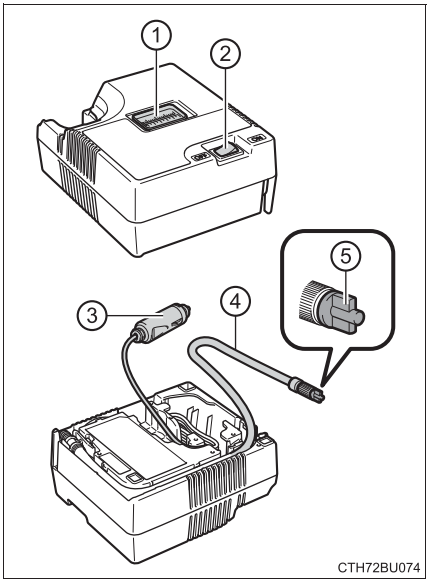
■ ボトル

① 速度制限ラベル



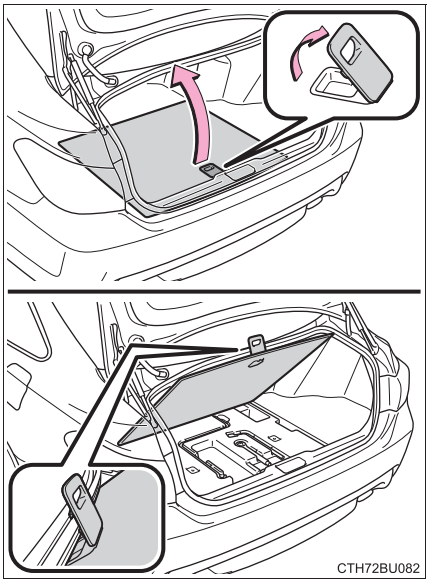
■ コンプレッサー

① 空気圧計
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ ホース
⑤ 空気逃がしキャップ

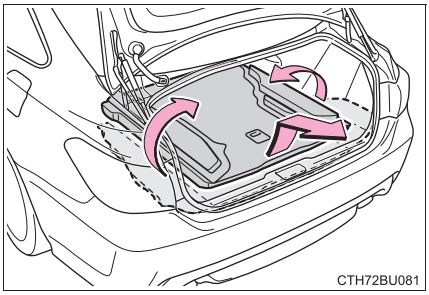


タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

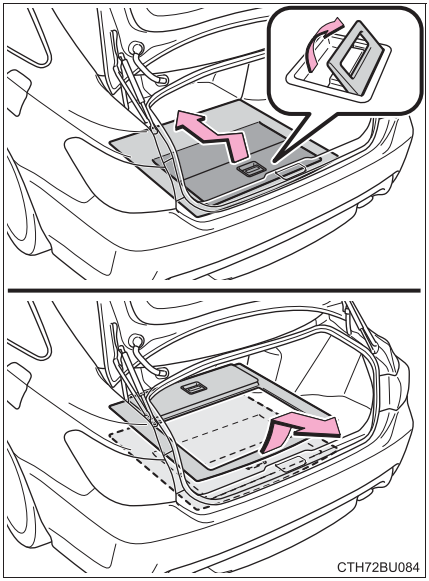
1 A25A-FXS エンジン搭載車（タイプ A）：フックを持ってラゲージマットを持ち上げて、フックを使ってラゲージマットを固定する



1 A25A-FXS エンジン搭載車（タイプ B）：ラゲージマットの左右を上方向に折り曲げて取りはずす

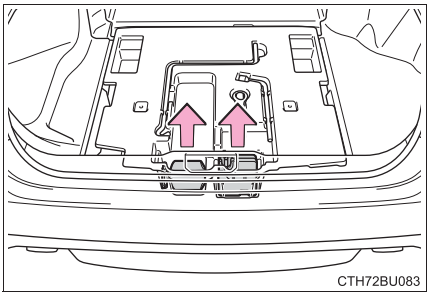


1 8GR-FXS　エンジン搭載車：レバーを持ち上げてラゲージマットを折りたたみ取りはずす

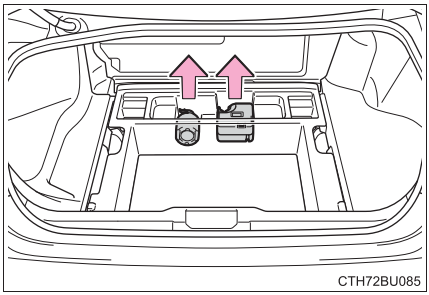


2 応急修理キットを取り出す

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

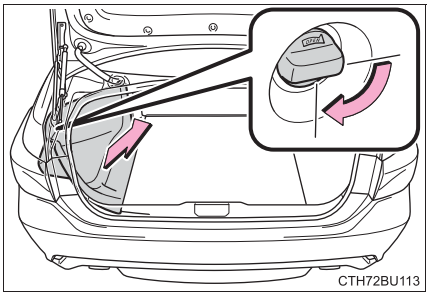


▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



ジャッキの取り出し方

1 カバーを取りはずす



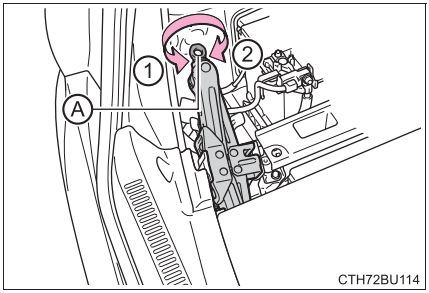
2 ジャッキを取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキのA部の穴にドライバーなどを挿入してゆるめてください。

ジャッキを収納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。

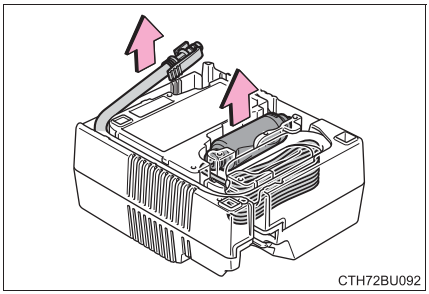


応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

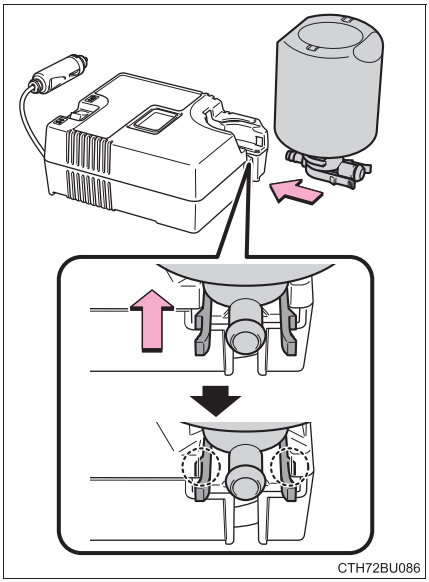
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 10 へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



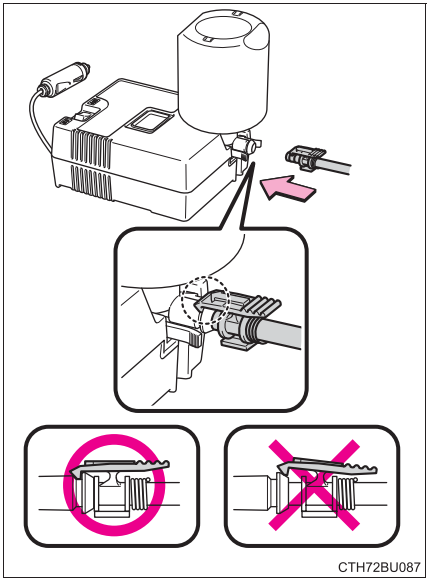
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

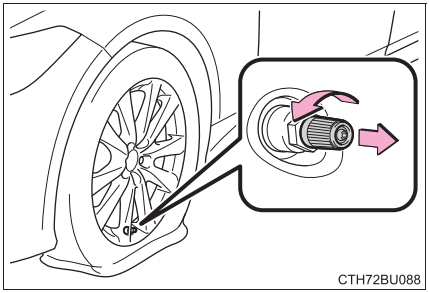


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

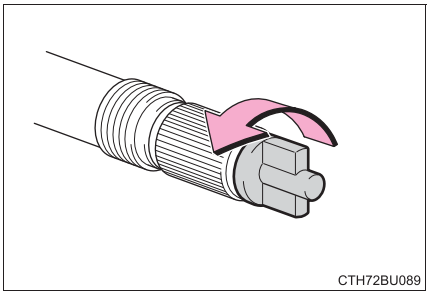


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



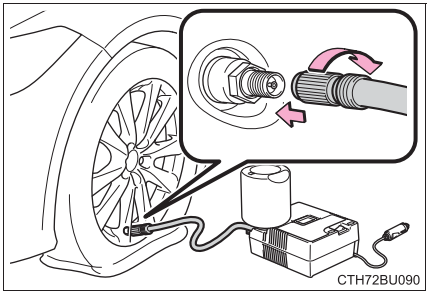
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

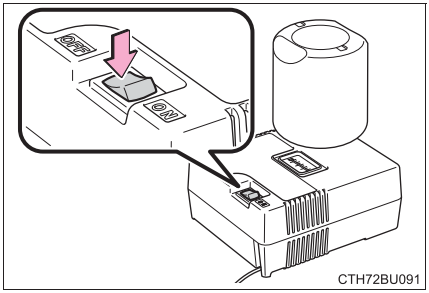


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

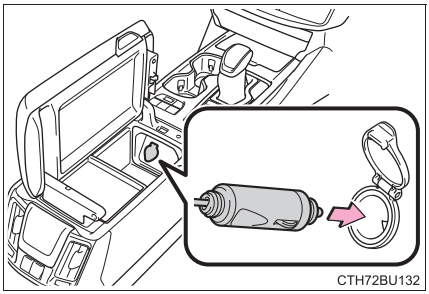

CTH72BU090

8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

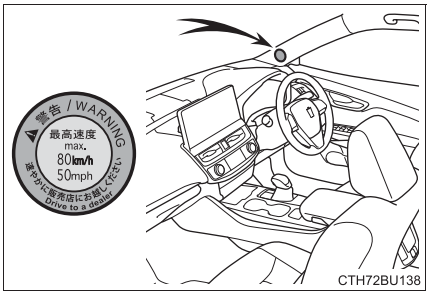


CTH72BU091

9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 468）


CTH72BU132

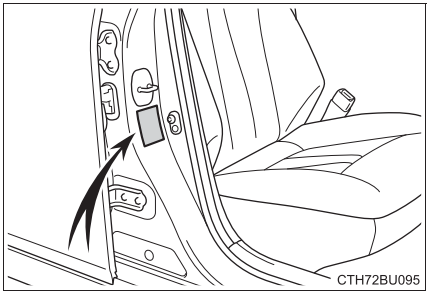
10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



CTH72BU138

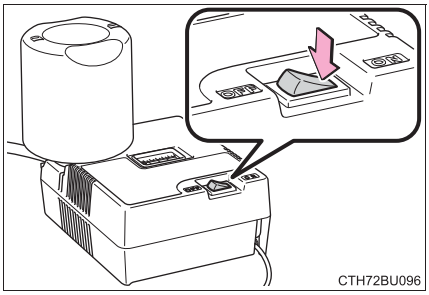
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 527）



12 ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 219）

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



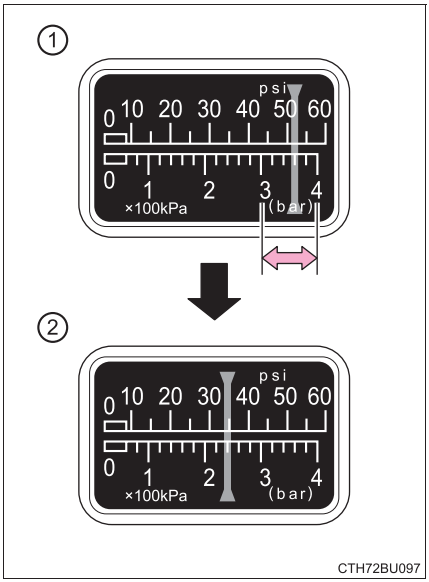
14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm^2) まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 599, 643）

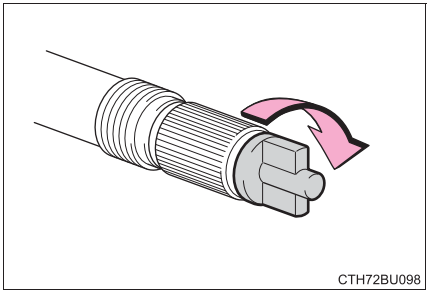
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

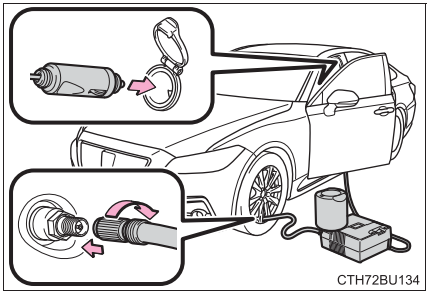


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。

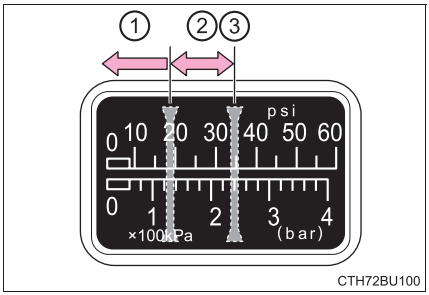


21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 22 へ

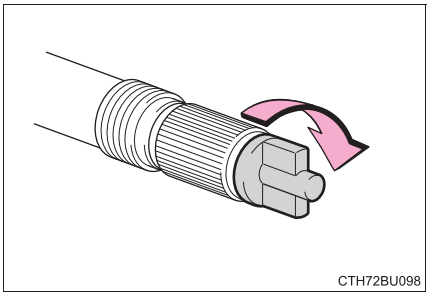
③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 527）の場合：手順 23 へ



22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて手順 20 から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

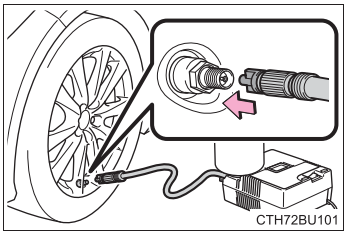
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急（パンク）修理キットを使用したとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 523 を参照してください）

警告

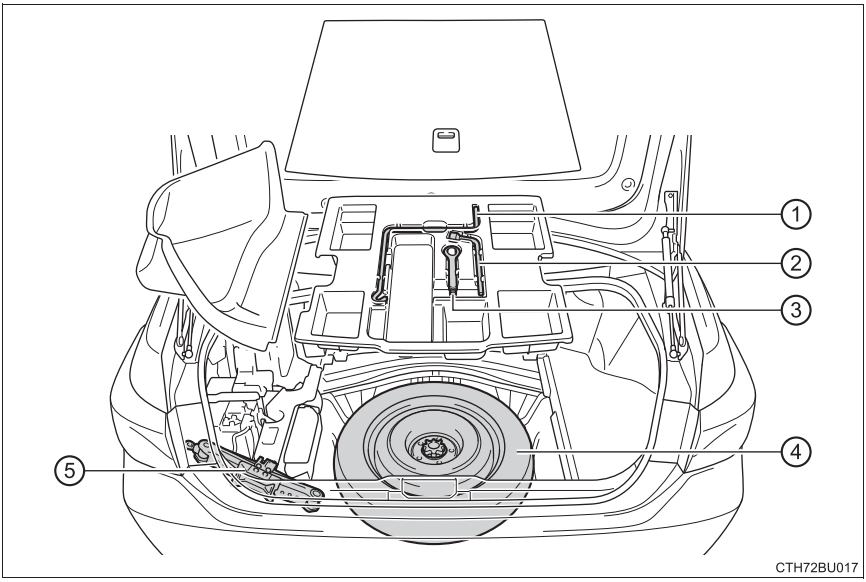
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 557）

工具とジャッキの位置



① ジャッキハンドル
② ホイールナットレンチ
③ けん引フック
④ 応急用タイヤ
⑤ ジャッキ

警告

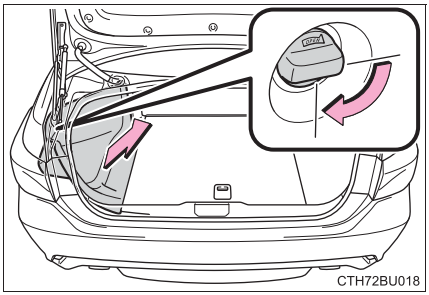
■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 カバーを取りはずす



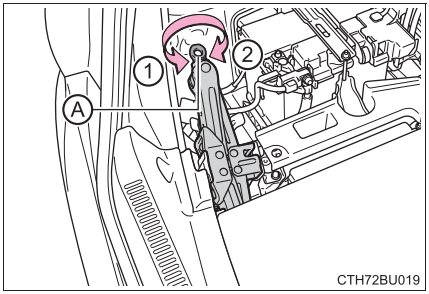
2 ジャッキを取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

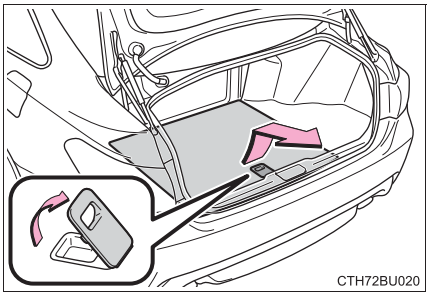
ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキのA部の穴にドライバーなどを挿入してゆるめてください。

ジャッキを収納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。

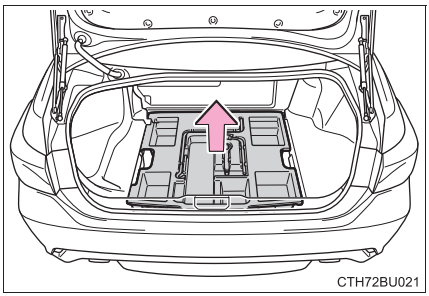


応急用タイヤの取り出し方

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げて取りはずす

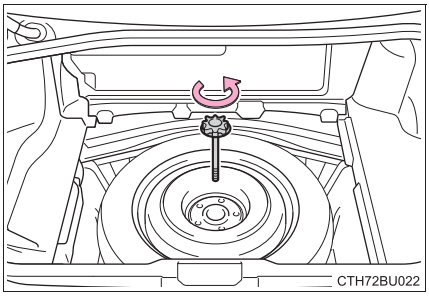

CTH72BU020

2 ツールトレイを取りはずす


CTH72BU021

3 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す

応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のホイールナットレンチを使用してください（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）。


CTH72BU022

警告

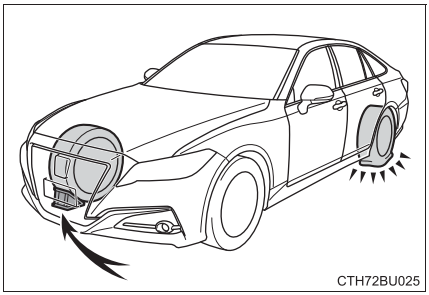
■**応急用タイヤを収納するとき**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

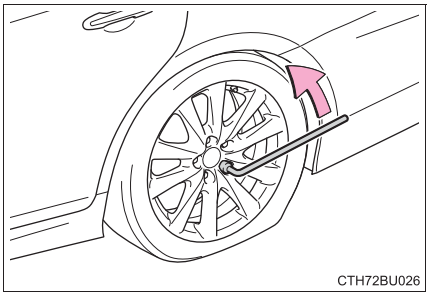
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

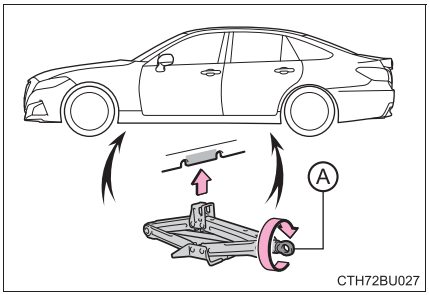

CTH72BU025

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

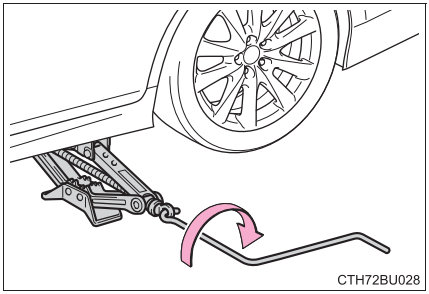

CTH72BU026

3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



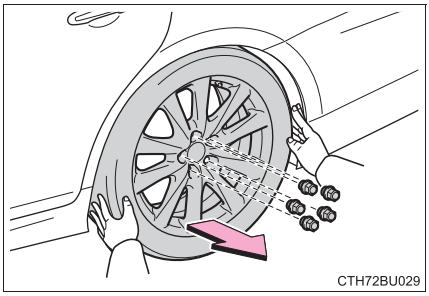
CTH72BU027

4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる


CTH72BU028

5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。


CTH72BU029

警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

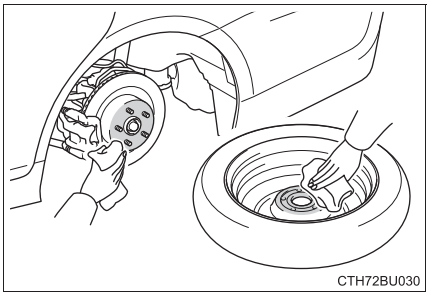
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

応急用タイヤの取り付け

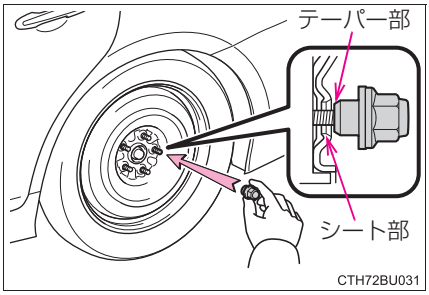
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


CTH72BU030

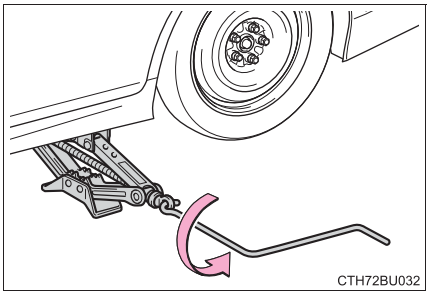
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



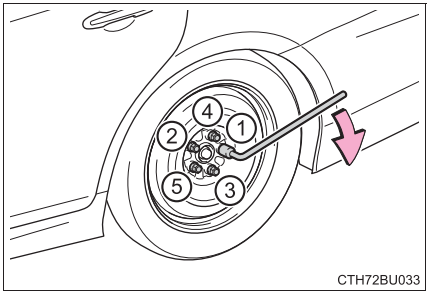
CTH72BU031

3 車体を下げる


CTH72BU032

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。
応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 643）

■応急用タイヤを使用するとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ送信機が装着されていません。指定の通常タイヤに交換し、正しい空気圧に調整するまではタイヤ空気圧警告灯は消灯しません。

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で後輪がパンクしたとき

1 前輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした後輪をはずした前輪に交換する

3 タイヤチェーンを後輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

警告

■**応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・VDIM
・VGRS
・NAVI・AI-AVS
・AHS（アダプティブハイビームシステム）
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・BSM（ブラインドスポットモニター）
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）
・タイヤ空気圧警報システム★
・クリアランスソナー
・バックガイドモニター★
・パノラミックビューモニター★
・ナビゲーションシステム

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→ P. 533

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 219）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 617）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 77）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 615）
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ－ 30 ℃以下）可能性があります。（→ P. 73, 221）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 619）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 516）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 619）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 516）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーがＰの位置にあることを確認する
3. パワースイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 159）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

■ ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 137）を使って次の操作ができます。

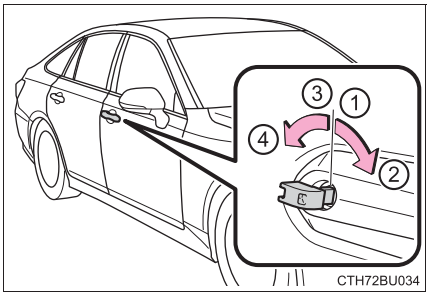
① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

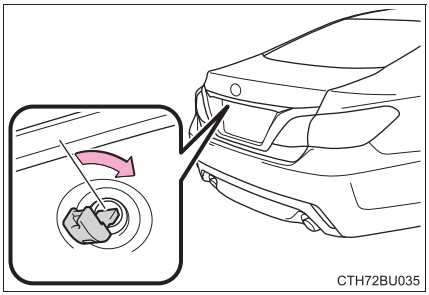
④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 645）



■ トランクの解錠

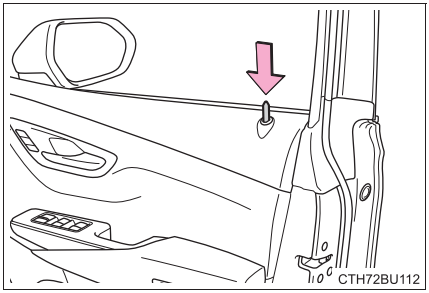
メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける（→ P. 79）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアの施錠

1 ドアを開けた状態でロックボタンを押し下げる



▶ フロント席ドア

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ リヤ席ドア

2 ドアを閉める

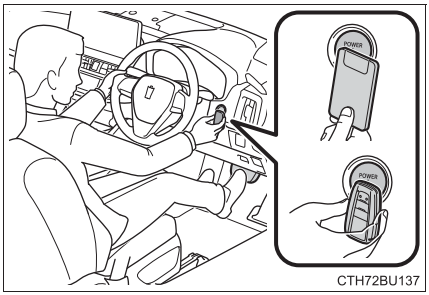
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのクラウンエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 543）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→ P. 78）

■パワースイッチのモードの切りかえについて

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 220）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→ P. 645）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→ P. 158）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

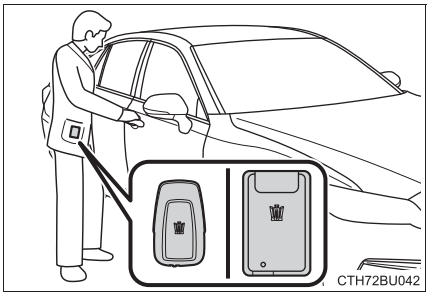
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

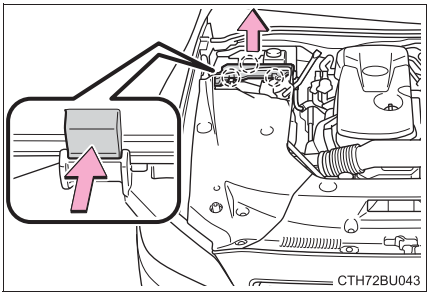
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 80)



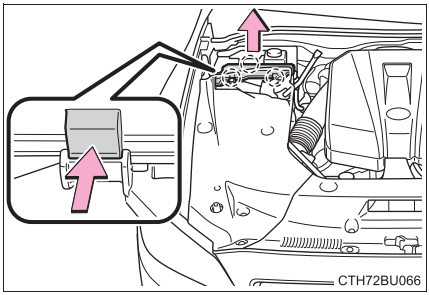
2 ボンネットを開けてヒューズボックスのカバーを取りはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げてはずします。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



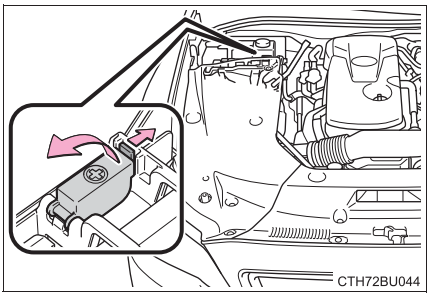
▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



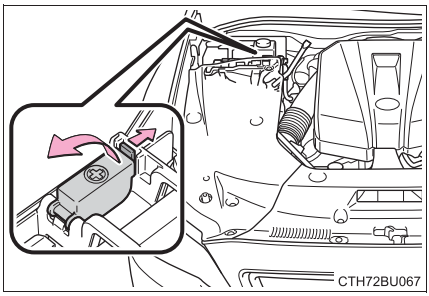
3 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

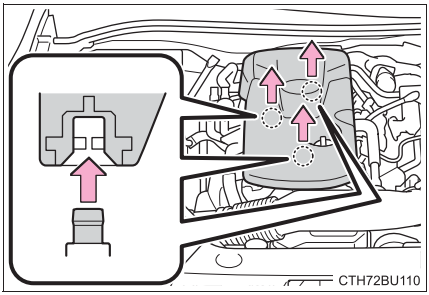


▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

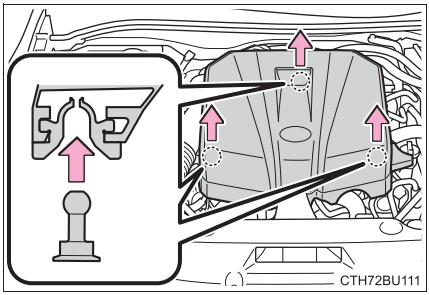


4 エンジンカバーをはずす

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

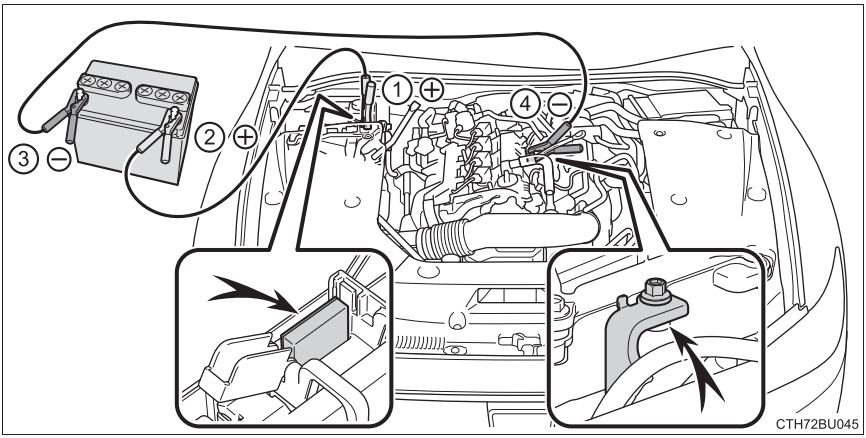


▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

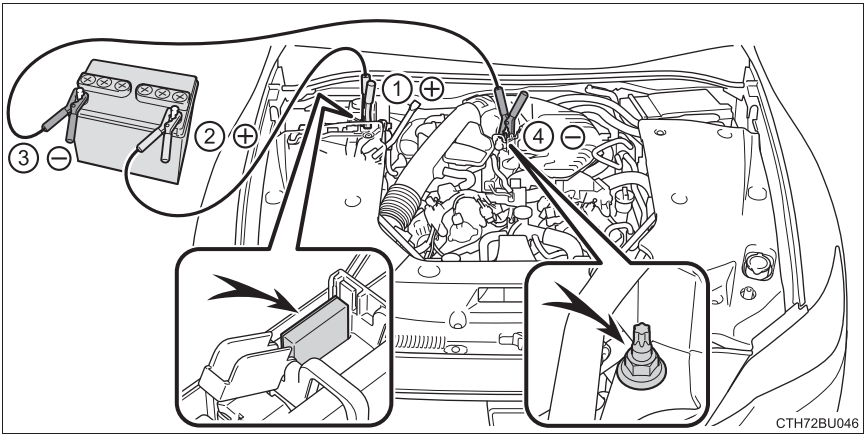


5 ブースターケーブルを次の順につなぐ

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

7 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

8 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

9 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

10 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

11 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバー・エンジンカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーについて

→P. 516

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P. 654）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）。

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

▶A25A-FXS エンジン搭載車（LN1 補機バッテリー装着車）

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（285A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

▶A25A-FXS エンジン搭載車（LN2 補機バッテリー装着車）

●交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（60Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（345A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

▶8GR-FXS 搭載車

●交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（60Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（345A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。

・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）。

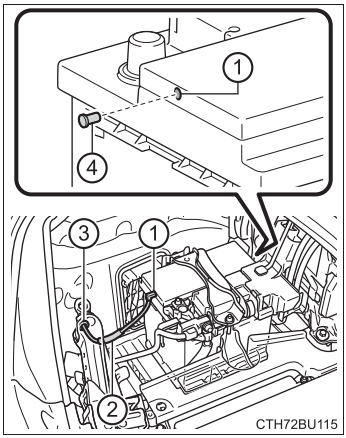
① 排気穴

② 排気ホース

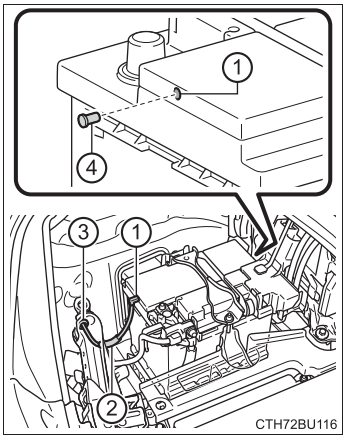
③ 車両穴部

④ 排気穴栓★

▶LN1 補機バッテリー装着車



▶LN2 補機バッテリー装着車



詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■**補機バッテリーの交換について**

→ P. 623

警告

■**補機バッテリーを交換するときは**

●液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。

●補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■**補機バッテリーの－端子について**

ボデー側に接続された補機バッテリーの－端子をはずさないでください。誤ってはずすと＋端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■**救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 93）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

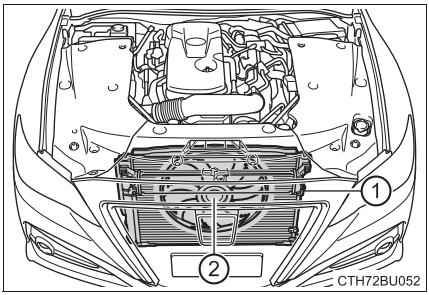
3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

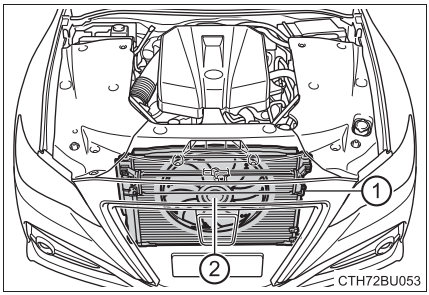
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



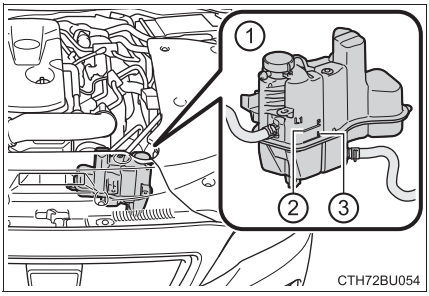
4 冷却水の量がリザーバータンクの “F” （上限）と “L” （下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

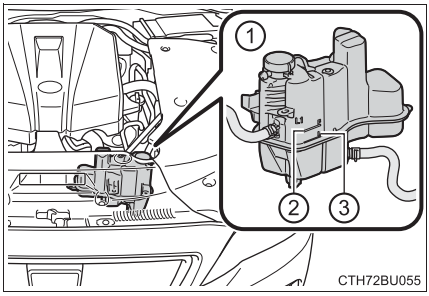
② “F” （上限）

③ “L” （下限）

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



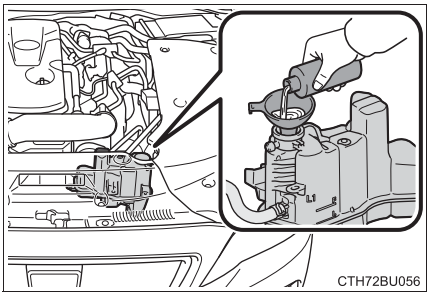
▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



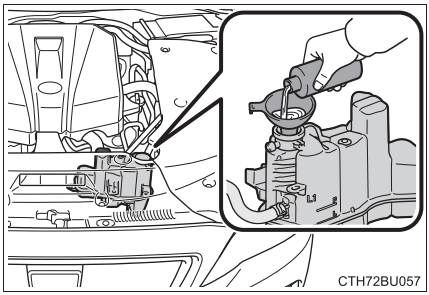
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷地はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

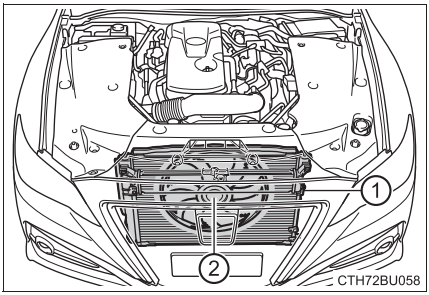
3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

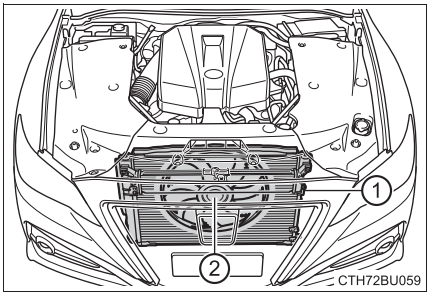
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



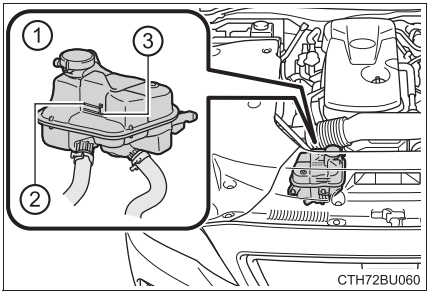
4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL/F”（上限）と“LOW/L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

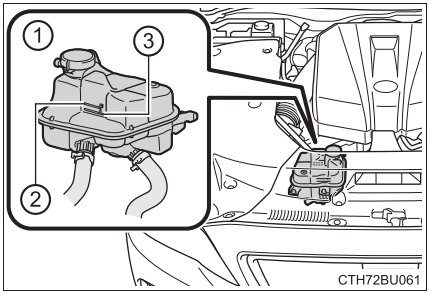
② “FULL/F”（上限）

③ “LOW/L”（下限）

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



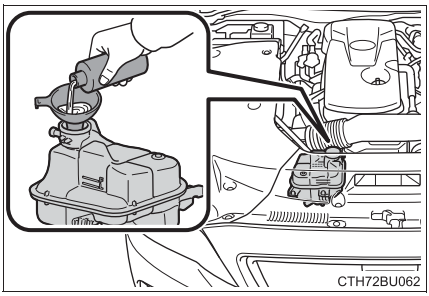
▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



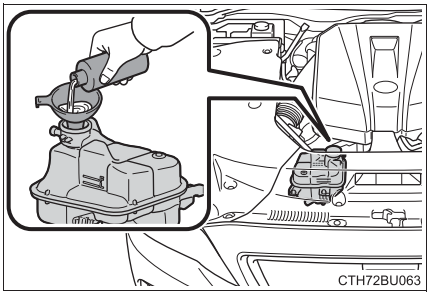
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ A25A-FXS エンジン搭載車



▶ 8GR-FXS エンジン搭載車



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。

ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

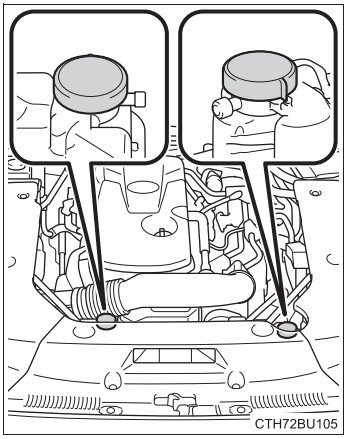
■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

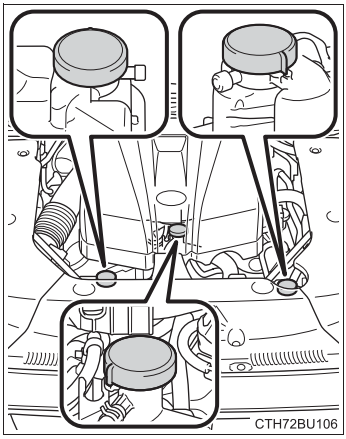
- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
  ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

- A25A-FXS エンジン搭載車：ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。


CTH72BU105

- 8GR-FXS エンジン搭載車：ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや冷却水注入口のキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。


CTH72BU106

注意

■**冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

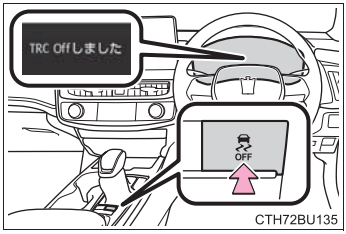
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1. パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2. 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 後輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....636
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....645
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....654

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
▶ A25A-FXS エンジン搭載車 ・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ▶ 8GR-FXS エンジン搭載車 ・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	66

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 —API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, SAE 5W-30	4.6※2 4.5※3	5.0※2 4.9※3

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 FR 車（後輪駆動）

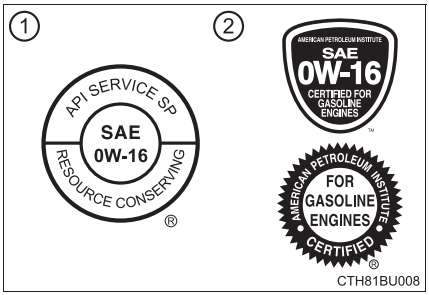
※3 4WD 車（4 輪駆動）

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

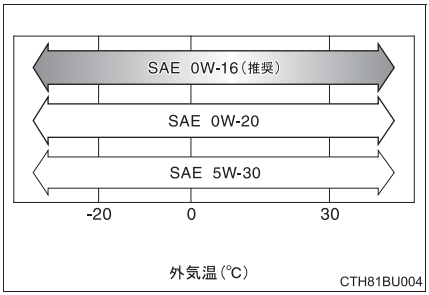
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, SAE 5W-30	5.5	5.7

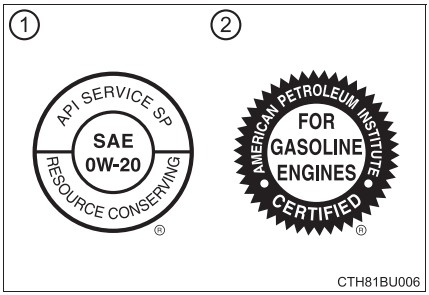
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

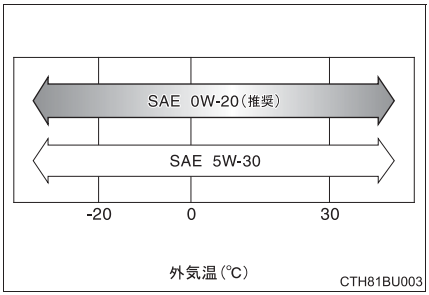
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	7.7	2.3

▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	10.3	2.3

トランスミッション

▶ A25A-FXS エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.77

▶ 8GR-FXS エンジン搭載車

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	6.8

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■ **トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LL80	0.7

フロントディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5, SAE 75W-85）	0.65

リヤディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5, SAE 75W-85）	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	122 以上

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
2.5 4.7※

※ 寒冷地仕様車またはヘッドランプクリーナー装着車

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/55R17 94V	17×7J	240（2.4）	
	225/45R18 91W	18×8J	240（2.4）	
応急用タイヤ★	T155/70D17 110M	17×4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	リヤフォグランプ★	21
車内	トランクランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
クラウン	AZSH20	A25A-FXS（2.5L ガソリン）	1KM	FR（後輪駆動）
	AZSH21			4WD（4 輪駆動）
	GWS224	8GR-FXS（3.5L ガソリン）	2NM	FR（後輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。
また、ナビゲーションシステム★・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

T-Connect サービスご契約のお客様は、マイカーカスタマイズ機能（T-Connect 対応スマホアプリのご利用、またはトヨタ販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。
遠隔での設定変更が可能な項目に関してはT-Connect対応スマホアプリでご確認ください。

設定変更のしかた

安全に操作することができる場所に停車し、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけます。

■ ナビゲーションシステム★で設定するには

1. MENU ボタンを押し、「設定・編集」を選択する
2. 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
3. 「車両カスタマイズ」または「ドライブモードカスタマイズ」★を選択する
4. 「車両カスタマイズ」を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する
5. 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
6. 機能の作動内容を選択する

   作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

   音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 105

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステム★の操作で設定変更可能

② トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→ P. 78）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 97）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	○	○
		なし		

■ ドアロック（→ P. 142, 150, 616）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ（→ P. 245）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト★	あり	なし	○	○
おもてなし照明の制御★	あり	なし	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	パワースイッチと連動	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 142, 150, 156）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	○
		レベル 1 ～ 7		
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	○	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 156）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	○
解錠されるドアを運転席のみに選択時、ドアハンドルを握って保持することで全席解錠する時間	非作動	1.5 秒	—	○
		2.0 秒		
		2.5 秒		
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 136, 142, 150）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	○
		2 回押し		
		1 回押し続ける（長）		
		非作動		

■ フロントシート★（→ P. 167）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	○
		少なめ		

■ メモリーコール機能★（→ P. 169）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	○

■ ハンドル★（→ P. 167, 178）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
降車時のハンドル作動	チルトのみ	テレスコピックのみ	○	○
		チルト＆テレスコピック		
		なし		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→ P. 194）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	○
		パワースイッチと連動		

■ パワーウインドウ（→ P. 197）、ムーンルーフ★（→ P. 201）共通

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドアキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 245）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	－２～２	○	○
ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★（→ P. 249）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	広い	狭い	—	○
		普通		
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	○
		約 80km/h から作動		
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	あり	なし	—	○
市街地用の配光制御	あり	なし	—	○

※ オートマチックハイビームとして作動します。（→ P. 254）

■ クリアランスソナー（→ P. 355）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	○
ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	—	○

■ ドライブモードセレクト★（→ P. 397）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
カスタムモード時のパワートレーン制御	Normal	Power	○	—
		Eco		
カスタムモード時のシャシー制御	Normal	Sport	○	—
		Comfort		
カスタムモード時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→ P. 424）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
「AUTO」が ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	○
「AUTO」を ON にしたとき、「A/C」が連動して ON になる	する	しない	○	○

■ シートヒーター★／シートベンチレーション★（→ P. 452, 454）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO モード時の運転席シートヒーター温度調整／運転席シートベンチレーション風量調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○
AUTO モード時の助手席シートヒーター温度調整／助手席シートベンチレーション風量調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○
AUTO モード時の左側リヤシートヒーター温度調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○
AUTO モード時の右側リヤシートヒーター温度調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○

■ ステアリングヒーター★（→ P. 450）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ステアリングヒーターAUTO モード時の温度調整	標準	－２（低め）～＋２（高め）	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 455）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○
足元照明、インストルメントパネルオーナメント照明★、ドアハンドル照明★、ドアトリム照明★、カップホルダー照明の点灯	あり	なし	—	○
ドアミラー照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	○
解錠時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応オートドアロック」と「シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。

・シフトレバーをＰ以外に入れると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●「スマートエントリー＆スタートシステム」の設定が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ナビゲーションシステム★でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーションシステム★でカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム★	・指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ・タイヤローテーションを実施したとき ・ID コード登録を実施したとき	P. 525
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	・補機バッテリーを脱着したとき	P. 385
パノラミックビューモニター★	・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・補機バッテリーの電圧が低下したとき ・補機バッテリーを脱着したとき	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....656
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....660
アルファベット順さくいん.....663
五十音順さくいん.....665

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- マルチメディアディスプレイ
- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- パノラミックビューモニター
- ハンズフリー
- T-Connect
- ETC システム／ ETC2.0 システム

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。
（→ P. 138）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 140）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 543）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。
（→ P. 220）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 159）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 145）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→ P. 152）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 219）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 222）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 157）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 222）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 617）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 619）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON モードになっていますか？
  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 235）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 222）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 197）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 221）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 660）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 570、579 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車

  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 603）
- タイヤパンク応急修理キット装着車

  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 585）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 633）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 78
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 579
	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 579
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 199 P. 203
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 78
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 152
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 543
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 157
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 579
	シフトポジションがＰ以外になっている	

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する、またはパワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 143, 152, 515
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 241
	運転席・助手席・後席のシートベルトを着用していない ※	P. 575
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 234
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 213
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 315
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 277
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P. 295
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 303
進入禁止区域に進入したとき		
追い越し禁止の道路で追い越しをかけたとき		

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

状況	原因	詳細
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect★が作動した	P. 335
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき		
見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき		
見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき		
静止物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P. 355
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P. 366
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）★が作動した	P. 374

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 424, 443
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 400, 571
AHB
（オートマチックハイビーム）. 254
AHS
（アダプティブハイビームシステム）. 249
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブル
サスペンションシステム）. 401, 406
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 236
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）. 401
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 348
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）. 400
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 401, 571
ETC
（エレクトロニックトールコレクション）※
EV
（エレクトリックビークル）. 225
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）. 644
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）. 120
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 640
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 44

LTA
（レーントレーシングアシスト）. 291, 572
PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 277, 573
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 379, 573
RCD
（リヤカメラディテクション）. 374, 573
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 366, 573
RSA
（ロードサインアシスト）. 303
S-FLOW
（フロント席集中送風モード）. 433
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティ
コントロール）. 400, 574
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 31, 571
Toyota Safety Sense
RSA（ロードサインアシスト）. 303
AHS（アダプティブハイビームシステム）. 249
AHB（オートマチックハイビーム）. 254
LTA（レーントレーシングアシスト）. 291
先行車発進告知機能. 325
PCS（プリクラッシュセーフティ）. 277
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. 308
TRC
（トラクションコントロール）. 401, 574
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）. 402
VGRS
（バリアブルギヤレシオステアリング）. 401, 574
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 400, 574

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

五十音順さくいん

あ

アースポイント（補機バッテリーあがりの処置）..... 619
アームレスト 482
RSA（ロードサインアシスト）..... 303
RCD（リヤカメラディテクション）..... 374
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 366
ITS Connect..... 335
アウターミラー（ドアミラー）..... 194
　RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 366
　格納のしかた..... 194
　操作 194
　ブラインドスポットモニター（BSM）..... 348
　ポジションメモリー 167
　ミラーヒーター 437
　リバース連動機能 195
アクセサリーコンセント..... 486
アクセサリーソケット..... 468
アクセサリーモード 220
アシストグリップ 485
足元照明..... 455
アダプティブハイビームシステム（AHS）..... 249
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）..... 401
アラーム
　オートアラーム..... 78
　音さくいん 660
　警告ブザー 570, 579
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 400
　ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 571
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 156

い

イージークローザー
ドア 147
トランク 152
EV ドライブモード 225
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ）..... 219
自動電源 OFF 機能 221
車両を緊急停止するには 560
ハイブリッドシステム
始動のしかた 219
モードの切りかえ 220
位置交換
（タイヤローテーション）..... 523
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 77
イルミネーテッド
エントリーシステム 458
インジケーター（表示灯）..... 89
ハイブリッドシステム
インジケーター 95
表示灯 89
READY 219
インテリアランプ 455
操作 456
インナーミラー 180, 182

う

ウインカー（方向指示灯）..... 237
電球（バルブ）の交換 552
方向指示レバー 237
ウインドウ 197
ウインドシールド
デアイサー 437
ウォッシャー 260
パワーウインドウ 197
リヤウインドウ
デフォッガー 437
ウインドウロックスイッチ 197
ウインドシールド
デアイサー 437
ウォーニングメッセージ 579
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 86, 570
ウォッシャー 260
液の補給 521
スイッチ 260
タンク容量 643
冬の前の準備・点検 417
動けなくなったときは
（スタック）..... 633
雨滴感知式ワイパー 260
運転 206
雨の日の運転 208
運転を補助する装置 400
寒冷時の運転 417
正しい運転姿勢 24
手順 206
ハイブリッド車運転の
アドバイス 415

運転支援システム表示 122
運転席シートベルト
非着用警告灯 572
運転席シートポジション
システム 168

え

AST 表示灯 403
エアコン 424, 443
花粉除去機能 436
曇り取り
（フロントガラス）..... 436
「ナノイー X」..... 440
フィルターの交換 536
フロントエアコン 424
フロント席集中送風モード
（S-FLOW）..... 433
リヤエアコン 443
エアコン・デフォッガー 424
エアバッグ 31
SRS エアバッグ警告灯 571
お子さまのための注意 32
改造・廃棄 34
作動条件 35
正しい姿勢 24
配置 31
HUD（ヘッドアップ
ディスプレイ）..... 120
エコアクセルガイド 103
エコガイド 103
エコジャッジ 103
エコドライブ
インフォメーション 101
エコドライブモード 397
エネルギーモニター 128
LED デイライト 247
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 291
警告メッセージ 302
操作 297
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 401
機能 401
パワー
ステアリング
警告灯 571, 575, 577
パワーステアリング
警告灯ブザー 571
エンジン
イモビライザーシステム 77
エンジン警告灯 570
エンジンスイッチ 219
エンジンルームカバー 520
オーバーヒート 627
緊急時の停止方法 560
タコメーター 120
ハイブリッドシステムが
始動できない 614
ハイブリッドシステムの
始動方法 219
パワースイッチ
（イグニッションスイッチ／
エンジンスイッチ）..... 219
ボンネット 515

エンジンオイル..... 637
警告メッセージ..... 583
冬の前の準備・点検 417
メンテナンスデータ 637
油圧警告灯..... 570
油圧警告灯ブザー 570
容量 637
エンジン回転計
（タコメーター）..... 120
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 219
自動電源 OFF 機能..... 221
車両を緊急停止するには..... 560
ハイブリッドシステム
始動のしかた 219
モードの切りかえ 220
エンジンフード
（ボンネット）..... 515
開け方..... 515
警告ブザー..... 515
エンジンルーム
エンジンルームカバー..... 520
エンジンルームから
蒸気が出ている 627

お

オーディオシステム連携表示..... 100
オートチルトアウェイ＆
リターン機構 178
オートアラーム 78
オートエアコン 424
オーディオ ※
オートドアロック・
アンロック機能 145
オートマチックハイビーム
(AHB)..... 254
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 247
作動 247
オーバーヒート 627
オープナー
給油口 269
トランク 150
ボンネット 515
オイル（エンジンオイル）..... 637
応急用タイヤ 603
空気圧 643
交換方法 603
おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）..... 472

お子さまを乗せるとき.....43, 45
ウインドウロック
スイッチ.....197
お子さまの安全のために.....43
キーの電池.....545
子供専用シート.....44
シートベルトの着用.....26
ステアリングヒーター・
シートヒーターに
関する警告.....448
チャイルドシート.....44
チャイルドシートの
取り付け.....46, 57
チャイルドプロテクター.....145
発炎筒の取り扱いに
関する警告.....559
バッテリーに関する警告.....625
パワーウインドウに
関する警告.....199
ODO TRIP スイッチ.....99
オドメーター.....93
ODO/TRIP スイッチ.....99
機能.....117
表示の切りかえ・
リセットスイッチ.....99
オドメーター／トリップ
メーターディスプレイ.....97
ODO TRIP スイッチ.....99
表示項目.....117

か

カーテシランプ
装着位置.....455
カーテンシールドエアバッグ.....31
カードキー.....136
カーペット.....512
洗浄.....512
フロアマットの取り付け方.....22
外気温度表示.....93
回生ブレーキ.....67
外装の電球（バルブ）.....550
交換要領.....550
ワット数.....644
ガス欠になったとき.....73
給油.....267
カスタマイズ機能.....645
型式.....644
カップホルダー.....462
カメラ
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）.....249
AHB（オートマチック
ハイビーム）.....254
カメラセンサー（PCS）.....272
前方センサー.....272
デジタルインナーミラー.....189
白線認識用カメラ（LTA）.....291
ガラスの曇り取り
（リヤウインドウ
デフォッガー）.....437
ガレージジャッキ.....519
冠水路走行.....217
寒冷時の運転.....417

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

き

キー 136
カードキー 136
キーナンバープレート 136
キーの構成 136
キーレスエントリー 142, 156
キーをなくした 138, 140
正常に働かない 616
施錠・解錠ができない 616
電子キー 136
電池が切れた 543, 616
ハイブリッドシステムが始動できない 617
メカニカルキー 137
ワイヤレスリモコン 136
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 156
ワイヤレスドアロック 142
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター） 213
給油 267
給油口が開けられない 270
給油のしかた 267
メンテナンスデータ 636
緊急時シートベルト固定機構 28
緊急始動機能（ハイブリッドシステム） 615
緊急時の対処
オーバーヒートした 627
キーの電池が切れた 543, 616
キーをなくした 138, 140
警告灯がついた 570
警告メッセージが表示された 579
けん引 562
故障したときは 556
車両を緊急停止する 560
水没したときは 561
スタックした 633
電子キーが正常に働かない 616
ハイブリッドシステムが始動できない 614
発炎筒 558
パンクした 585, 603
補機バッテリーがあがった 619
緊急停止システム 72
緊急ブレーキシグナル 402

く

クーラー 424
空気圧（タイヤ）..... 643
タイヤ空気圧警報
システム 524
メンテナンスデータ 643
区間距離計
（トリップメーター）..... 93
ODO/TRIP スイッチ 99
機能 93
切りかえ・
リセットスイッチ..... 99
駆動用電池 70
警告メッセージ 539, 581
充電について 68
搭載位置..... 70
冷却用吸入口..... 72
駆動用電池冷却用吸入口 72
手入れ..... 539
曇り取り
フロントガラス 436
ミラーヒーター 437
リヤウインドウ
デフォッガー 437
クラクション（ホーン）..... 178
クリアランスソナー 355
警告灯 572
警告ブザー 365
警告メッセージ..... 358
操作..... 357
表示灯 89
クリアランスランプ
（車幅灯）..... 245
ランプスイッチ..... 245
クリップ
エンジンルームカバー 520
フロアマット 22
クルーズコントロール..... 308
警告メッセージ..... 322, 583
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 308
グローブボックス 460
グローブボックスランプ..... 460

け

警音器（ホーン）..... 178
計器類（メーター）..... 93
警告灯..... 87
照度調整..... 94
設定 105
表示灯..... 89
ヘッドアップ
ディスプレイ 120
マルチインフォメーション
ディスプレイ 97
メーター..... 93
警告灯 87, 570
RCTA OFF 表示灯..... 573
RCD OFF 表示灯 573
ABS &
ブレーキアシスト..... 571
SRS エアバッグ 571
LTA 表示灯..... 572
エンジン..... 570
クリアランスソナー OFF
表示灯..... 572
高水温..... 570
シートベルト非着用 572
充電 570
スリップ表示灯 574
タイヤ空気圧..... 572
電子制御ブレーキ 570
ドライブスタート
コントロール 571
燃料残量..... 571
パーキングブレーキ 570
パーキングブレーキ
表示灯..... 574
パワーステアリング 571
PKSB..... 573
PKSB OFF 表示灯 573
PCS..... 573
プリテンショナー..... 571
ブレーキ 570
ブレーキオーバーライド
システム 571
ブレーキホールド
作動表示灯..... 574
ポップアップフード..... 571
油圧..... 570
リヤシートベルト非着用 572
警告ブザー
RCD（リヤカメラ
ディテクション）..... 375
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）..... 367
ABS &ブレーキアシスト 571
SRS エアバッグ..... 571
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 295
運転席・助手席・後席
シートベルト非着用 572
エンジン 570
クリアランスソナー..... 365
高水温 570
シートベルト非着用..... 575
シフトダウン制限..... 234
車線逸脱警報機能..... 295, 301
衝突警報 277
スマートエントリー&
スタートシステム 157

接近警報（レーダー
クルーズコントロール）..... 315
先行車発進告知機能 325
手放し運転警告（LTA)..... 301
ドライブスタート
コントロール 571
トランク開..... 152
ハイブリッドシステム..... 570
パーキングブレーキ
未解除走行時 241
パワーステアリング 571
半ドア..... 143
半ドア走行時..... 147
PKSB（パーキング
サポートブレーキ)..... 573
PCS 573
ふらつき警報機能 296
プリクラッシュ
セーフティ 573
プリクラッシュブレーキ..... 277
ブレーキ..... 213, 570
ブレーキオーバーライド
システム 571
ブレーキホールド 574
ポップアップフード 571
ボンネット開..... 515
窓開 199
ムーンルーフ開 203
油圧 570
リバース..... 235
レーダークルーズ
コントロール 322
警告メッセージ 579
化粧ミラー
（バニティミラー).....467
けん引.....562
けん引のしかた.....562
フック 566

こ

コーションラベル 70
コートフック 485
交換
エアコンフィルター.....536
キーの電池 543
タイヤ 603
電球（バルブ).....550
ヒューズ 546
ワイパーゴム 265
工具（ツール) 587
後席用サンシェード 483
航続可能距離..... 101
後退速度の抑制制御
（ドライブスタート
コントロール) 207
高電圧部位.....70
子供専用シート 44
選択方法 49
取り付け方 46, 57
小物入れ.....464
コンソールボックス 461
コンライト
（自動点灯・消灯装置).....245

さ

サービスプラグ..... 70
サイドエアバッグ..... 31
サイド方向指示灯..... 237
電球（バルブ）の交換..... 552
方向指示レバー..... 237
サイドミラー（ドアミラー）..... 194
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）..... 366
格納のしかた..... 194
操作..... 194
ブラインドスポット
モニター（BSM）..... 348
ポジションメモリー..... 167
ミラーヒーター..... 437
リバース連動機能..... 195
坂道発進補助機能..... 401
サスペンションコントロール
（PCS）..... 279
三角表示板収納スペース..... 466
サンシェード
電動サンシェード..... 483
ムーンルーフ..... 202
リヤ..... 483
リヤドア..... 483
ルーフ..... 202
サンバイザー..... 467

し

シート
子供専用シート.....44
正しい運転姿勢.....24
チャイルドシート.....44
調整.....163, 165
手入れ.....511
ドライビングポジション
システム.....168
パワーイージー
アクセスシステム.....167
フロントシート.....163
ヘッドレスト.....172
ポジションメモリー.....167
メモリーコール機能.....169
シートヒーター.....452
シートベルト.....26
お子さまの着用.....28
緊急時シートベルト
固定機構.....28
シートベルト
非着用警告灯.....572
高さ調整.....26
正しく着用するには.....26
着け方・はずし方.....26
手入れ.....512
妊娠中の方の着用.....29
非着用警告灯.....572

シートベルト非着用警告灯 572
シートベルトプリテンショナー
機能 28
プリテンショナー警告灯..... 571
シートベンチレーション 454
シートポジションメモリー 167
事故が発生したとき
（ハイブリッドシステムの
注意）..... 75
室内灯（インテリアランプ）..... 455
始動のしかた 219
シフトポジション..... 229
シフトレバー 228
シフトレンジの切りかえ..... 228
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 235
操作 228
リバース警告ブザー 235
シフトレバーが
シフトできないときは 235
シフトロックシステム..... 235
締め付けトルク（ホイール）..... 610
車間距離切りかえスイッチ 314
車線逸脱警報機能..... 295, 301
ジャッキ
ガレージジャッキ 519
車載ジャッキ..... 587
ジャッキハンドル..... 587
車幅灯.....245
LED デイライト 247
電球（バルブ）の交換.....552
ランプスイッチ.....245
車両型式.....644
車両仕様（スペック）.....636
車両接近通報装置 67
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには.....560
収納装備.....459
ジュニアシート 44
瞬間燃費..... 101
仕様（車両仕様）.....636
衝撃感知ドアロック
解除システム 146
初期化
タイヤ空気圧警報
システム 525
パワーウインドウ..... 198
ムーンルーフ 203
初期設定.....654
助手席シートベルト
非着用警告灯 572
侵入センサー
（オートアラーム）.....81

す

水温計 93, 627
スイッチ
EV ドライブモード..... 225
イグニッション 219
ウインドウロック 197
ウインドシールド
デアイサー 437
ウォッシャー 260
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）..... 250
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 254
AC100V..... 486
エアコン画面表示 424
LTA 297
オーディオ ※
ODO TRIP..... 99
給油口オープナー 269
クルーズコントロール..... 308
シート調整..... 163
シートヒーター 452
シートベンチレーション..... 454
シートポジションメモリー.... 168
車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）..... 314
車両設定..... 113
助手席側面 163
侵入センサー OFF.....81
ステアリングヒーター 450
タイヤ空気圧警報
リセット 525
電話 ※
トーク ※
ドアミラー 194
ドアロック 144
ドライビングポジション 167
トランクオープナー 150
トランクオープナー
メイン 151
パーキングブレーキ.....238
パドルシフト 230
パワーウインドウ.....197
パワースイッチ.....219
ハンドル位置調整.....177
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....557
VSC OFF.....403
フォグランプ 258
ブレーキホールド.....242
ヘッドアップディスプレイ 120
ヘッドランプ 245
ヘルプネットボタン ※
ホーン（警音器）.....178
方向指示レバー.....237
ポジションメモリー.....168
ムーンルーフ 201
メーター操作 99

ランプ..... 245
リセット（タイヤ空気圧
警報システム）..... 525
リヤウインドウ
デフォッガー 437
リヤカメラディテクション.... 374
リヤサンシェード 483
リヤフォグランプ 258
レーダークルーズ
コントロール 308
ワイパー..... 260
ワイヤレス充電器 472
スタック 633
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）..... 400
ステアリングヒーター 448
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 177
位置調整..... 177
オートチルトアウェイ&
オートリターン機構..... 178
ステアリングスイッチ..... 99
ステアリングヒーター..... 448
パワーイージーアクセス
システム 167
ポジションメモリー 168
ステアリングロック..... 222
解除できないとき 222
警告メッセージ 222
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 402
電球（バルブ）の交換 552
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 417
スピードメーター 93
スペアタイヤ
（応急用タイヤ）..... 603
空気圧 643
交換方法 603
スペック（車両仕様）..... 636
スポーツモード 397
スマートエントリー&
スタートシステム..... 156
アンテナの位置..... 156
カスタマイズ設定..... 645
警告ブザー 157
警告メッセージ..... 222
緊急始動機能 615
作動範囲 157
正常に働かないとき 616
節電機能 158
電波がおよぼす
影響について..... 162
ドアの解錠・施錠..... 142
トランクの解錠..... 150
ハイブリッドシステムの
始動 219
スモールランプ（車幅灯）..... 245
ランプスイッチ..... 245
スリップ表示灯 574

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

せ

清掃
外装 506
駆動用電池冷却用吸入口..... 539
シートベルト..... 512
内装 511
ホイール・
ホイールキャップ..... 507
レーダーセンサー 272
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 402
セカンダリーコリジョン
ブレーキ 401
積算距離計（オドメーター）..... 99
ODO/TRIP スイッチ..... 99
機能 117
表示の切りかえ・
リセットスイッチ..... 99
セキュリティ
インジケーター..... 77, 78
接近警報（レーダー
クルーズコントロール）..... 315
先行車発進告知機能..... 325
センサー
インナーミラー..... 181
雨滴感知センサー..... 263
LTA..... 291
カメラセンサー..... 272
侵入センサー 81
Toyota Safety Sense..... 271
デジタルインナーミラー 188
ブラインドスポット
モニター 354
ライトセンサー..... 247
レーダーセンサー..... 272
洗車 506
前照灯（ヘッドランプ）..... 245
オートレベリングシステム 247
スイッチ 245
ライトセンサー..... 247
ランプ消し忘れ防止機能 247
ランプスイッチ..... 245
前方センサー..... 272

そ

走行時間..... 101
走行モード
（ドライブモード）..... 397
送信機（タイヤ空気圧警報
システム）..... 524
速度計（スピードメーター）..... 93

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 237
方向指示レバー 237
タイヤ
応急用タイヤ 603
空気圧..... 534, 643
空気圧警告灯 572
交換 585
締め付けトルク 610
チェーン..... 417
低扁平タイヤ..... 528
点検 523
パンク応急修理キット..... 585
パンクしたときは 585
冬用タイヤ..... 417
ホイールサイズ 643
ローテーション
（位置交換）..... 523
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 633
タイヤ空気圧 534
警告灯..... 572
タイヤ空気圧警報システム 524
ID コードの登録・選択 526
機能について 524
空気圧バルブ／
送信機について 524
空気圧表示画面 524
初期化..... 525
タイヤ空気圧警告灯 572
タイヤチェーン..... 417
タコメーター 120

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....417
チャイルドシート 44
ISOFIX ロアアンカレッジ
での取り付け 60
シートベルトでの固定 58
選択方法 49
チャイルドプロテクター.....145
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....238
警告灯 570
警告メッセージ.....240
操作 238
冬季の注意 417
未解除走行時警告ブザー 241
チルト＆テレスコピック
ステアリング 177

つ

ツール（工具）.....587
通信利用型レーダー
クルーズコントロール.....318

て

テールランプ（尾灯）..... 245
ランプスイッチ 245
T-Connect※1
提案サービス機能..... 117
ディスプレイ
エネルギーモニター 127
警告メッセージ 579
設定 105
ヘッドアップディスプレイ 120
マルチインフォメーション
ディスプレイ 97
ディファレンシャル
フロント
ディファレンシャル..... 642
リヤディファレンシャル..... 642
低扁平タイヤ 528
デイライト 247
手入れ
外装 506
駆動用電池冷却用吸入口..... 539
シートベルト 512
デジタルインナーミラー..... 189
内装 511
ホイール・
ホイールキャップ..... 507
レーダーセンサー 272
デジタルインナーミラー..... 182
デフォッガー（リヤ
ウインドウデフォッガー）..... 437
電気モーター 70
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 550
ワット数 644
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 636
電子キー..... 136
作動範囲 157
正常に働かないとき 616
節電機能 158
電池が切れた 616
電池交換 543
電子制御ブレーキシステム
（ECB）..... 400
電池交換（キー）..... 543
電動サンシェード 483
操作 483
電話スイッチ ※2..... 471

と

トークスイッチ ※2 471
ドア 142
イージークローザー 147
オートドアロック・
アンロック機能 145
衝撃感知ドアロック
解除システム 146
スマートエントリー&
スタートシステム..... 142
チャイルドプロテクター..... 145
ドアガラス..... 197
ドアロックスイッチ 144
ドアロックボタン 144
半ドア走行時警告ブザー..... 147
窓開警告ブザー 199
ロックボタン 144
ワイヤレスリモコン 142
ドアカーテシランプ
位置 455
ドアハンドル照明..... 455
ドアポケット 459
ドアミラー 194
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）..... 366
格納のしかた..... 194
操作 194
電球（バルブ）の交換..... 552
ドアミラー照明..... 455
ブラインドスポット
モニター（BSM）..... 348
ポジションメモリー 167
ミラーヒーター 437
リバース連動機能 195
盗難防止装置
イモビライザーシステム 77
オートアラーム.....78
時計 468
トップテザーアンカレッジ.....62
Toyota Safety Sense.....271
RSA
（ロードサインアシスト）.....303
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）.....249
AHB（オートマチック
ハイビーム）.....254
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....291
先行車発進告知機能.....325
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）.....277
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）.....308
トヨタマルチ
オペレーションタッチ.....422
ドライビング
ポジションメモリー.....167
ポジションメモリー.....168
メモリーコール機能.....169
ドライブインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ）.....101
ドライブスタート
コントロール 207
急発進の抑制制御.....207
後退速度の抑制制御.....207
ドライブモードセレクト.....397
トラクションコントロール
（TRC）.....401

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください（マルチメディアディスプレイ装着車）。

トランク 150
イージークローザー 152
オープナー 150
キー閉じ込み防止機能 152
警告ブザー 152
電子キーが正常に
働かないとき 616
トランクオープナーを
使用できなくするには 151
トランク内の装備 465
メインスイッチ 151
ワイヤレスリモコン 151
トランクランプ 152
ワット数 644
トランスミッション
S モード 232
M モード 233
シフトダウン制限
警告ブザー 234
シフトレバー 228
シフトレバーが
シフトできない 235
スノーモード 229
操作 228
ハイブリッドトランス
ミッション 228
パドルシフトスイッチ 230
メンテナンスデータ 642
トリップメーター 99
ODO/TRIP スイッチ 99
機能 117
切りかえ・
リセットスイッチ 99

な

内装
収納装備 459
手入れ 511
「ナノイー X」 440
ナビゲーションシステム ※
ナビゲーションシステム
連携表示 122

に

ニーエアバッグ 31
荷物
積むときの注意 218
トランク 150
トランク内装備 465

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック） 633

ね

燃費 101
エネルギーモニター 127
瞬間燃費 101
平均燃費 101
燃費画面 130
燃料 636
給油 267
種類 636
燃料計 93
燃料残量警告灯 571
容量 636
燃料計 93

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 391
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 394
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 387
パーキングサポートブレーキ（PKSB）..... 379
警告灯..... 380
警告ブザー..... 380
警告メッセージ..... 380
操作..... 379
表示灯..... 573
パーキングブレーキ..... 238
警告灯..... 570
警告ブザー..... 241
警告メッセージ..... 240
操作..... 238
冬季の注意..... 417
パーキングブレーキ表示灯..... 574
未解除走行時警告ブザー..... 241
パーソナルランプ..... 457
バイオ混合ガソリン..... 269
排気ガス..... 42
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 246
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 249
AHB（オートマチックハイビーム）..... 254
スイッチ..... 245
ランプスイッチ..... 245
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード..... 225
運転のアドバイス..... 415
エネルギーモニター..... 128
オーバーヒート..... 627
回生ブレーキ..... 67
ガス欠になったとき..... 73
緊急始動機能..... 615
緊急時の停止方法..... 560
緊急停止システム..... 72
駆動用電池冷却用吸入口..... 72
警告メッセージ..... 629
高電圧部位..... 70
サービスプラグ..... 70
事故が発生したとき..... 75
始動できないときは..... 614
始動方法..... 219
車両接近通報装置..... 67
充電..... 68
注意..... 70
特徴..... 65
特有の音と振動..... 69
パワー（イグニッション）スイッチ..... 219
補機バッテリーがあがった..... 619
メンテナンス・修理・廃車するとき..... 69
ハイブリッドシステムインジケーター..... 95

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ハザードランプ
（非常点滅灯）..... 557
スイッチ..... 557
電球（バルブ）の交換..... 552
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 197
ムーンルーフ..... 202
発炎筒 558
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 552
バックガイドモニター ※
バッテリー（駆動用電池）..... 70
充電警告メッセージ 580
充電について 68
搭載位置..... 70
冷却用吸入口..... 72
バッテリー
（補機バッテリー）..... 516
警告灯..... 570
交換するとき 623
搭載位置..... 516
バッテリーがあがった..... 619
パドルシフトスイッチ 230
バニティ（化粧用）ミラー 467
バニティミラーランプ 467
パノラミックビューモニター ※
バリアブルギヤレシオ
ステアリング（VGRS）..... 401
バルブ（電球）
交換要領
（外装のバルブ）.....550
ワット数 644
パワーイージーアクセス
システム.....167
パワー（イグニッション）
スイッチ.....219
自動電源 OFF 機能.....221
ハイブリッドシステム
始動のしかた.....219
モードの切りかえ.....220
パワーウインドウ 197
ウインドウロック
スイッチ 197
警告ブザー 199
閉めることが
できないときは.....198
初期化 198
操作 197
ドアロック連動
ドアガラス開閉機能 198
挟み込み防止機能.....197
巻き込み防止機能.....198
パワーコントロール
ユニット.....70
パワー（イグニッション）
スイッチ.....219

パワーステアリング..... 401
機能 401
警告灯..... 571
警告ブザー..... 571
警告メッセージ 579
パンクした
応急用タイヤ装着車 603
タイヤ空気圧警告灯 572
タイヤパンク応急
修理キット装着車..... 585
番号灯（ライセンス
プレートランプ）..... 245
ランプスイッチ 245
ハンズフリー ※
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 177
位置調整..... 177
オートチルトアウェイ＆
オートリターン機構..... 178
スイッチ..... 99
ステアリングヒーター..... 448
ドライビングポジション
システム 168
パワーイージー
アクセスシステム..... 167
ポジションメモリー 168
メーター操作スイッチ..... 99

ひ

BSM（ブラインド
スポットモニター）.....348
ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）.....400
ビークルダイナミクス
インテグレイテッド
マネージメント（VDIM）.....402
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）.....277
ヒーター
エアコン 424, 443
エアコン・デフォッガー 424
オートエアコン.....424
シートヒーター.....452
ステアリングヒーター 450
フロントエアコン.....424
ミラーヒーター.....437
リヤウィンドウ
デフォッガー.....437
リヤエアコン 443
非常時給電システム 493
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ 557
電球（バルブ）の交換.....552
非接触充電器.....472
尾灯（テールランプ）.....245
ランプスイッチ.....245
ヒューズ.....546
表示灯.....89
日よけ（サンバイザー）.....467
ヒルスタートアシスト
コントロール 401

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方 619
VSC（ビークルスタビリティ
コントロール）..... 400
フォグランプ 258
スイッチ..... 258
電球（バルブ）の交換..... 550
ワット数..... 644
ブザー
RSA（ロードサイン
アシスト）..... 305
RCD（リヤカメラ
ディテクション）..... 375
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）..... 367
運転席・助手席
シートベルト非着用..... 575
クリアランスソナー 365
シートベルト非着用警告..... 575
シフトダウン制限警告..... 234
車線逸脱警報機能 295
衝突警報（PCS）..... 277
スマートエントリー&
スタートシステム 157
接近警報（レーダー
クルーズコントロール）..... 315
先行車発進告知機能 325
手放し運転警告（LTA）..... 301
パーキングブレーキ
未解除走行時警告..... 241
パワーステアリング 575
半ドア走行時警告 147
PKSB 380
PCS 277
ふらつき警報機能
（LTA）..... 296
ブレーキ警告 570
ボンネット開警告.....515
窓開警告 199
ムーンルーフ開警告.....203
油圧.....570
リバース警告 235
フック
けん引フック 568
コートフック 485
フロアマット固定フック 22
フューエルメーター 93
フューエルリッド（給油口）.....267
給油口が開かない.....270
給油のしかた 267
冬の前の準備
（寒冷時の運転）.....417
冬用タイヤ.....417
ブラインドスポットモニター
（BSM）.....348
プラスサポート.....410
プリクラッシュセーフティ
（PCS）.....277
機能.....277
設定を変更する.....282
PCS 警告灯 573
ブレーキ
回生ブレーキ 67
緊急ブレーキシグナル.....402
警告灯 570
警告ブザー 570
警告メッセージ.....582
パーキングブレーキ.....238
パーキングブレーキ
表示灯 574
ブレーキ警告灯.....570
ブレーキホールド.....242
メンテナンスデータ.....643

ブレーキアシスト..... 400
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯..... 571
機能 400
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる 213
ブレーキフルード..... 643
ブレーキホールド..... 242
フロアマット 22
フロントオートエアコン 424
フロントシート..... 163
シートヒーター 452
シートベンチレーション..... 454
シートポジション
メモリー 167
正しい運転姿勢 24
調整 163
手入れ..... 511
ドライビングポジション
システム 168
パワーイージー
アクセスシステム..... 167
ヘッドレスト 172
ポジションメモリー 167
メモリーコール機能 169
フロント席集中送風モード
（S-FLOW）..... 433
フロントパーソナルランプ 457
スイッチ..... 457
フロントフォグランプ 258
スイッチ..... 258
フロント方向指示灯..... 237
方向指示レバー 237

へ

平均車速..... 101
平均燃費..... 101
ヘッドアップディスプレイ 120
運転支援システム表示 122
スイッチ 121
設定..... 121
ナビゲーション
システム連携..... 122
ハイブリッドシステム
インジケーター 123
割り込み表示 118
ヘッドランプ.....245
AHB（オートマチック
ハイビーム）.....254
オートレベリング
システム 247
クリーナー 260
スイッチ 245
ライトセンサー.....247
ランプ消し忘れ防止機能 247
ランプスイッチ.....245
ヘッドランプオート
レベリングシステム.....247
警告メッセージ.....582
ヘッドレスト.....172
ベビーシート.....44
ヘルプネットスイッチパネル ※
ベンチレーション
（シートベンチレーション）.....454

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ほ

ホーン（警音器）..... 178
ホイール
交換（タイヤ）..... 603
メンテナンスデータ 643
方向指示灯
方向指示レバー 237
補機バッテリー
交換するとき 623
搭載位置..... 516
補機バッテリーが
あがった..... 619
ポジションメモリー..... 167
保証..... 9
ボタン
ロック（ドア）..... 144
ボトルホルダー..... 462
ポップアップフード..... 39
ボンネット
開け方..... 515
警告ブザー..... 515
ポップアップフード 39

ま

マイコンプリセット
ドライビングポジション
システム..... 168
巻き込み防止機能 198
マルチインフォメーション
ディスプレイ 97
運転支援システム情報..... 100
エネルギーモニター..... 127
オーディオシステム連携 100
画面の見方 97
警告メッセージ.....579
設定..... 105
タイヤ空気圧 524
提案サービス機能..... 117
ドライブ
インフォメーション 101
ナビゲーション
システム連携..... 100
PCS..... 106
メーター操作スイッチ 99
メニューアイコン..... 100
レーダークルーズ
コントロール.....308
割り込み表示 118
マルチメディアディスプレイ ※

み

ミラー
アウターミラー 194
インナーミラー 180
デジタルインナー
ミラー 182
ドアミラー 194
バニティミラー 467
ミラーヒーター 437

む

ムーンルーフ 201
警告ブザー 203
警告メッセージ 203
初期化 203
操作 201
ドアロック連動
ムーンルーフ開閉機能 202
挟み込み防止機能 202

め

メーター
計器類 93
警告灯 87
警告メッセージ 579
照度調整 94
設定 105
時計 468
ハイブリッドシステム
インジケーター 95
表示灯 89
ヘッドアップ
ディスプレイ 120
マルチインフォメーション
ディスプレイ 97
メーター 93
メーター操作スイッチ 99
メカニカルキー 137
メニューアイコン 100
メモリーコール機能 169
メンテナンスデータ 636

も

モーター（電気モーター）..... 65
モーターでの走行
（EV ドライブモード）..... 225

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 645
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 633
油脂類 636

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 245
ランプスイッチ 245
ラゲージマット..... 465
ラゲージルーム
（トランク）..... 150
ラジエーター
オーバーヒート 627
メンテナンスデータ 641
ランプ
インテリアランプ 456
AHS（アダプティブハイビーム
システム）..... 249
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 254
室内灯..... 455
電球（バルブ）の交換..... 550
トランクランプ 152
パーソナルランプ 457
バニティミラーランプ..... 467
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 557
フロントパーソナル
ランプ..... 457
フロントフォグランプ..... 258
ヘッドランプ（前照灯）..... 245
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 237
ライトセンサー 247
ランプ消し忘れ防止機能..... 247
リヤフォグランプ 258
ルームランプ..... 457
ワット数..... 644
ランプ消し忘れ防止機能 247

り

リバース連動機能
ドアミラー 194
リヤサンシェード..... 483
リヤアームレスト 482
リヤウインドウ
デフォッガー 437
リヤエアコン 443
リヤカメラディテクション..... 374
警告メッセージ..... 375
操作..... 374
リヤサンシェード 483
リヤシート..... 165
調整..... 165
ヘッドレスト 172
リヤシートヒーター 453
リヤ席シートベルト
非着用警告灯 572
リヤ席シートベルト
リマインダー 572
リヤドアサンシェード..... 483
リヤパーソナルランプ..... 457
リヤフォグランプ 258
スイッチ 258
電球（バルブ）の交換..... 550
ワット数 644
リヤ方向指示灯 237
方向指示レバー..... 237

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 180, 182
ルームランプ（室内灯）..... 455
操作..... 456, 457

れ

レーダークルーズ
コントロール..... 308
警告メッセージ..... 322
接近警報..... 315
前方センサー..... 272
レーダーセンサー..... 272
レーントレーシングアシスト
（LTA）..... 291
警告メッセージ..... 302
車線逸脱警報機能..... 295
スイッチ..... 297
操作..... 297
ふらつき警報機能..... 296
マルチインフォメーション
ディスプレイ表示..... 297
冷却水
水温計..... 93
水温警告灯..... 570
冬の前の準備..... 417
メンテナンスデータ..... 641
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート..... 627
メンテナンスデータ..... 641
レバー
給油口..... 270
シフト..... 228
方向指示..... 237
ボンネット解除..... 515
ワイパー..... 260

ろ

ロードサインアシスト
（RSA）..... 303
ロック
ウインドウロック..... 197
シフトロック..... 235
スマートエントリー＆
スタートシステム..... 142
チャイルドプロテクター..... 145
ドア..... 142
ワイヤレスリモコン..... 136

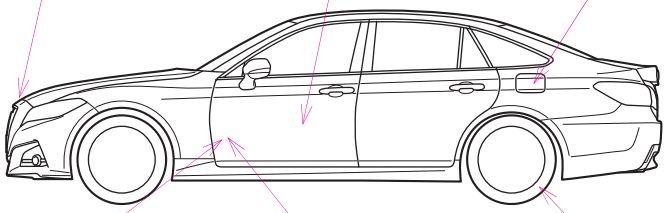
わ

ワイパー＆ウォッシャー..... 260
ウォッシャー液の補充..... 521
ワイパー停止位置の切りかえ..... 265
ワイパーブレード
（寒冷地用）..... 264
ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）..... 472
ワイヤレスリモコン
作動の合図..... 143
操作..... 136
電池の交換..... 543
半ドア警告ブザー..... 143
半ドア走行時警告ブザー..... 147
ワックス..... 506
ワット数..... 644

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	トランクオープナー	給油口
P. 515	P. 150	P. 269



ボンネット解除レバー	給油口オープナー	タイヤ空気圧
P. 515	P. 269	P. 643

燃料の容量（参考値）	66L
燃料の種類	▶ A25A-FXS エンジン搭載車 ・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ▶ 8GR-FXS エンジン搭載車 ・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※ ※ エタノールの混合率　10%以下または、ETBEの混合率22%以下のガソリン(酸素含有率3.7%以下）を使用することができます。 P. 636
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 643
エンジンオイル容量（参考値）	P. 637
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル　P. 637

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ク-82

TOYOTA

M 30J25
01999ー30J25
CC-2021年３月23日
2020年11月２日 初版
2021年３月30日 ３版
クラウン（ハイブリッド車）